

Historical Library of Matsue City

松江市歴史叢書 6

2013 年 3 月

松江市史研究 4 号

政府に報告された市内発見の古墳

－『埋蔵物録』にみる松江の近代考古学－…………… 渡辺貞幸（1）

松江市域の横穴墓

－意字型横穴墓を中心として－…………… 西尾克己・稲田 信（17）

「松江城及城下古図」の特徴とその表現内容…………… 渡辺理絵・大矢幸雄（29）

明治初年出雲地域における郡別産物の特徴…………… 鳥谷智文（39）

日本新八景の選定をめぐる諸運動と松江市…………… 長尾 隼（83）

松江市史編纂日誌

史料編纂室（105）

松江における米騒動に関する史料紹介…………… 能川泰治〔1〕



松江城及城下古図

松江市教育委員会

は じ め に

松江開府400年を経て、地域の歴史を顕彰する活動が多様な場面で繰り広げられている中で、「歴史叢書」は「埋蔵文化財調査報告」「ふるさと文庫」「歴史資(史)料集」に続く歴史シリーズとして、松江市に関わる歴史事象の調査・研究成果を適宜集めて発刊するものです。

現在、松江市では、歴史を振り返り、未来への展望を見出す契機として、『松江市史』の編纂に取り組んでおり、「松江市史研究」をとおして、編纂事業での調査・研究成果や活動記録などを適宜紹介いたします。

今号では、考古学、歴史地理学、近世史、近現代史の各分野の論文を掲載しております。

今後とも、この「歴史叢書」に対し、多くの地域史研究者のご参加をいただくことで、地域の歴史がより一層明らかになるとともに、その成果が未来に向かって歩む地域の人々の生き様に大きな示唆を与えてくれることを願ってやみません。

2013年3月

松江市教育委員会

教育長 福島 律子

『松江市史』刊行計画

(平成25年 3 月 8 日現在)

発行年度 (平成)	巻のタイトル	本体価格 (税別)
23	史料編 5 「近世Ⅰ」	5,000 円
	史料編 2 「考古資料」	7,000 円
24	史料編 3 「古代・中世Ⅰ」	5,000 円
	史料編 6 「近世Ⅱ」	5,000 円
25	史料編 4 「中世Ⅱ」	未刊
	史料編 11 「絵図・地図」	未刊
26	通史編 1 「自然環境・原始・古代」	未刊
	史料編 7 「近世Ⅲ」	未刊
	別編 2 「民俗」	未刊
27	通史編 2 「中世」	未刊
	史料編 8 「近世Ⅳ」	未刊
28	通史編 3 「近世(一)」	未刊
	史料編 9 「近現代Ⅰ」	未刊
29	通史編 4 「近世(二)」	未刊
	史料編 10 「近現代Ⅱ」	未刊
	別編 1 「松江城」	未刊
30	通史編 5 「近現代」	未刊
	史料編 1 「地質・自然環境」	未刊

政府に報告された市内発見の古墳

—『埋蔵物録』にみる松江の近代考古学—

渡辺貞幸

はじめに

明治以来戦前まで東京国立博物館（以下、東博と表記）の前身博物館は、今日謂う所の埋蔵文化財行政の中心的役割を担っていた。1877年（明治10）に内務省は、開墾や工事等で発見される埋蔵物のうちには「古代ノ沿革ヲ徴スルモノ」もあるので、一応当省に届け出て検査を受けるよう布達し、届け出の際には「堀出地名及ヒ形状等ヲ詳記シ及ヒ模写スルモノ」を提出することを各県に求めた⁽¹⁾。そして、内務省で検査の上、国として保存する必要があると認められるものは購入して、内務省の博物館（東博の前身）で収蔵することとしたのである。

博物館の所管はその後、農商務省、さらに宮内省へと移ったが、この方針は1899年（明治32）の遺失物法に受け継がれた。そして同年の内務大臣訓令によって、「古墳関係品其ノ他學術技芸若ハ考古ノ資料トナルヘキモノ」の発見に係る情報は、宮内省の帝国博物館つまり東博の前身博物館に集中させる体制が整えられたのである⁽²⁾。

全国の各道府県から寄せられた情報とそれへの対応に関する膨大な記録は、『埋蔵物録』として整理・保管され、今日に至っている。これは担当省や博物館側の行政意図だけでなく、上申した地方官吏（文書番号から起案が警察署だったと推定できるものが多い）の埋蔵文化財に対する問題意識を知る上でもまことに重要な近代史資料であり、時枝務氏によって総合的検討もなされている⁽³⁾。

筆者はかつて、東博の客員研究員としてこの資料を閲覧する機会を得、松江市内の資料についても調査したことがあるので、以下、その概略を紹介して若干のコメントと注釈を加えたい。記載は『埋蔵物録』の年代順で、各項の（ ）内は、文書中での地名表記である。県からの上申はすべて県令・知事名で出され、宛先は所管の卿・大臣である。また、文書に添付された略図類については、参考までに必要部分の影印版を示す。古い資料のため見にくくなっているものや一連の図などについては、画像ソフト上で最小限の加工をしたり接合したりしたものがあることに留意されたい。「」内は文書中の原文を（明らかな誤字もそのまま）示すが、漢字を新字体に改めたりプライバシーに配慮したりの改変をした。

なお、東博の資料に関しては、本村豪章氏が作られた目録（以下、本村目録）があり⁽⁴⁾、収蔵されている考古資料については目録（以下、収蔵品目録）が刊行されている⁽⁵⁾。また、特に須恵器については『須恵器集成』（以下、集成）として図が公開されていて⁽⁶⁾、そのうち松江市内の出土品は既刊の『松江市史』〈史料編2・考古資料〉（以下、市史）に他の資料も加えて再録されている⁽⁷⁾。市史では主要遺跡の紹介もされているので、適宜、これらを参照することとする。

1. 玉湯町布志名（意宇郡布志名村字山崎）の発見品（本村目録83）

○発見日 不記載。1885年（明治18）8月26日付で島根県令から農商務卿宛に上申されているので、発見日はそれ以前。

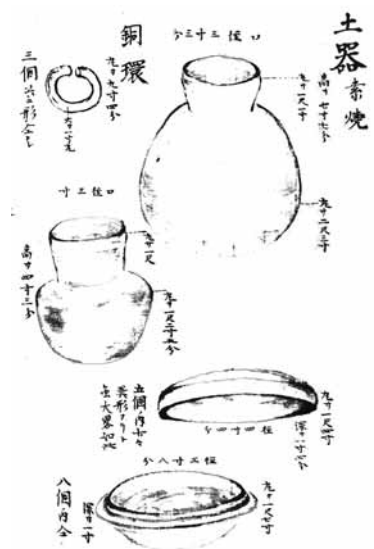


図 1

○発見状況 道路改修のため山林掘削中に、銅環と須恵器を発見。

○発見品 添付の図（図1）によれば、銅環3、須恵器（壺1、長頸壺1、蓋5、坏8）。

○対応 「差出ニ不及事」と指令。

○コメント 現松江市域で最初に上申された遺物発見報告である。発見品の図は比較的リアルで、寸法等が詳しく記載されているが、本村目録の出土品数と異なる。県の遺跡目録や遺跡地図に見える山崎横穴墓群の一角であろうか。

2. 八雲町西岩坂（意宇郡岩坂村大字西岩坂字岩屋口）・岩屋口横穴墓群（本村目録92）

○発見日 1892年（明治25）7月20日・8月19日

○発見状況 土砂採取の際洞穴8個を発見。ただし、「近傍ニ昔時ノ発見ニ係ル洞穴一個アリ従来之レヲ神代ノ穴ト称セリ」とあり、横穴墓は全部で9穴あった。このとき発見されたのは図2-2および3の「第二」～「第九」の洞穴である。なお、添付書類には出土品の略図（図2-1）、「発掘場所略図」（図2-2）、および個々の横穴墓の略図（図2-3）があり、特に1と3には寸法等が詳しく書き込まれている。

○発見品 刀4（「全長ハ二尺二分乃至二尺六寸」）、須恵器21（添付の略図によれば、提瓶1、甕1、壺1、脚付短頸壺1、蓋1、高台付坏1、横瓶（?）1、長頸壺4、坏11。このうち蓋は脚付短頸壺の付属品と扱われた）、金環2（「内径ハ五分ニシテ全体ニ点々金泊附着ス」）、人骨数個。

○対応 須恵器のうち3個（図2-1のうち、丁、戊、および辛のうち完全なもの1個）を帝国博物館へ差し出すよう指令。後、買い上げ。なお、丁は蓋とセットになっているため、博物館は都合4個の須恵器を購入したことになる。

○コメント この報告は図面を多用し、大変詳しい。東博に収蔵された4個の須恵器は、集成、市史に実測図がある。この横穴墓群はその後破壊が進んだ⁽⁸⁾が、ここで報告された横穴墓と現状との関係等は不明である。

ところで、この発見に対応

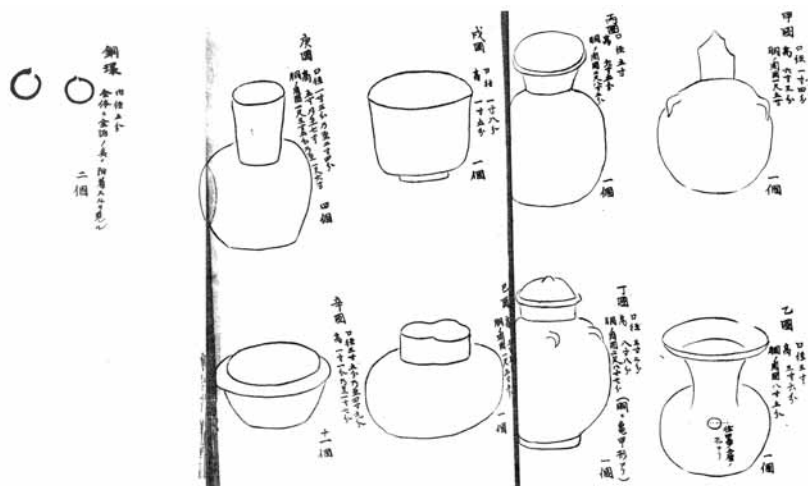


図2-1

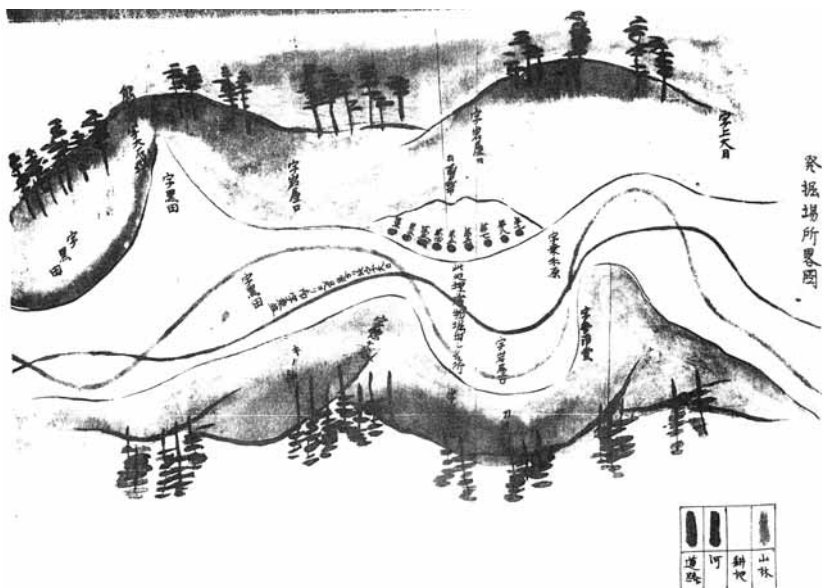


図2-2

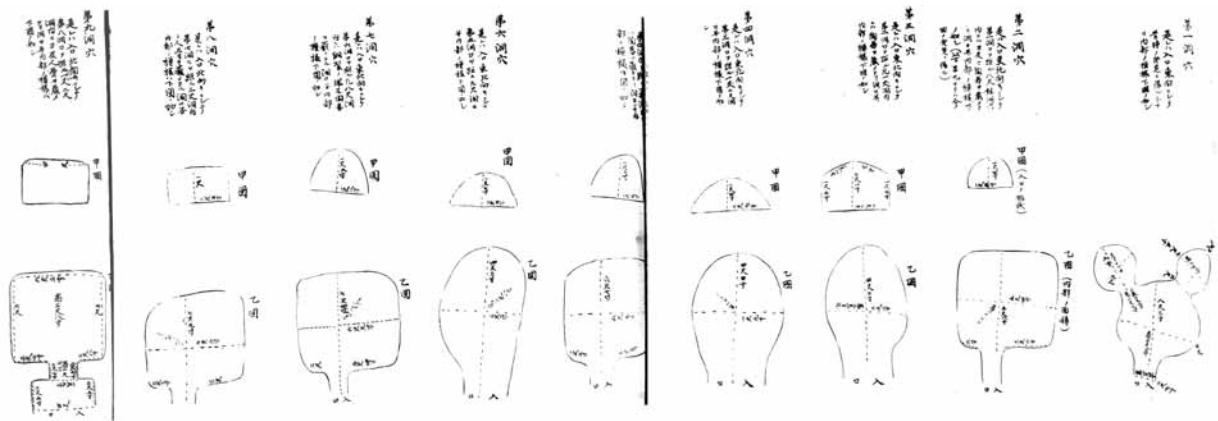


図2-3

する新聞記事が、山陰新聞の同年8月5日付にある。市史にも紹介されているが、それには「…山林の裾にして村道を距ること凡そ五間田地を隔つること凡そ二間の洞窟に石を積み且つ土を堆積せし所あり或る日某々等土を取らんために何心なく掘り穿ち邪魔なる石を運搬し去れハ頭ハれたる奇しき穴、ハテ何の為に設けしものかと内部に探り入りたるに古き陶器数個を得ける是に於て某々等ハ好奇心に駆られて再び近傍を掘り初めたるに同形の窟ありけれハ此由を村民に告げ勇を鼓して此所か彼所かと鋤を入れしに終に七個の穴を発見するに至れり…」と詳しく、石積みの閉塞だったことも推定できる。ただし、県からの上申と合致しない点もある。記事の末尾は「右は素より古代の人種が住居せし所なるハ疑ふべくもあらず此他尚ほ幾十の遺跡の発見せられざるものあらんかと通信者ハ報ぜり而して其壺の一小片を本社に寄せしが其色ハ鼠色にて内部ハ魚鱗の如く外面は縦横線あり殆んど同色の布を以て包めるが如し」となっている。横穴は先住民の穴居跡と考えるのが一般的な時代だった。

3. 八幡町（意宇郡竹矢村大字八幡）・八幡宮下横穴墓群（本村目録12）

○発見日 1893年（明治26）8月3日

○発見状況 平浜八幡宮神官から、所有地「山林内ノ土ヲ堀取ラントセシ際一ノ洞穴アリ別紙略図ノ如キ陶器を蔵ムルヲ発見セリ」との届けがあった。入口は高さ3尺3寸、幅2尺2寸。奥行1間2尺余、内幅1間4尺4寸余、高さ5尺5寸余。6・7間離れたところにも同様の洞穴がある、とする。

○発見品 別紙（図3）

によると、壺1、埴瓶1、直口壺1、壺残欠1、蓋杯類11の須恵器計15個で、それぞれ寸法を詳記する。添付の図を見る限り、本村目録の出土品欄には誤記がある。

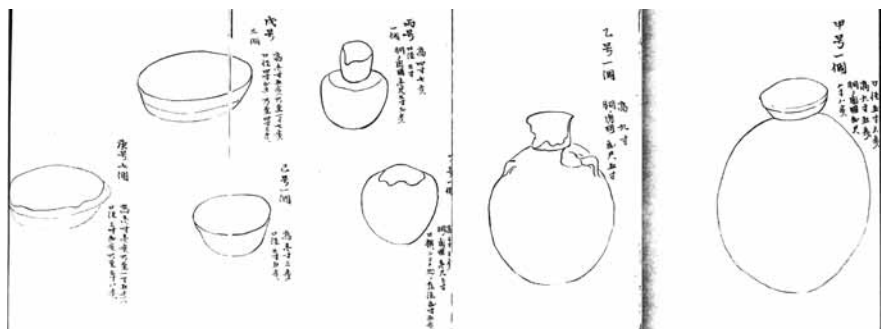


図3

○対応 「差出ニ及ハス」と指令。

○コメント 旧『島根県史』に「竹矢村大字八幡宮内 土器等」と記された横穴墓である。この横穴墓群については『東京人類学会雑誌』に往時を偲ばせる貴重な記事がある。情報を寄せたのは金田樗太郎（後述）である。

出雲国八束郡元意宇郡八幡村八幡神社の入口同社神官青木氏邸内の山麓に北面して東より西に並びたる穴五個あり第二と第三は相連続せり第一第二第三共に奥行二間許高さは入口にて四尺位な

この記事の「第一」の穴こそ、この文書の横穴であろう。土器数が文書と異なるとはいえ、閉塞石の存在が確認できて興味深い。平浜八幡宮本殿の南側斜面に位置する八幡宮下横穴墓群については、近年、一部を市が調査した⁽¹⁰⁾が、その報文中に「宮司宅に保管してあった」須恵器の図が載っている。図3と比較してみると、そのうちの蓋坏の一部がこのときの出土品である可能性がある。

[illegible]

「高江」の横穴墓というのは、遺跡として取り上げられたことがない。『東出雲町誌』⁽¹²⁾にも同町の遺跡地図⁽¹³⁾にも載っていない幻の遺跡である。ただし、「高江」ではなく「高井」という字名や「高井横穴群」なら存在する。そこで、「高井」が訛って「高江」と表記されたのではないかという（出雲弁ではありがちな）可能性が浮上する。高井横穴墓群の辺りは今は住宅団地になっているが、古い2.5万分の1地形図を調べると、確かにかつては低丘陵が延びていて、「山腹」と表現されるような地形があった。従って、「高江」は「高井」であり、この資料は高井横穴墓群の出土品であったという可能性はありそうである。さらに、この四半世紀後に刊行された旧『島根県史』を繙くと、「揖屋村字高江」の遺跡というのは記載がないが、「揖屋村字高井 曲玉提壺六角形壺甕刀剣耳環埴等」という記載があつて⁽¹⁴⁾、「六角形壺」が解しかねる（短頸壺か）ものの、「高江」の出土品と通じる内容が記されている。つまり、著者野津左馬之助は東博に送られたこれらの遺物の出土地は「高井」であつたと認識していたらしく、だとすれば、前記した推定は「蓋然性」よりも「確実性」を帯びたものと言って良いのではなかろうか（ただし、同書には「附図第五十九ノ一」「附図第五十九ノ二」として「八束郡揖屋村字高山腹古墳発掘品」埴と甕の写真があり、これは東博所蔵品の写真と見て間違いない。しかしこれについては本文中のどこにも説明がないので、帝室博物館提供の写真を考証せずにそのまま載せたのではないかと疑われる）。

県知事名で出す公文書で地名の記載ミスが起こるのだろうかという疑問を持つ向きもあるが、以下に紹介する諸例の中にも地名の誤記はいくつも認められる。なお、高井横穴墓群に関しては山本清考古資料の中に調査メモがあることを確認したが、東博収蔵資料についての言及はない。

6. 八雲町大石字高野（八束郡熊野村字タカノ）・高野横穴墓群（本村目録98）

○発見日 不記載。1902年（明治35）6月16日付の上申なので、それ以前。

○発見状況 熊野道路改修工事中に山畑にある洞穴中より発見。上申には略地図（図6-1）と土器の図（図6-2）が添えられている。

○発見品 図によると、須恵器の蓋杯4セット。

○対応 「差出ニ及バス」と指令。

○コメント 字名と添付の地図から、大石の高野横穴墓群と判断される。旧県史や『八雲村の遺跡』は、ここからかつて古剣類が出土していると伝えているが、それとは異なる横穴墓らしい。発掘された2号穴⁽¹⁵⁾、それ以前から知られていた1号穴（刀剣類出土か）、そしてこの横穴墓、これらの位置関係等は不明である。

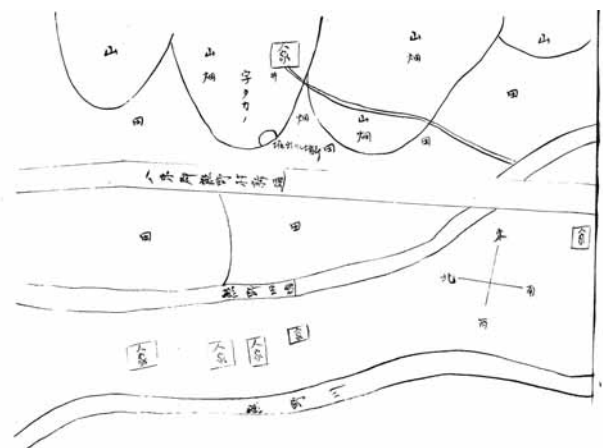


図6-1

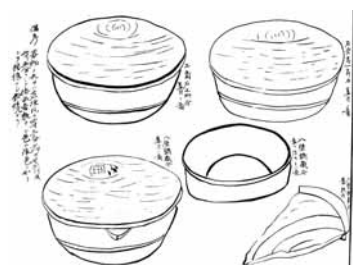


図6-2

7. 大草町（八束郡大庭村大字大草字岩屋後）・岩屋後古墳（本村目録3）

○発見日 1906年（明治39）4月21日・29日

○発見状況 畑耕地整理のため土砂掘り下げの際、地下3尺ぐらいの所から埴輪を発見。

○発見品 人物埴輪、円筒埴輪。

○対応 「悉皆当省東京帝室博物館へ差出スベシ」と指令。後、買い上げ。

○コメント 県からの報告には「人形模写図」と「発掘セル場所及地形略図」(図7)が付されている。地形略図は側面から見たスケッチで、石室左手の1間ほどの段差がある辺りで遺物が出土したと記している。後年、梅原末治はその地点を墳丘北西側と考証している⁽¹⁶⁾。石室主軸にほぼ直交するライン上である。なお、上申文書中には「日本考古図譜ヲ参照スルニ…」という記述があり、県担当者の勉強ぶりが窺えて面白い。



図7

有名な襷掛けの人物埴輪を含む資料であり、東博収蔵品の実測図は県の調査概報⁽¹⁷⁾で紹介され、市史でも405ページおよび724ページに紹介されている。

岩屋後古墳に関する記事で古いものに、山陰新聞1902年10月14日付に載った「大庭の史蹟」があり、「破損し且つ塵芥の土化したるものを以て埋められし石墳あり、蓋石半壊せり」と描出されている。この記事は考古学会の機関誌『考古界』に転載され⁽¹⁸⁾、斯界へのこの古墳の最初の紹介となった。執筆したのは同紙編集長の太田臺之丞(江南)で、「斯かる貴重なる史的遺物をさも厄介らしく僅々たる収穫の為に抛置するは、所有者の不明を広告すると同時に大庭村の恥辱たり、敢て装飾するを要せず唯ありのまゝに保存せば則ち足れり。由来大庭は史蹟の多きを以て昔時の都たるを証せらる、而かも其証憑遺物を以て誇るべきに却て之れを冷視するは何ぞや」と正論を吐いている。その三年半後にこの発見があった。

8. 美保関町海崎(美保関村字海崎小字中峯山)・中峯山横穴墓(本村目録94)

○発見日 1906年(明治39)6月7日

○発見状況 山麓開墾中に山腹が崩壊し、現れた大穴中より発見。

○発見品 須恵器6(添付の図〈図8〉によれば、提瓶1、坏2、把手付埴1、短頸壺1、高坏1)。

○対応 全点送付させ、後、買い上げ。

○コメント 土器6個が博物館に買い上げられたが、東博には現在、4点の土器が収蔵されている。本村目録によると、坏1が台湾中学に移されたようだが、詳細は不明。もう1個あったはずの坏についても不明である。4点の土器の実測図は『美保関町誌』⁽¹⁹⁾および市史に載っている。遺跡は現在確認できないという⁽²⁰⁾。

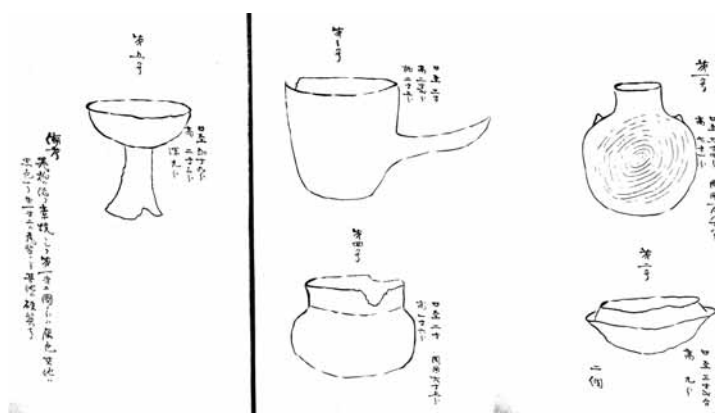


図8

9. 島根町野波（八束郡野波村大字野波字亀田）・亀田横穴墓群（本村目録93）

○発見日 1909年（明治42）4月11日・12日

○発見状況 土砂採取に際し、口径約1尺5寸、深さ1間半、幅約1間の半円形の洞穴を発見。

○発見品 瑪瑙曲玉4（赤色3、白色1）、須恵器18個（添付の図〈図9〉を参照すると、蓋坏類11、高坏2、提瓶2、直口壺2、平瓶1）。人骨。

○対応 曲玉4点と須恵器3点（図9の左側のもの）を差し出すよう指令。後、それらは発見者から寄贈された。

○コメント 博物館が差し出せと指定した須恵器3点には、図を見る限りでは提瓶は含まれてはいないようなのだが、実際に送付された中には提瓶がある。東博の資料は、『島根町誌』⁽²¹⁾、集成、市史に実測図が紹介されている。今日いう亀田北横穴墓群第1支群（亀田横穴墓群北第I支群）の2号穴とされる⁽²²⁾が、記載された規模は必ずしも合致しておらず、疑問は残る。なお、同年の『考古界』誌にこの発見に関する短報が載っている⁽²³⁾。

ところで、この発見については詳しい新聞報道があり、それには「…亀田に至り崖を崩せしに端なくも二個の横穴あるを発見したり驚ろきながら掘進すれば穴中一九個の古代土器物と赤瑪瑙三白瑪瑙一計四個の勾玉あるを発見し直ちにこの旨全村駐在所へ届け出でたるが…先年も今回発見せる場所の上方に於て一個の洞穴あるを発見せし事ありと」（山陰新聞同年4月29日付）とあって、既にこのとき複数穴の横穴墓が認められていたことが分かる。土器の数が合わないとか、上記の資料がすべて同一穴の出土品と言えるのかなど、若干の問題は残る。

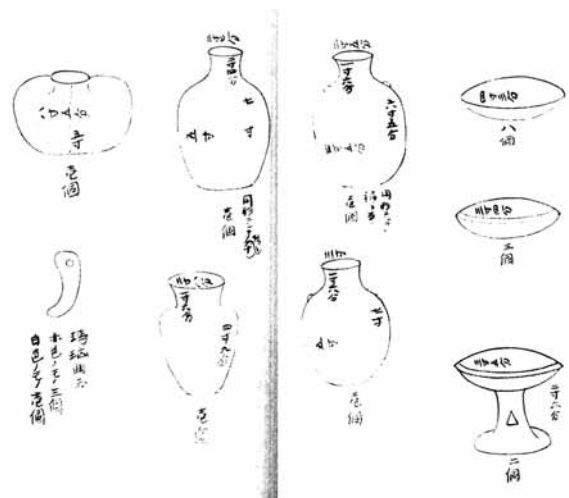


図9

10. 玉湯町玉造（八束郡玉湯村大字玉造）・玉造築山古墳（本村目録86）

および徳連場古墳（本村目録85）

○発見日 1909年（明治42）10月14日

○発見状況 3名の者からそれぞれの所有地で石棺等が発見されたと報告があつたが、いずれも約50年前に発掘したものの再発掘という。そのときは石棺内から曲玉や土器、剣等が出たとの風説があるとする。

○発見品 舟形石棺3、鉄剣1。図10の右二つの石棺が築山古墳、左の石棺と剣が徳連場古墳のもの。

○対応 翌年、玉作湯神社社掌遠藤百衛の名で徳連場出土の鉄剣が東博へ寄贈されている（本村目録84）。この剣は徳連場古墳の土地所有者から神社に奉納され、さらに東博へと寄贈されたものであろう。つまり、本村目録の84と85は、同一物と考えられる。

○コメント 上申文書には、築山古墳の二石棺について「…玉湯村大字玉造字大川小路敷地（俗称築地）地下凡ソ二尺ノ処」と「全所地下凡ソー一尺ノ処」と、出土位置の違いを明記する（なお、「築地」は「築山」の誤りだろう）。さらに、略図（図10）の脇には両者とも「石棺ハ首部ヲ西ニシ東西ニ埋没シアリ」と記す。現今の石棺と比較すると、「首部」とは狭い側のことらしい。次に徳連場古墳に関しては「…大字玉造字徳連場山林内地下凡ソー一尺二寸ノ処ニ於テ石棺一個及在中鍔剣壹個発見」とし、

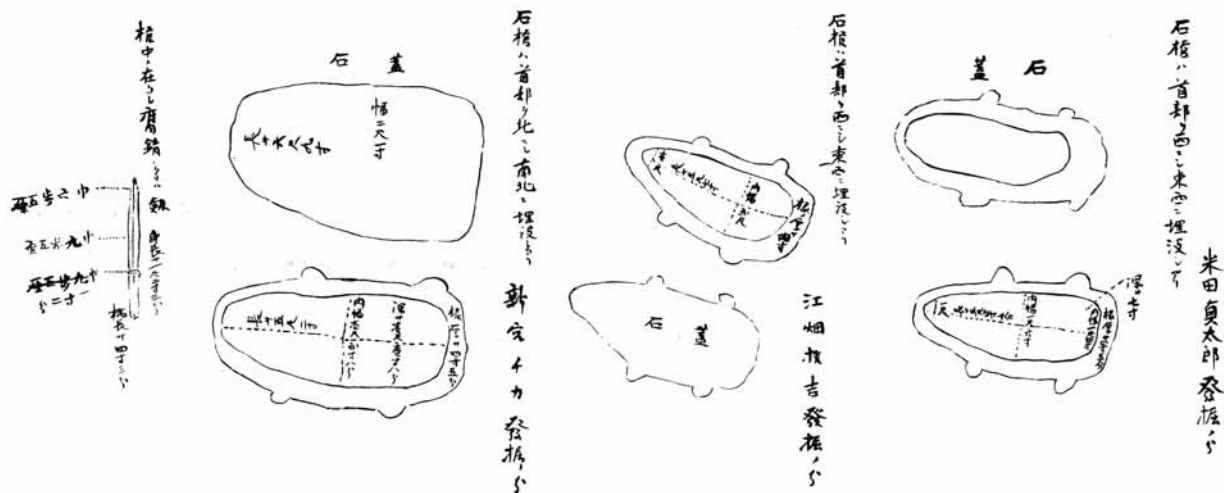


図10

図の脇に「石棺ハ首部ヲ北ニシ南北ニ埋没シアリ」と記す。これは徳連場古墳石棺の現状とは合わない。

著名なこれら2古墳の石棺は、このとき再発掘されたわけであるが、その事情を新聞は当時、次のように報道している。「…八束郡玉湯村ツキヤマの古墳舟形石棺は新聞記事の刺激と遠藤社掌の熱心なる勧誘とにより去る十三日頭氏子十五六名協力して発掘せしに……右は先年一度発掘して内に存せし勾玉鏡小玉は他に運ばれしなり而して其近傍に尚ほ石棺の存在する見込にて翌十四日は二番氏子十五日は三番氏子を招集して発掘せしに近傍荒神広より又一個の石棺を（内に金属製のものありしと）字トクレハよりも此の石棺（内に錆刀の折れたるものあり）を発見し湯神社の境内なる荒神広よりは櫛形の玉砥石及び青石等発見せりといふ」（山陰新聞同年9月19日付）。つまり、この再発掘は、玉作湯神社の神職が氏子を動員して行ったものであり、同じ日に3つの石棺が掘り出されたという「偶然」もこれで理解できる。記事にいう「トクレハ」は徳連場のことであろう。なお、その翌年に大野雲外が玉造築山古墳を見学し、『人類学雑誌』に略図を添えて報告している⁽²⁴⁾。

ところで徳連場古墳の石棺は、後に一旦搬出されて再び戻されるという、市史にもふれられている「事件」が起こった。その事情に関して、次の新聞記事があるので紹介しておく。山陰新聞1924年3月5日付に「…玉造の畦地山（畝地山の誤り—引用者）にある有名な舟形石棺（元桑原羊次郎氏が購入して同所の自己の別荘へ持って行きてゐたが旧跡保存の意味から自発的に発掘地へ返したものの）…」と解説されているのがそれである（桑原氏の別荘は現在の玉造温泉駅南にあったという）。市史の記載とはまるでニュアンスが異なっていて戸惑いを覚えるほどである。しかしいずれにせよ、徳連場の石棺の向きが書類と現状とで異なるのは、再設置されたためであると考えることができる。

11. 西谷町（八束郡古江村大字西谷字牛切）・牛切会場古墳（本村目録9）

○発見日 1909年（明治42）11月22日

○発見状況 「山形ヲナセル壺畝拾貳歩ノ小高キ土地」を区内の集会所建設のために地均し工事をしたところ、「地面ヨリ約三尺掘下ゲタル処ニ於テ一間四方ノ太平石アルヲ発見シ其石ヲ取除キタルニ隋円形ノ高サ約七尺ノ石庫ノ如キモノアリ其周囲及下部ハ大小ノ小石ヲ以テ立派ニ築固メアリテ其石庫ノ中」から土器と刀剣類を発見。

○発見品 刀剣破片（「式口分ナラン」）、刀子破片、破損した土器数点（図11）。

○対応 悉皆博物館に送られたが、腐食の激しい刀剣類は破棄され、須恵器5個（「小埴付埴残欠、陶器脚残欠、提瓶、同、坏」各1）が改めて寄贈された。

○コメント 発見された遺構は、その規模から石棺式石室だった可能性が強い。脚付き子持壺を含む東博収蔵の土器4個は集成、市史で紹介されている。博物館へ寄贈分のうち提瓶の一つは、集成では「図化し得ないもの」と扱われているが、それは、添付図のスケッチから鉤形耳のものだったことが分かる。古墳について市史は「一辺約17mあまり、高さ約3.5mの方墳」と推定している。

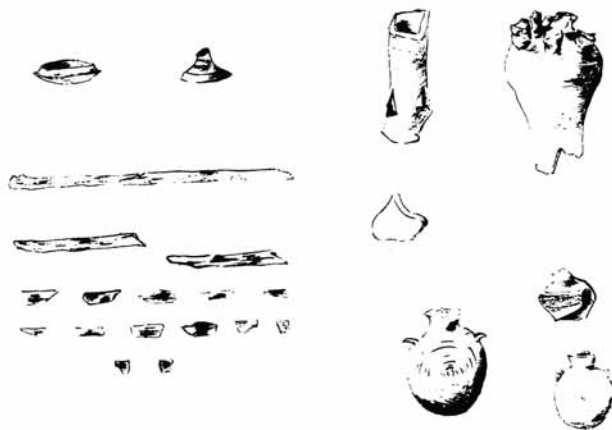


図11

12. 八雲町大石（八東郡熊野村大字大石字松ヶ廻）の発見品（本村目録97）

○発見日 1913年（大正2）3月23日

○発見状況 山林内で土砂採取の際、地下約1丈の所から発見。

○発見品 壺1（図12）。上申の説明は「灰褐色隋円形ニシテ中央部ノ太キ部分周囲二尺七寸廻リ高サ一尺三寸ニシテ上部ニ口径三寸ノロアリ容量約一斗量目約一貫匁アリ」。略図には「壺ノ内外ニ井ノ字型ヲ存ス俗ニ云フ籠焼ノ類ナラン」と付記する。

○対応 「差出スニ及ハス」と回答。

○コメント 本村目録は土器を「土師器壺」とするが、須恵器であろう。「松廻古墳群」として知られている遺跡の一部と考えられるが、詳細不明。



図12

13. 大草町（八東郡大庭村大字大草字杉谷）・古天神古墳（本村目録2）

○発見日 1915年（大正4）8月17日

○発見状況 古天神と称する雑木林にて枯松の根株採掘中に石槨に掘り当たる。

○発見品 刀剣2、土器16、鏡1、金属製環6、鈴様の破片および刀類破片数個。

○対応 「悉皆東京帝室博物館ニ差出スヘシ」と指令。後、「円頭大刀、刀身残欠、提瓶2、甕、高坏、蓋及脚付埴、蓋坏5、五獣鏡、金環3、銀環3、雲珠残片、鉄器残片、埴輪及陶器残片」（数を記さないものはそれぞれ1もしくは一括）に整理し直されて寄贈を受けた。

○コメント 県からの上申書には豊富な挿

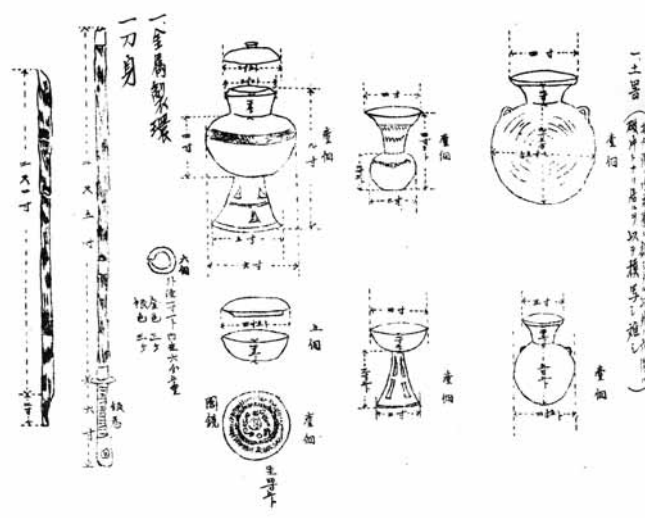


図13-1

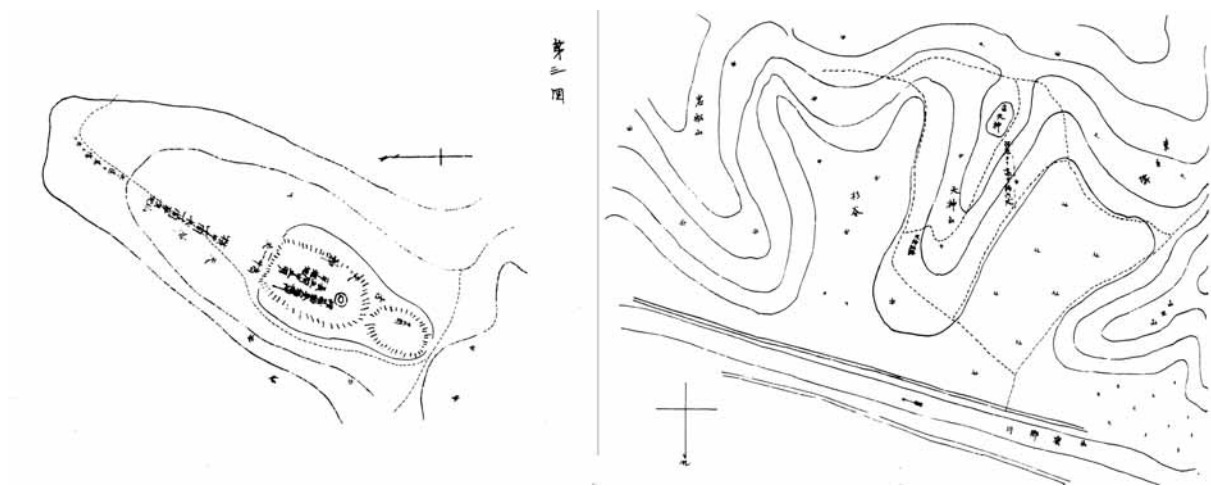


図13-2

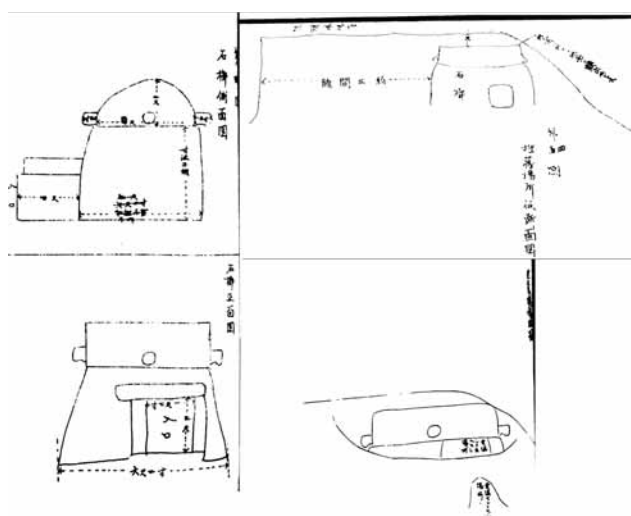


図13-3

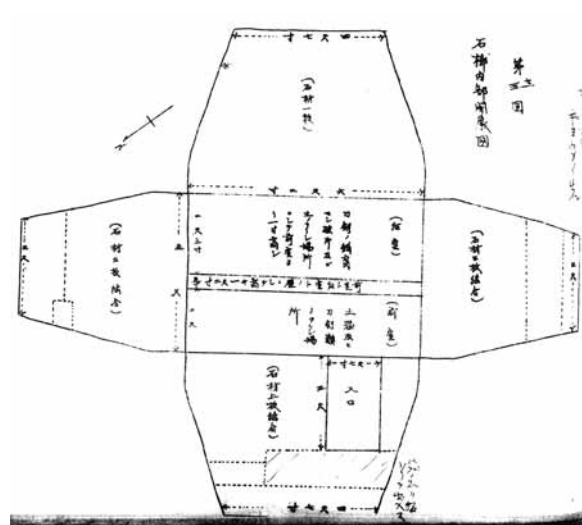


図13-4

図が付されている。図13-1は発見遺物、図13-2は周辺と古墳の地形図（前方後方墳を思わせる図になっていることに注意）、図13-3は石室の各方向からのスケッチ、図13-4は石室展開図である。石室についても「軟質ノ厚サ一尺乃至二尺ノ石材ヲ以テ築造シ西北ニ入口ヲ設ケ其ノ入口ニハ径五寸乃至一尺位ノ無数ノ石ヲ以テ之ヲ覆フ埋蔵物配列ノ模様ハ発掘者ニ於テ遺忘セルヲ以テ不明」と詳しい。この古墳は宮内省の関心を惹いたらしく、『埋蔵物録』には外崎覚⁽²⁵⁾による「取調書」が添付されていて、「屋根石の四方に釣手のある」など石室構造の奇異なことが指摘されている。古くから著名な古墳であり、東博所蔵の出土品については山本清氏によって早くに紹介され⁽²⁶⁾、その後各書に図が報告されているが、市史では須恵器について2種類の図を載せている。16個出土したという土器の数は上記した博物館の受領数（収蔵品目録と同じ）と合わない⁽²⁷⁾が、図13-1の土器の説明に「拾六個ノ内本図ニ記シタル以外ノ六個ハ破片トナリ居ルヲ以テ模写シ難シ」とあるのが考慮される。

14. 美保関町森山（八束郡森山村大字森山字小中原〈小中村の誤記〉）の土製支脚

○発見日 1924年（大正13）6月25日

○発見状況 桑畑の地中約1尺4、5寸の地点。博物館からの照会に対し、県は、出土地点をドットした5万分の1地形図「境」図幅および出土地点の土層断面図（図14-1）を添えて、「土地ノ表面ヨ

リ約一尺五寸底ニ
二箇並列（末尾ヲ
北方ニ向ケ）埋蔵
シアリシモノニシ
テ土壤ハ上層三寸
位ハ黒土、埋蔵箇
所三寸位ハ灰色ニ
シテ其ノ中間一尺

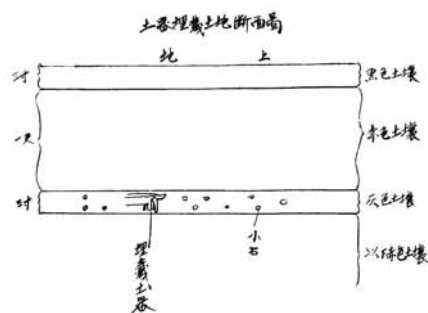


図14-1



図14-2

位ハ赤土（粘土）ナリ」、「伴出品ナシ」などと回答している。

○発見品 書類では「土製埴輪」（博物館の受領書では「獣形土器」）2。「大、全長六寸五分、足二寸二、三分、胴ノ囲り七寸五分」「小、全長六寸五分、足二寸二、三分、胴ノ囲り六寸五分」との説明があり、写真が添付されている（図14-2）。

○対応 県に詳細を照会した後、翌年、「獣形土器」2の寄贈を受けた。

○コメント 当時は性格不明の遺物だった土製支脚の発見記録である。関心を持った博物館が改めて詳細を照会し、それに答えた県が地形図や土層断面図を添付しているのが興味深い。地形図にドットされている地点は小中村の中心地、現国道北側の小平野である。この遺跡は『美保関町誌』にも市史にも記載はないが、小中村遺跡⁽²⁸⁾の一角なのであろう。書類にある「小中原」は「小中村」の誤記と考えられる。なお、本資料は本村目録に見えず、東博の収藏品目録にも見当たらない。

この資料と関連し問題となるのが、旧『島根県史』にある「森山村大字森山小中村墳穴」である⁽²⁹⁾。同書によれば、これは同じ年の5月に発見されたという横穴墓で、出土品目の中に須恵器類と並んで「犬埴輪」（つまり土製支脚）2というのが挙げられ、附図第六十四ノ一に写真も載っているが、写真を見る限り、これは図14-2の土製支脚と同一物と判断されるのである。従って、「犬埴輪」が伴出したという旧県史の記載は、出土地名や発見年が同じだったことによる混乱・混入と考えられる。

15. 美保関町（八束郡美保関町）美保神社境内の土馬（本村目録96）

○発見日 1921年（大正10）10月10日・11日

○発見状況 社殿改築工事中に「旧本殿敷地玉垣下土中」より出土。

○発見品 土馬2と付属物4。

○対応 上申は1924年になってからなされた。宮内省は「悉皆入用ニ有之候」と指令して送付させたが、翌年、県を介して美保神社宮司横山清丸より「神社

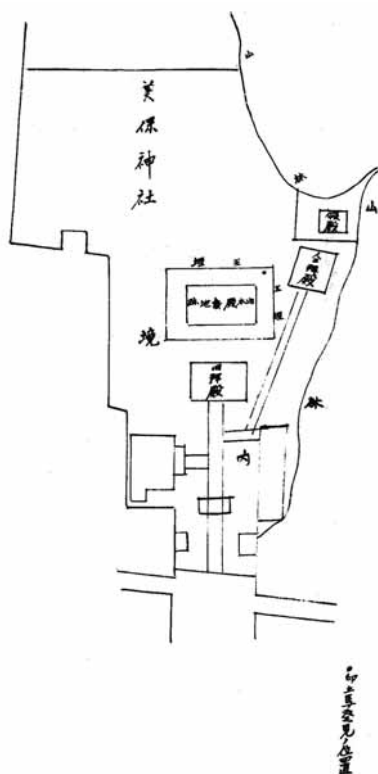


図15-1

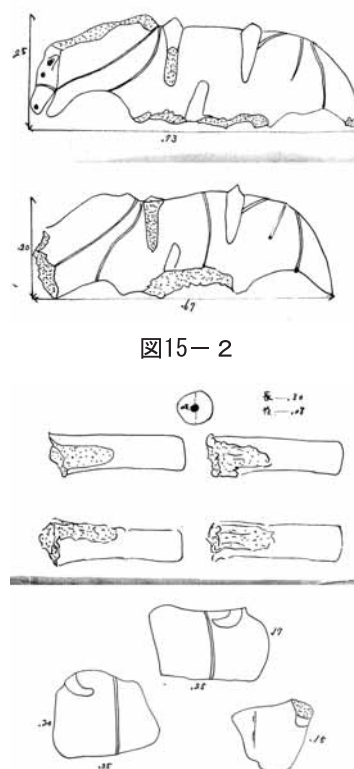


図15-2

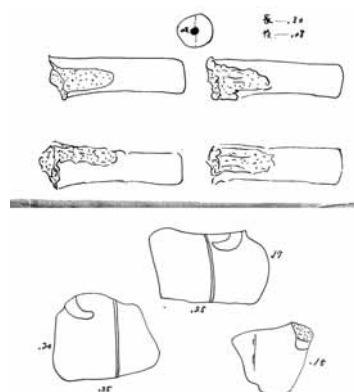


図15-3

境内ヨリ発見セル埋蔵物下戻方ノ件御願」が出され、「右ハ当神社ノ歴史、由来、沿革等ヲ語ル唯一ノ貴重品ニシテ当社ニ取りテハ欠クヘカラサル史料ニ御座候」として、強く返却を願い出た。その結果、土馬 1 が返却され、博物館は「土馬」1 と「獣形土器破片」1（「土器小破片三個附属ス」）を寄贈品として収蔵した。

○コメント 上申の書類には出土地点の地図（図15-1）と出土品の略図（図15-2・3）が付いている。この地図によれば、土馬等の出土地点のおおよその特定は、今日でもできるはずである。土馬は接合・復元され、「附属」の土器片および返却された土馬とともに『美保関町誌』に紹介されている⁽³⁰⁾。1995年に美保関町教育委員会が文化財収蔵庫予定地を発掘調査しているが、上記の発見については配慮されていない。

16. 美保関町千酌（八束郡千酌村大字笠浦字青ヶ峰）の石室？（本村目録95）

○発見日 1930年（昭和5）8月3日

○発見状況 山林で畑開墾中、厚さ18cm、幅60cm、高さ1.21mの石材2本が「縦ニ門様ヲ為シ居ル」のを発見し、さらに掘ってみると、「其ノ周囲ニ海中ノ石ト認メラルル石材ヲ以テ石垣ヲ築造シアリ」という状況だった。その付近で皿様の土器1を発見したが、破壊してしまった。

○発見品 34の破片になった土器1。

○対応 「差出サルハニ及ハス」と回答。

○コメント 記載からは袖石もしくは門柱石を有する横穴式石室の可能性があるが、それ以上のことは不明。この古墳は『美保関町誌』にもふれられていないが、同じ大字の「笠浦古墳」の名が見える⁽³¹⁾。しかし、発見年を考えると、これとは別物である。

17. 東奥谷町（八束郡法吉村大字奥谷字亀田）・赤崎切通横穴墓群（本村目録5・6・7）

○発見日 近接した所で相次いで3回の発見があった。①1931年（昭和6）6月3日 ②同年6月22日 ③1932年（昭和7）8月15日

○発見状況 ①土砂崩落により発見。②土砂の自然崩壊により発見。③突然の土石崩壊により発見。いずれも偶然の発見としているが、①③の上申には、ここが壁土もしくは土石の採取場となっていたことが記されている。

○発見品 ①添付された「古墳形状図」（図16-1）によるとテント形妻入の横穴墓で、礫敷きがあった。人骨および土器の破片2。②古墳内には人骨および土器4個（添付図〈図16-2〉によると、坏2、高坏1、甕1）。③「屋根形土堀古墳ニシテ中ニ石棺一個アリ」とするが、図16-3左の絵では、石棺は丘陵の上に移し置かれている。同図では、石棺は横口式のように描かれている。内部に土器4個（添付図〈図16-4〉によると、坏1、直口壺2、壺1）。

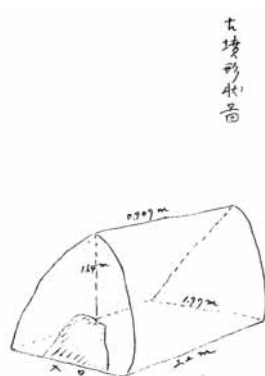


図16-1

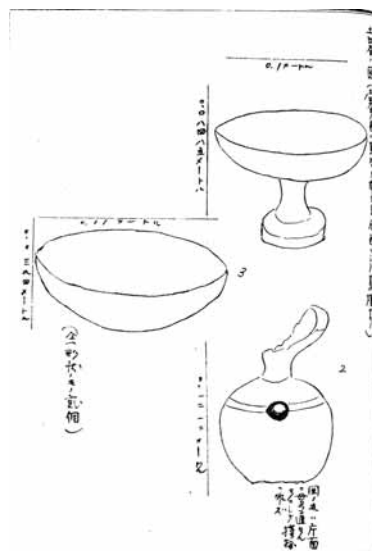


図16-2

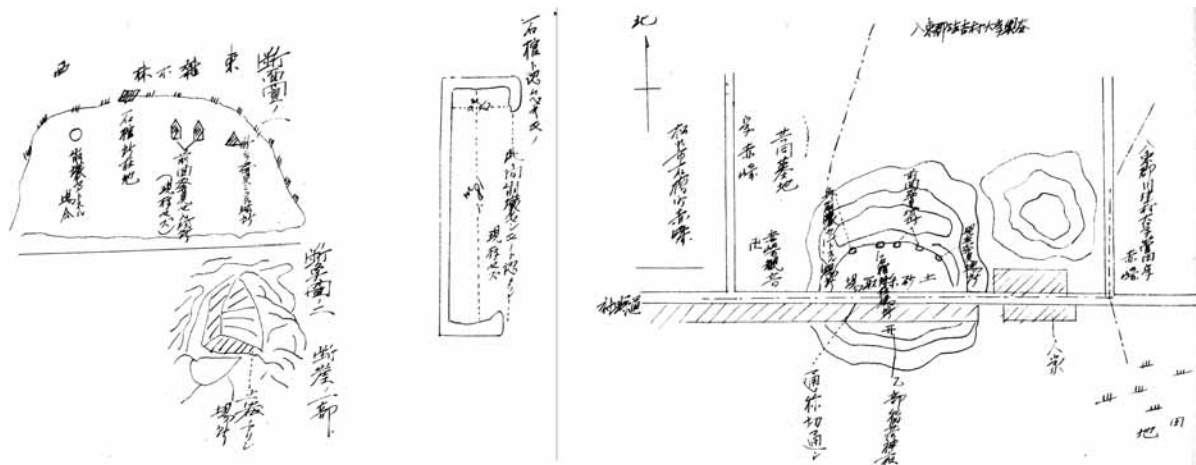


図16-3

○対応 いずれも「差出サル、ニ及ハス」と回答。

○コメント 同一箇所での横穴墓発見が続いた。特に③の報告では詳しい地図や石棺などのスケッチが付されている（図16-3）。ここは北の山塊から延びた狭い丘陵の南端部で、幕末までに街道を通すために切り通されていたが、その崖面で採土が行われ、その過程で次々と横穴墓が発見されたものである。赤崎切通横穴墓群と呼ばれる遺跡⁽³²⁾の一角であるが、同じ丘陵の北方には菅田横穴墓群などがあり、本来はこれらとともに一大横穴墓群を構成していた可能性がある。現地は今、民家の裏の崖となっている。



図16-4

18. 八雲町熊野（八束郡熊野村字宮内）・宮内横穴墓（本村目録90）

○発見日 1934年（昭和9）3月25日

○発見状況 熊野神社境内、社殿後方の山林頂上に近い南側で、花崗岩に掘り込んだ横穴を発見。中央高さ1.09m、奥行き1.39m、前壁2.33m、後壁2.30m、底部に約0.3m大の敷石数個あり。

○発見品 須恵器16、土師器1、直刀1。

○対応 全点が宮司より博物館へ寄贈された。

○コメント 土器について上申書は「所謂蓋坏ト称スル灰黒色素焼土器十五個」「所謂埴ト称スル灰黒色素焼小壺土器一個」「同上赤褐色ノ壺一個」と詳しく表現しているが、出土品の略図は稚拙である（図17）。出土地は『八雲村の遺跡』に「熊野大社の裏にあたる丘腹に一穴開口している」⁽³³⁾とある宮内横穴墓であろう。山本清考古資料の中に略測図がある「仮称熊野神社裏山横穴」と同じものと考えられる。土器の実

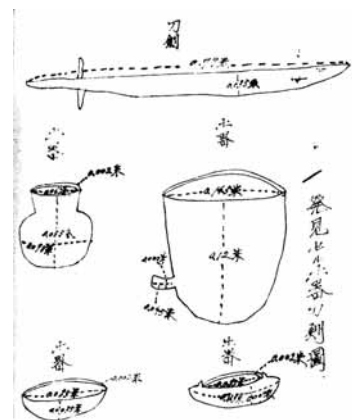


図17

測図は集成と市史に掲載されている。なお、この発見に対応する新聞記事が、大阪朝日新聞同年5月6日付の島根版にある。この記事は洞窟の規模と出土品を述べた後、「先住民族の遺跡ではないか」と見られてゐる」と結んでいる。また、同紙6月15日付には「…蓋杯素焼十五個、埴（土器）一個、壺一個、直刀一振は今回鑑定を受けるため東京帝室博物館に送付されることになった」という記事も見られる。

19. 山代町団原（八束郡大庭村大字山代字団原）・団原古墳石室の売却運搬

これは遺跡遺物の新発見ではなく、「石棺ト認メラルハモノ売却運搬ニ関スル件」という県知事名、宮内大臣宛の報告・照会（1940年（昭和15）9月21日付）の写しである。

○報告の概要 古墳の土地所有者〇〇は、「自己ノ耕作スル畑地ニアリシ…古墳ト認ムベキモノヲ松江市寺町古物商金川得助ニ金百七十円ニテ売却シ金川ハ更ニ之ヲ京都市右京区…寺石喜一郎ニ売却シ寺石ハ之ヲ買受クルヤ本年八月五日山陰線馬潟駅ヨリ愛知県笹島駅迄汽車輸送ヲ為シ名古屋市内（目下行先不明ニテ調査中）へ運搬シタル事実アルニ付本件措置ニ関シ何分ノ御指揮被仰度此段及伺上申候也」、つまり、どのように措置したらよいか指示を仰ぎたい。

○発見状況 「約二十年前頃迄ハ蓋石ノミ現シ居リシガ其ノ後風雨ノ為ト付近ヲ開墾シタル為漸次石棺ノ大部分ヲ露呈セシモノナリ」、「巨大ナル切石ヲ以テ築造シタル家形蓋附石棺ニシテ内法長サ六尺七寸幅五尺二寸深サ七尺原サ一尺ニテ横ニ縦二尺四寸横一尺八寸ノ穴アリ内面ハ滑ニシテ石質硬キモ外面ハ風化シ石質脆ク壁面ニ模様等ナシ」と状況を記す。さらに、「土地所有者〇〇ニ対シテハカネテ所轄警察署ヨリ他へ売却運搬等ナサハルヤウ指示シオキタルモ同人ハ竊カニ之ヲ他へ売却シタルモノナリ」、「本石棺ハ従来肥料溜トシテ使用シ居リタルモノナリ」と付記する。

○対応 「発掘埋蔵物ハ入用無之ニ付提出ニ及ハス」と回答。

○コメント 『埋蔵物録』に記録された島根県関係最後の情報（従って松江市関係最後の情報）は、埋蔵物の発見ではなく「石室売り飛ばし事件」についての報告であった。夙に梅原末治によって学界に紹介された古墳である³⁴⁾が、石棺式石室の解体、移送という未曾有の状況にあつて、県の深い憂慮にもかかわらず国が紋切り型の回答をしている。周知のように、その後石室は名古屋城内に運び込まれ、そこに設置されて、今日に至っている。注目したいのは、上記した県からの報告内容は、かつて名古屋郷土文化会の水谷盛光氏が熱心に調査し明らかにされた話³⁵⁾とはかなり異なっていることである。今となつては真相は究明し難いが、少なくとも、名古屋に運ばれる以前の事情については、上記の報告によって語られるべきではなかろうか。

おわりに

島根県が国に報告した松江市内における古墳発見の記録を見てきた。もちろん、これら以外にも多くの古墳が発見されていたことは、当時の新聞記事などから明らかである。例えば、後に有名になる岡田山1号墳の石室発見は、松江署の警部が現場検証する騒ぎとなって地元紙もかなり大きく取り上げている（山陰新聞1915年4月15日付）が、『埋蔵物録』にはその報告は収められていない。数多くの発見の中から、いかなる基準で上申する遺跡が選ばれたのかはよく分からない。

しかし重要なのは、上申された資料は、東博の前身博物館などにいた、当時まだ少数だった考古学の専門研究者の目には触れていたということである。東京帝室博物館にいた高橋健自が古天神古墳の出土品について書いた論文中に「地方庁からの報告」³⁶⁾と記しているのは、本稿の13で紹介した上申書そのものと考えて間違いない。博物館にあった考古学会や東京大学の人類学会に集う研究者たちは、こうした情報を共有していたと考えられる。

さて、明治20年代以降、考古学の専門研究者が遺跡踏査のため来県するようになる。その筆頭はイギリス人のウィリアム・ガウランドで、1887年（明治20）の9月に来松した。恐らくその時に撮影されたと推定される馬潟港の写真が、大英博物館のガウランド・コレクションの中にあることが、最近判明した³⁷⁾。県内における同氏の足跡については、かつて詳しく検証したことがある³⁸⁾ので参照されたい。そしてその翌年の春には、創立間もない人類学会（東京人類学会）の実質的責任者だった帝国大学理科大学（現在

の東京大学理学部) 大学院の坪井正五郎が来県する。同氏はその年の東京地学協会の例会で、出雲の古墳にも触れつつ講演をしている⁽³⁹⁾。

これらを嚆矢として、その後、多くの考古学者が来県、来市することになるが、地元にあつて情報を集め中央の学会に提供したり、来県する考古学者を案内したり、さらに自ら遺物を蒐集したりするような知識人も、当然生まれていた。彼らは黎明期の日本考古学を地域から支えた恩人である。1901年(明治34)に坪井に松江の情報を寄せた金田樗太郎⁽⁴⁰⁾は理科大学の坪井の後輩(専攻は地質学)であり、当時、島根県第一中学校(現、県立松江北高校)の校長だった。初期においては、こうした「人脉」も活用されたい。この他にも考古学に関心を持つ多くの地元知識人がおり、その中には人類学会や考古学会の機関誌に名を残している者もいる。しかし、彼らがどういう人々だったのかは必ずしも明らかになっていない。こうした先覚者の事跡を発掘することも、大きな課題として残されている⁽⁴¹⁾。

〔謝辞〕 資料調査に当たって古谷毅氏のお世話になり、考証に当たっては、岡崎雄二郎、片岡詩子、竹永三男、花谷浩、三宅博士の各氏から有益なご教示を得ました。篤く御礼申しあげます。

注

- (1) 東京国立博物館『東京国立博物館百年史』1973年。157ページ。
- (2) 同上。325-326ページ。
- (3) 時枝務「近代国家と考古学—『埋蔵物録』の考古学史的研究—」『東京国立博物館紀要』第36号、2001年。77-257ページ。
- (4) 本村豪章「古墳時代の基礎研究稿—資料編(Ⅰ)—」『東京国立博物館紀要』第16号、1981年。9-197ページ。
- (5) 東京国立博物館『収藏品目録(先史・原史・有史)』1979年。
- (6) 東京国立博物館『東京国立博物館所蔵須恵器集成Ⅲ(西日本編)』1998年。
- (7) 勝部昭・内川隆志・加藤里美・深澤太郎・加藤元康・新原佑典「東京国立博物館所蔵資料紹介」『松江市史』〈史料編2・考古資料〉2012年。722-727ページ。
- (8) 東森市良ほか『八雲村の遺跡』八雲村教育委員会、1978年。23ページ。川上昭一『岩屋口横穴墓群』松江市教育委員会、2006年。
- (9) 金田樗太郎「出雲国八束郡の横穴」『東京人類学会雑誌』第17巻第189号、1901年。116ページ。
- (10) 岡崎雄二郎・中尾秀信「松江市八幡宮下横穴墓群」『八雲立つ風土記の丘』No.146、1997年。
- (11) 坪井正五郎「出雲の横穴」『東京人類学会雑誌』第17巻第188号、1901年。77ページ。
- (12) 石井悠ほか『東出雲町誌』1978年。
- (13) 東出雲町教育委員会『東出雲町の遺跡』1988年。
- (14) 野津左馬之助『島根県史』4、1925年。47ページ。
- (15) 東森市良ほか『高野2号横穴発掘調査報告書』八雲村教育委員会、1980年。
- (16) 梅原末治「出雲に於ける特殊古墳(上)」『考古学雑誌』第9巻第3号、1918年。139-141ページ。
- (17) 横山純夫・ト部吉博・平野芳英『岩屋後古墳』島根県教育委員会、1978年。10-12ページ。
- (18) 江南「出雲国大庭の史蹟」『考古界』第2篇第9号、1903年。540ページ。
- (19) 松本岩雄「美保関町の考古資料」『美保関町誌』下巻、1986年。407-408ページ。
- (20) 同上。
- (21) 山本清「野波地区の古墳と古代遺跡」『島根町誌』本編、1987年。
- (22) 同上。56-61ページ。
- (23) 和田千吉「出雲国野波の古墳発掘」『考古界』第8篇第4号、1909年。201ページ。
- (24) 大野雲外「米子旅行記」『人類学雑誌』第28巻第4号、1912年。224-225ページ。
- (25) 外崎覚(とのさき・かく)は著名な漢学者・歴史学者で、宮内省に出仕して陵墓監などを務めた。森鷗外が『渋江抽斎』の中で、「(会って)傾蓋故きが如き念をした」と記している。

- (26) 山本清「古墳」『島根県文化財調査報告書』第五集、1968年。32-36ページ。
- (27) 松本岩雄「古天神古墳測量調査」『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅱ』（島根県教育委員会、1983年）でも出土品の員数等について検討されているが、土器16個というのは新聞記者が数えた数ではない。
- (28) 森山公民館『もりやま』1986年。29-30ページ。
- (29) 前注(14)『島根県史』4。312ページ。松本岩雄氏によると「女男岩横穴群」のことだという（前注(19)「美保関町の考古資料」424ページ）。
- (30) 前注(19)「美保関町の考古資料」。460ページ。
- (31) 同上。458ページ。
- (32) かつては切通横穴と赤崎横穴に分けられていたが、今は統合されている（市史259ページ、など）。
- (33) 注(8)『八雲村の遺跡』。25ページ。
- (34) 前注(16)「出雲に於ける特殊古墳（上）」。137-139ページ。
- (35) 水谷盛光「隠れた名古屋城の文化財」『名北労基』No.844、1988年。20ページ（なお、この文献で「研究員」と紹介されているのは若き日の筆者である）。次の文献にも紹介があるが、人名等が異なる。西尾克己ほか「団原古墳」『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告Ⅵ』島根県教育委員会、1989年。26ページ。
- (36) 高橋健自「出雲国八束郡大草古天神山古墳発掘遺物」『考古学雑誌』第9巻第3号、1919年。260ページ。
- (37) 明治大学博物館の忽那敬三氏のご教示による。
- (38) 渡辺貞幸「ガウランド氏と山陰の古墳（上・中・下）」『八雲立つ風土記の丘』Nos. 37, 39, 40、1979・80年。同「東京国立博物館所蔵『出雲国塩冶村古墳石槨石棺図』について」『MUSEUM』第568号、2000年。
- (39) 坪井正五郎「古墳及び塚穴」『東京地学協会報告』第10巻第3号、1888年。3-20ページ。
- (40) 前注(9)および(11)。
- (41) 花谷浩「瓦礫陶拾遺－明治大正期のある好古家の遺産」『島根考古学会誌』第28集、2011年）は、この分野での最近の労作である。

【補注】 本稿で紹介した『埋蔵物録』は、現在は東博資料館でマイクロフィルム版が公開されており、また、詳細な目録が注(3)の時枝論文に付されている。

松江市域の横穴墓

一意字型横穴墓を中心として― お う が た

西尾克己・稲田 信

はじめに

古墳時代の墳墓には、墳丘をもつ古墳がよく知られているが、出雲地域では山腹に穿たれた横穴墓も多く営まれている。現在、約500群、1,500穴以上の横穴墓が確認され、その内の6割近くが出雲東部の安来市と松江市に存在している。多いものでは数十穴で構成されるものまであり、各横穴墓には複数の人が埋葬されており、家族墓といわれている。

この横穴墓は5世紀代の古墳時代中期に北部九州の豊後で出現し⁽¹⁾、その後、6世紀に入り、横穴式石室⁽²⁾と共に、新たな墓制として本州にも波及し、列島各地で採用された。

横穴墓は、もともと古墳の一形態であり、導入時には古墳同様に円形や方形の墳丘を有していた。しかし、6世紀後半以降は、墳丘をもつものは殆ど無くなり、山の斜面に群集して掘られるようになる。内部の構造としては、遺骸を置く玄室は2m四方ほどの広さで、天井は低く、丸く加工されている。その入口である羨道部は短く、さらに、幅の狭く細長い墓道が付く。

出雲地域での横穴墓の出現は6世紀中頃とされ、須恵器編年では出雲編年3期⁽³⁾にあたる。その後、7世紀前半にかけて多く造られていった。当初の横穴墓の構造は前記したとおりであるが、暫くすると墳丘をもたないものが多くなる。玄室などの内部構造にも変化が生じ、中には出雲東部の石棺式石室の影響を受け、玄室の天井が家形に加工され、玄門が板石で閉塞される。また、墓道部分の幅が広くなり、葬送儀式を行う空間ができる。このような構造の横穴墓を「一意字型横穴墓」と呼んでいるが、その分布は松江市域と安来市の平野部に集中している⁽⁴⁾。

松江市域では、現在のところ200箇所あまりの横穴墓群が確認されており、山陰地域でも多く造られた場所の一つでもある。横穴墓の発掘調査も多く行われ、膨大な資料が蓄積され、研究も確実に進められている。とりわけ、横穴式石室の調査・研究と対応して、横穴墓の分布、形態、副葬品の状況等がこれまでも検討されている。

本稿は、『松江市史』「考古資料」で集成した「石棺式石室と一意字型横穴墓」⁽⁵⁾を補足する意味で、横穴墓の分布と一意字型横穴墓の出現と築造を検討し、石棺式石室との関わりを基に松江市域に所在する横穴墓の様相の一端を明らかにするものである。

なお、横穴墓の築造時期は、断りのないかぎり出土した須恵器の編年⁽⁶⁾に基づき「出雲編年」として説明を行っている。また、本稿で記述する松江市域内に所在する横穴墓、石棺式石室のうち、主なものについては『松江市史』「考古資料」で個別に紹介しているので、参考文献を含めてご確認願いたい。

1. 研究史と問題の所在

(1) 研究史

出雲部における横穴墓の研究は戦後から始まるが⁽⁷⁾、築造時期や内部構造についての議論⁽⁸⁾は、発掘調査成果が増えた80年代以降である。また、導入期の横穴墓には、尾根上に墳丘があることが指摘され、墳丘での葬送祭祀も行われたことが知られた⁽⁹⁾。

内部構造については、導入期の玄室は丸天井であり、羨道は細長い墓道をもつ。さらに、平面構造が、

羨道の前に短い空間部が付き、羨道部が二重構造をとるものが現われる。このことが最初に指摘されたのは、松江市山代町の狐谷横穴墓発掘調査報告書においてであった。また、玄室が家形に変化し、墓道が幅広くなったことを石棺式石室の形態との関わりに言及されたのが、安来市黒井田町の高広横穴墓群発掘調査である。その報告書において、玄室は小形丸天井から疑似四注式に変わり、墓道は狭長のものから断面U字形の大形の通路になると指摘した⁽¹⁰⁾。

さらに、石棺式石室と横穴墓との関連を出雲東部で追求していた出雲考古学研究会の「石棺式石室の研究」⁽¹¹⁾において、松江市の山代方墳や永久宅後古墳の石室と岩盤に穿たれた安部谷横穴墓群の平面形態や玄門や羨道の構造が極めて類似することから、横穴墓の中に石棺式石室の要素が、強く影響していることが詳細に論証された。また、出雲東部の横穴墓の構造に、肥後（熊本県）の横穴墓のものが入っていることも指摘されている⁽¹²⁾。

その後、道路建設や治水関連事業により出雲地域の各地で大規模に横穴墓の発掘調査が行われ、資料が大量に蓄積された。中でも、安来道路建設事業により、安来平野の東側で岩屋口北横穴墓や臼コクリ横穴墓が、松江市東出雲町で、島田池横穴墓や洪山池横穴墓が調査され、出雲東部の導入期から終末にかけての横穴墓の実態が具体的に分かってきた⁽¹³⁾。

一方、出雲地域全域を対象に横穴墓の悉皆調査も実施された。1993年に宍道町の横穴墓が網羅的に報告され⁽¹⁴⁾、1997年には出雲全域の横穴墓の図面の集成が行われた⁽¹⁵⁾。直近では、松江市域の横穴墓のうち、発掘調査が行われたものを『松江市史』で概略を紹介した⁽¹⁶⁾。

(2) 問題の所在

松江市域は島根県全域を見渡しても貴重な遺跡が集中する地域で、横穴墓も多く造られた地域の一つである。古くからの研究・報告、また、発掘調査も多く行われ、膨大な資料が蓄積され、横穴墓の研究も確実に進められている。とりわけ、横穴式石室の調査・研究と対応して、横穴墓の分布、形態、副葬品の状況等が詳細に検討されている。しかし、松江市域の横穴墓全体について網羅的に捉えられたことは少ない。本稿では、『松江市史』『考古資料』で集成した「石棺式石室と意宇型横穴墓」⁽¹⁷⁾を補足し、意宇型横穴墓を中心に松江市域の横穴墓の様相の一端を明らかにする。

2. 松江市域における横穴墓の分布

松江市域は、概ね律令時代の島根郡、秋鹿郡、意宇郡の一部（中・西部）からなる。横穴墓の分布をみると、朝酌川上流域、講武盆地周辺、大橋川北岸域、佐陀川河口（宍道湖側）付近、意宇川流域（河口付近、意宇平野付近、中流域、須賀川付近）、馬橋川流域、忌部川流域、玉湯川流域、佐々布川・同道川流域あたりに集中して分布することが分かる（松江市域の横穴墓一覧、松江市域の石棺式石室、横穴墓分布図参照）。ここでは、横穴墓が集中して分布する地域を、そこに所在する石棺式石室、意宇型横穴墓の分布と併せて概観する。

① 朝酌川上流域の様相

朝酌川上流域はいくつもの川筋が朝酌川の支流として枝分かかれし、持田、川津周辺の平野地帯を形成している。横穴墓が密集する地域のほぼ中心に5基の石棺式石室からなる太田古墳群が形成され、太田古墳群の南東側には同じく石棺式石室の西宗寺古墳、葉佐間古墳、川原古墳が、北には古妙見古墳が所在する。また、太田古墳群の近くには6世紀中頃で2基の横穴式石室をもつ薄井原古墳も知られる。律令時代の島根郡域では最も石棺式石室が密集する地帯で、横穴墓も密集して造られている。発掘調査事例は少ないが、横穴墓の形態を見る限り、意宇型横穴墓の分布は今のところ無く、やや離れて菅田横穴墓群中に意宇型横穴墓を見ることができる。

② 講武盆地周辺の様相

講武盆地では講武川が形成する小平野が形成されており、弥生時代前期の堀部第1遺跡が存在するように、日本海を媒介とした集団の移住もあった場所である。講武川の北側には、石棺式石室をもつ講武岩屋古墳、子持壺が出土した講武向山古墳が所在する。横穴墓は講武川や佐陀川周辺の丘陵斜面などに造られ、比較的狭い範囲に密集して造られたことが分かる。横穴墓の形態を見る限り、意宇型横穴墓の分布は今のところ無い。

③ 大橋川北岸域の様相

古墳時代中期から大型古墳が造り続けられた大橋川流域の北岸域にあたる。古墳時代後期には石棺式石室をもつ朝酌岩屋古墳、旧朝酌小学校校庭古墳、子持壺が出土した魚見塚古墳（全長62mの前方後円墳）、終末期の古墳である廻原1号墳などが所在する。横穴墓の数はそれほど多く確認はされていないが、遅倉横穴墓群中に意宇型横穴墓を見ることができる。

④ 佐陀川河口（宍道湖側）付近の様相

佐陀川河口は、古代には「^{さだのみずうみ}佐太水海」が広がっていた地帯で、遺跡の分布も旧地形に影響を受けている。河口の左岸（東側）では、浜佐田、比津、法吉周辺で横穴墓が集中して分布する。意宇型横穴墓は小池谷横穴墓群で確認することができる。河口右岸（西側）には、整美な横穴墓をもつ北小原横穴墓群、寺津横穴墓群があり、いずれも意宇型横穴墓が確認されている。

⑤ 意宇川流域（河口付近、意宇平野付近、中流域、須賀川付近）の様相

意宇川流域は、出雲東部でも最も遺跡が分布する地域である。流域が広く、いくつかの区域で小平野が形成され、分布の集中が見られる。

意宇川河口周辺は大橋川南岸域でもあり、古墳時代前期の廻田古墳を始め、古墳時代中期、後期の大型古墳が連続的に築造されている。意宇川右岸の丘陵地帯に横穴墓が集中しており、意宇型横穴墓は中竹矢横穴墓群、社日横穴墓群、的場横穴墓群などで知られる。

意宇平野付近は律令時代の国府、国分寺が置かれた古代出雲の政治的中心地で、渡来人の移住も想定される出雲国府跡下層遺跡もある。周辺では石棺式石室をもつ団原古墳、岩屋後古墳、古天神古墳などがあり、意宇型横穴墓は、意宇平野南側丘陵では岩盤に掘られた安部谷横穴墓群、湯田横穴墓群、西側では同じく岩盤に掘られた小谷横穴墓群などが知られる。

意宇川中流域は意宇川に東岩坂川、桑並川が合流する地点で、小平野が形成されている。永久宅後古墳と類似する石棺式石室をもつ雨乞山古墳や、池の尻古墳が所在する。横穴墓は流域ごとに密集しており、現在のところ意宇型横穴墓は四歩市横穴墓群、大日堂横穴墓群などで知られる。

須賀川付近では谷平野がいくつも形成されている。石棺式石室をもつ栗坪古墳が所在し、周辺には横穴墓群も多数存在する。現在のところ、意宇型横穴墓は内馬池横穴墓群（岩盤に掘られている）、古城山横穴墓群、島田横穴墓群、高井横穴墓群、島田池横穴墓群、渋山池横穴墓群などで知られている。

⑥ 馬橋川流域の様相

古墳時代後期に大庭鶏塚古墳、山代二子塚古墳、山代方墳、永久宅後古墳など出雲東部地域の最高首長墓群である山代・大庭古墳群が形成された地域である。石棺式石室は向山1号墳、山代方墳、永久宅後古墳で確認されており、周辺には意宇型横穴墓を多数含む狐谷横穴墓群、十王免横穴墓群など大規模な横穴墓群が所在する。

⑦ 忌部川流域の様相

忌部川流域に形成された小平野周辺に横穴墓群が散在する。今のところ石棺式石室、意宇型横穴墓は確認されていない。

⑧ 玉湯川流域の様相

玉湯川と隣接する林地域に小平野が広がる。石棺式石室をもつ林8号墳や、やや離れて鏡北廻古墳があり、意宇型横穴墓は岩盤に掘られた岩屋寺跡横穴墓群、岩屋寺跡後横穴墓群などで知られる。

⑨ 佐々布川、同道川流域の様相

佐々布川と隣接する同道川流域に小平野が広がる。石棺式石室は伊賀見1号墳、下の空古墳、宍道要害山古墳（横穴墓のように岩盤に掘られている）が所在し、意宇型横穴墓としては山の神谷横穴墓群、後谷横穴墓群、西来待横穴墓群などが知られる。なお、佐々布川と同道川周辺（奈良時代の宍道郷^{ししちのさと}）は岩盤に掘られた横穴墓が密集しており、小佐々布横穴墓群、観音寺横穴墓、横町横穴墓群、随音寺横穴墓群、岩穴口横穴墓、山の神谷横穴墓群、後谷横穴墓、西来待横穴墓群などが知られる。石室などの石材となった来待石が産出される所でもあり、他地域と比較しても特異な様相を示している。

以上、横穴墓の分布について、そこに所在する石棺式石室、意宇型横穴墓分布と併せて概観した。意宇型横穴墓は、現在確認されている中では、意宇川流域、馬橋川流域及びその周辺で最も多く造られており、この地域は意宇郡の中核部として石棺式石室も多く存在する。また、意宇型横穴墓を含む横穴墓群を見ると、山代・大庭古墳群周辺では狐谷横穴墓群、十王免横穴墓群のように、意宇型横穴墓を多数含む大規模な横穴墓群が存在する。大橋川の北側（律令時代の島根郡、秋鹿郡）は、大橋川南（律令時代の意宇郡の一部）と比べると石棺式石室や横穴墓の分布が少なく、意宇型横穴墓も限られた地域に点在している。

なお、松江市域内で岩盤に掘られた横穴墓を見ると、意宇川周辺（意宇平野付近、須賀川付近）で小谷、安部谷、湯田、内馬池、玉湯川周辺で岩屋寺跡、岩屋寺跡後、佐々布川・同道川周辺で小佐々布、観音寺、横町、随音寺、岩穴口、山の神谷、後谷、西来待の各横穴墓（群）が知られる。岩盤に横穴墓を掘り込む技術は、石室や石棺に利用する石材の採石・加工とも関わり、土に掘る横穴墓に比べ格段の技術と労力を要すると考えられる⁽¹⁸⁾。岩盤に掘られた横穴墓が密集する地域では、石材の供出など、何らかの背景を検討する必要があるだろう。

3. 意宇型横穴墓の出現と築造（石棺式石室の形態変化と意宇型横穴墓の築造）

(1) 石棺式石室と意宇型横穴墓の出現

前述したように、石棺式石室は九州の横口式冢形石棺に祖形が求められる。その影響を受けた松江市大草町の古天神古墳が6世紀中葉に出現し、ほどなく石棺式石室の要素を多くもつ松江市宍道町の伊賀見1号墳も構築される。この2基の古墳が築かれた後には、古天神古墳がある意宇川下流域の大首長墓の山代方墳にも石棺式石室が採用され、これを契機に、出雲東部各地の首長墓にも導入される。

一方、既に家族墓として浸透している横穴墓にも、この時期、内部構造に変化が生じた。意宇川下流域の場合、導入期の中竹矢1号墓や的場1号墓は、玄室がドーム形で、細長い墓道をもつが、その後、玄室でテント型が現れ、また、墓道の幅が広がる。さらに、前庭部が墓前祭祀の場となる。この変化は安来平野周辺の横穴墓にもみられ、石棺式石室の影響と考えられている⁽¹⁹⁾。

以下、須恵器から出雲4期と5期以降の2時期に分けて、詳しく述べてみたい。

(2) 松江市域の意宇型横穴墓築造

① 出雲4期

この時期の横穴墓としては、山代方墳が存在する茶臼山北麓（山代町）の狐谷横穴墓とその谷奥（矢田町）の十王免横穴墓群や勝負谷横穴墓群が知られる。狐谷10号穴、十王免横穴墓群27号穴、勝負1号

穴は導入期のものである。それに続く十王免30号穴では、玄室はテント型で、前庭部もできており、形態としては意宇型横穴墓になっている。出土している須恵器は出雲4期にあたる。一方、狐谷横穴墓ではこの時期の意宇型横穴墓は確認されていない。意宇川下流域の東側丘陵にある渋山池横穴墓群では、1号穴、6号穴で意宇型横穴墓は確認できるが、島田池横穴墓群では存在しない。よって、松江市域では、安来平野の東縁丘陵に比べて、意宇型横穴墓の数は割合としては少ないといえる。

安来平野東縁丘陵では、安来道路建設事業に伴って、飯梨川東側の臼コクリ横穴墓群、岩屋口南横穴墓群など多くの意宇型横穴墓が確認されている。玄室の形態はテント型である。また、副葬品には大刀や馬具をもち、通常の横穴墓被葬者に比べ有力者が葬られていると推定される⁽²⁰⁾。

② 出雲5期以降

この時期になると、玄室にはテント型家形と整正家形が現れる。特に整正家形についてみると、意宇川下流域の安部谷横穴墓群が典型的な横穴墓である。凝灰岩の山肌に穿たれ、玄室、羨道部を見る限り、石棺式石室の内部と極めて類似している。これは、石室作成に関わった工人が関与したことを窺わせるものである。また、出土品中に円筒埴輪や子持壺が存在することも注目される。

この時期の意宇型横穴墓は、意宇川下流域では他にも多く存在する。前記した横穴墓以外に、大庭町の小倉見谷横穴墓群、八幡町の社日横穴墓群、的場横穴墓群、浜乃木町の奥山横穴墓群、東出雲町の島田池横穴墓群、古城山横穴墓群が挙げられる。しかし、意宇川上・中流域の八雲町や忌部川流域ではほとんど確認されていない。また、宍道湖南岸の玉湯町や宍道町では、砂岩の岩盤に穿たれた横穴墓群に意宇型横穴墓が存在する。これも意宇川下流域と同様に、石工集団の関与が窺える。一方、宍道湖の北側や島根半島部をみると、横穴墓自体の分布が偏る。朝酌川流域の川津・持田地区や佐太川流域に限られ、さらに、意宇型横穴墓は西浜佐陀町の北小原1号穴や寺津横穴墓群、菅田町の菅田横穴墓群等しか認められなく、その分布は極めて少数である。

なお、意宇平野周辺部において大規模な発掘調査が行われているのが、十王免横穴墓群と島田池横穴墓群である。十王免横穴墓群では、37穴が調査されている。その内、意宇型横穴墓は17穴で、全体の5割に近い。また、その築造時期は出雲4～5期に集中する。

島田池横穴墓群は36穴が調査されている。その内、意宇型横穴墓は7穴で、全体の2割弱と以外に少ない。また、その築造時期は出雲5期に限られている。出現時期も安来平野のものより一時期遅い。さらに、子持壺をもつものは2穴、出土品の中に馬具をもつ横穴墓が1穴、直刀が出ているものが3穴である。

これら意宇川下流域に存在する意宇型横穴墓をみた場合、安来平野東縁丘陵で調査された横穴墓と比べると、群全体で意宇型横穴墓の占める割合も少なく、さらに、副葬品についても、装飾大刀はなく、かつ、馬具も僅かである。副葬品としては貧弱であり、このことは被葬者の階層に関わるものと考えられる。

ま と め

松江市域における横穴墓の様相について、意宇型横穴墓を中心として述べてきた。最後に、横穴墓と石棺式石室との関係を安来平野も含めて出雲東部の範囲で検討する。

6世紀中頃に、出雲東部では、横穴墓は各地で築造されていた。その天井形態は九天井系で、羨道の前方には細長い墓道が付いていた。しかし、意宇川下流域において石棺式石室が首長墓に採用され、定型化した6世紀後半には、出雲東部で横穴墓の玄室が家形四注式やテント形に変化するものも現れ、墓道の幅が横に広がり、前庭部に変化してきた。その動きが顕著で、かつ、多数確認されているのが、安

来平野の東側丘陵である。調査された36穴中、25穴が意宇型横穴墓で、7割弱である。

安来路建設に伴う発掘調査において、安来市宮内町・佐久保町で宮内横穴墓群や臼コクリ横穴墓群等、意宇型横穴墓などの横穴墓が多く調査された。この調査の結果、意宇型横穴墓は出雲4期の段階で既に多くが築造され、その被葬者はある一定の広さをもつ地域の有力者で、臼コクリ横穴墓群に集められたと推定されている²¹⁾。この横穴墓群では、荒島石の石棺が6基あり、馬具や環頭大刀、円頭大刀等の装飾大刀をもつ横穴墓も混じる。なお、この安来平野西側では荒島町の塩津神社古墳や飯梨町の飯梨岩舟古墳など数基の石棺式石室が存在しているが、安来平野東側では発見されておらず、この横穴墓被葬者を統括する勢力についても今のところ不明である。但し、このように意宇型横穴墓を多く採用しており、意宇川下流域の石棺式石室を築造している勢力の傘下に入っていたことは確かなことであろう。

では、松江市域の意宇川下流域はどうであろうか。石棺式石室築造の中枢部にあたるが、安来平野の東側丘陵と比べると、出雲4期の意宇型横穴墓の割合は高くない。穴数の多い狐谷横穴墓群や島田池横穴墓群では、出雲5期の横穴墓は存在するものの、この時期のものは未確認である。よって、横穴墓築造において、石棺式石室の影響は絶対的なものではなかったと考えられる。但し、安来平野の東側丘陵の横穴墓群や宍道湖周辺部の西浜佐陀町北小原1号墓などのように局地的に採用されており、被葬者と意宇川下流域の首長との政治的関係を考慮する必要がある。

一方、岩盤に穿たれた横穴墓をみると、その多くは意宇型横穴墓である。意宇川下流域では松江市大草町安部谷横穴墓群、玉湯町岩屋寺横穴墓群、安来市荒島町塩田横穴墓群²²⁾などが挙げられる。これらの玄室は家形四注式に加工され、玄門には閉塞石が嵌め込まれるように、削り込みが設けられ、石棺式石室と同形態となっている。また、穿たれている岩盤が、安部谷横穴墓群は角礫凝灰岩で、岩屋寺横穴墓群は凝灰質砂岩（来待石）で、塩田横穴墓群は浮石質凝灰岩（荒島石）であり、石棺式石室と石棺の石材産地に、各横穴墓が存在することになる。このことからすると、3地区の横穴墓被葬者は、出雲東部での石棺や石棺式石室造営に関与した工人集団と強い関わりを持っている人物と推定される。

なお、松江市域に所在する横穴墓については、今後解明していかなければならない課題も残されている。例えば、

- ① 他の出雲各地域での横穴墓も墳丘をもち、墓道→前庭に変化しているが、石室の影響や祭祀儀礼の共通性がどの程度窺えるかを確認する必要がある。
- ② 同じ意宇型横穴墓であっても、墓室への入り方は、安来平野東部丘陵と意宇中枢部をもつ松江市域とでは異なるなど、その背景としての横穴墓造営の政治的側面を追求していく必要がある。
- ③ 意宇型横穴墓の終焉とその時期については、出現期の様相に比べ不明瞭であり、石棺式石室の築造停止や横穴の単葬墓化との関係などと併せ、確認していく必要がある。

などである。今後とも松江市域に所在する横穴墓の実態解明に向けては、様々な調査の進展に併せ、検討・考察を進めていく必要がある。

〔謝辞〕 本稿を執筆するにあたり、岡崎雄二郎氏、岩橋康子氏には松江市域に所在する横穴墓について確認をいただきました。記して感謝申し上げます。

注

- (1) 佐田茂「九州横穴の形成と時期」『考古学雑誌』61-1 日本考古学会 1982
- (2) 出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6 1987、導入期の横穴式石室としては、岡田山1号墳、御崎山古墳、林43号墳などが挙げられる。これらの石室も北部九州や肥後（熊本県）の石室の影響を受けたものである。
- (3) 大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』11 1994
- (4) 西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓―出雲地方を中心にして―」『おおいた考古』4 大分県考古学会 1991
- (5) 松江市史編集委員会『松江市史』史料編2「考古資料」松江市 2012
- (6) (3)に同じ
- (7) 山本清「横穴の形式と時期について」『島根大学人文科学論集』8 1962
- (8) 門脇俊彦「西山陰における横穴墓の受容（上）」『島根考古学会誌』2 1985
花田勝広「畿内横穴墓の特質」『古文化談叢』22 九州文化研究会 1990
- (9) (1)に同じ
『中竹矢遺跡 国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』島根県教育委員会 1983
- (10) 『高広遺跡発掘調査報告書』島根県教育委員会 1984
- (11) 出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6 1987
西尾克己・丹羽野裕「山陰の横穴墓―出雲地方を中心にして―」『おおいた考古』4 1991
- (12) 角田徳幸「出雲の後期古墳文化と九州」『風土記の考古学』3 同成社 1995
池上悟「山陰地方における横穴墓の受容と展開」『立正考古』37 1998
池上悟『日本横穴墓の形成と展開』雄山閣2004
- (13) 『岩屋口北遺跡・臼コクリ遺跡』島根県教育委員会 1997
『島田池遺跡・鵜貫遺跡』島根県教育委員会 1997
- (14) 西尾克己・稲田信・原田敏照・守岡正司『宍道町歴史史料集 古墳時代編1 宍道町の横穴墓・横穴式石室集成』宍道町教育委員会 1993
- (15) 『出雲の横穴墓』山陰横穴墓検討会 1997
- (16) (5)に同じ
- (17) (5)に同じ
- (18) (14)に同じ
- (19) 出雲考古学研究会「石棺式石室の研究」『古代の出雲を考える』6 1987
- (20) 『岩屋口北遺跡・臼コクリ遺跡』島根県教育委員会 1997
- (21) (20)に同じ
- (22) 出雲考古学研究会「遺跡と地域と考古学」『古代の出雲を考える』9 2007

松江市域に所在する横穴墓一覧

							出雲編年								掲載文献（執筆者、発行機関等は松江市史考古付録関係文献・埋蔵文化財調査報告書一覧を参照）
番号	島根県道番号	遺跡名称	所在地	意字型	天井形態	子持壺	3期	4期	5期	6期	7期	8期			
1	1	亀田横穴墓群	北Ⅰ-1	島根町小波	ドーム形								島根県史1925、東京国立博物館収蔵品目録（考古・土俗・法隆寺献納宝物）1956、古墳時代の基礎研究編-資料篇（Ⅰ）-1981、島根町誌1987、亀田横穴群1993、東京国立博物館所蔵須志器集成Ⅲ1989、松江市史考古史料編2012		
			北Ⅰ-2	ドーム形											
			北Ⅰ-3	「丸天井」											
			北Ⅱ-1	ドーム形											
			北Ⅱ-2	「丸天井」											
			北Ⅲ-1	ドーム形											
			南-1	「丸天井」											
2	7	宮尾横穴墓群	A-1	島根町大井									島根町誌、宮尾横穴群1990、宮尾横穴群第2次調査報告書1992、松江市史考古		
			A-2												
			A-3												
			A-4	テント形墓											
			A-5												
			A-7	テント形墓											
			A-12												
			B-1												
			C-1												
			C-2												
			C-3												
			C-5												
			C-7	テント形墓											
			C-8	テント形墓											
			C-9	ドーム形											
			C-10	テント形墓											
			C-11	「丸天井」											
			C-12	アーチ系											
			C-13	テント形墓											
			C-14	テント形墓											
			C-15												
			C-16	テント系室形墓											
			C-17												
C-18	テント形墓														
C-19															
C-20	ドーム形														
C-21															
C-22	ドーム形														
C-23															
3	11	女男岩横穴墓群	1号	美保関町深山	○テント形平								美保関町誌		
			2号	テント形墓											
			3号	ドーム形											
			4号	ドーム形											
			5号												
			6号	ドーム形											
4	12	殿川内横穴墓群	1号	美保関町深山	テント形墓							美保関町誌			
			2号	テント形墓											
5	63	胸喰横穴墓		美保関町深山	テント形墓								島根県史1925、美保関町誌		
6	62	菅浦横穴墓		美保関町菅浦									美保関町誌		
7	22	片江横穴墓群	1号	美保関町片江	○テント系室形墓								美保関町誌、片江郷土誌1965		
			2号	○ドーム形											
			3号	ドーム形											
			4号	○テント系室形墓											
			5号	「丸天井」											
			6号	○ドーム形											
			7号	「丸天井系」											
			8号	「丸天井系」											
8	186	中塚山横穴墓		美保関町美保									美保関町誌、東京国立博物館収蔵品目録（考古・土俗・法隆寺献納宝物）1956、東京国立博物館所蔵須志器集成Ⅲ1989		
9		尻後無横穴墓		美保関町美保									美保関町誌		
10		玉井横穴墓		美保関町深山									美保関町誌		
11		西の谷横穴墓		美保関町片江									美保関町誌		
12	K 59	茶畑横穴墓群		鹿島町御津	テント形平								御津貝塚横穴群発掘調査報告書1 1984、鹿島町誌1962		
13	K 81	御津貝塚横穴墓群	1号	鹿島町御津	テント形平								御津貝塚横穴群発掘調査報告書1		
			2号	テント形平											
			3号	テント形平											
			4号	テント形平											
14	K 32	寺尾横穴墓群	1号	鹿島町志保	テント形平								島根県埋蔵文化財調査報告書1982、島根県史1925		
			2号	ドーム形											
15	K 27	峯谷寺の横穴墓群		鹿島町志保東											
16	K 29	芦山横穴墓群		鹿島町志保内											
17	K 62	峯谷寺の奥横穴墓群		鹿島町志保東											
18		岩戸横穴墓		鹿島町志保内											
19		鬼山平横穴墓		鹿島町志保内											
20	K 82	免目横穴墓群		鹿島町志保内											
21	K 13	嵐廻横穴墓群	4号	鹿島町名分	ドーム形								菅田考古17 1995、鹿島町誌、菅田考古15 1979		
			7号	ドーム形											
22	K 18	一矢横穴墓		鹿島町名分											
23	K 23	田中の奥横穴墓		鹿島町名分									鹿島町誌		
24	K 24	かまの横穴墓		鹿島町名分									鹿島町誌		
25	K 34	才の奥横穴墓群		鹿島町名分											
26	K 8	恵谷横穴墓群	1号	鹿島町北溝沢									菅田考古16 1983、御津貝塚横穴群発掘調査報告書1		
			2号												
			3号												
27	K 16	芦谷横穴墓		鹿島町北溝沢									鹿島町誌、菅田考古16		

							出雲編年								掲載文献（執筆者、発行機関等は松江市史考古付録関係文献・埋蔵文化調査報告書一覧を参照）
番号	島根県道番号	遺跡名称	所在地	意字型	天井形態	子持壺	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期			
28	K 11	清水の奥横穴墓群	1号 2号 4号	鹿島町南溝沢	ドーム形 「丸天井」 テント形									菅田考古15 1979、菅田考古16	
29	K 79	中尾谷山横穴墓	鹿島町南溝沢		ドーム形									菅田考古15、菅田考古16、謀武地区遺跡分布調査報告書1 1987	
30	K 7	寺の奥横穴墓群	鹿島町上溝沢											菅田考古15	
31		清水横穴墓群	1号 3号 5号 6号 7号	鹿島町上溝沢	ドーム形 ドーム形 ドーム形 テント形 テント形									菅田考古15、菅田考古16	
32		長谷横穴墓群	2号 12号 14号 16号	鹿島町上溝沢	テント形 ドーム形 ドーム形 テント形									菅田考古16	
33	D 362	小谷横穴墓群	上大野町											松江考古1 1978、続大野郷土誌	
34	D 401	井尻横穴墓	上大野町		ドーム形									松江考古1、続大野郷土誌	
35	D 208	祝谷横穴墓群	A-2号 C-13号	秋鹿町	テント形 テント形 ドーム形									名勝史跡及天然記念物1919、島根県史蹟名勝天然記念物調査報告9 1937	
36	D 947	筆ノ尾横穴墓群	1号 2号 3号 4号 5号 6号	東長江町	ドーム形 宝形 宝形 ドーム形 ドーム形									筆ノ尾横穴群発掘調査報告書1995	
37	D 189	牛切横穴墓群	西谷町												
38	D 179	寺津横穴墓群	西谷佐田町		（項目未記入）										
39	D 354	北小原横穴墓群	1号 2号	西谷佐田町	○テント形 ○テント形									島根県埋蔵文化財調査報告書5 1974、松江市史考古	
40	D 355	寺津横穴墓群	1号 3号 4号 5号	西谷佐田町	○テント形 ○テント形 ○テント形 ○テント形									島根大学論集8 1958、島根県史1925、松江市史考古	
41	D 948	釜代横穴墓	西谷佐田町												
42	D 178	東前横穴墓群	浜佐田町											松江考古9 2001	
43	D 181	殿山横穴墓群	浜佐田町											松江考古9	
44	D 182	小池谷横穴墓群	東穴 西穴	浜佐田町	○テント形 ○ドーム形									松江考古9、須志器大成1981	
45	D 177	舟津横穴墓群	舟津町		テント形 テント形									舟津横穴群発掘調査報告書1995	
46	D 175	かねじ谷横穴墓群	上佐陀町											松江考古9	
47	D 169	後谷横穴墓群	西生馬町											生馬村誌1917、島根県史1925、古墳時代の基礎研究編-資料篇（I）-1981、松江考古9	
48	D 170	郷戸横穴墓群	西生馬町											松江考古9	
49	D 168	高田尾横穴墓	西生馬町											高田尾横穴墓2009、松江市史考古	
50	D 167	辺田横穴墓群	東生馬町												
51	D 161	ひやくた横穴墓	比津町											山陰文化研究紀要10 1970	
52	D 163	比津崎横穴墓群	比津町												
53	D 164	水崎崎横穴墓群	比津町		ドーム形									島根大学論集11 1962	
54	D 556	ゴルフ場内横穴墓群	比津町												
55	D 140	ひのさん横穴墓群	法吉町											須志器大成1981	
56	D 145	栗元横穴墓	法吉町												
57	D 158	栗利天山横穴墓群	春日町											島根県史1925	
58	D 159	法吉小学校裏山横穴墓群	春日町												
59	D 157	赤崎切通横穴墓	春日町												
60	D 160	とおり坂横穴墓群	2号 3号	黒田町	「丸天井」 テント形									島根県埋蔵文化財調査報告書1 1969	
61	D 143	桜崎横穴墓	奥谷町											山陰文化研究紀要10	
62	D 144	赤山横穴墓群	奥谷町											島根県史1925	
63	D 1000	菅田横穴墓群	9号 16号 19号 20号 22号	菅田町	○家型入り ○ ○ ○ ○									菅田横穴墓群 廣沢啓祐2005、松江市史考古	
64	D 340	深町横穴墓	西川津町												
65	D 102	尾山横穴墓群	西川津町												
66	D 106	穴の口横穴墓群	西川津町		テント形									菅田考古15 1979	
67	D 97	鍛冶屋谷横穴墓	東持田町		テント形									菅田考古15	
68	D 98	城の越横穴墓	東持田町											菅田考古13	
69	D 99	立花横穴墓	東持田町												
70	D 543	沢ノ奥横穴墓群	坂本町												
71	D 92	川原庄の上横穴墓群	川原町												
72	D 902	川原後谷横穴墓群	川原町											川原後谷横穴群発掘調査報告書1996	
73	D 84	上の堂横穴墓群	1号 2号	福原町	テント形 テント形									菅田考古15	
74	D 761	流田横穴墓	福原町		ドーム形									島根県埋蔵文化財調査報告書1 1969	
75	D 125	山根横穴墓	上東川津町												
76	D 126	向屋敷横穴墓群	上東川津町												

[illegible]

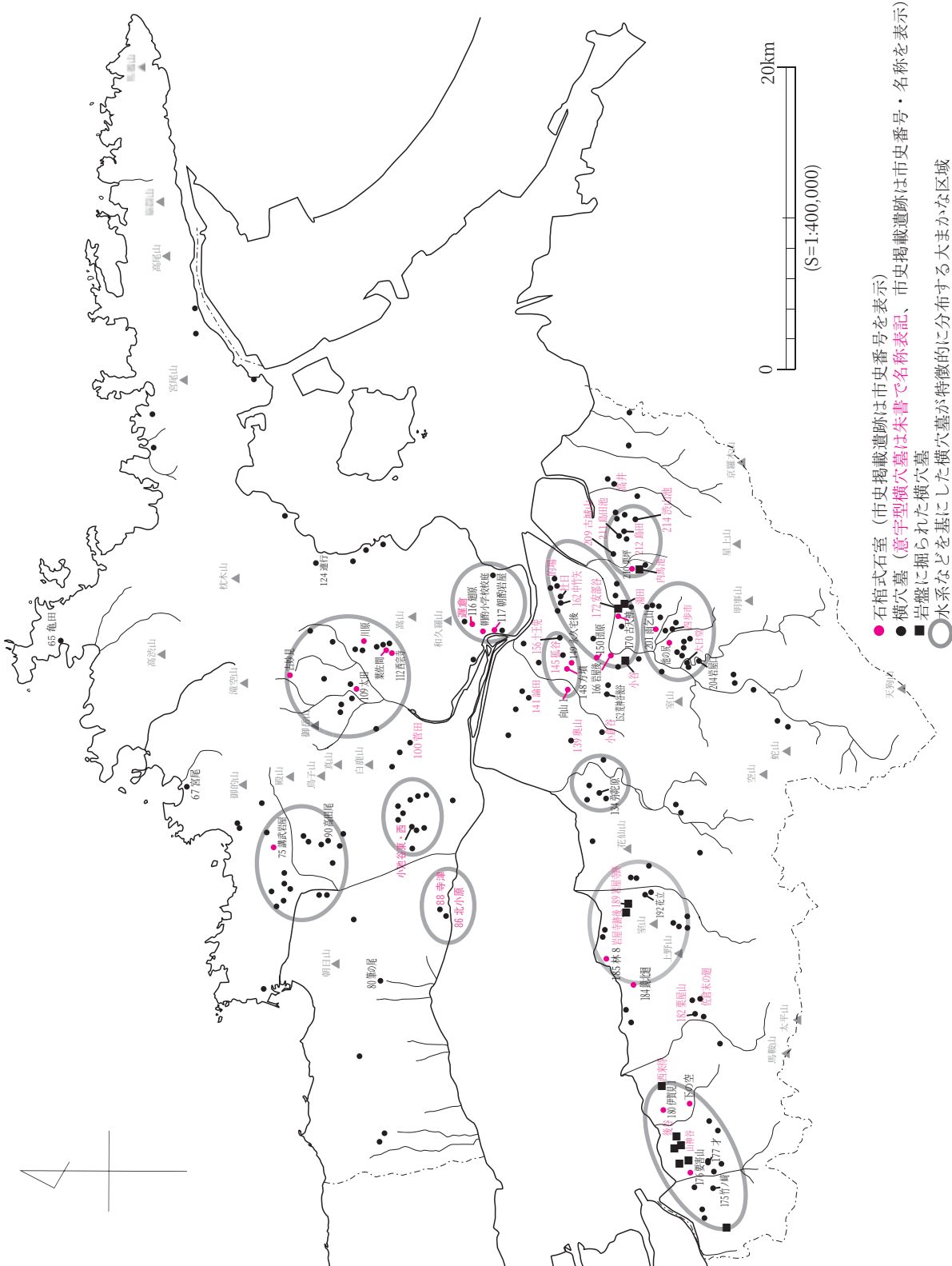
						出雲編年								掲載文献（執筆者、発行機関等は松江市史考古付録関係文献・埋蔵文化財調査報告書一覧を参照）
番号	島根県道番号	遺跡名称	所在地	意 字 型	天井形態	子 持 壺	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期		
			29号 30号 31号 32号 33号 34号 35号 36号 37号		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	サント系形平								
104	D 37	大石横穴墓群	大庭町											おおばの歴史1998
105	D 548	小倉見谷横穴墓群	1号 2号 3号 4号	大庭町	ドーム形 ○ ○ ○	サント形平 サント形平								島根県埋蔵文化財調査報告書15 1989
106	D 426	有廻横穴墓群	大庭町											
107	D 42	狐谷横穴墓群	1号 2号 3号 4号 5号 6号 7号 8号 9号 10号 11号 12号 13号 14号 15号 16号 17号	山代町	ドーム形 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	ドーム形 サント系形平 サント系形平 サント系形平 サント系形平 サント系形平 サント系形平 ドーム形 ○								

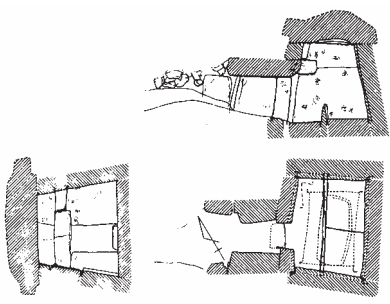
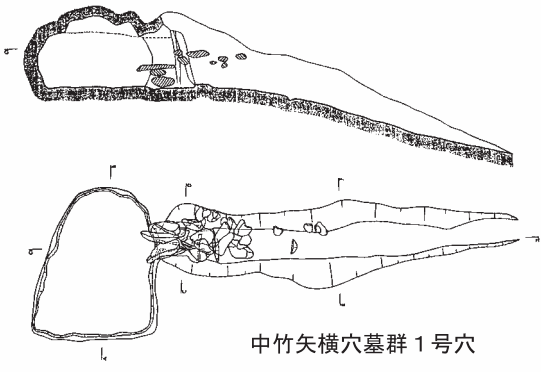
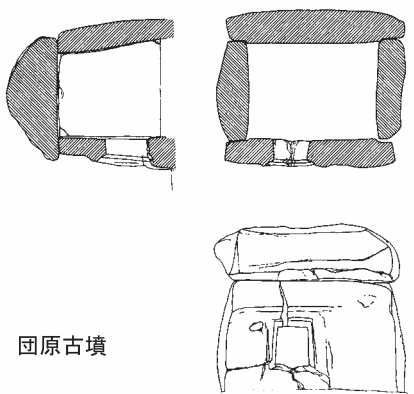
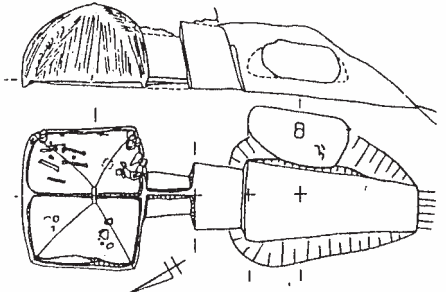
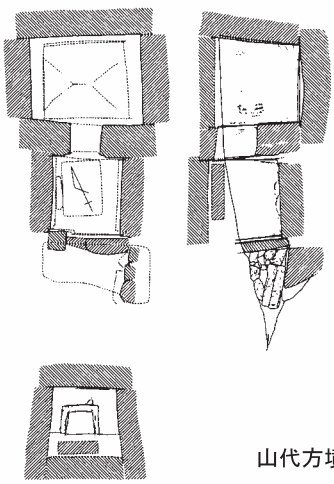
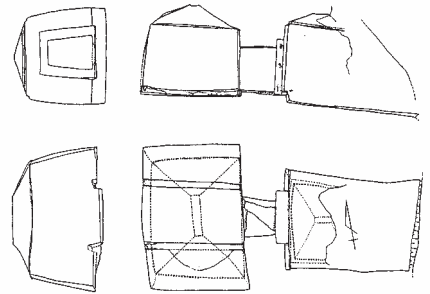
						出雲編年								
番 号	島根 県道 番号	遺跡名称		所在地	意 字 型	天井形態	子 持 壺	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	掲載文献（執筆者、発行機 関等は松江市史考古付録関係 文獻・埋蔵文化財調査報告書 一覧を参照）
128	H 166	山の神谷横穴墓	1号 2号	矢野町矢野	ドーム形 ○ サント家形平									随昔寺横穴群発掘調査報告書 1986、矢野町の横穴墓・横穴 式石室集成、矢野町史料編
129	H 167	岩穴口古墳		矢野町矢野										矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
130	H 177	横町横穴墓群	I-1号 II-1号	矢野町矢野	サント家形平 サント家形平									矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
131	H 13	OM公園横穴墓		矢野町白石										矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成
132	H 40	才横穴墓群	I-1号 I-2号 I-4号 I-6号 I-9号 II-1号 II-2号 III-1号 III-2号 III-3号 III-4号 III-5号 IV-1号	矢野町白石	サント家形平 ドーム形 サント家形平 サント家形平 サント家形平 サント家形平 整正家形平 ドーム形 ○ 整正家形平									地域と古墳と磨崖仏1980、矢 野町の横穴墓・横穴式石室集 成、矢野町史料編、松江市 史考古
133	H 41	女ヶ峠横穴墓		矢野町白石										矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
134	H 65	矢頭横穴墓		矢野町白石	サント家形平									清水谷遺跡・矢頭遺跡発掘調 査報告書1985、矢野町の横穴 墓・横穴式石室集成
135	H 215	下倉横穴墓群	1号 2号 4号 5号	矢野町白石	ドーム形 サント家形平 サント家形平 ドーム形									矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
136	H 5	西来待横穴墓群	1号 2号	矢野町西来待	○ドーム形 ○ドーム形									矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
137	H 6	弘長寺横穴墓群		矢野町東条侍										鳥根郷史1925、矢野町の横穴 墓・横穴式石室集成、矢野町 史料編
138	H 53	松石横穴墓		矢野町東条侍										松石古墳群1978、矢野町の横 穴墓・横穴式石室集成1993、 矢野町史料編1999、松江市 史考古資料編2012
139	H 3	栗屋山横穴墓群	1号 2号 3号	矢野町上条侍	○サント家形平 ○整正家形平 ○サント家形平 サント家形平									鳥根大論集8 1985、矢野 町の横穴墓・横穴式石室集 成、矢野町史料編、松江市 史考古
140	H 4	佐倉横穴墓群	1号 3号 4号	矢野町上条侍	サント家形平 サント家形平 サント家形平									矢野町誌1963、矢野町の横穴 墓・横穴式石室集成、矢野町 史料編
141	H 28	菅原横穴墓群	1号 2号 3号	矢野町上条侍	サント家形平 整正家形平 整正家形平									矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
142	H 29	佐食木の榎横穴墓群	1号 2号	矢野町上条侍	○サント家形平									矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成、矢野町史料編
143	H 107	角田横穴墓群		矢野町上条侍										矢野町の横穴墓・横穴式石室 集成
144	G 15	林横穴墓		玉湯町林村										玉湯町史1961
145	G 48	宮ノ奥横穴墓群		玉湯町林村	「常緑平入」									
146	G 49	穴栗師横穴墓群		玉湯町林村	「常緑平入」									玉湯町史
147	G 68	大横谷横穴墓群		玉湯町林村	「常緑平入」									
148	G 69	寺ノ空横穴墓群		玉湯町林村										玉湯町史
149	G 68	小金松横穴墓		玉湯町林村										鳥根郷史1925
150	G 5	岩屋寺跡横穴墓群	1号 2号	玉湯町玉造	整正家形平 ○ 整正家形平									鳥根郷史1925、鳥根県史蹟名 称天然記念物3 1927、鳥根 県の文化財3 1963、古代の 出雲を考える9 2007、松江 市史考古
151	G 7	御連場横穴墓		玉湯町玉造	円筒式平入 （鐘鉢形）									玉湯町史1961、鳥根県埋蔵文 化財調査報告書15 1989
152	G 18	新宮横穴墓群		玉湯町玉造										古代の出雲を考える8 1987、古代の出雲を考える9 2007
153	G 24	岩屋寺跡裏山横穴墓群		玉湯町玉造	○ 整正家形平									鳥根県埋蔵文化財調査報告書 15 1989
154	G 34	大門小路横穴墓		玉湯町玉造	ドーム形									鳥根県埋蔵文化財調査報告書 15 1989
155	G 77	花立横穴墓群	1号 2号 4号	玉湯町玉造	テント形 テント形									鳥根県埋蔵文化財調査報告書 15 1989、松江市史考古
156	G 96	青木原横穴墓群		玉湯町玉造										
157	G 20	山崎横穴墓群		玉湯町赤松										
158	F 28	神納横穴墓		八雲町日吉	ドーム家形									八雲村の遺跡1978
159	F 30	和田平横穴墓群		八雲町日吉										八雲村の遺跡
160	F 84	落井東横穴墓群		八雲町日吉										八雲村の遺跡
161	F 85	落井西横穴墓群		八雲町日吉										八雲村の遺跡
162	F 3	四歩市横穴墓群	1号 2号 3号 4号 8号 13号 14号 15号	八雲町東条御	○ドーム形 ○ドーム形 「丸天井」 「丸天井」 「丸天井」 「丸天井」 「丸天井」 「平人家形」									鳥根郷史1925、八雲村の遺跡 1978

								出雲編年						
番 号	島根 県道 番号	遺跡名称		所在地	意 字 型	天井形態	子 持 壺	3 期	4 期	5 期	6 期	7 期	8 期	掲載文献（執筆者、発行機関等）は松江市史考古館関係文献・埋蔵文化財調査報告書一覧を参照）
163	F 4	高九横穴墓群	1号 2号 3号 4号	八雲町東島根		「平人家形」								八雲村の遺跡
164	F 6	安田横穴墓群		八雲町東島根		ドーム形								八雲村の遺跡
165	F 39	外輪谷横穴墓群		八雲町東島根										八雲村の遺跡、安田古墳群1号墳・外輪谷横穴墓群12号穴1999
166	F 43	原ノ前横穴墓群		八雲町東島根										八雲村の遺跡、八雲村誌1998
167	F 44	細田横穴墓群		八雲町東島根		「平人家形」								八雲村の遺跡
168	F 82	第三郎谷横穴墓群		八雲町東島根										
169	F 96	増福寺横穴墓群		八雲町東島根										
170	F 7	岩屋口横穴墓群		八雲町南島根										島根県史1925、八雲村の遺跡1978、東京国立博物館所蔵須須原忠器集成Ⅲ1989、岩屋口横穴墓群2006、松江市史考古
171	F 8	青木横穴墓群		八雲町南島根										島根県史1925、八雲村の遺跡
172	F 37	北折原横穴墓群		八雲町南島根										
173	F 45	禰定寺横穴墓群	2号 4号	八雲町南島根		「九天井」								八雲村の遺跡1978
174	F 47	折原横穴墓群		八雲町南島根										八雲村の遺跡
175	F 49	大日堂横穴墓群		八雲町南島根	○	ドーム形								八雲村の遺跡
176	F 50	岩坂神社横穴墓群		八雲町南島根										八雲村の遺跡
177	F 10	宮内横穴墓群		八雲町南島根										八雲村の遺跡
178	F 17	松廻横穴墓群	1号 2号 3号 4号	八雲町南島根		ドーム形								八雲村の遺跡
179	F 18	高野横穴墓群	2号	八雲町南島根		ドーム形								八雲村の遺跡、高野2号横穴発掘調査報告書1980、八雲村誌1998
180	F 64	田寄横穴墓群		八雲町南島根										八雲村の遺跡
181	F 67	恩部山横穴墓群		八雲町南島根										八雲村の遺跡
182	E 44	湯谷横穴墓群	1号 2号 3号	東出雲町東山		ドーム形								島根県埋蔵文化財調査報告書1974、東出雲町の遺跡1988
183	E 94	湯田横穴墓群	1号 2号 3号	東出雲町東山	○	サント家形平								東出雲町の遺跡、古代の出雲を考える8 1989、古代の出雲を考える9 2007
184	E 95	天王横穴墓		東出雲町東山	○	サント家形平								東出雲町の遺跡
185	E 41	内馬池横穴墓群	1号 2号	東出雲町東山	○	サント家形平								東出雲町の遺跡、東出雲町誌1978
186	E 34	姫津谷横穴墓群		東出雲町山田		ドーム形								東出雲町の遺跡
187	E 30	古城山横穴墓群	1号 3号穴 4号穴	東出雲町山田		ドーム形								島根県埋蔵文化財調査報告書1 1969、東出雲町の遺跡、古城山遺跡（Ⅱ・Ⅲ区調査区）2006、古城山遺跡2008
188	E 61	後谷池東横穴墓群		東出雲町山田										東出雲町の遺跡、東出雲町誌
189	E 103	後谷横穴墓群		東出雲町山田		「四柱式」								島根県史1925、東出雲町の遺跡
190	E 143	島田横穴墓群	1号 3号	東出雲町山田		○家型平入り								岸尾遺跡・島田遺跡1997、塩津丘陵遺跡群（塩津山遺跡・柳遺跡・柳Ⅰ遺跡）・小久白墳墓群2001
191	E 57	戸田屋敷横穴墓群		東出雲町山田		「四柱式」								東出雲町の遺跡
192	E 11	高井横穴墓群	1号 2号 3号 4号	東出雲町山田		○ドーム系家形								島根県史1925、島根県埋蔵文化財調査報告書1 1969、東出雲町の遺跡
193	E 13	中津横穴墓群		東出雲町山田										東出雲町の遺跡
194	E 14	ヤシ山横穴墓群		東出雲町山田										東出雲町の遺跡
195	E 15	四ツ廻横穴墓		東出雲町山田										島根県史1925、東出雲町の遺跡
196	E 29	屋台垣横穴墓群		東出雲町山田		サント家形平								島根県埋蔵文化財調査報告書1、東出雲町の遺跡
197	E 59	島田横穴墓群	1K1号 1K3号4号	東出雲町山田		○家型平入り								東出雲町の遺跡、島田池遺跡・鷗寛遺跡1997
198	E 62	浜山池横穴墓群	1号 2号 3号 4号 10号 11号	東出雲町山田		ドーム形								浜山池古墳群1998、松江市史考古古
199	E 108	長廻横穴墓群		東出雲町山田		「九天井」								東出雲町の遺跡1988
200	E 113	赤坂池横穴墓群		東出雲町山田										
201	E 116	平賀横穴墓群		東出雲町山田										東出雲町の遺跡
202	E 137	林廻り横穴墓		東出雲町山田										中山遺跡・巻林遺跡1994、四ツ廻Ⅱ遺跡・林廻り遺跡・受馬遺跡1996
203	E 77	雄子谷横穴墓群		東出雲町下志保										東出雲町の遺跡、東出雲町誌
204	E 125	毛無横穴墓		東出雲町下志保										御崎谷・土元・清水遺跡ほか1993
205	E 127	巻林横穴墓		東出雲町下志保										御崎谷・土元・清水遺跡ほか

注) 原則として、2012年3月までに確認されている松江市内に所在する横穴墓を一覧とした。横穴墓の名称、番号配列順等は『松江市史』史料編2「考古資料」2012(「松江市史考古」と略す)の凡例に倣った。横穴墓の天井形態、時期については出雲横穴墓研究会『出雲の横穴墓』1997を参考とした。

松江市域の石棺式石室、横穴墓分布図



	石 棺 式 石 室	横 穴 墓
1	 古天神古墳	 中竹矢横穴墓群 1号穴
2	 団原古墳	 十王面横穴墓群 10号穴
3	 山代方墳	 安部谷横穴墓群 I 支群 1号穴

0 4m

石棺式石室と意宇型横穴墓の変遷図（意宇郡中央部）

「松江城及城下古図」の特徴とその表現内容

渡辺理絵・大矢幸雄

はじめに

城下絵図とは、近世期に城下町を描いた絵図の総称であり、城下町絵図と称する場合もある。全国諸藩で、多種多様な城下絵図が作成され、それらは現在、文化財として目にする機会も多い。

松江においても多数の城下絵図が現存している。堀尾氏から京極氏へ、そして松平氏へ藩主が変わった藩政史に照らして研究史をみれば、島根大学附属図書館所蔵の「堀尾期松江城下町絵図」(117×141cm)はもっとも有名な絵図であり、松尾寿(2008)や西島太郎(2010;2011)の研究に詳しい。さらに京極氏時代の城下を描いたとされる丸亀市立資料館の「寛永年間松江城家敷町之図」についても近年、研究の進展がみられる(西島 2010)。

松平氏時代における個別の絵図の分析については、島田成矩の研究(1971)が先駆的である。同氏は松江市に現存する22点の城下絵図について、個別にその概要を記し、必要に応じて年代推定を行った。そこで提示された城下絵図一覧は、管見では松江城下絵図における所蔵状況を示した初めてのリストである。この後は、しばらく研究の停滞期となり、その間はいくつかの図録や大型本の刊行にともない掲載された絵図について個別の解説をみるにとどまった。

研究が大きく進展したのは平成6(1994)年以降である。島根県教育委員会によって、県内の絵図に係わる本格的な調査が平成6年からの5年間に進められた。主要街道及び航路とその周辺の文化遺産を総合的・体系的に調査された。さらに平成16年、松江で開催された歴史地理学会島根大会では、大会に合わせて、『絵図でたどる島根の歴史』(歴史地理学会島根大会実行委員会図録編集委員会、島根県立博物館編 2004)が出版され、その翌年には、絵図展示・講演会の開催、『絵図の世界』(島根大学附属図書館編 2006)の出版と多様な事業が展開した。松江市所蔵の「松江白潟町絵図」のデジタル化と報告書(代表松杉力修 2009)が提出されたのも同時期である。以上のようにここ数年間のうちに絵図調査は大きく前進した。

この動きを一層加速させたのが、平成21年より着手された『松江市史』史料編「絵図・地図」(平成25年度刊行予定)の編纂作業である。刊行にむけた準備作業では市史編纂委員であり、本稿の執筆者の1人である大矢幸雄によって、全国の関係機関について所蔵調査がなされ、新出の絵図の存在も指摘された。この調査によって、松江城下絵図は写しを含めて93鋪(雑賀町を含む)、町屋絵図を入れると117鋪の現存が確認された。

こうした調査は絵図研究のもっとも基礎的作業であり、松江城下絵図研究の出発点である。全国的な所蔵調査が一定の成果を示した現段階において、個別の松江城下絵図に対する理解が研究の次段階として想定される。

そこで、本稿では、三谷健司氏所蔵の「松江城及城下古図」に関する分析を行う。本図は、上記の松江城下絵図群の中で、唯一、長期的な現用状況が確認される絵図であり、元家老の所持した絵図という出自が明らかな絵図でもある。

1. 三谷家文書の性格

三谷家は、『松江藩列士録』(島根県立図書館郷土資料2006, 57-71)によれば、代々「三谷権大夫」を

名乗り、藩主松平直政以降、8代にわたり家老職をはじめ、各種要職と歴任した家柄である。

三谷家の所蔵文書については、国文学研究資料館史料館（現人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系）と松江市教育委員会によって組織された「三谷家文書調査団」によって、平成14（2002）～15年に網羅的な調査が実施された。本図もこの調査の過程で発見された。調査の概要は、『松江藩家老三谷家文書概要調査報告書』（三谷家文書調査団編 2005）に記載されている。それらによれば、三谷家文書は近世・近代文書で占められ、文書が収納された箆笥や箱などは96にのぼるという。1点ごとの史料についての情報はまだ一般公開されていないが、文書の特徴として、時代範囲は近世中期からごく近年のものまであり、内容的には家老職に関わる江戸期の家文書を中心に、当主・家族の個人文書、書簡、ノート、書籍などが大半である。その反面、松江藩の藩庁文書と見られるものはごく少数しかない。このことは、明治維新の際などに多数の文書記録を失ったとする伝来と整合する。なお、この報告書から知りうる絵図としては、版行図と思われる大坂図や京都図のほかに、「御出張之節榑縫郡国富村御宿図面」や10点の三谷家上・下屋敷図が含まれている。

2. 「松江城及城下古図」の特徴

150×102cmの法量（サイズ）をもつ本図は、手描き彩色の城下絵図である（図1）。道および広場などを黄色で着色し、屋敷内は白地で、輪郭線を墨書きしている。河川などの水系を紺色で、土居や草地などは蓬色で着色されている。城下に接する湿地や山々などは景観描写されている。また城郭内部の石垣および長壽寺、春日神社、東岳寺（＝洞岳寺）、月照寺、清光院などの社殿は立体的に描かれる。

描く範囲は大橋川以北であり、白潟地区や雑賀地区は含まれていない。武家地は屋敷割ごとに家臣名が記載されている。また随所に貼紙を付して修正をはかっている。町人地は、町のブロックごとに描かれ、「町」とのみ記載される。



図1 「松江城及城下古図」（三谷健司氏所蔵）150×102cm

絵図のところどころに風景描写がみられる。田植えの風景、宍道湖での漁、奥谷の春日神社の紅葉、松の樹木の中にみえるのは、梅か桜か、あるいは雪を冠した樹木を表現しているのであろうか、季節を特徴づける描写が印象的である。

本図は、右筆によると思われる文字の書き入れや松平家の家老職を世襲した三谷家に伝わった絵図であることから、公的な性格を帯びた絵図と考えられる。

3. 「松江城及城下古図」と年代推定

この図について、島田成矩は「華麗、繊細な特質があり」「一級品」であると評したうえで、「作成年代が不明であったが」、『松江藩列士録』によって寛文10(1670)年～宝永7(1710)年と成立年代を推定した。

本図には、多くの貼紙が確認でき、成立時の状況との齟齬を修正した痕跡が確認される。現況から修正の方法は2通り確認できる。1つは前時の貼紙を剥がし、新しいものを貼付する。他方は、代替わりなどによって名前のみに変更があった場合に、名前の部分のみに小紙片を貼付する方法である。こうした絵図については、成立時と修正時の年代を推定することによって、絵図の利用状況がより明確になる。

まず、成立時について検討したい。もともとの和紙に描かれた地物や家臣名からその年代を推定する。図中には、寛文4(1664)年に再興された月照寺(外中原町)が描かれている。また普門院(母衣町)の南側には堀割が見える。これは元禄2(1689)年以降に開削された。また、城下北の外延部には萬壽寺(1737年に改名)の部分には、長壽寺と記載がある。この段階で絵図の作成年代は1689～1737年と推定される。

さらに年代を絞るため、次に家臣の戸主としての期間を参考にする。ただし、絵図自体に書き入れられた家臣名は極めて限定的で、城郭東に面する一角のみである。記載のある「熊谷主殿」「今村平馬」「柳多主計」などは、いずれも家老級の大名である。このうち、後者2名は年代を絞る上で適している。今村平馬は、寛文10(1670)年に家督を継承し、寄合組御番頭役や大御番頭役などを務めたのち、元禄9年より家老となり、宝永7(1710)年に武蔵で亡くなった。「柳多主計」は天和3(1683)年に家督を継承し、同年に家老となり、元禄5(1692)年に山城で亡くなっている。両

表1 「松江城及城下古図」の貼紙記載の人名の戸主としての期間

人名	千石猪右衛門	坂根八右衛門	河合觀之助	市川和助	中村五左衛門	渡部市太夫	三谷茂助	富永庄助	正井道有	三田村平助	中根常盤	赤井久右衛門
所在	内中原	田町	田町	外中原	外中原	田町	南田町	奥谷	内中原	内中原	奥谷	田町
↓年号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1630												
1635												
1640												
1645												
1650												
1655												
1660												
1665												
1670												
1675												
1680												
1685												
1690												
1695												
1700												
1705												
1710												
1715												
1720												
1725												
1730												
1735												
1740												
1745												
1750												
1755												
1760												
1765												
1770												
1775												
1780												
1785												
1790												
1795												
1800												
1805												
1810												
1815												
1820												
1825												
1830												
1835												
1840												
1845												
1850												
1855												
1860												
1865												
1870												

は、もっとも重複する年次の範囲 島根県立図書館郷土資料(2004～2006)『松江藩列士録 第1巻～第6巻』島根県立図書館、により作成。

者の戸主としての期間によれば、本図の年代は1683～92年中まで絞り込める。17世紀末は松平綱近の治世であった。

絵図作成年を限られた方法によって推定した上で、次に貼紙に記載された家臣名から貼付がいつ頃まで続いていたのかについて検討したい。

表1は、貼紙に記された12名の人名の戸主としての期間を示している。抽出した12名は、『松江藩列士録』（島根県立図書館郷土資料 2004～2006）に掲載があり、2代以上の同名の踏襲がないこと、城下の特定の一角に偏重しないように、まんべんなく城下から抽出することに留意した。

この表から、12名の戸主としての期間がもっとも重複する範囲は、1765～1775年（明和2～安永4年）であった。

したがって、本図は成立してから短くとも約70年程度の現用期間があったと解される。ただし、現用主体は1つに限られない。藩庁で使用された後、何らかの理由で三谷家へ移譲され、三谷家によって修正が施された可能性もある。事実、貼紙に記載された筆致は、原図のそれよりも粗い。城下絵図は頻繁に作成できないだけに、現況との不一致を修正しながら利用され続けた。本図は、現用主体が異なる可能性はあるものの、その現用期間は、20～30年とする福岡や明和期の米沢城下絵図の15～20年の例と比較すると、長期的な利用の一例となる。



図2 縮尺測定の地点

（面谷明俊氏作成「松江城及城下古図」トレース図に番号、矢印を筆者が加筆）

4. 「松江城及城下古図」の縮尺

絵図は、現在の地図のような測量や作図法などの作成技術に基づいてつくられたものではないが、一定の作成にかかわる約束の中で描写された。川村博忠によれば、たとえば「方位を正す」、「縮め方を一定にする」、「記号を使用する」などである（川村1992, 1）。この中で「縮め方を一定にする」という約束は、絵図の縮尺にかかわる。江戸時代、実測によって縮尺をきめて作成した絵図を「分間図」と呼んだ。「分間」とは1間を1分で表す（600分1）という語意である。「分間図」であるかどうかは、図中に付記されている場合もあるが、そうした記述のない場合は、縮尺を算出する。縮尺は絵図の測量精度と関わり、当時のその地域（藩）の絵図作成技術の水準を示唆する点で、絵図研究においては重要である。そこ

表2 「松江城及城下古図」の各地点の縮尺

地点番号※	線分の方	縮尺（cm）	城からの距離 （各線分の中間地点）m
①	南北	2989.9	218.2
②	南北	2174.5	703.0
③	南北	2179.3	812.1
④	南北	2591.2	593.9
⑤	南北	2256.5	400.0
⑥	東西	1793.9	1042.4
⑦	東西	1567.1	484.8
⑧	東西	2033.1	424.2
⑨	東西	1636.6	921.2
⑩	東西	1594.6	884.8
南北方向の縮尺平均		2438.3	
東西方向の縮尺平均		1725.1	

※地点番号は図2に対応

で、本節では「松江城及城下古図」の縮尺について検討する。

まず本図と大正4年測図・大正7年発行の25000分1地形図「松江」（国土地理院発行）との対照において、比定できる地点を10カ所選定した（図2）。地点は偏在しないよう、まんべんなく選定することを念頭においた。これらの地点の縮尺を示したのが表2である。ここから10地点の縮尺は一定でないことがわかる。もっとも小縮尺な①ではおよそ3000分1であり、もっとも大縮尺な⑦ではおよそ1500分1と両者の間には大きな開きがある。

では縮尺のばらつきにはどのような傾向があるだろうか。かつて矢守一彦は米沢城下絵図について、城に近接するほど大縮尺で、周辺ほど小縮尺に描かれている点を指摘した（矢守1974, 106）。この点を検討するため、10地点と松江城との距離を表2に併記した。結果、本図の縮尺において、中心と周辺という関係性は看取できない。むしろ、縮尺のばらつきは、選定した地点（線分）の方向に関係している。すなわち南北にとった地点（線分）は、東西方向で選定した地点（線分）に比較して、小縮尺の傾向がある。①～⑤の南北に設定した地点（縮尺）の平均は、1:2438(cm)であるが、⑥～⑩の東西に設定したそれは、1:1725(cm)であった。つまり、本図は南北方向に圧縮され、東西方向に伸ばされているようなイメージである。このような縮め方は、描かれた範囲の地理的形状に影響されることが考えられる。本図は大橋川以北のみの描写であり、作図の主眼が郭内にあったとすれば、それは東西に延伸する形状を示す（郭内：南北間およそ1.1km・東西間およそ2km）。さらに郭内の屋敷の多くは、東西方向に長い。その屋敷割の中に氏名を書き入れる作業は、東西方向をより大縮尺にする方が適していたと考えられる。

江戸時代の刊行都市図にも類似の工夫をみることができる。たとえば、江戸図では西を上、大坂図では東を上にして描かれている例が多い。この点に関して、矢守一彦は「地形やそれに規制された市街の形状によって、紙に対する図柄のおさまりぐあい、紙幅の節約なども同時に考慮された」ためと解釈している（矢守1974, 136）。

5. 「松江城及城下古図」に描かれた松江城下町の景観

本図は屋敷割図としての性格を持ちつつも、屋敷割以外に多様な地物が描写されている。本節では、本図に描かれた屋敷割以外の表現に注目したい。

(1) 城郭

屋敷割図としての特徴を有した城下絵図の中には、近世中期以降は、城郭内を空白にしている絵図が少なくないが、本図は城郭内の情報が豊富である。

本丸には城が描かれ、それを取り囲む石垣や各櫓などが表現されている。試みに、本図より以前に作成された出雲国松江城絵図（国立公文書館所蔵・以下、正保城絵図とする）と本図とを比較すると、城や櫓の階数などについて差異が認められる（図3）。まず、天守については正保城絵図では千鳥破風に描かれているが、本図では判然としない。天守そのものの描写が正保城絵図と比して粗いことは否めない。天守の直下に樹木を描き、あえて不明瞭にしている印象さえ受ける。また、周囲にめぐらされた折堀の形状も異なる。しかし本図の折堀は、元文3(1738)年に幕府へ修理願として提出された「松江城郭図」や安永7(1778)年の「松江城郭古図」とは類似している。さらに、出丸や搦手門付近についても大きな差異がある。出丸に「侍屋敷」と記載された正保城絵図に対して、本図では「北之丸」と表記され、西側には「足軽」と「岡田権三助」（『松江藩列士録』には記載なし）とある。城郭北には「下御殿」と表記され、また搦手門付近には柵がめぐらされ、3つの建造物が認められる。

中曲輪と腰曲輪の間には、馬洗池が描かれている（図4）。山根正明によれば、この池は築城に際し設



図3 正保城絵図と本図の城郭部分

出雲国松江城絵図（国立公文書館所蔵）および「松江城及城下古図」より作成

けられた2つの堀切の合流地点にあり、東側の北惣門付近から食い込んだ谷地形の谷頭（最上流部）の湧水をせき止めることで形成されているという（山根2009, 70-74）。すなわち、築城由来の池であることを示唆する。正保城絵図には描かれていないが、元文3（1738）年の「松江城郭図」や安永7（1778）年の「松江城郭古図」に描かれ、明治期の実測図にも確認できる。

水ノ手門の描写は、従来の松江城郭史のなかで1つの重要な局面となっていた。正保城絵図ではこの水ノ手門から直進して入る造りとして描かれ、この点を根拠として、正保期から元禄期にかけて松江城の大規模な改修を示唆すると解釈された（文化財保存計画協会編1996, 64）。一方で、堀尾期の絵図には、現状のように水ノ手門から西方向に直進し、右折して北方向へ進んだところに入りが設けられている。ここに絵図表現の矛盾が指摘されたのである（山根2009, 91-94）。本図では、現状のように西方向に延びた階段を右折して北方向に進む階段が描かれている。

本図で取り上げた絵図上の表現は、天守を除いては後世の絵図や測量図に描かれた構造物と近似していることが見いだせた。

(2) 城下町

① 植生表現

本図には多くの植生表現が散見される。国谷村や奥谷、松崎御茶屋（現春日町摩利支神社付近）の小さい山地表現はもっとも目をひく。春日社に描かれた樹木は紅葉であろうか。明治後期の同地の絵葉書写真には、たくさんの紅葉が写し出されている（今岡編2012, 131）。その他にも城下には特徴的な表現が見える。たとえば、大橋川に架かる橋のもとには、1本の柳の木が描かれている（図5）。この木につ



図4 「松江城及城下古図」の馬洗池および水ノ手門
「松江城及城下古図」より作成 ※上が西

いては、「松江末次本町絵図」(元禄年間1688～1704)(安政3年(1856)写)にも同地に「柳」とあり(島根大学附属図書館編2006, 33)、また、藩の御用絵師であった陶山勝寂によって描かれた「松江四季眺望図」(明治7年調整)にも描かれている(松江歴史館編2011)。

さらに塩見縄手周辺には石垣はなく樹木による土手が続く。また宍道湖岸の国谷郷へ通じる街道沿いには松並木、四十間堀の土手、普門院南の後に台所長屋が置かれる一角の樹木、北田町や大橋茂右衛門屋敷東側の葦原などは、いずれも特徴的である。

絵図は、過去の景観をあるがままに描いたものではなく、作成主体があるがままの景観から取捨選択した図像であり、ある価値体系にもとづいてイメージ化された図像である(小野寺1995, 21)。この文脈にしたがえば、本図に描かれた植生表現も、現実の景観の中から、何らかの価値体系のもと、作成主体があえて取り上げたものと言えよう。たとえば、大橋たもとの柳の木は一種のランドマークとして映っていたことは想像に難くない。また春日社の紅葉は四季を特徴づけるものとして、葦原は松江の城下町景観を作り出す要素として、作成主体が捉えていたとも推察される。こうした表現は、作成主体の当時の松江城下町のイメージを写し出すものとして興味深いだけでなく、当時の松江の城下町景観を知りうる貴重な図像となっていることは間違いない。

② 城下町の各種施設

大橋たもとは「制札」が見える。「松江末次本町絵図」(元禄年間1688～1704 島根大学附属図書館蔵)(安政3年(1856)写)にも、同地に「御制札」が記されている。同じく末次地区の西端には木戸が確認できる。「松江末次町絵図」(明和7(1770)年作成・昭和14年複製 個人蔵)には同地に木戸と同意である「関貫」がみえる。

一方、奥谷には井戸と思える描写が2カ所ある(図6)。町屋の各種絵図には、借家敷地に共同で利用されたと思われる井戸がいくつも描かれているが、武家地での記載は稀である。

③ 末次湖岸の石垣

宍道湖に面する末次地区南端には、石垣の描写がみえる(図7)。この石垣については、本図より以前に作成されたとされる島根大学附属図書館所蔵の「堀尾期松江城下町絵図」と京極期の絵図とされる「寛永年間松江城家敷町之図」(丸亀市立資料館蔵)とでは描写内容が異なることから、石垣の成立をめぐる検討がなされてきた。すなわち、堀尾期の絵図では石垣の描写がみられるのに対し、京極期では同部分に「土手」と記載され、石垣は確認できない。さらに延享年間の「松江城下絵図」(島根県立図書館)では、石垣・土手の両者とも記載がない。これらの違いから、堀尾期の絵図に描かれた石垣は、計画段階とし、石垣の成立は19世紀以降とする見方もある(西島2010, 62-63)。

この点に関連する史料として、「瀧川公用控」(年によって「萬覚帳」となる)がある。城下町の有力商人であった瀧川家が藩からの指示や公務内容を留めた記録で、全11冊におよぶ。この中の第2巻に以下のような記述がある。

末次海端石垣改荒和井

灘通水渴石垣改、宝暦三酉三月、生田十兵衛様、栗田祖右衛門様、倉橋義八様

御船二而御改二御廻り立合相済、其節末次海端下より荒和井迄之内

宝暦3(1753)年に石垣改を行ったことに関する記述で、その範囲は「末次海端下」から「荒和井」ま

である。『松江八百八町町内物語』（荒木1973, 23）では、荒隈堤は洗合鼻（天倫寺下）から瓢箪町（現在の東本町）までと記載されている。先の文書では「御改」が末次海端下から荒和井までの範囲と読み取れることから、ここでは「荒和井」は帯状の範囲を示す地名としてよりは、一地点を表す名称で用いられていると考えたほうがよい。おそらく、末次湖岸よりも西の四十間堀南付近を指していると思われる。

末次湖岸は、天倫寺下あたりから東に延びる砂州の一部であったと考えられる。2万5千分の1地形図をみると、宍道湖湖岸に沿って流れる沿岸流の動きをみることができる。さらに同地形図からは斐伊川から宍道湖を通って大橋川に抜ける水流の主流が、嫁ヶ島から大きく蛇行し、白潟天満宮の沖から北に向きを変えて、松江大橋の吐口へと向かう流れを見ることができる。こうした自然地形を考えると、末次湖岸は、砂州が形成される場であるとともに、嫁ヶ島方向から北に向かう主流が直撃する場となっており、湖岸地形が変化しやすい特徴を有していることがわかる。強い冬の季節風が起こす高波も湖岸地形の破壊の誘因となったことは想像にかたくない。本図にも末次湖岸を直撃する波の描写がみえる。こうした特性をもつ末次湖岸に対して、護岸は早い段階から進んだと考えたほうが自然である。当然、護岸の損壊と補修は繰り返されたとみられ、「瀧川公用控」にも石垣の補修が数度行われたことが記述されている。

(3) 城下町周辺の表現

城下町周辺の四十間堀西側では、農作業風景が描かれている（図8）。一列に並んでの作業は田植えであろうか、また農具をもつての作業は田起こしを模したようにみえる。

さらに、奥谷の西側には2種類の水鳥が描かれている（図9）。城下周辺は、湿地あるいは湿田であったという。そこには水鳥の餌となる生物や水草もあったに違いない。

(4) 河川・宍道湖

北田川および大橋茂右衛門屋敷の東側の水面、さらに大橋川には漁をする人物の姿が描かれている（図10）。①では、早春の白魚漁で用いられる四ツ手網漁のように見える（安部登監修2004, 71-72）。『雷電・御船屋・漁師町：松江市東本町五丁目町内会誌』（松江市東本町五丁目町内会編1981, 15-16）によれば、江戸時代には大橋川が中海に注ぐ付近で白魚がよく採れたという。また②ではエビやウナギ漁の際に用いられる筥（せん・うけ）と思われる漁具が描かれている（西田2011）。そこは立って漁ができるほどの浅瀬であった。さらに、①にみえる3艘のうち、2艘は舟の先端が反り返っているソリコ舟に近い。こうした漁法や漁具の様子は、民俗学的にも興味深い。

また、同書によれば、明和期に末次と白潟の漁師頭が町役所にだした「口上之覚」に漁場の変化について記してあるという。それによれば、大橋川を中心に天神川から北は川津の乙部下屋敷前まで漁場が広がっていたが、新田開発によって70～80年前と比較して5分の1ほどに減少したとされる（松江市東本町五丁目町内会編1981, 26-27）。この口上に従えば、70～80年前はちょうど本図が作成された時期にあたる。それと整合するように、漁は大橋川や乙部家下屋敷前で展開している。

むすびにかえて

以上、三谷家所蔵「松江城及城下古図」について、史料学的、絵図学的見地から特徴を抽出した。本稿で得られた知見を集約すると、以下の3点である。

1 点目は、本図の成立は1683～92年頃であり、その後、貼紙によって1765～1775年頃まで修正が続い

たとえられる。2点目は、本図は分間絵図のような一定の縮尺のもとに作成された絵図ではなく、南北に圧縮されたような構図となっている。3点目は絵図に描かれた表現内容は、一部を除いて後世の絵図・地図の描写内容や同時期の文書史料の内容と整合する。

とりわけ、3点目の知見は絵図の本質的議論に関わる。絵図は、作成主体が現実の景観から取捨選択した図像の集合とみなせる。選択の過程で、不要とされた景観は絵図上には表現されないこととなるが、それは当時の空間上に存在しなかったことを示すものではない。逆に選択された図像でも、それらが実在に近い様相で絵図上に再現されているとは限らない。意図的に異なった様相で描かれている場合や、想像上の場合もある。このため、絵図に描かれた図像が、当時の景観を示すものであるかは、慎重な検討を要すわけである。こうした注意を払いつつ、本図は今後、当時の松江の景観を復元する際の有力な絵図史料として位置づけられることになるだろう。

以上のような特徴を持つ本図は、現存する松江城下絵図群の中で、松平期に作成されたもっとも古い藩用図とみなせる。さらに、本図は延享年間に作成されたとされる「松江城下絵図」（島根県立図書館所蔵）に継承される。今後は、こうした同系統の絵図に着目しながら、個別事例の蓄積が課題となろう。

参考文献

- 青砥可休(1863)「松江湖漁場由来記」山田龍雄ほか編(1997)『日本農書全集59巻一松江湖漁場由来記(出雲)一』農山漁村文化協会。
- 安部登監修(2004)『松江・安来今昔写真帖：保存版』郷土出版社。
- 荒木英信(1973)『松江八百八町町内物語』(郷土シリーズ4)末次の巻、島根郷土資料刊行会。
- 今岡弘延編(2012)『今岡なつかしの松江：明治・大正・昭和初期絵葉書コレクション：松江絵葉書MUSEUM』ワン・ライン。
- 小野寺淳(1995)「絵図に描かれた自然環境―出羽国絵図の植生表現を例に―」歴史地理学172、21-35。
- 川村博忠(1992)『近世絵図と測量術』古今書院。
- 島田成矩(1971)「松江城城下図 調査報告書 昭和四十六年一月」私家版。
- 島根県立図書館郷土資料(2004)『松江藩列士録 第1巻』島根県立図書館。
- 島根県立図書館郷土資料(2004)『松江藩列士録 第2巻』島根県立図書館。
- 島根県立図書館郷土資料(2005)『松江藩列士録 第3巻』島根県立図書館。
- 島根県立図書館郷土資料(2005)『松江藩列士録 第4巻』島根県立図書館。
- 島根県立図書館郷土資料(2006)『松江藩列士録 第5巻』島根県立図書館。
- 島根県立図書館郷土資料(2006)『松江藩列士録 第6巻』島根県立図書館。
- 島根大学附属図書館編(2006)『絵図の世界：出雲国隠岐国桑原文庫の絵図』(株)ワン・ライン。
- 西島太郎(2010)『京極忠高の出雲国・松江』松江市教育委員会。
- 西島太郎(2011)「「堀尾期松江城下町絵図」の制作工程と伝来」日本歴史755、85-89。
- 西田友広(2011)「中世松江の「釜(うけ・せん)」漁業」松江市ホームページ、URL <http://www1.city.matsue.shimane.jp/k-b-k/bunkazai/shishi/colum/colum10-1.html> (最終閲覧日2012年10月24日)
- 船杉力修(2009)「城下町の景観の動態的変容に関する歴史地理学的研究―デジタルコンテンツ化を通して―」科学研究費補助金研究成果報告書：研究課題番号：18682004・代表者2006年度～2008年度。
- 文化財保存計画協会編(1996)『石垣調査報告書：史跡松江城』松江市教育委員会。
- 松江市東本町五丁目町内会編(1981)『雷電・御船屋・漁師町：松江市東本町五丁目町内会誌』山崎勝義。
- 松江歴史館編(2011)『雲州松江の歴史をひもとく：松江歴史館展示案内』松江歴史館。
- 松尾寿(2008)『城下町松江の誕生と町のしくみ』松江市教育委員会文化財課。
- 三谷家文書調査団編(2005)『松江藩家老三谷家文書概要調査報告書』松江市教育委員会文化財課。
- 矢守一彦(1974)『都市図の歴史―日本編―』講談社。
- 山根正明(2009)『堀尾吉晴：松江城への道』松江市教育委員会。
- 歴史地理学会島根大会実行委員会図録編集委員会、島根県立博物館編(2004)『絵図でたどる島根の歴史』島根県立博物館。



図5 絵図にみる植生の表現

左：大橋たもと

中央：四十間堀南

右：月照寺前



図6 奥谷の井戸の描写



図7 末次湖岸に描かれた石垣



図8 四十間堀西側の農作業風景の描写



図9 城下町周辺に描かれた水鳥



漁の風景①



四ツ手網漁か？①



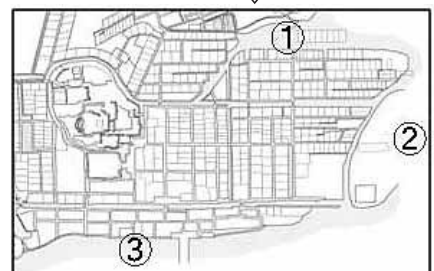
釜を使っの漁②



四ツ手網漁か？③

図10 絵図に描かれた漁の風景

各図像が描写された位置



明治初年出雲地域における郡別産物の特徴

鳥谷智文

はじめに

出雲国の産物については、文化8年(1811)～文政10年(1827)に作成されたと考えられている「雲陽国益鑑」(神田家文書、以下「国益鑑」と記す)のような見立番付にしたてられた史料にみられるように、「尾道御廻米」、「木綿」、「鉄山鑛」等が大きな国益を生むように考えられ、その他にも日本海・宍道湖・中海の魚介類、手工業製品、流通、娯楽、寺社に関わる利益などがあげられている⁽¹⁾。しかし、上記史料は実際にどのような産物がどれだけの価値をもっているのか数値では示されていない。

また、近年では田籠博氏が、出雲国の産物を郡別に史料から抽出され明らかにされた⁽²⁾。産物ごとにその状況が示してあり、興味深いものであるが、産物の経済的価値については記載がない。

これらの史料以外で出雲地域の産物を示した史料には、明治5年(1872)の「旧松江藩引継雑款 物産表」(島根県立図書館所蔵、以下「物産表」と記す)がある。本史料は、同年10月、各郡内の各小区戸長と大区区长或は権区長が「島根県御庁」に提出した史料を綴じた簿冊で、出雲地域について郡別に産物の生産量、生産額が記載されており、地域における産物を数値で知ることができる史料として貴重である。史料は、「島根県管内出雲国物産表」⁽³⁾として雛形が各郡に示され、例えば「米何程 代価 石ニ付」とあるように、産物ごとに縦書で生産量、生産額を示す形態となっており、各郡の物産表の形式は雛形に則って記載されているが、調査を実施し、統計資料を作成する段階で、各郡の担当者の作成方針に若干相違がみられる⁽⁴⁾。よって各郡によって「物産表」の作成基準にいささかずれがあったと考えられ、実情を正確に示した数値と断言することには躊躇を覚えるが、「物産表」を分析することにより、各郡における産物の概算値を表すことは、各郡における大まかな特徴を示すうえで意味のあることと考えられる。

「物産表」は、古くからその有効性を認められて分析されてきた。本史料を利用した主な研究成果としては、内藤正中氏の研究がある⁽⁵⁾。氏は、主たる産物についてその傾向を郡別に示し、「国益鑑」の産物との類似にも言及している。また、氏は松江の産物の特徴についても概説している⁽⁶⁾。柳浦文夫氏は上記史料を利用してたたら製鉄や林業について論じている⁽⁷⁾。

本稿では、先学の指摘を踏まえつつ「物産表」を利用し、記載されている産物の価値をより詳細に数値で示すことによって、具体的な産物の特徴を示したい。また、より詳細な数値のもとで「国益鑑」との比較検討を試みたい。

1. 出雲地域の主たる産物

(1) 出雲地域における産物の特徴

表1は、出雲地域全体で産物別に生産額の高い順から降順に並べたものである。産物は366種目に分けられ、生産額が示された産物は363種目であった。表には、年間の生産額とともに年間の生産量、生産額の割合、分類を掲載している。分類については、植物栽培で食糧(菓、加工食品も含む)など人間の体内に吸収される産物を農産物、魚介類を水産物、陸上動物を動物、木(木材、薪、炭など)に関するものを林産物、加工品で道具類(鉄、繊維などを含む)を工産物と大きく分類している。工産物の中には、加工製品の原料となる植物なども入っている(例:榎実、油木実)。また、大炭、小炭などは、たたら製

鉄業で利用されるため工産物としている。そして、「物産表」記載の産物の中で「国益鑑」に記載の産物と一致もしくは類似している産物は、「国益鑑」のランキングを示し、地域の記載がある場合は（ ）内に付記している。産物によっては、（ ）内の地域の記載と「物産表」の郡域が相違している場合もあるが、あえて記載している。

表 1 で 1 番手にあがるのは、当然のことであるが米であった。生産量約334384石、生産額約934919円であり、全体の40.9%余りにも及ぶ。

2 番手には鉄が入っている。それもたたら製鉄業の中で大鍛冶場において生産される割鉄であった。たたら製鉄業に関する産物は、銑、鋼、鉄砂（砂鉄）、大炭、小炭といずれも20番以内に入っており、それらの合計生産額は281425円84銭（12.3%）であり、出雲地域のたたら製鉄による産物が大きな割合を占めることがわかる。

3 番手にあがるのは木綿であり、生産量501385反、生産額127200円64銭（5.5%）であった。綿（繰綿を含む）の生産額も含めると、215588円2銭（9.4%）となる。

これらの産物について「国益鑑」では、米、鉄、木綿は、それぞれ勸進元で「尾道御廻米」、西方大関で「鉄山鑪」、東方大関で「木綿」という最上位にランキングされており、この産物の番付は、的を射たランキングであったことがわかる⁽⁸⁾。

松江藩において大きな利益をあげたとされるのは、木実方による蠟生産と人参方による御種人参栽培であり、「国益鑑」ではどちらの産物も小結にランキングされている。表 1 では、前者については9番手に生蠟、25番手に蠟燭、16番手に櫨とあり、いずれも上位に入っており、合計78254円74銭（3.4%）で、木実方の利益を想像することができる。御種人参については、意宇郡のみで記載があり、生産量は35000本と多量であったが、生産額は38円85銭とあり、全体の259番手であった。蠟生産のような大きな収入源とはいえなくなっていたようである。

上位にあがっている産物についてみると、農産物では麦（大麦）（4番手）、大豆（12番手）などがあげられるが、その他に酒（7番手）、醤油（17番手）などの加工食料品がみえる。また、毎日の生活に必要であった消費物資である薪（6番手）や炭（8番手）などの林産物もみられる。

松江藩の殖産興業では櫨の栽培とともに油木の栽培もあった。採取された油木実は21番手という上位に位置している。油木から桐油が精製されるが、桐油は11番手であった。また、紙の原材料である楮は39番手、製紙された中折は34番手であり、これも上位に位置している。

水産物については、農耕肥料として利用される干鰯が最も上位で35番手であった。その次に生鰯（38番手）、赤貝（48番手）、生鰯（50番手）、小雑魚・雑魚（55番手）、海老（56番手）、鰯（63番手）、生鰯（鯛・鯛之類）（65番手）、塩鰯（70番手）と続いている。

動物に関する産物では、牛馬皮が最上位で90番手であった。その次に鴨（164番手）、猪（182番手）と続いている。

(2) 出雲地域産物の各郡別比較

それでは、以下に出雲地域の主たる産物、すなわち生産額が上位にランキングされている産物（米、鉄、木綿など）を中心に、各郡別にその生産状況の特徴をみていく。

① 農産物

A. 米・麦類

表 2 によると、当然のことであるが、どの地域も米は生産されており、米中心の経済構造であることがわかるが、その中でも神門郡が、生産量、生産額とも最も高い数値であった。これはおそらく当郡の

面積の広さもあるが、簸川平野を抱えていることが影響していると考えられる。次に能義郡、そして意宇郡、仁多郡と続いている。松江藩では、貞享4年(1687)に新田開発の方針が明確に示されている⁽⁹⁾。この方針のもとに、例えば神門郡神西湖周辺地域の山本家による近世中期以降の新田開発⁽¹⁰⁾、出雲郡坂田村勝部氏の新田開発⁽¹¹⁾、楯縫郡の新田開発⁽¹²⁾、意宇郡の宍道湖岸新田開発⁽¹³⁾、能義郡のト蔵孫三郎による新田開発などが行われた⁽¹⁴⁾。

また、麦(大麦)、小麦の栽培も米と同様各郡で栽培されていた。表1では、麦(大麦)が4番手、小麦が22番手であった。表2によると、麦類も神門郡、意宇郡、能義郡あたりの生産量が大きい。

逆に、米・麦類の生産について町場である松江は、生産量、生産額ともに圧倒的に低い数値であった。

B. 豆類・芋類

豆類は、表1によると多種にわたっているが、生産額の高いのは、大豆(12番手)と小豆(24番手)であった。表3によると、神門郡、意宇郡が生産量、生産額ともに比較的高い数値であった。近隣の楯縫郡、出雲郡、秋鹿郡、島根郡は、逆に生産が少ない。山間部では大原郡が高い生産を示している。

芋類は、表1では薩摩芋が最上位で19番手、次に里芋が27番手に入っている。表3では、薩摩芋は島根郡が生産量、生産額とも5割以上を占めている。里芋は、神門郡が生産量、生産額ともに3割前後を占めている。

C. 野菜

野菜も表1によると多種にわたっている。生産額では、大根が最上位で18番手、次に蕪が60番手、茄子が64番手、西瓜が87番手、牛蒡が93番手と続いている。表4によると各郡によって産物の生産量、生産額の記載がない場合があり、おそらく各郡の統計書作成者の方針の違いにより生じたもので、記載のない郡で大根などの野菜を栽培していないと安易に判断することはできないが、あえて表4からみられる特徴を示すと、仁多郡では大根、蕪、茄子、牛蒡とも高い生産額を誇っている。特に蕪は全体の5割以上、茄子にいたっては8割程度の生産額であった。西瓜では、意宇郡が生産量、生産額ともに圧倒的であった。また、大根では出雲郡が、牛蒡では秋鹿郡が生産額で高い数値を示している。特に秋鹿郡では、「秋鹿牛蒡」と称し、当郡秋鹿村大倉地方で栽培され、松平藩政時代には献上品とされており、特産品の一つであることが知られている⁽¹⁵⁾。

D. 果実

果実も野菜等と同様に多種にわたっており、表1では柿が最上位で41番手、梨子が44番手、蜜柑が82番手、桃が123番手、梅が137番手と続いている。表5によると、柿は全郡で栽培されており、生産量の最も高いのは能義郡であった。次に島根郡、意宇郡と続いている。生産額では仁多郡が最も高かった。梨子も全郡で栽培されていた。生産量、生産額ともに高い数値を示したのは出雲郡であった。蜜柑は神門郡、意宇郡、能義郡が生産量、生産額ともに高い。桃は、神門郡が生産量、生産額ともに圧倒している。梅は、全郡で栽培されているが、神門郡、島根郡、能義郡において比較的生産額が高い。

E. 加工食品・調味料

表1では、加工した食品や調味料として上位にランキングされた産物というと、酒(7番手)、醤油(17番手)、酢(29番手)がある。表6によると、酒は、最大の消費地と考えられる松江が生産量、生産額とも最上位で、全体の3割弱を占めている。そして能義郡、神門郡が続いている。醤油は、松江、能義郡、神門郡、大原郡で生産量が高い。酢は神門郡が生産量、生産額ともに全体の4割弱を占めており、次に松江が続いている。このように、加工食品や調味料の生産はいずれも松江が上位に位置しており、松江での生産が主となっていることがわかる。

毎日の生活にとって欠かせない調味料といえば、前述の産物の他に塩がある。「物産表」では、表6に

みられるように塩の生産は神門郡のみの記載であった。

F. 菌類

菌類は、山の幸として現在でも食卓に並ぶが、表 1 によると香茸が103番手、松茸が209番手、椎茸が260番手であった。

表 7 によると、香茸は生産量、生産額ともに仁多郡が 7 割以上を占めており、飯石郡が続いている。香茸は奥出雲の特産といえる。松茸は、意宇郡、秋鹿郡、島根郡で多く採取されている。椎茸は、神門郡、仁多郡、飯石郡で多く生産されている。

② 水産物

日本海・宍道湖・中海に面している出雲地域では漁業が盛んであり、水産物の水揚げによる収益は約 60667円36銭、全体の2.65%であった。前述したように、生産額では干鰯が最上位にあがり、生鰯、赤貝、生鰯、小雑魚・雑魚、海老と続いている。それらの魚介類の郡別生産量、生産額について表 8 に示した。表 8 によると、干鰯、生鰯は日本海に面した神門郡、楯縫郡、秋鹿郡、島根郡で記載されている。生鰯は、神門郡、秋鹿郡での記載であった。ちなみに「国益鑑」で東前頭11枚目となっている「浦々塩鰯」の 1 つと考えられる塩鰯も神門郡、秋鹿郡の記載となっている。また、赤貝は意宇郡、能義郡のみでの記載であった。「国益鑑」では、東前頭32枚目に「意東の赤貝」とあり、まさに中海での特産物であったことがわかる⁽⁶⁾。小雑魚・雑魚は意宇郡、島根郡のみ、海老は意宇郡、秋鹿郡のみでの記載であった。意宇郡は宍道湖、中海に面し、島根郡は宍道湖、中海、日本海に面し、秋鹿郡は宍道湖、日本海に面している。3 郡が共通する水域は宍道湖である。海老は宍道湖の名産でもあることを考えると、あくまでも推測であるが、前述の水産物は、宍道湖で漁獲されるものかもしれない。ちなみに他に宍道湖・中海の名産としてあげられる水産物を表 9 に示した。宍道湖の名産である白魚は松江と意宇郡での記載、同じく名産の鱸は松江と秋鹿郡のみでの記載、「国益鑑」で西前頭 5 枚目の「上方行の鰻」で有名な鰻は、意宇郡と松江での記載、鯉は秋鹿郡のみ、蜆は意宇郡のみであった。「国益鑑」で東前頭17枚目に「揖屋の鰯」とあるが、鰯はやはり宍道湖・中海に面した意宇郡のみでの漁獲であった。このように、松江・秋鹿郡は宍道湖の魚介類、意宇郡は宍道湖、中海の魚介類、能義郡は中海の魚介類と、史料の記載からみると、ある程度の住み分けがあったように思える。

また、「国益鑑」で東前頭12枚目に「浦々板海苔」とあるが、表 1 では、海苔は150番手に入っている。生産地域は神門郡、楯縫郡、秋鹿郡、島根郡であり、いずれも日本海に面した郡である。前掲史料では東前頭30枚目に「浦々心太」が入っているが、これも生産地域は神門郡、秋鹿郡、島根郡であり、日本海に面している。

前掲史料では西前頭25枚目に「志和津浦鰯」とあるが、鰯の生産量、生産額は、「物産表」では楯縫郡、神門郡のみの記載となっており、志和津（塩津）の特産と推測できる。

③ 動物

表 1 によると、ごく少数であるが、陸上動物の捕獲、あるいはその皮を生産品としている状況がみえる。前述したように、その最上位は牛馬皮であった。表 10 によると、牛馬皮は、神門郡、仁多郡、大原郡、島根郡で100枚前後の生産の記載があった。ちなみに鹿皮は、神門郡、楯縫郡のみでの生産であり、狸皮は、仁多郡のみの生産であった。「国益鑑」では、東前頭 4 枚目に「牛馬皮代」とあり、かなり上位のランキングとなっているが、「物産表」では、前述のように90番手であり、上位ではあるが最も特筆すべき生産額とはいえない数値に留まっている。

④ 林産物

毎日の生活に必要な消費物資の一つに薪、炭がある。これらの産物は、前述したように出雲地域全体の生産額で上位にランキングされている。表11によると、薪は、全郡で生産されていることがわかる。生産量、生産額ともに高い数値を示す地域は、飯石郡であった。次に仁多郡が続いており、この山間部に位置する2郡で全体の8割弱の生産量を誇っている。炭については、たたら製鉄業に利用する炭との関わりもあって、郡によっては「炭」として計上されていない場合があり、一概には判断できにくい。表12のたたら製鉄業における大炭、小炭とも合わせて検討すると、神門郡、仁多郡、飯石郡、大原郡、能義郡のような山間部の面積が大きい郡で生産量、生産額が高くなっている。

⑤ 工産物

A. 鉄

ここでは、たたら製鉄に関連する産物をまとめて表にした。表12にはたたら製鉄による製品（銚、鉄（割鉄）、鋼、鋳）とたたら製鉄の原材料（鉄砂（砂鉄）、大炭、小炭）の生産量、生産額を品目ごとに示した。これによると、製品を産出している地域は神門郡、飯石郡、仁多郡、大原郡、能義郡に限られている。この地域は、神門郡に田儀櫻井家、柳原家、飯石郡に田部家、仁多郡に櫻井家、絲原家、ト蔵家、安部家、梅木家、枝木家、丸山家、大原郡に石原家、能義郡に家嶋家、秦家という鉄師（たたら製鉄業経営者）が製鉄業を営んでいる地域である⁽¹⁷⁾。仁多郡における銚、鉄（割鉄）、鋼、鋳などの生産量、生産額が高いのは、複数の鉄師が存在し、多くの鋳場、大鍛冶場を経営しているためである。製品の中で神門郡では鋼の生産がない。これは、田儀櫻井家の鋼を生産せず銚生産を主体としたたたら操業が原因である。原材料においては、鉄砂（砂鉄）はたたら製鉄業のある郡で生産されている。大炭については、各郡により「物産表」の作成方針に差異があるため、計上されていない郡があり、検討については問題もあるが、計上されている郡はたたら製鉄業のある地域である。小炭はたたら製鉄業のある地域以外の郡でも生産されている。これは近隣の製鉄場への供給と推測される。

たたら製鉄で生産された和鉄は、加工されて鉄製道具として販売された。表1によると、割鉄から加工されたと考えられる鋏（23番手）、稲扱（28番手）、釘大小（40番手）、鎌（68番手）、針金（80番手）、家釘鋇釘取交（89番手）などがあげられる。また、銚から作製されたと考えられる鋳物（196番手）、鍋（205番手）もあげられる。表13によると、鋏、釘、鎌については、生産量、生産額の差異はあるものの、ほとんどの郡で生産されていたことがわかる。しかし、稲扱については、神門郡、仁多郡、大原郡、飯石郡、能義郡のみで生産されており、この地域はたたら製鉄による和鉄生産地と一致しているという特徴がみられる。針金は、飯石郡が大半を占め、次いで能義郡で生産されていた。鋳物、鍋などは、「国益鑑」では、東前頭14枚目に「釜甌方鋳物」とあり、近世期に松江藩の直営事業として松江に設置された「釜甌方」による鋳物生産の経緯があるので、松江における鋳物生産を期待したが、計上されていなかった。むしろ能義郡での生産がみえ、これは、能義郡の宇波における鋳物生産と考えられる⁽¹⁸⁾。

その他には、能義郡で生産された箆笥鉄具、松江で大量に生産され、その他に能義郡、意宇郡で生産された庖丁、飯石郡で生産された鉋、能義郡、意宇郡で生産された斧があった。

B. 木綿

表14に木綿と綿の郡別生産量、生産額を示した。木綿では、楯縫郡が生産量、生産額とも最も高い数値を示している⁽¹⁹⁾。その他には出雲郡、大原郡、神門郡での生産が大きい。綿は、神門郡が生産量、生産額とも最も高い数値を示している。その他には出雲郡、能義郡、大原郡での生産が大きい。

「農作自得集」では、「当国日井の河にながれ出る鉄穴砂に性よき真土を交へたる土地を上とする也」

とあり、砂鉄を採取する「鉄穴流し」で流れ出た砂が綿作に影響していることがわかる。また、「国内にては大原大東あたりの土地は真土の内にたま石の交りたる土地と見ゆれば、是等を畿内などに似て木綿には上品の土地と思へり」とあり、大原郡の大東周辺の土地が綿作に適しているとしている⁽²⁰⁾。

また、これらの地域については、18世紀中頃から19世紀前半にかけて楯縫郡では平田、出雲郡では直江、神門郡では今市、杵築、大原郡では加茂、大東、能義郡では安来とそれぞれに木綿市が開かれており、木綿などの集積地としての特色がある。特に楯縫郡、出雲郡、神門郡では、主に女性達が織った木綿を今市や平田の木綿市へ売って生計を立てる「売木綿」という仕事が見られる⁽²¹⁾。

C. 生蠟・櫨実

櫨は、延享4年(1747)に松江藩の積極的な奨励政策で栽培を奨励された。採取された櫨実については、各郡の「物産表」には記載のあるものの、その数値が朱書で抹消されている。これは、担当戸長が提出した島根郡松江分の「物産表」の最後に付け加える形で「木実課(木実方)」から「物産代価御尋ニ付記」として生蠟・櫨実・蠟燭の生産量、生産額について別途提出されていることに原因がある。すなわち、県としては、櫨実については「木実課(木実方)」に各郡の生産状況を集約して記載する方針となり、各郡から計上されてきた「物産表」記載の櫨実については、朱書で抹消されたと考えられる。また、仁多郡においては「物産表」作成の段階から櫨実を除外している節がある。各郡においても櫨実の取り扱いに相違があったようである。そのような事情を考慮しつつ、朱書で抹消された櫨実についての生産状況を表15に示した。表中の櫨と記してあるところの数値がそれである。仁多郡、松江については問題が残るが、表にみえるように各郡で大量に栽培された⁽²²⁾。

櫨実は松江の木実方に集荷され、生蠟が精製された。松江木実方における生蠟は、生産量253800斤(40608貫目)、生産額40608円にもものぼる。蠟燭についても、生産額の9割以上が松江での生産であったことも注目される。

D. 桐油

国内における照明のための油は、多種にわたるが、最も利用されたのは桐油であった⁽²³⁾。

桐油は、表16によると、生産量、生産額とも人口が集中する松江が最も高く、次いで意宇郡、神門郡と続いている。その原材料となる油木実は、延享4年からの奨励政策で、櫨とともに栽培された⁽²⁴⁾。表16によると、仁多郡と松江は不明であるが、その他の各郡では生産していることがわかる。

E. 製紙

紙は近世において重要な産物であるが、表17に主な紙とその原料となる楮の生産量、生産額を示した。これによると、紙の中で中折が最も生産額が高く、次に塵紙、半紙であった。中折では、大原郡が5割以上を占め、次に飯石郡、仁多郡の順であった。塵紙では意宇郡が最も高く、次いで飯石郡、大原郡であった。半紙も意宇郡が最も高く9割以上を占め、次いで大原郡、能義郡であった。大原・飯石・仁多の3郡における和紙製造業者は、寛政7年(1795)には大原郡198戸、飯石郡113戸、仁多郡73戸あり、製紙業の盛況さがうかがえる⁽²⁵⁾。また、特に大原郡では慶安2年(1649)から木次で紙座が開設されており⁽²⁶⁾、「国益鑑」でも東前頭15枚目に「木次の紙」があげられていることから紙が特産品であることがわかる。

原材料の楮は、製紙の生産に呼応して大原郡、飯石郡、仁多郡で85.5%占めている。「国益鑑」では、西前頭12枚目に「山中の楮芽」としてランキングされており、まさに山間部の産物であった。

2. 各郡における産物の内訳

表18は、出雲地域の生産額を郡別に示したものである⁽²⁷⁾。生産額の高い郡は、神門郡、仁多郡、能義郡

であった。逆に低い郡は島根郡、出雲郡、秋鹿郡であった。各郡は、地形的な特徴もあり、それぞれ固有の産物が生産された。本章では、郡ごとに産物の生産量、生産額を紹介することにより、各郡の特徴を示す。各郡は、本史料に綴じてある順に示すこととする。

(1) 神門郡

神門郡は、北に日御碕、その南に簸川平野が広がり、東には斐伊川、西には神門川が流れている。また、西側は日本海に面した海岸線があり、その南には山間部が広がっている。

表19によると、郡内では全84種の産物がみられる。その中で1番手は米であった。その他、食料となる農産物では麦、大豆などが上位にみられる。加工食品としては酒が5番手に入っている。林産物としては、生活に必要な炭（4番手）、薪（11番手）が入っている。工産物としては、繊維類として綿（2番手）、木綿（14番手）が上位に入っていることも特徴としてあげられる。

また、特筆すべきは鉄（割鉄）（6番手）、銑（7番手）のような鉄鋼製品も多いことである。注目されるのは、鉄鋼加工製品について、例えば鋏（8番手）、稲扱（10番手）のような農具も大量に生産していることである。

水産物については、郡内全体では生鰯（24番手）、干鰯（25番手）、生鰯鯖（26番手）、生鰯（28番手）、塩鰯鯖（30番手）、干鰯（34番手）などが比較的上位の産物としてあげられる。特に干鰯は、神門郡のみで生産された特産物であり、「国益鑑」では西前頭11枚目に「杵築の干鰯」としてランキングされている。

(2) 意宇郡（松江を除く）

意宇郡は、松江の南側に位置し、宍道湖・中海に面している。表20によると、産物は132種と多いことがわかる。1番手に米、2番手に炭、3番手に麦と毎日の生活に必要な食料などの消費物資がみえる。島根郡と同様に海や湖に面しているので水産物もみられる。当郡では海老が10番手にあがっている。その次に小雑魚・雑魚（12番手）、鰯（13番手）があがっている。

工産品では、綿（4番手）、桐油（5番手）、煙草（11番手）が上位にみられる。また、48番手に菅笠が入っている。この産物は意宇郡のみで生産されており、「国益鑑」での西前頭30枚目「津田の菅笠」がこれにあたると考えられる。

(3) 楯縫郡

楯縫郡は、島根半島の秋鹿郡の西に位置し、北は日本海、東は宍道湖に面し、物資の集積地である平田をかかえている。表21によると、全95種の産物が記されている。楯縫郡の特徴は、最上位に木綿が入っていることである。生産額では郡全体の42.8%にものぼる。そして2番手には他郡で1番手の米があがっている。3番手には綿がみられる。また、生鰯が6番手にあげられていることも注目される。当郡で上位に位置する水産物は、生鰯の他に塩鰯（8番手）、生鰯（12番手）、塩鰯（13番手）、生鰯（14番手）、生鰯（17番手）、塩鰯（24番手）、鰯（25番手）とあり、食料としての生魚と塩魚が多い。

工産物としては、油木実（5番手）、葉藍（9番手）、桐油（11番手）、下駄（16番手）などが上位を占めている。林産品としては、薪が7番手にあがっている。

(4) 出雲郡

出雲郡は、簸川平野が大半を占めており、斐伊川下流域そして東に宍道湖があるという地域である。表22によると、郡内で54種類と他郡と比較して種類は少ない。表22によると、郡内の1番手には米が入っ

ており、郡全体の生産額の44.3%を占めている。現在でも米の生産量が多い簸川平野をかかえている出雲郡においては当然のことであろう。上位には米の他、大根（4番手）、麦（5番手）、梨子（6番手）、大豆（7番手）などの農産品、そして加工食品の酒（8番手）がみられ、特に食料となる産物が多くみられる。

工産物で注目すべきは、2番手に木綿（20.3%）が入り、3番手には綿（13.3%）が入っていることである。

米、木綿、綿だけで郡全体の約7割8分を占めていることが当郡の特徴であろう。

(5) 仁多郡

仁多郡は、内陸に位置し、西は飯石郡、北は大原郡、能義郡、東は伯耆国、南は備後国に囲まれた山間地域である。表23によると、全95種の産物がみられる。1番手は他郡と同様に米であったが、当郡で特徴的な産物は飯石郡と同様にたたら製鉄による産物であろう。2番手に鉄（割鉄）、3番手に大炭、5番手に銚、6番手に鋼、7番手に小炭、19番手に鉄砂（砂鉄）と、高い生産量、生産額を誇っている。また、林産物として4番手に薪があることも山間部の特徴であろう。また、鉄加工製品である釘大小（22番手）、菌類である香茸（30番手）が上位にあがっているのも特徴の一つであろう。

工産物としては、十露盤が57番手に入っており、156挺生産し、生産額117円であった。十露盤は、雲州算盤と称され、亀嵩村梅木原の大工村上吉五郎が天保初年頃から製作を始め、横田を中心に生産が拡大したようである⁽²⁸⁾。十露盤の生産は仁多郡の他に飯石郡があった。飯石郡では、表26より200挺生産しており、仁多郡の生産量より多いが、生産額は72円20銭と仁多郡より安い。すなわち、1挺あたりの単価が仁多郡の十露盤が75銭、飯石郡のそれが36銭6厘と仁多郡のほうが約2倍の値段となっている。これは、仁多郡産十露盤の優秀さを物語っているのかもしれない。

「国益鑑」では、東前頭3枚目に「仁多荒芋岡山行」とあるが、仁多郡では荒芋の生産について記載がなく、表26によると隣郡の飯石郡で8232貫700目と大量の生産があったことがわかる。

(6) 大原郡

大原郡も、内陸に位置し、東は能義郡、北は意宇郡、西は出雲郡、神門郡、飯石郡、南は仁多郡に囲まれた山間地域である。

表24によると、全82種の産物がみられる。1番手には他郡と同様に米があがっている。

当郡では、2番手に木綿、3番手に綿がみえ、繊維類が大きな位置を占めている。特に木綿については、前述のように大東あたりの土地が木綿に適しているとされ、木綿の大量生産をうかがわせる。また、文化8年（1811）には大東町に木綿市が設立されていることも背景にあらう⁽²⁹⁾。鋼、鉄（割鉄）の生産も大きい。そして、鉄を加工して製作された稲扱が12番手に入っていることも注目される。稲扱の生産は木次が有名である⁽³⁰⁾。また、9番手に中折、13番手に紙の原料となる楮が見られることも特徴的であろう。

林産物としては、山間部であることから薪が6番手に入っている。

(7) 秋鹿郡

秋鹿郡は、島根半島にあり、東は島根郡、西は楯縫郡、南は宍道湖、北は日本海に面している。表25によると、96種の産物があげられている。1番手は米、2番手は麦と農産物が続くが、3番手に畳表が入っており、生産量27960枚、生産額3689円16銭、郡全体の5.5%を占める。「国益鑑」では東前頭5枚目に「島根秋鹿畳表」とあり、まさに畳表は秋鹿郡の名産であることがわかる。また、小呉座（莫座）が

21番手にあがっていることも注目される⁽³¹⁾。

農産物では、前述した特産物の牛蒡が26番手に入っている。水産物では、生鰺鯖が4番手にあらわれる。水産物は25種類にものぼり、上位20番までには、干鰯（8番手）、塩鰺鯖（9番手）、生鰯（12番手）、生烏賊（17番手）、生鰯（18番手）、鰻（19番手）と7種類もみられる。

また、瓦が生産量141680枚、生産額1141円31銭で10番手にみられることも当郡の特徴の一つである⁽³²⁾。

(8) 飯石郡

飯石郡は、内陸に位置し、西は神門郡、北は大原郡、東は仁多郡、南は備後国に囲まれた山間部である。表26によると、全96種の産物がみられる。1番手にみえるのは米であったが、当郡で特徴的なのは、何と言っても松江藩最大の鉄師田部家によるたたら製鉄に関する産物であろう。2番手に鉄（割鉄）（18.8%）、4番手に鉄砂（4.6%）、5番手に銑（3.6%）、8番手に荒鋼（1.4%）などがあり、たたら製鉄関連産物が大きなウェイトを占めている。たたら製鉄で生産された和鉄を加工したものとして上位にあるのは針金（13番手）であった。

林産物では、山間部の特徴である薪が3番手にあがっている。山間部に特徴的な農産物は菌類であろう。当郡では香茸（52番手）が1006貫目と大量に採取できた。

また、作煙草（9番手）、中折（14番手）も当郡での特徴的産物であろう。

「国益鑑」では、西前頭15枚目に「今市の雪踏」とあるが、雪踏の生産は飯石郡に記載があるのみであった。

(9) 島根郡（松江を除く）

島根郡は、松江の北側で、島根半島に位置し、宍道湖・中海・日本海に囲まれている。よって浦と村が混在している。島根郡の産物については表27に示した。これによると、96種の産物がみられる。1番手には米、2番手には麦であった。上位には、麦類、豆類、芋類などの農産物、特に食料が入っている。また、酒、薪、櫨なども上位を占めている。島根郡の産物で特徴的であるのは、海に面していることから5番手に干鰯が入っていることであり、郡全体の2.3%を占めている。また、17番手には心太草、19番手には小雑魚・雑魚がみえる。水産物は郡内で22種類にものぼった。

また、大海崎石が生産額2222円22銭で7番手にみられることも特徴としてあげられる。大海崎石は、松江城の石垣や城下町（殿町、母衣町、北・南田町）の石積に最も多く利用されており⁽³³⁾、普請事業における需要が高かったと考えられる。小呉蔭（13番手）や牛馬皮（16番手）も上位に位置している。

(10) 松江

松江における産物は、表28に示した。全50種の産物がみられる。他郡と相違しているところは、1番手には米ではなく、生蠟があがっていることである。また、関連産物として、4番手に櫨、5番手に蠟燭がみえる。ちなみに米は14番手にみえる。

また、2番手に酒、3番手には桐油がみられる。6番手は縞、7番手には綿打ち弓弦と続く⁽³⁴⁾。工産物が多く、上位には前述の産物の他に、下駄（12番手）、傘（15番手）、筆（17番手）、釘大小（18番手）、元結（19番手）、菅尾（20番手）、足袋（22番手）などがみられる。水産物は、鱈、白魚、鰻がそれぞれ、23番手、25番手、33番手にみえる。松江の漁師については、末次漁師と白潟漁師の2つの漁師集団があり、松江藩殺生方の下で松江城下周辺の漁場での漁業特権を与えられ、運上銀の上納とともに白魚、鱈の献上も課せられたことで知られている⁽³⁵⁾。

松江の「物産表」は、橋北の島根郡分と橋南の意宇郡分に分かれて記述されている。島根郡松江分と意宇郡松江分それぞれを表29と表30示した。

島根郡松江分は、表29によると、全30種類しか産物がみられない。その半分は生蠟、蠟燭、櫨などの木実方に関わる産物であった。また、工産物では桐油、縞、傘、釘大小、筆⁽³⁶⁾、足袋、水産物では鱸、白魚、鰻、沙魚、鯉、鮒、鰯など特徴的な産物もみられる。

意宇郡松江分では、表30によると、全44種類の産物が記載されている。1番手は酒があがっており、島根郡松江分で大きな位置を占めた生蠟など木実方に関連する産物は櫨のみで36番手と下位に位置している。また、島根郡松江分で記載されている水産物、例えば鱸、白魚、鰻は意宇郡松江分においてもみえる。注目されるのは、意宇郡松江分のみで生産されている産物があることである。それは、綿打ち弓弦⁽³⁷⁾、下駄、元結⁽³⁸⁾、菅尾⁽³⁹⁾、曲形、庖丁などの工産物である。また、米、麦類、豆類、蕎麦、瓜など食料とする農産物もある。

(11) 能義郡

能義郡は、出雲地域の東の端にあたり、伯耆国と接している。北は中海に面し、西、南は意宇郡、大原郡、仁多郡に接している。

表31によると、全139種の産物がみられ、他郡と比較して産物の種類が多い。1番手は他郡と同様でやはり米であった。2番手には、鉄（割鉄）が入っており、たたら製鉄の関連産物では、4番手に小炭、6番手に大炭、8番手に鋼、10番手に銑、11番手に鋤、13番手に鉄砂（砂鉄）がみられる。

また、水産物として前述した赤貝が12番手にみられることは注目される。

おわりに

「物産表」を分析することにより、出雲地域の産物の特徴を示すことを試みた。「物産表」にみられる出雲地域の産物は米、鉄、木綿を代表的な産物とし、その他に麦類、豆類、野菜、果実などの農産物があった。また、酒、醤油などの加工食料、魚介類などの水産物、牛馬皮などの動物に関する産物、薪、炭などの林産物、そして、生蠟、桐油などの灯明関係製品、鍬、稲扱などの農具に代表される鉄加工製品など多種多様にわたっていた。

また、「物産表」記載の産物と「国益鑑」記載の産物を比較検討すると、「国益鑑」の格付けはある程度産物の生産額をもとにランキングされたものといえるようである。

本稿では明治5年（1872）という単年度において、出雲地域における各産物の生産量、生産額を考えたという面的な視点から特徴をとらえようとした。今後は時系列的な視点から産物をとらえることが必要であろう。また、「物産表」において「国益鑑」と一致もしくは類似する産物は92種類中29種類に過ぎず、31.5%ほどであった。「国益鑑」に記載のある事項は、産物に留まらず畜産関係、寺社関係、流通関係、娯楽関係などもある。その価値及び収益を数値で示すことは、「物産表」の性格上、本稿ではできなかった。今後の課題としたい。

出雲地域の産物の特徴を捉えるための基礎的な分析として「物産表」記載の数値を計算し、提示してみたが、何分浅学により甚だ心許無い整理、分析であったと思われる。ご寛恕を請うものである。

〔付記〕史料の利用に際しご高配を賜った島根県立図書館の皆様に、厚くお礼申し上げます。

注

- (1) 乾隆明・下房俊一『決定版 見立番付を楽しむー遊び心と本音が生んだ江戸時代のランキング情報誌ー』（松江市教育委員会、2010年）、拙稿「解説 雲陽国益鑑」（『松江市史』史料編5近世Ⅰ、松江市、2011年）。
- (2) 田籠博『出雲国産物帳』（ワン・ライン、2008年）。
- (3) 「旧松江藩引継雑款 物産表」（島根県立図書館所蔵）所収。
- (4) 各郡の「物産表」を検討すると、郡によって産物名の記述の仕方や生産量の単位や価格の設定が相違しているところがある。
- (5) 『新修島根県史』通史篇2近代（島根県、1967年）、『島根県の百年』（山川出版社、1982年）。
- (6) 高尾幸吉編『松江商工会議所七十年史』（松江商工会議所、1967年）。
- (7) 柳浦文夫「島根県林業の特殊構造ーたゝら・鉄山・薪炭林・広葉樹林の林相・大規模私有林ー」（『山陰史談』第2号、1970年）。
- (8) この評価については既に内藤正中氏が注(6)書で指摘している。
- (9) 『宍道町史』通史編下巻第四章近世（宍道町、2004年）。
- (10) 岡一宏「近世出雲西部における新田の生成ー神西湖周辺における様相ー」（『松江市立女子高等学校研究紀要』第4号、1989年）、同氏「神西湖周辺の開発に関わる史料について」（『湖陵町誌研究』第1号、1992年）。
- (11) 岩成博「斐川村における村方地主の系譜ー江戸時代における勝部家の場合ー」（『島根大学論集（社会科学）』第4号、1958年）。
- (12) 『出雲北浜誌』（北浜自治協会、2011年）。
- (13) 岡一宏「宍道町域の湖岸開発関係史料について」（『宍道町歴史叢書』3、1998年）。
- (14) 『新修島根県史』通史編1（島根県、1968年）には、ト蔵孫三郎の新田開発を含め、簸川平野の開発など松江藩領内の新田開発についてまとめられている。
- (15) 奥原福市『島根県秋鹿村誌』（秋鹿村教育会、1922年）。
- (16) 『東出雲町誌』（東出雲町誌編さん委員会、1978年）。
- (17) 拙稿「明治初年出雲地域における鉄山経営の基礎的考察」（『たたら研究』第48号、2008年）。
- (18) 松本興『鋳物字波』（宇波小学校、1951年）、『広瀬町史』上巻（広瀬町役場、1968年）。
- (19) 藤澤秀晴氏によれば、「楯縫郡物産表」の木綿については、生産高ではなく取引高と判断できる可能性を言及している（「明治前期における雲州木綿の取引き」『山陰史談』第3号、1971年）。
- (20) 小野武夫編『近世地方経済史料』第6巻（吉川弘文館、1958年）。
- (21) 松原祥子「松江藩木綿市と町の訴願」（『日本史学集録』第30号、2007年）。
- (22) 「物産表」の仁多郡の項には榧実について記載がなく、不明である。おそらく島根郡松江分の数値に入っていると考えられる。
- (23) 多久田友秀「ハゼロウとアブラギリ 照明の生産と流通」（『図説 松江・安来の歴史』郷土出版社、2012年）。
- (24) 多久田友秀「近世中後期における地域秩序ー出雲国杵築大社領鷺浦をめぐってー」（藪田貫編『近世の畿内と西国』清文堂、2002年）。
- (25) 『新修木次町誌』（木次町、2004年）。
- (26) 『木次町誌』（木次町、1972年）。
- (27) 前掲注(5)書に掲載の表とは数値が相違しているが、榧実の計算方法などの違いで相違していると考えられる。
- (28) 『横田町誌』（横田町誌編纂委員会、1968年）、高橋一郎「雲州そろばんの今昔」（松江文庫、1977年）。
- (29) 松原氏注(21)論文。
- (30) 松原高広「木次稲扱千歯ータタラ製鉄から農具産業へー」（『たたら研究』12号、1965年）。
- (31) 小林准士「村の成立と城下町」（『松江市史への序章 松江の歴史像を探る』松江市教育委員会、2010年）、須藤吉郎編『古江村誌』（古江中学校、1949年）。
- (32) 小林氏注(31)論文、須藤氏注(31)書。前掲注(15)『島根県秋鹿村誌』によれば、当地方では黒瓦が生産されていた。
- (33) 岡崎雄二郎・飯塚康行「松江城の石垣と産地」（『日引』第10号、2007年）。

- (34) 「国益鑑」では、東前頭筆頭に「綿打弦」とある。
- (35) 伊藤康宏「文久三年 松江湖漁場由来記」・「解題」(『日本農書全集』59漁業2、農山漁村文化協会、1997年)。
- (36) 「国益鑑」では、東前頭19枚目に「松江の筆」とある。
- (37) 「物産表」では、意宇郡松江分のみ記載であったが、寛政期には白潟堅町と末次芋町にみられる(松原氏注⁽²⁾論文)。また、作業場は白潟に複数あったという指摘もある(乾氏注⁽¹⁾書)。
- (38) 「国益鑑」では、西前頭22枚目に「才賀町の元結」とあり、雑賀町で生産されたことがわかる。元結は小倉とともに、当町における武士の内職による生産とされる。詳細は『雑賀の今昔』(雑賀郷土史編纂実行委員会、1991年)を参照されたい。
- (39) 「国益鑑」では東前頭27枚目に「宇賀の菅緒」を入れているが、乾隆明氏は宇賀を松江乃木宇賀と推測している(乾氏注⁽¹⁾書)。この「物産表」では表20の意宇郡松江分のみでの産出となっており、乾説の信憑性が高まったといえる。

表1 出雲地域における産物生産量・生産額

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	分類	「雲陽国益鑑」番付
1	米	334384石2升6合7勺	934919.1863	40.975322%	農産物	勸進元
2	鉄(割鉄)	414473貫目・6837駄	141744.738	6.212340%	工産物	西大関2
3	木綿	501385反	127200.6419	5.574907%	工産物	東大関1
4	麦(大麦)	58018石9斗2升6合	92265.9258	4.043800%	農産物	
5	綿	9本・78747貫目320目	88387.3864	3.873813%	工産物	東大関2
6	薪	28544631貫目	81745.9809	3.582735%	林産物	
7	酒	12834石6斗9升	64761.2795	2.838335%	農産物	
8	炭	653826貫目・81603俵	47578.7191	2.085264%	林産物	
9	生蠟	253800斤・400貫目	40983	1.796189%	工産物	西小結1
10	銑	224794貫目・4611駄	36151.0489	1.584416%	工産物	西大関1
11	桐油	2017石6斗8升8合5勺	35664.1794	1.563078%	工産物	
12	大豆	7407石2斗2合	35002.7876	1.534090%	農産物	
13	鋼	151880貫目・1001駄	31003.6524	1.358818%	工産物	西大関3
14	大炭	4361058貫目	27394.4613	1.200635%	工産物	西大関6
15	小炭	2011石7斗2升・4950貫目・1370俵	26491.8028	1.161074%	工産物	西大関7
16	櫨	365980貫目	25451	1.115458%	工産物	西小結2
17	醬油	3708石4斗5升	17465.9251	0.765491%	農産物	
18	大根	6074884本・499489貫目	17328.3815	0.759462%	農産物	
19	薩摩芋(琉球芋)	726030貫500目	15139.3055	0.663520%	農産物	
20	鉄砂(砂鉄)	1968004貫目・27956駄	14816.0257	0.649352%	工産物	西大関5
21	油木実(桐油実)	4753石7升	14441.42462	0.632934%	工産物	
22	小麦	3583石9斗3升2合	12509.76844	0.548274%	農産物	
23	鋤	15471枚・6274挺・710具	12171.818	0.533462%	工産物	
24	小豆	2379石3斗4升1合	12100.7201	0.530346%	農産物	
25	蠟燭	10貫目・616550挺・24435斤	11820.7471	0.518076%	工産物	西小結3
26	種油	345石6斗3升6合	11008.38252	0.482472%	工産物	
27	里芋	5017石1斗8升	10948.2765	0.479837%	農産物	
28	稲扱	27393挺・10枚	10594.6515	0.464339%	工産物	
29	酢	2482石9斗4升	9635.6877	0.422310%	農産物	
30	縞	13400反	8962.745	0.392816%	工産物	
31	綿打ち弓弦	10000掛	8266	0.362279%	工産物	東前頭筆頭
32	板	27013間・540枚	7718.7902	0.338297%	林産物	
33	蕎麦	2412石6斗6升4合	7552.6811	0.331016%	農産物	
34	中折	7丸半・45940束・907本	7418.8435	0.325151%	工産物	東前頭15枚目(木次)1
35	干鰯	310石5斗5升・9130俵・1620貫目	7247.9366	0.317660%	水産物	
36	葉藍	17367貫500目	6957.9026	0.304949%	工産物	
37	煙草	148609斤	6113.9733	0.267961%	工産物	
38	生鰯鯖	976470尾	5850.0116	0.256392%	水産物	
39	楮	67587貫200目	5246.4453	0.229939%	工産物	西前頭12枚目1
40	釘大小	6892050本	5208.6381	0.228282%	工産物	
41	柿	5818447	5105.875	0.223779%	農産物	
42	瓦	585735枚・25坪	4966.8904	0.217687%	工産物	
43	茅簀	20100枚	4466.6622	0.195763%	工産物	
44	梨子	970135	4222.1498	0.185047%	農産物	
45	豌豆	1525石5斗6升9合	4173.1293	0.182899%	農産物	
46	材木	479850才	4142.222	0.181544%	林産物	
47	空豆(夏豆・蚕豆)	1811石2斗3升5合	4117.768	0.180472%	農産物	
48	赤貝	3018石	3911.835	0.171447%	水産物	東前頭32枚目(意東)
49	鋳	69000貫目・749駄	3824.113	0.167602%	工産物	西大関4
50	生鰯	203096貫目・1391溜	3762.3106	0.164893%	水産物	
51	下駄	151692足	3741.2851	0.163972%	工産物	
52	縄	55662束	3714.8213	0.162812%	工産物	
53	塵紙	41425束	3711.875	0.162683%	工産物	東前頭15枚目(木次)2
54	晝表	28020枚	3697.5006	0.162053%	工産物	東前頭5枚目
55	小雑魚・雑魚	5610荷	3628.6055	0.159033%	水産物	
56	海老	18421貫目	3574.1747	0.156648%	水産物	
57	傘	25629本	3482.7415	0.152640%	工産物	
58	伽羅油	170375挺	3410.279	0.149465%	工産物	
59	粟	1413石1斗5升1合	3396.0192	0.148840%	農産物	
60	蕪	1361040本・150000貫目・363012	3219.93544	0.141122%	農産物	
61	干鰻鮓	11104貫目	2917.2041	0.127854%	農産物	
62	塩	4200石	2916.48	0.127823%	農産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	分類	「雲陽国益鑑」番付
63	鰯	350000尾	2915.5	0.127780%	水産物	東前頭17枚目(揖屋)
64	茄子	2752910ツ	2883.22	0.126365%	農産物	
65	生鯛 (鯛・鯛之類)	7090貫目・87000尾	2860.83337	0.125384%	水産物	
66	生糸	102貫865目	2843.3089	0.124616%	工産物	
67	荒苧	10780貫700目	2834.5432	0.124231%	工産物	東前頭3枚目(仁多)
68	鎌	50581枚・3270挺	2717.0428	0.119082%	工産物	
69	菜種	613石2斗5升3合	2687.2986	0.117778%	農産物	
70	塩鯨鯖	26860貫目	2645.5141	0.115947%	水産物	東前頭11枚目1
71	筵	68606枚・451束	2605.6798	0.114201%	工産物	
72	作煙草	17803貫目	2485.299	0.108925%	工産物	
73	地引手操漁雑喉類	年中取入	2388.888	0.104699%	水産物	
74	黍	1324石4斗2升9合	2326.6922	0.101973%	農産物	
75	大海崎石	不明	2222.2222	0.097395%	工産物	
76	木ノ実	635石7斗5升	2207.453	0.096748%	工産物	
77	鬻付(油)	11635斤・4000挺	1976.6844	0.086633%	工産物	
78	生鰻(鮑)	353貫目・136340尾	1949.7133	0.085451%	水産物	
79	塩鯖	11748貫300目	1929.81103	0.084579%	水産物	東前頭11枚目2
80	針金	550貫目	1909.7222	0.083699%	工産物	
81	土焼物	62釜半	1857.041	0.081390%	工産物	
82	蜜柑	2250912	1772.6842	0.077693%	農産物	
83	小呉座(産)	18810枚	1642.8878	0.072004%	工産物	
84	大小麦藁	217670ノ	1510.63	0.066207%	農産物	
85	生鯖	1883溜・1823貫800目	1383.6141	0.060641%	水産物	
86	足袋	13320足	1366.2367	0.059879%	工産物	
87	西瓜	16180	1297.6124	0.056871%	農産物	
88	椿油	22石5斗9升	1247.2478	0.054664%	工産物	
89	家釘鉾釘取交	11552000本	1212.0358	0.053121%	工産物	
90	牛馬皮(牛皮)	378枚	1208.2902	0.052957%	動物	東前頭4枚目
91	上茶	2510斤	1138.5763	0.049901%	農産物	
92	生烏賊	2939貫目・88800負	1116.1303	0.048917%	水産物	
93	牛蒡(牛房)	353665本・17322貫600目	1099.77503	0.048201%	農産物	
94	鰯	53200尾(本)	1065.5571	0.046701%	水産物	
95	鰯	2527貫目・1300尾	1062.0278	0.046546%	水産物	
96	塩鰯	7330貫目	1018.0539	0.044619%	水産物	
97	鰻	32000尾・7000本	1003.8889	0.043998%	水産物	
98	和布	6875貫800目・1807束	1000.6118	0.043854%	水産物	西前頭17枚目
99	白油	45石	999.9	0.043823%	工産物	
100	干鰻(鮑)	3110貫目	950.2605	0.041648%	水産物	西前頭11枚目
101	胡麻	135石1斗6升8合5勺	921.34045	0.040380%	農産物	
102	筆	137500本	907.8155	0.039787%	工産物	東前頭19枚目
103	香茸(皮茸)	4106貫目・300斤	905.1355	0.039670%	農産物	
104	椿油実	89石7斗9升	904.8823	0.039659%	工産物	
105	生鰻	1273溜	884.0278	0.038745%	水産物	
106	鶏卵	193500ツ	854.6121	0.037456%	農産物	
107	生鰻	5216貫目	824.2062	0.036123%	水産物	西前頭25枚目(志和津)1
108	南蛮黍	480石5斗6合	814.2564	0.035687%	農産物	
109	松脂	56斤・96石4斗・5386貫600目	792.3521	0.034727%	林産物	
110	麻苧	591貫550目	783.917	0.034357%	工産物	
111	薯蕷(長芋)	4533貫500目	729.6471	0.031979%	農産物	
112	石細工	10945駄	709.457	0.031094%	工産物	
113	筍(竹の子)	16195貫目	688.5606	0.030178%	農産物	
114	鰻	1282貫390目	687.018	0.030110%	水産物	
115	胡麻油	37石1斗1升6合	676.0783	0.029631%	工産物	
116	元結	100000束	666.6	0.029216%	工産物	西前頭22枚目(才賀町)
117	心太草	1449貫500目	661.6872	0.029000%	水産物	東前頭30枚目
118	干雑木	55000貫目	660	0.028926%	工産物	
119	菅尾	212270足	648.3002	0.028413%	工産物	東前頭27枚目(宇賀)
120	石灰	658石	622.5272	0.027284%	工産物	
121	草履草鞋	215000足	597.055	0.026168%	工産物	
122	繭	350貫目	583.31	0.025565%	農産物	
123	桃	496347	582.4987	0.025530%	農産物	
124	塩鰻	3029貫500目	579.8836	0.025415%	水産物	西前頭25枚目(志和津)2

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	分類	「雲陽国益鑑」番付
125	鰻	1015貫目	571.6766	0.025055%	水産物	西前頭5枚目
126	鱸	46100尾	563.1086	0.024680%	水産物	
127	漉海苔	1855束・8200枚・41200把	552.427	0.024212%	水産物	東前頭12枚目1
128	半紙	122丸3歩5厘・478束	547.195	0.023982%	工産物	東前頭15枚目(木次)3
129	野栢実	297石	527.9769	0.023140%	農産物	
130	切石夫賃	3738人	518.717	0.022734%	工産物	
131	白魚	84石	505.459	0.022153%	水産物	
132	桃燈	6602張	480.884	0.021076%	工産物	
133	荒布	16812貫目	466.151	0.020430%	水産物	
134	鯖松	33100貫目	459.1282	0.020123%	その他	
135	端折紙	330貫目	458.33	0.020088%	工産物	東前頭15枚目(木次)4
136	桑原紙	532貫目	458.052	0.020075%	工産物	東前頭15枚目(木次)7
137	梅	484石3斗6合	456.1506	0.019992%	農産物	
138	瓜	112974本	450.4558	0.019742%	農産物	
139	大根蕪	320830本	449.062	0.019681%	農産物	
140	竹	33520本・2924荷	443.7052	0.019447%	林産物	
141	松割木	61840把	427.98	0.018757%	林産物	
142	葱	101200抱・8000把	415.9111	0.018228%	農産物	
143	稻藁	586700把	407.1698	0.017845%	工産物	
144	菅笠	14365枚	398.916	0.017484%	工産物	西前頭30枚目(津田)
145	核芋	370貫匁	390.535	0.017116%	工産物	
146	干瓢	556貫600目	387.8918	0.017000%	農産物	
147	葉生姜	46430把	383.0475	0.016788%	農産物	
148	栗	770石8斗4升	379.7268	0.016643%	農産物	
149	菓子品々	不明	364.639	0.015981%	農産物	
150	海苔	523貫目450目	362.8145	0.015901%	水産物	東前頭12枚目2
151	下煎茶	996斤	333.1233	0.014600%	農産物	
152	粉(削ぎ板)	1350束・820000	329.941	0.014461%	林産物	
153	生鮓	78966抱	328.972	0.014418%	水産物	
154	上煎茶	634斤	325.8896	0.014283%	農産物	
155	綿実油	12石3斗	324.585	0.014226%	工産物	
156	下茶	15108斤・100石3斗1升	323.2679	0.014168%	農産物	
157	豆腐	94500挺	315	0.013806%	農産物	
158	干魚	2021貫500目	306.7941	0.013446%	水産物	
159	附木	3600束	299.9988	0.013148%	林産物	
160	菜葉	21000貫目	291.69	0.012784%	農産物	
161	虫居虫者	50000杯	277.5	0.012162%	水産物	
162	鱈	550貫目	275	0.012053%	水産物	
163	陶土焼	5釜	275	0.012053%	工産物	
164	鴨	1370羽	274	0.012009%	動物	
165	木瓜	366984本	259.4404	0.011371%	農産物	
166	黒鯛		250.02	0.010958%	水産物	
167	塩鯛	15000尾	250	0.010957%	水産物	
168	草鞋	108320足	242.6541	0.010635%	工産物	
169	麻核芋	226貫600目	226.6	0.009931%	工産物	
170	草履	69620足	223.9121	0.009814%	工産物	
171	馬馳紙	168貫目	219.332	0.009613%	工産物	東前頭15枚目(木次)5
172	木履	1785足	200.9281	0.008806%	工産物	
173	十露盤	356挺	189.2	0.008292%	工産物	
174	蒨	130貫目・18000抱	186.5	0.008174%	農産物	
175	下駄木履	1560足・2500束	177.6725	0.007787%	工産物	
176	杉原	560束	171.108	0.007499%	工産物	
177	藍	520貫目	166.6665	0.007305%	工産物	
178	線香	3550束・1000把・150丸	166.1032	0.007280%	工産物	
179	稗	169石2斗3升	161.4986	0.007078%	農産物	
180	干蕨	1880貫目	156.6604	0.006866%	農産物	
181	柄杓	15000本	150	0.006574%	工産物	
182	猪	21疋	145.8324	0.006391%	動物	
183	木皮	2000貫目	138.88	0.006087%	林産物	
184	排ヘンタ	21石	134.1658	0.005880%	その他	
185	津久芋	1200貫目	132.12	0.005791%	農産物	
186	焼酎	18石2斗	130.413	0.005716%	農産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	分類	「雲陽国益鑑」番付
187	生鮒	500貫目・4380尾	130.2738	0.005710%	水産物	
188	鰯	270貫目	127.494	0.005588%	水産物	
189	菰	7300枚	126.25	0.005533%	工産物	
190	大角豆	34石	126.1157	0.005527%	農産物	
191	生姜	630貫目	126	0.005522%	農産物	
192	簞笥	100棹	125	0.005478%	工産物	
193	曲形	8500	123.365	0.005407%	工産物	
194	竹皮笠	5428枚	123.1807	0.005399%	工産物	
195	松板	362坪	120.546	0.005283%	林産物	
196	鋳物	530枚	118.771	0.005205%	工産物	東前頭14枚目(釜飯方)1
197	藁薦	1200枚	116.64	0.005112%	工産物	
198	鋤柄	1311本・17挺	115.6888	0.005070%	工産物	
199	沙魚	20石	111.1	0.004869%	水産物	
200	算盤	400挺	111.0111	0.004865%	工産物	
201	雉子山鳥	428羽	107	0.004690%	動物	
202	木切	220挺	101.6666	0.004456%	工産物	
203	鰐	601貫目	100.164	0.004390%	水産物	東前頭21枚目(鰐の鰭)
204	麴(糀)	36石	99.9972	0.004383%	農産物	
205	鍋	4800枚	99.9804	0.004382%	工産物	東前頭14枚目(釜飯方)2
206	椿実	17石3斗4升	98.4113	0.004313%	工産物	
207	芹	107200把	93.7474	0.004109%	農産物	
208	箱折紙	8丸15束	93.055	0.004078%	工産物	東前頭15枚目(木次)6
209	松茸	474貫350目	92.4208	0.004051%	農産物	
210	簞笥鉄具	280具	87.5	0.003835%	工産物	
211	テンヤ草	156貫800目	87.1111	0.003818%	水産物	
212	上茶生葉	683貫目	85.375	0.003742%	農産物	
213	土焼床置物並人形類	100箇	83.3333	0.003652%	工産物	
214	簞	500枚	83.33	0.003652%	工産物	
215	庖丁	490枚・1400挺	83.2325	0.003648%	工産物	
216	柚子	32681	82.4449	0.003613%	農産物	
217	蒟蒻(玉)	574貫700目・12900挺	81.1315	0.003556%	農産物	
218	ソウキ(ザルカ)	1200	80.004	0.003506%	工産物	
219	焼物ほうろく	7200	80	0.003506%	工産物	
220	苧	245貫目	77.375	0.003391%	工産物	
221	蓬(艾)	15010貫目	76.3889	0.003348%	水産物	
222	草蓐	913050抱	76.057	0.003333%	農産物	
223	芋	46石4斗7升・13貫目	74.2917	0.003256%	農産物	
224	茗荷	35000	74.25	0.003254%	農産物	
225	鮎	53貫目	73.5799	0.003225%	水産物	
226	李	1石1斗7升1合・316200ッ	72.2376	0.003166%	農産物	
227	ランキョウ	125石	69.375	0.003041%	農産物	
228	糠	138石5斗	69.25	0.003035%	農産物	
229	葉煙草	5711斤	67.2367	0.002947%	工産物	
230	下駄木	800足	66.664	0.002922%	工産物	
231	葉茶	167石7斗5升・350斤	64.9177	0.002845%	農産物	
232	茂屋木	9306抱	64.584	0.002831%	その他	
233	馬鞍呉座	500枚	62.05	0.002720%	工産物	
234	松枝	16900把	55.77	0.002444%	林産物	
235	道寫	750足	55.083	0.002414%	工産物	
236	唐黍	26石	55	0.002411%	農産物	
237	榮螺	821貫目・8230負	53.8411	0.002360%	水産物	
238	茶	16石3斗7升・100斤	52.766	0.002313%	農産物	
239	雑木小割	6720貫目	52.359	0.002295%	林産物	
240	宇治谷	51束	51	0.002235%	その他	
241	陶焼こん爐	2000	50	0.002191%	工産物	
242	茅	8050束	49.1944	0.002156%	工産物	
243	山蔴	5000貫目	48.6111	0.002131%	農産物	
244	水鉄炮	50挺	48.61	0.002130%	工産物	
245	干瓢	15貫500目	47.986	0.002103%	農産物	
246	なた	70挺	46.667	0.002045%	工産物	
247	櫻侶皮	16505枚	46.6292	0.002044%	林産物	
248	荏胡麻	6石3斗9升	46.1498	0.002023%	農産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	分類	「雲陽国益鑑」番付
249	土焼丸物	4000枚	44.4444	0.001948%	工産物	
250	京菓	38500把	42.7777	0.001875%	その他	
251	水雲	30石	42	0.001841%	水産物	
252	板蓑	500枚	41.665	0.001826%	工産物	
253	木履緒	1350足	40.5	0.001775%	工産物	
254	馬鈴薯	29石1斗・65貫目	40.2511	0.001764%	農産物	
255	熊子	29石5斗5升	40.157	0.001760%	工産物	
256	揚豆腐	17910切	39.8	0.001744%	農産物	
257	松六歩板	179間	39.774	0.001743%	林産物	
258	蕪種	7石2斗	39.3999	0.001727%	農産物	
259	人蔘	35000本	38.85	0.001703%	農産物	東小結
260	椎茸	70貫500目	38.5674	0.001690%	農産物	
261	饅頭	45500	37.9167	0.001662%	農産物	
262	干蓬	782貫目	37.7967	0.001657%	水産物	
263	生鮎	1750尾	36.2503	0.001589%	水産物	
264	山小鳥	12500羽	34.7222	0.001522%	動物	
265	蕃薯	194貫300目	34.51	0.001512%	農産物	
266	斧	110挺	34	0.001490%	工産物	
267	狸皮	120枚	33.3324	0.001461%	動物	
268	白炭	12000貫目	33.138	0.001452%	林産物	
269	芽筋	1500枚	33.0633	0.001449%	その他	
270	大縄	679束	32.5888	0.001428%	工産物	
271	雪踏	250足	31.25	0.001370%	工産物	西前頭15枚目(今市)
272	葛根	300斤	31	0.001359%	農産物	
273	陶焼土天神	200	30.56	0.001339%	工産物	
274	渋柿	42石7斗	29.634	0.001299%	農産物	
275	箬	350	29.155	0.001278%	林産物	
276	麻布	449反	28.687	0.001257%	工産物	
277	干藻草	5000貫目	27.77778	0.001217%	水産物	
278	蕨(厥)	310貫目・1100把	27.1387	0.001189%	農産物	
279	付木	6470束	27.0087	0.001184%	林産物	
280	蜜	4貫目・7斗	25.56	0.001120%	農産物	
281	獨活	320斤・2150本	24.5988	0.001078%	農産物	
282	ツヅラ	250貫目	24.305	0.001065%	工産物	
283	鮓海老蛸之類	不明	23.6611	0.001037%	水産物	
284	生鯉鮓海老雑候	不明	23.33333	0.001023%	水産物	
285	白糸	700目	22.361	0.000980%	工産物	
286	煎茶	50斤	22.2222	0.000974%	農産物	
287	鹿皮	156枚	21.106	0.000925%	動物	
288	障子	50枚	21.096	0.000925%	工産物	
289	橙	6300	21	0.000920%	農産物	
290	海素麵	28貫790目	20.8646	0.000914%	水産物	
291	焼麩	15000	20.8333	0.000913%	農産物	
292	叭	1500	20.8333	0.000913%	工産物	
293	ヒラ魚	15貫目	20.8245	0.000913%	水産物	
294	黒焼風爐(風呂)	850	19.8333	0.000869%	工産物	
295	鯉鮓大小	2000尾	19.445	0.000852%	水産物	
296	小黍	9石4斗3升	18.95	0.000831%	農産物	
297	杉子	3200本	17.776	0.000779%	林産物	
298	三ツ股楮	840貫目	17.744	0.000778%	工産物	西前頭12枚目2
299	鯉	180尾	17.5	0.000767%	水産物	
300	石臼	8ッ・25カラ	17.4502	0.000765%	工産物	
301	長持	15棹	16.666	0.000730%	工産物	
302	熊	1疋	13.8888	0.000609%	動物	
303	出西石	200荷	13.8	0.000605%	工産物	
304	松八歩板	40間	13.332	0.000584%	林産物	
305	黒瓦	3000枚	12.531	0.000549%	工産物	
306	黒豆	2石5斗	12.5	0.000548%	農産物	
307	雉子	100羽	12.5	0.000548%	動物	
308	火打石	150貫目	12.5	0.000548%	工産物	
309	へんた実	4石2斗5升	12.3955	0.000543%	工産物	
310	荷棒	265本	11.766	0.000516%	工産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	分類	「雲陽国益鑑」番付
311	芡連（芡実カ）	55斤	11.4565	0.000502%	農産物	
312	鴨死鳥	37羽	11.3033	0.000495%	動物	
313	海老煎干	20貫目	10	0.000438%	水産物	東前頭25枚目(本庄)
314	牛尾	311貫200目	9.9397	0.000436%	農産物	
315	茯苓	70貫目	9.7216	0.000426%	農産物	
316	兎	70疋	9.716	0.000426%	動物	
317	楊枝	50000せん	9.7	0.000425%	工産物	
318	山芋	110貫目	9.1663	0.000402%	農産物	
319	五味子	80斤	7.6	0.000333%	農産物	
320	木地盆	305枚	7.5675	0.000332%	工産物	
321	松大杭木	350本	7.0972	0.000311%	林産物	
322	轆轤	1200	6.666	0.000292%	工産物	
323	土焼人形類	3500鉢	6.65	0.000291%	工産物	
324	番茶	47斤9歩6厘	6.3947	0.000280%	農産物	
325	砂糖黍	450貫目	6.3	0.000276%	農産物	
326	荳油	8升	6.2222	0.000273%	工産物	
327	へんた油	3斗2升	6.2222	0.000273%	工産物	
328	鰯	2080尾	5.782	0.000253%	水産物	
329	棒	350本	5.3472	0.000234%	工産物	
330	作蕃薯	50貫目	5	0.000219%	農産物	
331	花の木	18荷	5	0.000219%	農産物	
332	唐胡麻	5石7斗	4.959	0.000217%	農産物	
333	蜆	13石1斗5升	4.379	0.000192%	水産物	
334	櫻侶縄	43束	4.3	0.000188%	林産物	
335	羹活	80斤	4.1712	0.000183%	その他	
336	桔梗	50斤	3.885	0.000170%	農産物	
337	神葉	35貫目	3.5	0.000153%	その他	
338	やたカ	307メ	3.2722	0.000143%	その他	
339	山葵	21貫目	3.0192	0.000132%	農産物	
340	金魚	1000疋	3	0.000131%	水産物	
341	椀	70人前	2.9162	0.000128%	工産物	
342	木通	95斤	2.899	0.000127%	農産物	
343	忍冬	100斤	2.78	0.000122%	農産物	
344	青大豆	5斗5升	2.75	0.000121%	農産物	
345	をご	30貫目	2.5	0.000110%	その他	
346	松花	300把	2.5	0.000110%	その他	
347	茗荷竹	1000本	2.5	0.000110%	農産物	
348	成木	210本	2.4	0.000105%	林産物	
349	菅	100貫目	1.6667	0.000073%	その他	
350	実操	15挺	1.665	0.000073%	工産物	西前頭4枚目(今市)
351	作芋	17貫目	1.652	0.000072%	農産物	
352	越後芋	11貫500目	1.5572	0.000068%	農産物	
353	耳諸	231貫目	1.443	0.000063%	農産物	
354	鉾曳柄	32本	1.334	0.000058%	工産物	
355	小城書カ	20束	1.333	0.000058%	工産物	東前頭15枚目(木次)8
356	鰯煎干	20貫目	1.1111	0.000049%	水産物	
357	川鳥	7羽	0.9916	0.000043%	動物	
358	鮭	10尾	0.833	0.000037%	水産物	
359	鮡	3斗	0.833	0.000037%	水産物	
360	す桃	1500	0.3666	0.000016%	農産物	
361	枇杷	6貫目	0.25	0.000011%	農産物	
362	ほうこ	15貫目	0.2082	0.000009%	その他	
363	笠緒	13	0.052	0.000002%	工産物	
364	灰吹銀		0	0.000000%	工産物	
365	銀絞銅		0	0.000000%	工産物	
366	真吹銅		0	0.000000%	工産物	
	合計		2281664.022	100.000000%		

出典：「旧松江藩引継雑款 物産表」（島根県立図書館所蔵）

注：櫛については、重複がないように木実方（課）の総量から各郡の量を差し引いた数値を記載している。

表 2 出雲地域における米・麦郡別生産量・生産額

郡名	米				麦				小麦			
	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位
神門郡	64823.2	19.4%	1	180059,4426	19.3%	1	14502	25.0%	1	24169,0332	26.2%	1
意宇郡	41184.8	12.3%	3	110704,742	11.8%	4	8591.67	14.8%	2	14322.314	15.5%	2
柁縫郡	23560.3051	7.0%	8	58900,7627	6.3%	8	34890,211	6.0%	7	6784,5769	7.4%	6
出雲郡	23021,8576	6.9%	9	57554,6442	6.2%	9	4504.85	7.8%	6	5631,0625	6.1%	7
仁多郡	31199,485	9.3%	4	116998,0687	12.5%	3	1785.35	3.1%	10	3481,4325	3.8%	10
大原郡	26318.36	7.9%	6	80415,7409	8.6%	5	5475.57	9.4%	5	9505,589	10.3%	4
秋鹿郡	9792.16	2.9%	10	27010,0413	2.9%	10	2683.52	4.6%	9	4621,6178	5.0%	9
飯石郡	25811.61	7.7%	7	70207,5792	7.5%	7	3098.05	5.3%	8	5499,387	6.0%	8
島根郡	28391,558	8.5%	5	78866,0698	8.4%	6	7309.35	12.6%	3	10151,2252	11.0%	3
松江	526.6	0.2%	11	1316.5	0.1%	11	84.55	0.1%	11	117,4315	0.1%	11
能義郡	59754,091	17.9%	2	152885,5949	16.4%	2	6494,805	11.2%	4	7982,2562	8.7%	5
合計	334384,0267	100.0%		934919,1863	100.0%		58018,926	100.0%		92265,9258	100.0%	

出典：表 1 に同じ。

表 3 出雲地域における主たる豆類・芋類郡別生産量・生産額

郡名	大豆				小豆				薩摩芋				里芋			
	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)
神門郡	1440	19.4%	1	7999,99	22.9%	1	450	18.9%	1	2499,975	20.7%	1	1320	26.3%	1	3300
意宇郡	1176	15.9%	2	5226,144	15.0%	2	312.5	13.1%	5	1735,937	14.3%	3	368.4	7.3%	6	716.17
柁縫郡	256.33	3.5%	10	1424,995	4.1%	10	45.83	1.9%	10	286,4375	2.4%	10	199,675	4.0%	9	443,7226
出雲郡	331.19	4.5%	9	1838,1045	5.3%	8	76.44	3.2%	8	530,4936	4.4%	8	271.4	5.4%	8	610.65
仁多郡	939.37	12.7%	4	3913,959	11.2%	4	367.51	15.4%	3	1531,2671	12.7%	4	738	14.7%	2	1229,95
大原郡	1071,662	14.5%	3	5209,349	14.9%	3	380,184	15.9%	2	1900,92	15.7%	2	600.91	12.0%	3	1668,727
秋鹿郡	536.8	7.2%	6	1968,2667	5.6%	7	71.75	3.0%	9	314,8889	2.6%	9	273.5	5.5%	7	632,8486
飯石郡	789.17	10.7%	5	3594,8272	10.3%	5	348.77	14.6%	4	1509,8860	12.5%	5	570.22	11.4%	4	705,3621
島根郡	405.36	5.5%	8	1688,979	4.8%	9	159.94	6.7%	7	977,4093	8.1%	6	483.13	9.6%	5	1341,99
松江	9.69	0.1%	11	44,0122	0.1%	11	0.2	0.01%	11	0.01%	11	0.0%	0.0%	0	0.0%	11
能義郡	451.63	6.1%	7	2094,161	6.0%	6	166,217	7.0%	7	26996.5	3.7%	6	191,945	3.8%	10	298,8562
合計	7407,202	100.0%		35002,7876	100.4%		2379,341	99.8%		12100,7201	100.0%		5017,18	100.0%		10948,2765

出典：表 1 に同じ。

表 4 出雲地域における主たる野菜産物郡別生産量・生産額

郡名	大根				蕪				茄子				西瓜				牛蒡 (牛蒡)							
	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量(㍶)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位						
神門郡	0		0	0.0%	0		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%		0		0	0.0%						
意宇郡	2537400本	4922,556	28.4%	3	511100本	511.1	15.9%	3	671000	24.4%	2	503,25	17.5%	2	12000	74.2%	1	350000本	290.5	26.4%	3			
柁縫郡	566198本	776,3864	4.5%	4	231772	224,81884	7.0%	4	144940	5.3%	3	72,47	2.5%	3	0	0.0%		3665本	6,10833	0.6%	6			
出雲郡	2647900本	5957,775	34.4%	1	849940本	708	22.0%	2	0	0.0%		0	0.0%		2530	15.6%	2	140,668	10.8%	2	0			
仁多郡	450000貫目	4999,95	28.9%	2	150000貫目	1666,65	51.8%	1	1800500	65.4%	1	2250,625	78.1%	1	0	0.0%		4300貫目	358,319	32.6%	2			
大原郡	0		0	0.0%	0		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0			
秋鹿郡	0		0	0.0%	0		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%		12810貫目	416,325	37.9%	1			
飯石郡	0		0	0.0%	0		0	0.0%		0	0.0%	0.00	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0			
島根郡	323386本	359,3177	2.1%	5	131240	109,3666	3.4%	5	136470	5.0%	4	56,875	2.0%	4	250	1.5%	4	97貫600目	18,9777	1.7%	4			
松江	0		0	0.0%	0		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0			
能義郡	49489貫目	312,3964	1.8%	6	0		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%		1400	8.7%	3	70	5.4%	3	115貫目	9,545	0.9%	5
合計	17328,3815	100.0%			3219,9354	100.0%			2752910	100.0%		2883,22	100.0%		16180	100.0%		1297,6124	100.0%		1099,77503	100.0%		

出典：表 1 に同じ。

表 5 出雲地域における主たる果実郡別生産量・生産額

郡名	柿				梨子				蜜柑				桃				梅				
	生産量(トン)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(トン)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(トン)	割合	順位	生産量(トン)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位
神門郡	200000	3.4%	10	555.54	10.9%	4	20000	2.1%	10	111.11	0.64%	8	570000	25.3%	2	791.616	44.7%	1	479,136	82.3%	1
意宇郡	535351	9.2%	3	642.421	12.6%	3	25717	2.7%	9	77.151	0.4%	10	590600	26.2%	1	330.78	18.7%	2	37,066	6.4%	3
楯縫郡	219250	3.8%	9	426.3194	8.3%	7	56720	5.8%	5	157.5556	0.9%	4	159300	7.1%	5	132.75	7.5%	4	0	0.0%	0
出雲郡	226360	3.9%	8	314.6414	6.2%	10	360590	37.2%	1	2974.8675	17.0%	1	139350	6.2%	7	116.0795	6.5%	6	0	0.0%	0
仁多郡	508420	8.7%	4	706.0937	13.8%	1	53696	5.5%	6	119.3232	0.7%	7	0	0.0%	0	0	0.0%	0	42000	8.5%	4
大原郡	398653	6.9%	6	553.729	10.8%	5	43831	4.5%	8	97.392	0.56%	9	151035	6.7%	6	53.88	3.0%	7	1350	0.3%	6
秋鹿郡	305850	5.2%	7	356.825	7.0%	9	113030	11.7%	3	147.5669	0.85%	5	186180	8.3%	4	129.2915	7.3%	5	0	0.0%	0
飯石郡	456560	7.8%	5	371.64	7.3%	8	45920	4.7%	7	116.04	0.66%	6	24370	1.1%	9	10.1379	0.6%	9	15650	3.2%	5
島根郡	602770	10.4%	2	502.3086	9.8%	6	182970	18.9%	2	203.3011	1.16%	3	88507	3.9%	8	16.4277	0.9%	8	0	0.0%	0
松江	0	0.0%	11	0	0.0%	11	0	0.0%	11	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0
能義郡	2365233	40.7%	1	676.3569	13.2%	2	67661	7.0%	4	217.8425	1.25%	2	341570	15.2%	3	191.7216	10.8%	3	47850	9.6%	2
合計	5818447	100.0%		5105.875	100.0%		970135	100.0%		4222.1498	24.2%		2250912	100.0%		1772.6842	100.0%		582,4987	100.0%	
																484,306	100.0%		456,1506	100.0%	

出典：表 1 に同じ。

表 6 出雲地域における酒・醬油など主たる加工食品・調味料郡別生産物・生産額

郡名	酒				醬油				酢				塩			
	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)
神門郡	2200	17.1%	3	15277.68	23.6%	2	780	21.0%	3	2599.974	14.5%	4	1000	40.3%	1	3611.11
意宇郡	1150	9.0%	5	5452.91	8.4%	5	112.5	3.0%	5	624.937	3.6%	5	113.5	4.6%	5	624.937
楯縫郡	0	0.0%	11	0	0.0%	11	0	0.0%	11	0	0.0%	11	54.5	2.2%	9	181.6667
出雲郡	316.5	2.5%	8	1538.19	2.4%	8	14	0.4%	10	54.46	0.3%	10	10	0.4%	10	41.7
仁多郡	93	0.7%	10	645.8292	1.0%	10	22.5	0.6%	8	124.9987	0.7%	8	73.3	3.0%	7	366.5
大原郡	1185	9.2%	4	5925	9.1%	4	555.6	15.0%	4	3111.36	17.8%	3	380	15.3%	3	1710
秋鹿郡	180.502	1.4%	9	860.2525	1.3%	9	41.3	1.1%	7	326.9583	1.9%	6	15	0.6%	10	33.3333
飯石郡	403.4	3.1%	7	2212.367	3.4%	6	63.9	1.7%	6	232.9602	1.3%	7	56.2	2.3%	8	210.75
島根郡	816.698	6.4%	6	2110.9866	3.3%	7	20	0.5%	9	111.1111	0.6%	9	83.5	3.4%	6	463.8888
松江	3595.15	28.0%	1	17975.75	27.8%	1	1036.7	28.0%	2	4924.0565	28.2%	2	506.94	20.4%	2	1702.4839
能義郡	2894.44	22.6%	2	12762.3142	19.7%	3	1061.95	28.6%	1	5355.1093	30.7%	1	190	7.7%	4	689.318
合計	12834.69	100.0%		64761.2795	100.0%		3708.45	100.0%		17465.9251	100.0%		2482.94	100.0%		9635.6877

出典：表 1 に同じ。

表 7 出雲地域における主たる菌類郡別生産量・生産額

郡名	香茸				松茸				椎茸			
	生産量(貫目)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(貫目)	割合	順位	生産量(貫目)	割合	順位
神門郡	48	1.2%	3	26.664	2.9%	4	0	0.0%		5	7.1%	3
意宇郡	0	0.0%		0.000	0.0%		140	29.5%	2	15.26	16.5%	4
楯縫郡	0	0.0%		0.0000	0.0%		11.85	2.5%	5	4.942	5.3%	5
出雲郡	0	0.0%		0.0000	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
仁多郡	3075	74.0%	1	683.3265	75.5%	1	60	12.6%	4	33.33	36.1%	1
大原郡	15	0.4%	4	49.995	5.5%	3	0	0.0%		0.3	0.4%	5
秋鹿郡	0	0.0%			0.0%		100	21.1%	3	20.8333	22.5%	2
飯石郡	1006	24.2%	2	125.75	13.9%	2	0	0.0%		45	63.8%	1
島根郡	0	0.0%		0	0.0%		162.5	34.3%	1	18.0555	19.5%	3
松江	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
能義郡	10	0.2%	5	19.4	2.1%	5	0	0.0%		0	0.0%	
合計	4154	100.0%		905.1355	100.0%		474.35	100.0%		92.4208	100.0%	

出典：表 1 に同じ。

注：神門郡の香茸産出量は300斤と記載があったため、1斤=160目として計算した。

表 8 出雲地域における主たる水産物郡別生産物・生産額

郡名	干鰯				生鰯鰯				赤貝				生鰯				小鰯魚・鰯魚				海老				塩鯖鮭									
	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量(尾)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量(貫目)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(貫目)	割合	順位				
神門郡	7500俵	2291.25	31.6%	2	373400	38.2%	2	2281.8474	39.0%	2	0	0.0%	0	0.0%	177550貫目	2464.394	65.5%	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17760	66.1%	1	1381.6252	52.2%	1		
意宇郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		1015	33.6%	2	1127.665	28.8%	2	0	0.0%	5810俵	3103.55	85.5%	1	18256	99.1%	1	3548.9664	99.3%	1	0	0.0%	0	0.0%		
楳嶺郡	1620貫目	121.5	1.7%	4	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		1391罎	270.4722	7.2%	4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
出雲郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
仁多郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
大原郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
萩佐郡	1630俵	1811.11	25.0%	3	683070	61.8%	1	3588.1642	61.0%	1	0	0.0%	0	0.0%	17480貫目	713.7667	19.0%	2	0	0.0%			165	0.0%	2	25.2083	0.7%	2	9100	33.9%	2	1263.8889	47.8%	2
萩石郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
島根郡	31075155升	3024.0766	41.7%	1	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%	8066貫目	313.6777	8.3%	3	不明	525.0555	14.5%	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
松江	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
能義郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		2003	66.4%	1	2784.17	71.2%	1	0	0	0.0%	0	0.0%			0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
合計	7247.9366	100.0%			976470	100.0%		5850.0116	100.0%		3918	100.0%		3911.835	100.0%		3762.3106	100.0%		3628.6055	100.0%		18421	100.0%		3574.1747	100.0%		26860	100.0%		2645.5141	100.0%	

出典：表 1 に同じ。

表 9 出雲地域における共道湖水産物郡別生産物・生産額

郡名	白魚				鯉				鯉				鯉				鯉								
	生産量(石)	割合	生産額(円)	割合	生産量(尾)	割合	生産額(円)	割合	生産量(貫目)	割合	生産額(円)	割合	生産量(石)	割合	生産額(円)	割合	生産量(尾)	割合	生産額(円)	割合	生産量(貫目)	割合	生産額(円)	割合	
神門郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
意宇郡	22	26.2%	2	91.674	18.1%	2		0	0.0%	700	69.0%	1	388.885	68.9%	1		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
楳嶺郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
出雲郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
仁多郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	15	1.5%	3	16.6666	2.9%	3		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
大原郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
秋鹿郡		0	0.0%		0	0.0%	2	61.1111	10.9%	2		0	0.0%		180	100.0%	1		0	0.0%		0	0.0%		
萩郡		0	0.0%		0	0.0%			0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%
萩石郡		0	0.0%		0	0.0%			0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%
島根郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
松江	62	73.8%	1	413.765	81.9%	1	501.9975		300	29.5%	2	166.125	29.1%	2		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		
能美郡		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
合計	84	100.0%		505.459	100.0%		563.086		1015	100.0%		571.6766		180	100.0%		17.5	100.0%		13.15	100.0%		4.379	100.0%	

出典：表 1 に同じ。

表 10 出雲地域における牛馬皮など産物郡別生産量・生産額

郡名	牛馬皮				鹿皮				狸皮			
	生産量(枚)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(枚)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位
神門郡	100	26.5%	2	111.11	9.2%	4	100	64.1%	1	5.55	26.3%	2
意宇郡	7	1.9%	5	14	1.2%	5	0	0.0%		0	0.0%	
楳嶺郡	0	0.0%		0	0.0%		56	35.9%	2	15.556	73.7%	1
出雲郡	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
仁多郡	83	22.0%	3	184.4425	15.3%	2	0	0.0%		0	0.0%	
大原郡	108	28.6%	1	120.96	10.0%	3	0	0.0%		120	100.0%	1
秋鹿郡	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
萩石郡	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
島根郡	80	21.2%	4	777.7777	64.4%	1	0	0.0%		0	0.0%	
松江	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
能義郡	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
合計	378	100.0%		1208.2902	100.0%		156	100.0%		21.106	100.0%	

出典：表 1 に同じ。

表11 出雲地域における主たる林産物郡別生産量・生産額

郡名	薪				炭					
	生産量(實目)	割合	順位	生産額代価(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位
神門郡	1130000	4.0%	5	7220.70	8.8%	4	500000貫目	18055.5555	37.9%	2
意宇郡	686144	2.4%	6	2662.279	3.3%	7	81603俵	28332.5626	59.5%	1
楯縫郡	217105	0.8%	9	1809.2083	2.2%	9	0	0	0.0%	
出雲郡	139850	0.5%	10	776.1675	0.9%	10	0	0	0.0%	
仁多郡	7352900	25.8%	2	16339.6143	20.0%	2	0	0	0.0%	
大原郡	1570000	5.5%	4	7410.4	9.1%	3	107826貫目	224.601	0.5%	4
秋鹿郡	279750	1.0%	8	1942.7083	2.4%	8	0	0	0.0%	
飯石郡	15141000	53.0%	1	33613.02	41.1%	1	0	0	0.0%	
島根郡	453602	1.6%	7	3147.9979	3.9%	6	0	0	0.0%	
松江	0	0.0%	11	0	0.0%	11	0	0	0.0%	
能義郡	1574280	5.5%	3	6823.8856	8.3%	5	46000貫目	966	2.0%	3
合計	28544631	100.0%		81745.9809	100.0%			47578.7191	100.0%	

出典：表1に同じ。

表12 出雲地域におけるたたら製鉄関連産物郡別生産量・生産額

郡名	炭				鋼				鉄砂(砂鉄)				大炭				小炭			
	生産量(實目)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(實目)	割合	順位	生産量(實目)	割合	順位	生産量(實目)	割合	順位	生産額(円)	生産量	割合	順位	生産額(円)
神門郡	90000	24.8%	2	9000	8.0%	4	12100	8.5%	4	0	0.0%	2	0	0.0%	4	1200	8.1%	4	0	0.0%
意宇郡	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
楯縫郡	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
出雲郡	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
仁多郡	136164	37.5%	1	147564661	40.8%	1	217415	35.4%	1	634132156	44.7%	1	69000	75.3%	1	79.113	2.1%	2	819160	31.0%
大原郡	0	0.0%	0	0.0%	19244	3.5%	3962.298	2.8%	58344	32.6%	2	9075.9926	29.3%	2	0	0.0%	5	150.945	1.0%	5
秋鹿郡	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
飯石郡	88830	24.4%	3	7477.9878	20.7%	3	177814	32.3%	2	384647244	27.1%	2	28615	14.3%	4	2881.6875	9.3%	4	1188444	43.5%
島根郡	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
松江	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0.0%	0
能義郡	4830	13.3%	4	4922.415	13.6%	4	927.00	16.8%	3	23864.5	16.8%	3	5839.1333	18.8%	3	2270	24.6%	2	3745	97.9%
合計	363124	100.0%		361510489	100.0%		551213	100.0%		14744.738	100.0%		178907	100.0%		31003.6524	100.0%		91170	100.0%

出典：表1に同じ。

注1：鉄1塊=30實目、鉄(別製)1塊=50實目、鋼1塊=27實目、鋼鉄1塊=30實目、鉄砂1塊=44實目、小炭1塊=44で計算した。

注2：たたら製鉄業では「大炭」が必要であるが、神門郡、大原郡のそれについては、記載がなかった。

注3：飯石郡の「炭鋼」は、「鋼」として扱う。

表13 出雲地域における主たる鉄加工品産物郡別生産量・生産額

郡名	鉄				能役				鉄大小				鉄				針金				鋼物				鋼			
	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量(実目)	割合	順位	生産額(円)	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量(実目)	割合	順位	生産額(円)	生産量(枚)	割合	順位	生産額(円)	生産量	生産額(円)	割合	順位
神門郡	10000枚	8335.33	68.5%	1	20000挺	7500	70.8%	2	8335.33	4	1111.1111	21.3%	2	10000枚	416.6666	15.3%	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
意宇郡	984枚	273.0334	2.2%	7	0	0	0.0%	9	98500	1.3%	9	45.25	0.9%	9	12170枚	405.636	14.9%	3	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
楯縫郡	186挺	40.8084	0.3%	9	0	0	0.0%	11	0	0.0%	11	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
出雲郡	946挺	392.59	3.2%	3	0	0	0.0%	6	292000	4.2%	6	186.588	3.6%	7	2760枚	115.082	4.2%	7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仁多郡	2550挺	120.4161	1.0%	8	1150挺	383.295	3.6%	3	54600	2.2%	8	1152.8024	22.1%	1	9260枚	771.6636	28.4%	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
大原郡	2970枚	1985	16.3%	2	5588挺	2483.527	23.4%	2	548550	8.0%	5	335.45	6.4%	6	3770枚	230.388	8.5%	6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
秋鹿郡	80挺	31.6867	0.3%	10	0	0	0.0%	10	15000	0.2%	10	9.25	0.2%	10	600挺	31.6667	1.2%	8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
飯石郡	1412挺	372.601	3.1%	4	650挺	216.6645	2.0%	3	1241700	18.0%	3	517.3791	9.9%	5	6128枚	319.2001	11.7%	5	350	63.6%	1	1687.50	88.4%	1	30	5.7%	2	3.771
島根郡	0	0	0.0%	11	0	0	0.0%	8	215000	3.1%	7	138.4022	2.5%	8	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0
松江	710具	280.1467	2.3%	6	0	0	0.0%	0	1924500	27.9%	1	687.135	13.2%	4	470枚	25.3878	0.9%	9	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
能義郡	1100挺+1514枚	341.6557	2.8%	5	5挺+10枚	11.165	0.1%	4	1410200	20.5%	2	1035.2703	19.9%	3	3870挺+6023枚	401.342	14.8%	4	200	36.4%	2	222.2222	11.6%	2	500	94.3%	1	115
合計	12171.818	100.0%			10594.6515	100.0%			6892050	100.0%		5208.6381	100.0%		2717.0428	100.0%			550	100.0%			530	100.0%		4800	100.0%	

出典：表1に同じ。

表14 出雲地域における木綿など産物郡別生産量・生産額

郡名	木綿						綿			
	生産量(反)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位
神門郡	150000	29.9%	2	5283.30	4.2%	4	22500貫目	31249.875	35.4%	1
意宇郡	8746	1.7%	6	2623.8	2.1%	6	5200貫400目	6505	7.4%	6
楯縫郡	204089	40.7%	1	74435.7938	58.5%	1	15245貫600目	7083.98	8.0%	5
出雲郡	84800	16.9%	3	26381.28	20.7%	2	14390貫200目	17389.1136	19.7%	2
仁多郡	210	0.04%	11	64.6665	0.1%	11	9本・3貫500目	79.8597	0.1%	11
大原郡	37500	7.5%	4	12499.875	9.8%	3	7710貫目	10266.664	11.6%	4
秋鹿郡	1350	0.3%	8	506.25	0.4%	8	669貫目	873.4167	1.0%	8
飯石郡	4844	1.0%	7	1580.742	1.2%	7	1604貫600目	1813.9003	2.1%	7
島根郡	250	0.05%	10	83.3333	0.1%	10	289貫300目	321.4444	0.4%	9
松江	8860	1.8%	5	3449.9683	2.7%	5	58貫目	80.5554	0.1%	10
能義郡	736	0.1%	9	291.633	0.2%	9	11076貫720目	12723.5773	14.4%	3
合計	501385	100.0%		127200.6419	100.0%			88387.3864	100.0%	

出典：表1に同じ。

表15 出雲地域における生蠟・櫨実・蠟燭郡別生産量・生産額

郡名	生蠟						櫨						蠟燭			
	生産量(貫目)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(貫目)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位
神門郡	0	0.0%		0	0.0%		52486.17	14.3%	2	3644.6396	14.3%	2	0	0	0.0%	
意宇郡	0	0.0%		0	0.0%		35346.7	9.7%	4	1944.0675	7.6%	4	0	0	0.0%	
楯縫郡	0	0.0%		0	0.0%		10702.3	2.9%	10	594.57222	2.3%	10	0	0	0.0%	
出雲郡	0	0.0%		0	0.0%		10822	3.0%	9	661.2242	2.6%	9	0	0	0.0%	
仁多郡	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%	
大原郡	0	0.0%		0	0.0%		23440	6.4%	6	1627.674	6.4%	6	0	0	0.0%	
秋鹿郡	0	0.0%		0	0.0%		15058	4.1%	8	836.5556	3.3%	8	0	0	0.0%	
飯石郡	0	0.0%		0	0.0%		26232.3	7.2%	5	1455.893	5.7%	5	10貫目	11.11	0.1%	4
島根郡	0	0.0%		0	0.0%		37260	10.2%	3	2587.8899	10.2%	3	700挺	12.6111	0.1%	3
松江	40608	99.0%	1	40608	99.1%	1	136812.43	37.4%	1	11099.77668	43.6%	1	608350挺・3110貫400目	10825.29	91.6%	1
能義郡	400	1.0%	2	375	0.9%	2	17820.1	4.9%	7	998.7073	3.9%	7	7500挺・1999貫200目	971.736	8.2%	2
合計	41008	100.0%		40983	100.0%		365980	100.0%		25451	100.0%			11820.7471	100.0%	

出典：表1に同じ。

注1：1斤＝160目として計算した。

表16 出雲地域における桐油・油木実郡別生産量・生産額

郡名	桐油						油木実（桐油実）					
	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量(石)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位
神門郡	191	9.5%	3	3607.7608	10.1%	3	1080	22.7%	1	4799.952	33.2%	1
意宇郡	346.7	17.2%	2	5585.684	15.7%	2	684	14.4%	4	2374.848	16.4%	2
楯縫郡	88.93	4.4%	7	1408.556	3.9%	7	705.49	14.8%	3	1959.69442	13.6%	3
出雲郡	6.24	0.3%	11	100.5326	0.3%	11	5.4	0.1%	9	28.143	0.2%	9
仁多郡	112.28	5.6%	5	2339.1292	6.6%	4	0	0.0%		0	0.0%	
大原郡	152.85	7.6%	4	2122.934	6.0%	5	839.67	17.7%	2	932.957	6.46%	8
秋鹿郡	110	5.5%	6	1909.7222	5.4%	6	303.7	6.4%	7	940.6264	6.51%	7
飯石郡	49.2	2.4%	8	891.75	2.5%	8	271.26	5.7%	8	941.8689	6.52%	6
島根郡	14.5	0.7%	10	211.6666	0.6%	10	461.42	9.7%	5	1281.8899	8.9%	4
松江	920.6185	45.6%	1	17055.925	47.8%	1	0	0.0%		0	0.0%	
能義郡	25.37	1.3%	9	430.519	1.2%	9	402.13	8.5%	6	1181.445	8.2%	5
合計	2017.6885	100.0%		35664.1794	100.0%		4753.07	100.0%		14441.42462	100.0%	

出典：表1に同じ。

表17 出雲地域における製紙関係産物郡別生産量・生産額

郡名	中折			塵紙						半紙			楮				
	生産量	生産額(円)	割合	順位	生産量(束)	割合	順位	生産額(円)	割合	順位	生産量	生産額(円)	割合	順位	代価(円)	割合	順位
神門郡	10本	50	0.7%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		11.25	0.2%	8
意宇郡	61本	275.354	3.7%	5	23800	57.5%	1	2380	64.1%	1	121丸・21束	505.665	92.4%	1	1185.5	1.8%	5
楯縫郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		0	0.0%	
出雲郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		1020.5	1.5%	6
仁多郡	5560束	926.296	12.5%	3	0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		16957	25.1%	3
大原郡	21335束	4029.968	54.3%	1	7775	18.8%	3	647.891	17.5%	3	447束	31.022	5.7%	2	22922.2	33.9%	1
秋鹿郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		150	0.2%	7
飯石郡	18805束	1611.6384	21.7%	2	9850	23.8%	2	683.984	18.4%	2	0	0	0.0%		22173	32.8%	2
島根郡	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		0	0.0%	
松江	0	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		0	0	0.0%		0	0.0%	
能義郡	7丸半・240束・836本	525.5871	7.1%	4	0	0.0%		0	0.0%		10束・1丸3歩5厘	10.508	1.9%	3	3029	4.5%	4
合計		7418.8435	100.0%		41425	100.0%		3711.875	100.0%			547.195	100.0%		67587.2	100.0%	

出典：表1に同じ。

表18 出雲地域産物郡別生産額

郡名	生産額 (円)	割合	順位
神門郡	398946.0462	17.5%	1
意宇郡	245643.4282	10.8%	4
楮縫郡	173885.8916	7.6%	7
出雲郡	129792.3107	5.7%	10
仁多郡	303527.4565	13.3%	2
大原郡	184670.592	8.1%	6
秋鹿郡	66296.2006	2.9%	11
飯石郡	203989.2197	8.9%	5
島根郡	130145.4593	5.7%	9
松江	147718.6246	6.5%	8
能義郡	297048.7922	13.0%	3
合計	2281664.022	100.0%	

出典：表1に同じ。

注：楮の生産額については、各郡に入れ、松江分については各郡に入れた代価を差し引くというかたちで各郡の産物代価が重複しないように調整した。

表19 神門郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額 (円)	割合	価格 (円)	価格備考	分類	備考
1	米	64823石2斗	180059.4426	45.133783%	2.7777	石ニ付	農産物	
2	綿	22500貫目	31249.875	7.833108%	8.3333	6貫目ニ付	工産物	
3	麦 (大麦)	14502石	24169.0332	6.058221%	1.6666	石ニ付	農産物	
4	炭	500000貫目	18055.5555	4.525814%	0.3611	10貫目ニ付	林産物	
5	酒	2200石	15277.68	3.829510%	6.9444	石ニ付	農産物	
6	鉄 (割鉄)	2200駄	12100	3.032992%	5.50	1駄20貫目ニ付	工産物	
7	銑	3000駄	9000	2.255944%	3	1駄30貫目ニ付	工産物	
8	鉄	10000枚	8333.33	2.088836%	83.3333	100枚ニ付	工産物	
9	大豆	1440石	7999.99	2.005281%	5.5555	石ニ付	農産物	
10	稲扱	20000挺	7500	1.879953%	0.375	1挺ニ付	工産物	
11	薪	1130000貫目	7220.70	1.809944%	0.0639	10貫目ニ付	林産物	
12	小炭	200石	6110	1.531535%	0.3055	大柁1升ニ付	工産物	
13	板	20000間	5555.40	1.392519%	2.7777	10間ニ付	林産物	
14	木綿	150000反	5283.30	1.324314%	34.7222	100反ニ付	工産物	
15	油木実 (桐油実)	1080石	4799.952	1.203158%	4.4444	石ニ付	工産物	
16	榧	52486貫170目	3644.6396	0.913567%	0.6944	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり
17	酢	1000石	3611.11	0.905162%	3.6111	石ニ付	農産物	
18	桐油	191石	3607.7608	0.904323%	18.8888	石ニ付	農産物	
19	里芋	1320石	3300	0.827180%	2.50	石ニ付	農産物	
20	材木	400000才	3111	0.779805%	0.2488	32才ニ付	林産物	
21	塩	4200石	2916.48	0.731046%	0.69044	石ニ付	農産物	
22	醤油	780石	2599.974	0.651711%	3.3333	石ニ付	農産物	
23	小豆	450石	2499.975	0.626645%	5.5555	石ニ付	農産物	
24	生鰯	177550貫目	2464.394	0.617726%	0.1388	10貫目ニ付	水産物	
25	干鰯	7500表	2291.25	0.574326%	0.3055	4斗入1俵ニ付	水産物	
26	生鰯鯖	373400尾	2281.8474	0.571969%	0.6111	100尾ニ付	水産物	
27	瓦	200000枚	1944.44	0.487394%	9.7222	1000枚ニ付	工産物	
28	生鰻 (鰻)	134500尾	1856	0.465251%	0.0188	1尾ニ付	水産物	
29	小麦	480石	1733.328	0.434477%	3.6111	石ニ付	農産物	
30	塩鰯鯖	17760貫目	1381.6252	0.346319%	0.7777	10貫目ニ付	水産物	
31	鉄砂 (砂鉄)	8000駄	1200	0.300793%	0.15	24貫目1駄ニ付	工産物	
32	釘大小	1000000本	1111.1111	0.278512%	11.11	10000ニ付	工産物	
33	葉藍	4000貫目	1111.08	0.278504%	2.7777	10貫目ニ付	工産物	
34	干鰻 (鰻)	3110貫目	950.2605	0.238193%	3.5555	10貫目ニ付	水産物	
35	蕎麦	250石	833.325	0.208882%	3.3333	石ニ付	農産物	
36	椿油	13石5斗	824.9995	0.206795%	9.7222	2斗入1挺ニ付	農産物	
37	蜜柑	570000	791.616	0.198427%	1.3888	1000ニ付	農産物	
38	椿油実	72石	759.996	0.190501%	10.5555	石ニ付	農産物	
39	薩摩芋	30000貫目	666.66	0.167105%	0.2222	10貫目ニ付	農産物	
40	和布	2260貫目	627.7772	0.157359%	2.7777	10貫目ニ付	水産物	
41	豌豆	225石	624.9825	0.156658%	2.7777	石ニ付	農産物	
42	種油	16石	622.2208	0.155966%	38.8888	石ニ付	農産物	
43	生糸	17貫目	613.8887	0.153878%	36.1111	1貫目ニ付	工産物	
44	空豆 (夏豆・蚕豆)	200石	555.54	0.139252%	2.7777	石ニ付	農産物	
45	柿	200000	555.54	0.139252%	2.7777	1000石ニ付	農産物	
46	鰯	1080貫目	540	0.135357%	5	10貫目ニ付	水産物	
47	桃	345000	479.136	0.120100%	1.3888	1000石ニ付	農産物	
48	煙草	8000斤	444.44	0.111404%	5.5555	100斤ニ付	工産物	
49	鎌	10000枚	416.6666	0.104442%	4.1666	100枚ニ付	工産物	
50	干魚	2000貫目	305.54	0.076587%	1.5277	10貫目ニ付	水産物	
51	筵	10000枚	277.78	0.069628%	2.7778	100枚ニ付	工産物	
52	菜種	60石	249.996	0.062664%	4.1666	石ニ付	農産物	
53	胡麻油	25石	243.055	0.060924%	9.7222	石ニ付	農産物	
54	粟	60石	216.666	0.054310%	3.6111	石ニ付	農産物	
55	上茶	500斤	208.3333	0.052221%	41.6666	100斤ニ付	農産物	
56	生烏賊	2280貫目	189.9924	0.047624%	0.8333	10貫目ニ付	水産物	
57	塩鱈	1200貫目	173.328	0.043446%	1.4444	10貫目ニ付	水産物	
58	生鱈	1800貫目	159.984	0.040102%	0.8888	10貫目ニ付	水産物	
59	渡海苔	1000束	138.80	0.034792%	0.1388	1束ニ付	水産物	
60	胡麻	30石	124.998	0.031332%	4.1666	石ニ付	農産物	
61	海苔	146貫目	121.6618	0.030496%	8.333	10貫目ニ付	水産物	
62	梨子	20000	111.11	0.027851%	5.5555	1000石ニ付	農産物	
63	牛馬皮 (牛皮)	100枚	111.11	0.027851%	1.1111	1枚ニ付	動物	
64	荒布	4700貫目	104.4344	0.026178%	0.2222	10貫目ニ付	水産物	
65	梅	50石	69.44	0.017406%	1.3888	石ニ付	農産物	
66	黍	60石	66.666	0.016711%	1.1111	石ニ付	農産物	
67	生鮓	4380尾	60.8294	0.015248%	1.3888	100尾ニ付	水産物	
68	傘	300本	53.331	0.013368%	1.7777	10本ニ付	工産物	
69	中折 (紙)	10本	50	0.012533%	5	1本25束入ニ付	工産物	
70	下茶	5000斤	41.665	0.010444%	0.8333	100斤ニ付	農産物	
71	生鮓	1000尾	33.3333	0.008355%	3.3333	100尾ニ付	水産物	
72	香茸 (皮茸・河茸)	300斤	26.664	0.006684%	0.8888	10斤ニ付	農産物	
73	葛根	200斤	21.10	0.005289%	0.1055	1斤ニ付	農産物	
74	獨活	300斤	20.82	0.005219%	0.0694	1斤ニ付	農産物	
75	心太草	48貫目	19.333	0.004846%	4.0277	10貫目ニ付	水産物	
76	稗	20石	16.666	0.004178%	0.8333	石ニ付	農産物	
77	椎茸	5貫目	13.885	0.003480%	0.2777	100目1升ニ付	農産物	
78	楮	150貫目	11.25	0.002820%	0.75	10貫目ニ付	工産物	
79	櫻侶皮	4400枚	6.1112	0.001532%	1.3889	1000枚ニ付	その他	
80	鹿皮	100枚	5.55	0.001391%	0.2555	1枚ニ付	動物	
81	桔梗	50斤	3.885	0.000974%	0.0777	1斤ニ付	農産物	
82	蕃薯	20貫目	0.611	0.000153%	0.3055	10貫目ニ付	農産物	
83	海素麵	5貫目	0.348	0.000087%	0.0696	1貫目ニ付	水産物	
84	山葵	5貫目	0.3472	0.000087%	0.0696	1貫目ニ付	農産物	
合計			398946.0462	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表20 意宇郡産物内訳（松江を除く）

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	41184石8斗	110704.742	45.067252%	2.688	石ニ付	農産物	
2	炭	81603俵	28332.5626	11.534020%	3.472	100貫目10俵ニ付	林産物	
3	麦（大麦）	8591石6斗7升	14322.314	5.830530%	1.667	石ニ付	農産物	
4	綿	5200貫400目	6505	2.648147%	7.5	6貫目ニ付	工産物	
5	桐油	346石7斗	5585.684	2.273899%	16.111	石ニ付	農産物	
6	酒	1150石	5452.91	2.219848%	4.722	石ニ付	農産物	
7	大豆	1176石	5226.144	2.127533%	4.444	石ニ付	農産物	
8	大根	2537400本	4922.556	2.003944%	0.154	100本ニ付	農産物	
9	薩摩芋	154017貫目	4281.6726	1.743044%	0.278	10貫目ニ付	農産物	
10	海老	18256貫目	3548.9664	1.444763%	19.44	100貫目ニ付	水産物	
11	煙草	59585斤	3309.947	1.347460%	5.555	100斤ニ付	工産物	
12	小雑魚・雑魚	5610荷	3103.55	1.263437%	0.555	1荷ニ付	水産物	
13	鰯	350000尾	2915.5	1.186883%	0.833	100尾ニ付	水産物	
14	薪	686144貫目	2662.279	1.083798%	0.388	100貫目ニ付	林産物	
15	木綿	8746反	2623.8	1.068134%	30	100反ニ付	工産物	
16	小麦	642石4斗	2569.6	1.046069%	4	石ニ付	農産物	
17	小炭	75石9斗4升	2532.308	1.030888%	33.333	石ニ付	工産物	
18	塵紙	23800束	2380	0.968884%	10	100束ニ付	工産物	
19	油木実（桐油実）	684石	2374.848	0.966787%	3.472	石ニ付	工産物	
20	榧	35346貫700目	1944.0675	0.791418%	0.055	1貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり
21	小豆	312石5斗	1735.937	0.706690%	5.555	石ニ付	農産物	
22	粟	740石5斗	1645.391	0.669829%	2.222	石ニ付	農産物	
23	土焼物	58釜半	1634.841	0.665534%	27.946	1釜ニ付	工産物	
24	大小麦藁	217670ㇼ	1510.63	0.614969%	0.694	100ㇼニ付	農産物	
25	空豆(夏豆・蚕豆)	695石2斗	1390.4	0.566024%	2	石ニ付	農産物	
26	蕎麦	389石7斗	1353.038	0.550814%	3.472	石ニ付	農産物	
27	菜種	285石7斗	1269.651	0.516867%	4.444	石ニ付	農産物	
28	赤貝	1015石	1127.665	0.459066%	1.111	石ニ付	水産物	
29	西瓜	12000	1080	0.439662%	9	100ニ付	農産物	
30	鱈	28000	777.784	0.316631%	27.778	1000ニ付	水産物	
31	里芋	368石4斗	716.17	0.291549%	1.944	石ニ付	農産物	
32	南蛮黍	412石	704.038	0.286610%	1.708	石ニ付	農産物	
33	石細工	8915駄	668.625	0.272193%	7.5	100駄ニ付	工産物	
34	柿	535351	642.421	0.261526%	0.694	1000ニ付	農産物	
35	醬油	112石5斗	624.937	0.254408%	5.555	石ニ付	農産物	
36	酢	113石5斗	624.937	0.254408%	4.583	石ニ付	農産物	
37	黍	252石7斗	526.374	0.214284%	2.083	石ニ付	農産物	
38	蕪	511100本	511.1	0.208066%	0.1	100ニ付	農産物	
39	種油	15石3斗	509.995	0.207616%	33.333	石ニ付	農産物	
40	半紙	121丸21束	505.665	0.205853%	4.167	1丸60束入ニ付	工産物	
41	瓦	121120枚	504.5859	0.205414%	4.166	1000枚ニ付	工産物	
42	茄子	671000	503.25	0.204870%	0.075	100ニ付	農産物	
43	端折紙	330貫目	458.33	0.186583%	138.888	100貫目ニ付	工産物	
44	桑原紙	532貫目	458.052	0.186470%	86.1	100貫目ニ付	工産物	
45	縄	5500束	427.09	0.173866%	0.778	10束ニ付	工産物	
46	鎌	12170枚	405.636	0.165132%	3.333	100枚ニ付	工産物	
47	葱	101200抱	404.8	0.164792%	0.4	100抱ニ付	農産物	
48	菅笠	14365枚	398.916	0.162396%	2.777	100枚ニ付	工産物	
49	鰻	700貫目	388.885	0.158313%	55.555	100貫目ニ付	水産物	
50	豌豆	153石4斗	383.5	0.156121%	2.5	石ニ付	農産物	
51	蜜柑	590600	330.78	0.134659%	0.555	1000ニ付	農産物	
52	麻苧	287貫550目	319.497	0.130065%	11.111	10貫目ニ付	工産物	
53	牛蒡（牛房）	350000本	290.5	0.118261%	0.083	100本ニ付	農産物	
54	虫居虫者	50000杯	277.5	0.112969%	5.555	1000杯ニ付	水産物	
55	中折	61本	275.354	0.112095%	4.514	1本25束入ニ付	工産物	
56	鋏	985枚	273.6034	0.111382%	27.777	100枚ニ付	工産物	
57	黒鯛	9000尾	250.02	0.101782%	2.778	100尾ニ付	水産物	
58	蟹付（油）	1260斤	244.44	0.099510%	0.194	1斤ニ付	工産物	
59	荒苧	668貫500目	232.103	0.094488%	3.472	10貫目ニ付	工産物	
60	麻核苧	226貫600目	226.6	0.092248%	10	10貫目ニ付	工産物	
61	馬馳紙	168貫目	219.332	0.089289%	130.555	100貫目ニ付	工産物	
62	板	1014軒	211.2162	0.085985%	0.283	10間ニ付	林産物	
63	蓆	18000抱	180	0.073277%	1	100抱ニ付	農産物	
64	傘	1066本	171.626	0.069868%	1.61	10本ニ付	工産物	
65	草履	45800足	170.834	0.069546%	0.373	100足ニ付	工産物	
66	葉藍	422貫目	164.1158	0.066811%	38.889	100貫目ニ付	工産物	
67	津久芋	1200貫目	132.12	0.053785%	1.101	10貫目ニ付	農産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
68	筍	3195貫目	106.394	0.043312%	0.333	10貫目ニ付	農産物	
69	焼酎	15石5斗	104.163	0.042404%	8.333	石ニ付	農産物	
70	木履	1505足	103.845	0.042275%	0.069	1足ニ付	工産物	
71	箱折紙	8丸15束	93.055	0.037882%	0.111	1丸40束入ニ付	工産物	
72	白魚	22石	91.674	0.037320%	4.167	石ニ付	水産物	
73	上茶生葉	683貫目	85.375	0.034756%	12.5	100貫目ニ付	農産物	
74	瓜	37000	82.14	0.033439%	0.222	100ニ付	農産物	
75	ソウキ（ザルカ）	1200	80.004	0.032569%	6.667	100ニ付	工産物	
76	焼物ほうろく	7200	80	0.032568%	11.111	1000ニ付	工産物	
77	線香	3550束	78.881	0.032112%	2.222	100抱ニ付	工産物	
78	竹	1552荷	77.6	0.031591%	0.5	10荷ニ付	林産物	
79	木瓜	215000本	77.4	0.031509%	0.036	100本ニ付	農産物	
80	下駄	3862足	77.2	0.031428%	0.02	1足ニ付	工産物	
81	梨子	25717	77.151	0.031408%	3	1000ニ付	農産物	
82	草蓐	913050抱	76.057	0.030962%	0.833	100抱ニ付	農産物	
83	茗荷	35000	74.25	0.030227%	0.055	100ニ付	農産物	
84	草鞋	25620足	70.39	0.028655%	0.278	100足ニ付	工産物	
85	ランキョウ	125石	69.375	0.028242%	0.555	石ニ付	農産物	
86	糠	138石5斗	69.25	0.028191%	0.5	石ニ付	農産物	
87	生糸	2貫目	66.666	0.027139%	33.333	1貫目ニ付	工産物	
88	茂屋木	9306抱	64.584	0.026292%	0.694	100抱ニ付	その他	
89	材木	12710才	56.4	0.022960%	0.142	32才ニ付	林産物	
90	陶焼こん爐	2000	50	0.020355%	25	1000ニ付	工産物	
91	上茶	220斤	48.888	0.019902%	22.222	100斤ニ付	農産物	
92	足袋	690足	47.8722	0.019488%	6.938	100足ニ付	工産物	
93	胡麻	9石4斗	47	0.019133%	5	石ニ付	農産物	
94	釘大小	90500本	45.25	0.018421%	5	10000本ニ付	工産物	
95	鋤柄	501本	41.984	0.017091%	0.838	10本ニ付	工産物	
96	人參	35000本	38.85	0.015816%	0.111	100本ニ付	農産物	
97	桃	44497	37.066	0.015089%	0.833	1000ニ付	農産物	
98	稗	40石	33.32	0.013564%	0.833	石ニ付	農産物	
99	櫻侶皮	3014枚	30.14	0.012270%	1	100枚ニ付	その他	
100	渋柿	42石7斗	29.634	0.012064%	0.694	石ニ付	農産物	
101	麻布	449反	28.687	0.011678%	6.389	100反ニ付	工産物	
102	梅	45石7斗	25.592	0.010418%	0.56	石ニ付	農産物	
103	下茶	72石(1439斤1分)	21.06	0.008573%	0.3	100斤ニ付	農産物	
104	石灰	20石	20	0.008142%	1	石ニ付	工産物	
105	椿油実	2石8斗	17.3386	0.007058%	8.333	石ニ付	農産物	
106	柚子	12381	17.185	0.006996%	1.388	1000ニ付	農産物	
107	楮	1185貫500目	16.597	0.006757%	0.014	1貫目ニ付	工産物	
108	松茸	140貫目	15.26	0.006212%	0.109	1貫目ニ付	農産物	
109	牛馬皮（牛皮）	7枚	14	0.005699%	2	1枚ニ付	動物	
110	荷棒	265本	11.766	0.004790%	0.444	10本ニ付	工産物	
111	芡連（芡実カ）	55斤	11.4565	0.004664%	20.83	100斤ニ付	農産物	
112	葛根	100斤	9.9	0.004030%	0.069	1斤ニ付	農産物	
113	付木	4170束	7.8497	0.003196%	0.188	100束ニ付	林産物	
114	木切	20挺	6.6666	0.002714%	33.333	100挺ニ付	工産物	
115	斧	30挺	6	0.002443%	20	100挺ニ付	工産物	
116	鱧	2080尾	5.782	0.002354%	0.278	100尾ニ付	水産物	
117	庖丁	60枚	5.5005	0.002239%	9.167	100枚ニ付	工産物	
118	蜆	13石1斗5升	4.379	0.001783%	0.333	石ニ付	水産物	
119	櫻侶縄	43束	4.3	0.001751%	1	10束ニ付	その他	
120	蕒活	80斤	4.1712	0.001698%	5.214	100斤ニ付	その他	
121	生鮎	750尾	2.917	0.001187%	0.389	100尾ニ付	水産物	
122	忍冬	100斤	2.78	0.001132%	0.278	10斤ニ付	農産物	
123	椎茸	4貫600目	2.5576	0.001041%	0.556	1貫目ニ付	農産物	
124	木通	80斤	2.224	0.000905%	0.278	10斤ニ付	農産物	
125	李	5斗1升	1.428	0.000581%	2.8	石ニ付	農産物	
126	獨活	20斤	1.39	0.000566%	6.95	100斤ニ付	農産物	
127	小城書カ	20束	1.333	0.000543%	6.666	1丸60束入ニ付	工産物	
128	桃燈	80張	0.88	0.000358%	0.11	10張ニ付	工産物	
129	鮭	10尾	0.833	0.000339%	8.333	100尾ニ付	水産物	
130	鈔	3斗	0.833	0.000339%	2.777	石ニ付	水産物	
131	蒟蒻（玉）	700目	0.1169	0.000048%	0.167	1貫目ニ付	農産物	
132	松脂	56斤	0.05	0.000020%	0.09	100斤ニ付	林産物	
合計			245643.4282	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表21 榧縫郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	木綿	204089反	74435.7938	42.807265%	36.4722	100反ニ付	工産物	
2	米	23560石3斗5合1勺	58900.7627	33.873227%	2.5	石ニ付	農産物	
3	綿	15245貫600目	7083.98	4.073925%	0.4528	1貫目ニ付	工産物	
4	麦(大麦)	3489石2斗1升1合	6784.5769	3.901741%	1.9446	石ニ付	農産物	
5	油木実(桐油実)	705石4斗9升	1959.69442	1.127000%	2.7772	石ニ付	工産物	
6	生鯛(鯛・鯛之類)	6990貫目	1941.66667	1.116633%	2.7777	10貫目ニ付	水産物	
7	薪	217105貫目	1809.2083	1.040457%	0.08333	10貫目ニ付	林産物	
8	塩鯖	10430貫匁	1783.3333	1.025577%	1.6667	10貫目ニ付	水産物	
9	葉藍	3220貫500目	1610.25	0.926038%	5	10貫目ニ付	工産物	
10	大豆	256石3斗3升	1424.995	0.819500%	5.5556	石ニ付	農産物	
11	桐油	88石9斗3升	1408.556	0.810046%	15.8333	石ニ付	農産物	
12	生鯖	1883溜	1307.6389	0.752010%	0.6944	1溜ニ付	水産物	
13	塩鰯	7330貫目	1018.0539	0.585472%	1.3889	10貫目ニ付	水産物	
14	生鰯	1273溜	884.0278	0.508395%	0.6944	1溜ニ付	水産物	
15	大根	566198本	776.3864	0.446492%	0.0014	1本ニ付	農産物	
16	下駄	25600足	711.1011	0.408947%	0.02777	1足ニ付	工産物	
17	生鰯	3416貫目	664.2222	0.381987%	1.9444	10貫目ニ付	水産物	
18	櫛	10702貫300目	594.57222	0.341932%	0.5556	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり
19	琉球芋(薩摩芋)	36198貫目	502.75	0.289126%	0.1388	10貫目ニ付	農産物	
20	干鰯	1173貫目	472.3666	0.271653%	0.3194	1貫目ニ付	農産物	
21	鯖松	33100貫目	459.1282	0.264040%	0.1389	10貫目ニ付	その他	
22	里芋	199石6斗7升5合	443.7226	0.255180%	0.5556	升ニ付	農産物	
23	柿	219250	426.3194	0.245172%	1.9445	1000ニ付	農産物	
24	塩鰯	1829貫500目	406.5556	0.233806%	2.2222	10貫目ニ付	水産物	
25	鰯	1327貫目	331.75	0.190786%	2.5	10貫目ニ付	水産物	
26	豆腐	94500挺	315	0.181153%	0.0033	1挺ニ付	農産物	
27	蕎麦	74石6斗3升	310.9583	0.178829%	4.1667	石ニ付	農産物	
28	鬘付(油)	1675斤	288.7444	0.166054%	0.164	1斤ニ付	工産物	
29	小豆	45石8斗3升	286.4375	0.164727%	6.25	石ニ付	農産物	
30	鰻	8000尾	278.8889	0.160386%	0.03486	1尾ニ付	水産物	
31	生鰯	1391溜	270.4722	0.155546%	0.1944	1溜ニ付	水産物	
32	蕪	231772	224.81884	0.129291%	0.00097	1ツニ付	農産物	
33	和布	1807束	200.577	0.115350%	0.111	束ニ付	水産物	
34	小炭	1370俵	190.2778	0.109427%	0.1389	俵ニ付	工産物	
35	酢	54石5斗	181.6667	0.104475%	3.3333	石ニ付	農産物	
36	小麦	71石7斗7升	179.425	0.103185%	2.5	石ニ付	農産物	
37	梨子	56720	157.5556	0.090609%	2.7778	1000ニ付	農産物	
38	海苔	160貫目	133.3333	0.076679%	8.3333	10貫目ニ付	水産物	
39	蜜柑	159300	132.75	0.076343%	0.8334	1000ニ付	農産物	
40	種油	4石8斗6合	126.7582	0.072897%	26.375	石ニ付	農産物	
41	生鳥賊	536貫目	126.555	0.072780%	2.3611	10貫目ニ付	水産物	
42	鱈	1000尾	125	0.071886%	0.1215	1尾ニ付	水産物	
43	干鰯	1620貫目	121.5	0.069873%	0.75	10貫目ニ付	水産物	
44	煙草	2299斤	114.95	0.066107%	5	100斤ニ付	工産物	
45	黍	75石7斗6升9合	113.6535	0.065361%	1.5	石ニ付	農産物	
46	漉海苔	855束	106.877	0.061464%	1.25	100把ニ付	水産物	
47	材木	24620才	102.5833	0.058995%	0.00416	1才ニ付	林産物	
48	傘	850本	102	0.058659%	12	100本ニ付	工産物	
49	胡麻油	3石2斗9升6合	101.883	0.058592%	33.6888	石ニ付	農産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
50	薯蕷（長芋）	520貫500目	101.2082	0.058204%	0.1944	1貫目ニ付	農産物	
51	鰯	601貫目	100.164	0.057603%	1.6666	10貫目ニ付	水産物	
52	椿油	2石6斗7升	95.8604	0.055128%	35.90277	石ニ付	農産物	
53	テンヤ草	156貫800目	87.1111	0.050097%	5.5555	10貫目ニ付	水産物	
54	茄子	144940	72.47	0.041677%	0.0005	1ツニ付	農産物	
55	豌豆	39石8斗9升	69.2535	0.039827%	1.7361	石ニ付	農産物	
56	空豆（夏豆・蚕豆）	39石4斗4升	68.4722	0.039378%	1.7661	石ニ付	農産物	
57	胡麻	8石4升8合	67.0667	0.038569%	8.3334	石ニ付	農産物	
58	粟	40石7斗9升5合	61.1925	0.035191%	1.5	石ニ付	農産物	
59	生鰯（鮑）	353貫目	56.8133	0.032673%	1.6666	10貫目ニ付	水産物	
60	栄螺	821貫目	45.6111	0.026230%	0.5556	10貫目ニ付	水産物	
61	鉄	186挺	40.8084	0.023468%	0.2194	1挺ニ付	工産物	
62	揚豆腐	17910切	39.8	0.022889%	0.0022	1切ニ付	農産物	
63	饅頭	45500	37.9167	0.021806%	0.0833	100ニ付	農産物	
64	干蓬	782貫目	37.7967	0.021736%	0.4833	10貫目ニ付	水産物	
65	荒布	2578貫目	36.3	0.020876%	0.1667	10貫目ニ付	水産物	
66	竹	6322本	35.122	0.020198%	0.00555	1本ニ付	林産物	
67	桃燈	30張	29.4444	0.016933%	5.56	10張ニ付	工産物	
68	蒟蒻（玉）	12900挺	28.6667	0.016486%	0.0022	1挺ニ付	農産物	
69	鉄柄	460本	28.3028	0.016277%	0.0615	1本ニ付	工産物	
70	干藻草	5000貫目	27.77778	0.015975%	0.05555	10貫目ニ付	水産物	
71	焼酎	2石7斗	26.25	0.015096%	9.7222	石ニ付	農産物	
72	梅	16石1斗3升	25.0911	0.014430%	1.5556	石ニ付	農産物	
73	生鯉鮓海老雑候	不明	23.33333	0.013419%	19.44	不明	水産物	
74	煎茶	50斤	22.2222	0.012780%	0.4444	斤ニ付	農産物	
75	焼麩	15000	20.8333	0.011981%	0.00138	1ツニ付	農産物	
76	菜種	2石8升3升6合	19.6944	0.011326%	6.9445	石ニ付	農産物	
77	芹	8000把	17.7778	0.010224%	0.0022	1把ニ付	農産物	
78	鹿皮	56枚	15.556	0.008946%	0.2778	1枚ニ付	工産物	
79	蓬（艾）	10貫目	13.8889	0.007987%	0.1388	100目ニ付	水産物	
80	瓦	25坪	13.8889	0.007987%	0.5556	1坪ニ付	工産物	
81	筵	480枚	13.3333	0.007668%	0.0278	100枚ニ付	工産物	
82	木瓜	17984本	10.7904	0.006205%	0.0006	1本ニ付	農産物	
83	鯛	13貫目	10.1111	0.005815%	7.77777	10貫目ニ付	水産物	
84	大角豆	5石9升	7.635	0.004391%	1.5	石ニ付	農産物	
85	海素麵	6貫790目	7.5444	0.004339%	1.11111	1貫目ニ付	水産物	
86	番茶	47斤9歩6厘	6.3947	0.003678%	0.1334	斤ニ付	農産物	
87	牛蒡（牛房）	3665本	6.10833	0.003513%	0.1667	100本ニ付	農産物	
88	花の木	18荷	5	0.002875%	0.2778	1荷ニ付	農産物	
89	松茸	11貫850目	4.942	0.002842%	0.04166	100目ニ付	農産物	
90	瓜	1174	4.8916	0.002813%	0.00416	1ツニ付	農産物	
91	椿油実	3斗3升	2.77	0.001593%	8.3333	石ニ付	農産物	
92	をこ	30貫目	2.500	0.001438%	0.0833	1貫目ニ付	その他	
93	越後芋	11貫500目	1.5572	0.000896%	0.1389	1貫目ニ付	農産物	
94	唐胡麻	6斗	1.5	0.000863%	2.5	石ニ付	農産物	
95	干瓢	2貫500目	1.0416	0.000599%	0.41666	1貫目ニ付	農産物	
合計			173885.8916	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表22 出雲郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	23021石8斗5升7合6勺	57554.6442	44.343647%	2.5	石ニ付	農産物	
2	木綿	84800反	26381.28	20.325765%	31.11	100反ニ付	工産物	
3	綿	14390貫200目	17389.1136	13.397645%	7.25	6貫目ニ付	工産物	
4	大根	2647900本	5957.775	4.590237%	2.25	1000本ニ付	農産物	
5	麦(大麦)	4504石8斗5升	5631.0625	4.338518%	1.25	石ニ付	農産物	
6	梨子	360590	2974.8675	2.292021%	8.25	1000ニ付	農産物	
7	大豆	331石1斗9升	1838.1045	1.416189%	5.55	石ニ付	農産物	
8	酒	316石5斗	1538.19	1.185116%	4.86	石ニ付	農産物	
9	葉藍	2229貫目	1114.5	0.858680%	5	10貫目ニ付	工産物	
10	小麦	266石3斗2升	1109.75544	0.855024%	4.167	石ニ付	農産物	
11	薪	139850貫目	776.1675	0.598007%	0.0555	10貫目ニ付	林産物	
12	蕪	849940本	708	0.545487%	0.833	1000本ニ付	農産物	
13	櫛	10822貫目	661.2242	0.509448%	0.611	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり
14	干饅飩	1926貫目	625.95	0.482270%	3.25	10貫目ニ付	農産物	
15	里芋	271石4斗	610.65	0.470482%	2.25	石ニ付	農産物	
16	小豆	76石4斗4升	530.4936	0.408725%	6.94	石ニ付	農産物	
17	鰯	946挺	392.59	0.302476%	41.5	100挺ニ付	工産物	
18	葉生姜	46430把	383.0475	0.295123%	8.25	1000把ニ付	農産物	
19	蕎麦	94石2斗6升	377.04	0.290495%	4	石ニ付	農産物	
20	豌豆	101石8升2合	328.5165	0.253109%	3.25	石ニ付	農産物	
21	柿	226360	314.6414	0.242419%	1.39	1000ニ付	農産物	
22	傘	1920本	266.688	0.205473%	13.89	100本ニ付	工産物	
23	空豆(夏豆・蚕豆)	81石1斗7升	263.8025	0.203250%	3.25	石ニ付	農産物	
24	瓜	27230本	190.61	0.146858%	7	1000本ニ付	農産物	
25	釘大小	292000本	186.588	0.143759%	6.39	10000本ニ付	工産物	
26	西瓜	2530	140.668	0.108379%	5.56	100ニ付	農産物	
27	楮	1020貫500目	131.6445	0.101427%	1.29	10貫目ニ付	工産物	
28	松板	362坪	120.5460	0.092876%	3.33	10坪ニ付	林産物	
29	蜜柑	139350ヲ	116.0795	0.089435%	0.833	1000ニ付	農産物	
30	鎌	2760枚	115.092	0.088674%	4.17	100枚ニ付	工産物	
31	大角豆	26石5斗1升	110.5467	0.085172%	4.17	石ニ付	農産物	
32	桐油	6石2斗4升	100.5326	0.077457%	16.111	石ニ付	農産物	
33	胡麻	11石7升5合	91.36875	0.070396%	8.25	石ニ付	農産物	
34	菜種	20石6斗8升5合	77.5697	0.059764%	3.75	石ニ付	農産物	
35	黍	35石1斗3升	70.26	0.054133%	2	石ニ付	農産物	
36	瓦	7400枚	61.05	0.047037%	8.25	1000枚ニ付	工産物	
37	筵	1870枚	60.775	0.046825%	3.25	100枚ニ付	工産物	
38	葉煙草	5561斤	56.82	0.043778%	2.82	100斤ニ付	工産物	
39	粟	24石8斗2升	55.855	0.043034%	2.25	石ニ付	農産物	
40	上茶	165斤	55.275	0.042587%	33.5	100斤ニ付	農産物	
41	醬油	14石	54.46	0.041959%	3.89	石ニ付	農産物	
42	梅	38石9升	53.3621	0.041113%	1.39	石ニ付	農産物	
43	酢	10石	41.7	0.032128%	4.17	石ニ付	農産物	
44	下茶	100石3斗1升	28.878	0.022249%	0.28	石ニ付	農産物	
45	油木実(桐油実)	5石4斗	28.143	0.021683%	5.31	石ニ付	工産物	
46	薩摩芋	582貫目	24.2694	0.018699%	0.417	10貫目ニ付	農産物	
47	付木	2300束	19.1590	0.014761%	0.8333	100束ニ付	林産物	
48	小黍	9石4斗3升	18.95	0.014600%	2	石ニ付	農産物	
49	出西石	200荷	13.8	0.010632%	0.069	1荷ニ付	工産物	
50	火打石	150貫目	12.5	0.009631%	0.1333	10貫目ニ付	工産物	
51	栗	3石	10.833	0.008346%	3.611	石ニ付	農産物	
52	椿実	9斗9升	6.871	0.005294%	6.94		農産物	
53	胡麻油	1斗5升	6.6675	0.005137%	8.89	2斗入1挺ニ付	農産物	
54	種油	1斗	3.333	0.002568%	33.33	石ニ付	農産物	
合計			129792.3107	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表23 仁多郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	31199石4斗8升5合	116998.0687	38.546124%	3.75	石ニ付	農産物	
2	鉄(割鉄)	217415貫目	63413.2156	20.892085%	29.1669	100貫目ニ付	工産物	
3	大炭	2749050貫目	19089.4032	6.289185%	0.6944	100貫目ニ付	工産物	
4	薪	7352900貫目	16339.6143	5.383241%	2.2222	100貫目ニ付	林産物	
5	銑	136164貫目	14750.6461	4.859740%	1.0833	10貫目ニ付	工産物	
6	鋼	67921貫目	13206.839	4.351118%	19.4444	100貫目ニ付	工産物	
7	小炭	855石4斗9升	7126.2317	2.347805%	0.0833	大柄1升ニ付	工産物	
8	大根	450000貫目	4999.95	1.647281%	1.1111	100貫目ニ付	農産物	
9	茅簀	20100枚	4466.6622	1.471584%	22.2222	100枚ニ付	工産物	
10	大豆	939石3斗7升	3913.959	1.289491%	4.1666	石ニ付	農産物	
11	麦(大麦)	1785石3斗5升	3481.4325	1.146991%	1.95	石ニ付	農産物	
12	縄	43500束	3020.64	0.995179%	0.6944	10束	工産物	
13	桐油	112石2斗8升	2339.1292	0.770648%	20.0833	石ニ付	工産物	
14	茄子	1800500ツ	2250.625	0.741490%	1.25	1000ニ付	農産物	
15	種油	80石5斗5升	2125.6178	0.700305%	26.3888	石ニ付	工産物	
16	蕪	150000貫目	1666.65	0.549094%	1.1111	100貫目ニ付	農産物	
17	蕎麦	515石2升	1545.06	0.509035%	3	石ニ付	農産物	
18	小豆	367石5斗1升	1531.2671	0.504490%	4.1666	石ニ付	農産物	
19	鉄砂(砂鉄)	819160貫目	1422.0617	0.468512%	0.1736	100貫目ニ付	工産物	
20	煙草	45778斤	1271.5755	0.418933%	2.7777	100斤ニ付	工産物	
21	里芋	738石	1229.95	0.405219%	0.6666	石ニ付	農産物	
22	釘大小	154600本	1152.8024	0.379802%	1.5277	10000本ニ付	工産物	
23	葉藍	2700貫目	1134.982	0.373931%	4.1666	10貫目ニ付	工産物	
24	楮	16957貫目	941.9613	0.310338%	0.5555	10貫目ニ付	工産物	
25	中折	5560束	926.296	0.305177%	0.1666	200枚1束ニ付	工産物	
26	鶏卵	193500ツ	854.6121	0.281560%	4.4166	1000ニ付	農産物	
27	鎌	9260枚	771.6636	0.254232%	8.3333	100枚ニ付	工産物	
28	生糸	23貫290目	743.985	0.245113%	31.9444	1貫目ニ付	工産物	
29	柿	508420ツ	706.0937	0.232629%	1.3888	1000ニ付	農産物	
30	香茸(皮茸)	3075貫目	683.3265	0.225128%	2.2222	10貫目ニ付	農産物	
31	酒	93石	645.8292	0.212775%	6.9444	石ニ付	農産物	
32	草履草鞋	215000足	597.055	0.196705%	0.2777	100足ニ付	工産物	
33	繭	350貫目	583.31	0.192177%	1.6666	1貫目ニ付	農産物	
34	小麦	180石3斗5升	556.0731	0.183204%	3.0833	石ニ付	農産物	
35	野柘実	297石	527.9769	0.173947%	1.7777	石ニ付	農産物	
36	薯蕷(長芋)	2877貫目	479.488	0.157972%	1.6666	10貫目ニ付	農産物	
37	菜種	112石3斗2升	446.1575	0.146991%	3.9722	石ニ付	農産物	
38	稻扱	1150挺	383.30	0.126280%	0.3333	1挺ニ付	工産物	
39	酢	73石3斗	366.5	0.120747%	5	石ニ付	農産物	
40	牛蒡(牛房)	4300貫目	358.319	0.118052%	0.8333	10貫目ニ付	農産物	
41	豌豆	96石5斗4升	303.0197	0.099833%	3.1388	石ニ付	農産物	
42	板	1210間	268.8862	0.088587%	2.2222	10間ニ付	林産物	
43	松脂	96石4斗	267.7702	0.088219%	2.7777	石ニ付	林産物	
44	筵	5110枚	212.9132	0.070146%	4.1666	100枚ニ付	工産物	
45	牛馬皮(牛皮)	83枚	184.4425	0.060766%	2.2222	1枚ニ付	動物	
46	木瓜	129000本	161.25	0.053125%	0.125	100本ニ付	農産物	
47	傘	1154本	160.267	0.052801%	1.3888	10本ニ付	工産物	
48	干蕨	1880貫目	156.6604	0.051613%	0.8333	10貫目ニ付	農産物	
49	猪	21疋	145.8324	0.048046%	6.9444	平均1疋ニ付	動物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
50	木皮	2000貫目	138. 88	0. 045755%	0. 6944	10貫目ニ付	林産物	
51	鹹	270貫目	127. 494	0. 042004%	0. 4722	1貫目ニ付	水産物	
52	黍	52石8斗	126. 8625	0. 041796%	2. 4027	石ニ付	農産物	
53	醬油	22石5斗	124. 9987	0. 041182%	5. 5555	石ニ付	農産物	
54	鋏	2550挺	120. 4161	0. 039672%	4. 7222	100枚ニ付	工産物	
55	瓜	43000本	119. 411	0. 039341%	0. 2777	100本ニ付	農産物	
56	梨子	53696ッ	119. 3232	0. 039312%	2. 2222	1000ニ付	農産物	
57	十露盤	156挺	117	0. 038547%	0. 75	1挺ニ付	工産物	大小あり
58	下茶	272斤	113. 3331	0. 037339%	41. 6666	100斤ニ付	農産物	
59	雉子山鳥	428羽	107	0. 035252%	0. 25	平均1羽ニ付	動物	
60	栗	46石5斗2升	94. 978	0. 031291%	2. 0416	石ニ付	農産物	
61	栗	586石5斗	89. 5996	0. 029519%	0. 5277	石ニ付	農産物	
62	下駄木履	1560足	86. 0058	0. 028335%	0. 0555	平均1足ニ付	工産物	
63	綿	9本・3貫500目	79. 8597	0. 026311%	8. 3333	6貫目1本ニ付	工産物	
64	鋸	69000貫目	79. 113	0. 026065%	1. 0277	100貫目ニ付	工産物	
65	竹皮笠	2770枚	76. 9422	0. 025349%		100枚ニ付	工産物	
66	鮎	53貫目	73. 5799	0. 024242%	1. 3883	1貫目ニ付	水産物	
67	李	316200ッ	70. 2596	0. 023148%	0. 2222	1000ニ付	農産物	
68	足袋	350足	68. 0554	0. 022421%	19. 4444	100足ニ付	工産物	
69	木綿	210反	64. 6665	0. 021305%	30. 5555	100反ニ付	工産物	
70	馬鞍呉座	500枚	62. 05	0. 020443%	1. 25	10枚	工産物	
71	稗	55石2斗2升	61. 3549	0. 020214%	1. 1111	石ニ付	農産物	
72	水鉄炮	50挺	48. 61	0. 016015%	0. 9722	1挺ニ付	工産物	
73	柚子	5670ッ	47. 2481	0. 015566%	0. 8333	1000ニ付	農産物	
74	胡麻	8石7斗7升	46. 2854	0. 015249%	5. 2777	石ニ付	農産物	
75	梅	39石4斗	43. 7773	0. 014423%	1. 1111	石ニ付	農産物	
76	馬鈴薯	29石1斗	40. 2511	0. 013261%	1. 3832	石ニ付	農産物	
77	桃	42000ッ	38. 8246	0. 012791%	0. 9722	1000石ニ付	農産物	
78	狸皮	120枚	33. 3324	0. 010982%	2. 7777	10枚ニ付	動物	
79	松茸	60貫目	33. 33	0. 010981%	0. 5555	1貫目ニ付	農産物	
80	ツヅラ	250貫目	24. 305	0. 008008%	0. 9722	10貫目ニ付	工産物	
81	蒟蒻（玉）	200貫目	22. 2222	0. 007321%	1. 1111	10貫目ニ付	農産物	
82	ヒラ魚	15貫目	20. 8245	0. 006861%	1. 3883	1貫目ニ付	水産物	
83	鰻	15貫目	16. 6666	0. 005491%	1. 1111	1貫目ニ付	水産物	
84	瓦	1400枚	15. 5554	0. 005125%	1. 1111	1000枚ニ付	工産物	
85	熊	1疋	13. 8888	0. 004576%			動物	
86	鴨死鳥	37羽	11. 3033	0. 003724%	0. 3055	平均1羽ニ付	動物	
87	茯苓	70貫目	9. 7216	0. 003203%	1. 3888	10貫目ニ付	農産物	
88	兔	70疋	9. 716	0. 003201%	0. 1388	平均1疋ニ付	動物	
89	椎茸	15貫600目	6. 50	0. 002141%	4. 1666	10貫目ニ付	農産物	
90	石臼	8ッ	3. 5552	0. 001171%	0. 4444	1ッニ付	工産物	
91	薩摩芋	50貫目	3. 472	0. 001144%	0. 6944	10貫目ニ付	農産物	
92	椀	70人前	2. 9162	0. 000961%	0. 4166	10人前ニ付	工産物	
93	蜜	4貫目	2. 222	0. 000732%	0. 5555	1貫目ニ付	農産物	
94	木地盆	25枚	1. 3875	0. 000457%	0. 0555	1枚ニ付	工産物	
95	川鳥	7羽	0. 9916	0. 000327%	0. 1388	1羽ニ付	動物	
合計			303527. 4565	100. 000000%				

出典：表1に同じ。

表24 大原郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	26318石3斗6升	80415.7409	43.545504%	3.0555	石ニ付	農産物	
2	木綿	37500反	12499.875	6.768742%	33.333	100反ニ付	工産物	
3	綿	7710貫目	10266.664	5.559447%	8	6貫目ニ付	工産物	
4	麦(大麦)	5475石5斗7升	9505.589	5.147321%	1.736	石ニ付	農産物	
5	銅	58344貫目	9075.9926	4.914693%	1.5556	10貫目ニ付	工産物	
6	薪	1570000貫目	7410.4	4.012767%	0.0472	10貫目ニ付	林産物	
7	酒	1185石	5925	3.208416%	5	石ニ付	農産物	
8	大豆	1071石6斗6升2合	5209.349	2.820887%	4.861	石ニ付	農産物	
9	中折	21335束	4029.968	2.182247%	30.555	100束入ニ付	工産物	
10	鉄(割鉄)	19244貫目	3902.298	2.113113%	4.06	20貫目ニ付	工産物	
11	醬油	555石6斗	3111.36	1.684816%	5.6	石ニ付	農産物	
12	桶扱	5588挺	2483.527	1.344842%	44.0444	100挺ニ付	工産物	
13	椿	22922貫200目	2292.674	1.241494%	1	10貫目ニ付	工産物	
14	桐油	152石8斗5升	2122.934	1.149579%	13.889	石ニ付	農産物	
15	鍼	2970枚	1985	1.074887%	50	100枚ニ付	工産物	
16	小豆	380石1斗8升4合	1900.92	1.029357%	5	石ニ付	農産物	
17	酢	380石	1710	0.925973%	4.5	石ニ付	農産物	
18	里芋	600石9斗1升	1668.727	0.903624%	2.777	石ニ付	農産物	
19	種油	53石6斗	1637.748	0.886848%	30.555	石ニ付	農産物	
20	櫨	23440貫目	1627.674	0.881393%	0.6944	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり
21	筵	18940枚	1052.117	0.569726%	5.5555	100枚ニ付	工産物	
22	蕎麦	322石9斗1升	1031.375	0.558494%	3.194	石ニ付	農産物	
23	油木実(桐油実)	839石6斗7升	932.957	0.505201%	1.1111	石ニ付	工産物	
24	小炭	66石6斗8升	926.1852	0.501534%	0.1389	大栴1升ニ付	工産物	
25	小麦	217石2斗2升5合	905.177	0.490158%	4.167	石ニ付	農産物	
26	煙草	30990斤	866.427	0.469174%	2.7778	100斤ニ付	工産物	
27	材木	22300才	681.4	0.368981%	0.055	10才ニ付	林産物	
28	葉藍	1073貫500目	681.4	0.368981%	4	10貫目ニ付	工産物	
29	上茶	1300斤	650	0.351978%	50	100斤ニ付	農産物	
30	塵紙	7775束	647.891	0.350836%	8.333	100束ニ付	工産物	
31	黍	291石5斗	583	0.315697%	2	石ニ付	農産物	
32	豌豆	172石6斗5升	575.442	0.311605%	3.333	石ニ付	農産物	
33	柿	398653	553.729	0.299847%	1.389	1000ニ付	農産物	
34	麻苧	304貫目	464.42	0.251486%	15.277	10貫目ニ付	工産物	
35	瓦	30400枚	422.2256	0.228637%	1.3889	100枚ニ付	工産物	
36	荒苧	988貫200目	411.783	0.222982%	4.167	10貫目ニ付	工産物	
37	傘	2876本	399.4476	0.216303%	13.8889	100本ニ付	工産物	
38	栗	79石2斗4升6合	396.23	0.214560%	5	石ニ付	農産物	
39	干瓢	556貫600目	387.8918	0.210045%	0.6944	1貫目ニ付	農産物	
40	菜種	76石1斗8升	359.722	0.194791%	4.722	石ニ付	農産物	
41	釘大小	548550本	335.45	0.181648%	6.111	10000本ニ付	工産物	
42	板	529間	334.8760	0.181337%	4.4444	10間ニ付	林産物	
43	鎌	3770枚	230.388	0.124756%	6.111	100枚ニ付	工産物	
44	炭	107826貫目	224.601	0.121623%	0.2083	10貫目ニ付	林産物	
45	杉原	560束	171.108	0.092656%	8.333	100束ニ付	工産物	
46	鉄砂(砂鉄)	2175駄	150.945	0.081737%	0.0694	24貫目1駄ニ付	工産物	
47	空豆(夏豆・蚕豆)	50石5升7合	139.058	0.075301%	2.778	石ニ付	農産物	
48	胡麻	16石6斗8升6合	129.722	0.070245%	7.778	石ニ付	農産物	
49	牛馬皮(牛皮)	108枚	120.96	0.065500%	1.2	1枚ニ付	動物	
50	薩摩芋	5103貫目	113.286	0.061345%	0.221	10貫目ニ付	農産物	
51	算盤	400挺	111.0111	0.060113%	11.0111	10挺ニ付	工産物	
52	椿油実	10石5斗9升	102.958	0.055752%	9.722	石ニ付	農産物	
53	梨子	43831	97.392	0.052738%	2.222	1000ニ付	農産物	
54	下茶	1930斤	64.327	0.034833%	3.333	石ニ付	農産物	
55	足袋	458足	63.6153	0.034448%	13.8889	100足ニ付	工産物	
56	蜜柑	151035	53.88	0.029176%	0.555	1000ニ付	農産物	
57	宇治谷	51束	51	0.027617%	10	10束ニ付	その他	
58	香茸(皮茸)	15貫目	49.995	0.027073%	0.3333	100目ニ付	農産物	
59	住胡麻	6石3斗9升	46.1498	0.024990%	7.2222	石ニ付	農産物	
60	生糸	11貫525匁	41.617	0.022536%	3.611	1貫目ニ付	工産物	
61	梅	52石6斗5升5合	36.543	0.019788%	0.694	石ニ付	農産物	
62	下駄	1230足	34.44	0.018649%	0.028	1足ニ付	工産物	
63	蕎麦	174貫300目	33.899	0.018356%	1.944	10貫目ニ付	農産物	
64	半紙	447束	31.022	0.016799%	0.6904	10束入ニ付	工産物	
65	陶焼土天神	200	30.56	0.016548%	0.1528	1ツニ付	工産物	
66	胡麻油	6斗5升	27.0833	0.014666%	41.6666	石ニ付	農産物	
67	竹皮笠	1808枚	23.5	0.012725%	1.25	100枚ニ付	工産物	
68	栗	6石8斗	20.2664	0.010974%	3.3333	石ニ付	農産物	
69	杉子	3200本	17.776	0.009626%	0.5555	100本ニ付	林産物	
70	椿油	4斗2升	17.499	0.009476%	8.333	2斗入1挺ニ付	農産物	
71	木履	250足	13.75	0.007446%	0.055	1足ニ付	工産物	
72	桃燈	150張	9.5835	0.005190%	0.6389	10張ニ付	工産物	
73	五味子	80斤	7.6	0.004115%	0.095	1斤ニ付	農産物	
74	轆轤	1200	6.666	0.003610%	0.5555	10ニ付	工産物	
75	柚子	3370	5.618	0.003042%	1.667	1000ニ付	農産物	
76	櫻児皮	3291枚	4.578	0.002479%	1.3889	1000枚ニ付	林産物	
77	線香	1000把	3.8889	0.002106%	3.8889	1000把ニ付	工産物	
78	桃	1350	1.35	0.000731%	1	1000ニ付	農産物	
79	椎茸	300目	1.25	0.000677%	0.4167	100目ニ付	農産物	
80	木通	15斤	0.675	0.000366%	0.045	1斤ニ付	農産物	
81	李	4斗7升1合	0.392	0.000212%	0.833	石ニ付	農産物	
82	笠緒	13	0.052	0.000028%	0.24	10ニ付	工産物	
合計			184670.592	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表25 秋鹿郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	9792石1斗6升	27010.0413	40.741462%	2.7583	石ニ付	農産物	
2	麦(大麦)	2683石5斗2升	4621.6178	6.971165%	1.7222	石ニ付	農産物	
3	畳表	27960枚	3689.1666	5.564673%	13.1944	100枚ニ付	工産物	
4	生鯔鯖	603070尾	3568.1642	5.382155%	0.5917	100尾ニ付	水産物	
5	大豆	536石8斗	1968.2667	2.968898%	3.6667	石ニ付	農産物	
6	薪	279750貫目	1942.7083	2.930346%	0.0694	10貫目ニ付	林産物	
7	桐油	110石	1909.7222	2.880591%	17.3611	石ニ付	農産物	
8	干鰯	1630俵	1811.11	2.731846%	1.1111	4斗入1俵ニ付	水産物	
9	塩鯔鯖	9100貫目	1263.8889	1.906427%	1.3889	10貫目ニ付	水産物	
10	瓦	141680枚	1141.3111	1.721533%	8.0556	1000枚ニ付	工産物	
11	油木実(桐油実)	303石7斗	940.6264	1.418824%	3.0972	石ニ付	工産物	
12	生鯛(鯛・鯛之類)	87000尾	894.1667	1.348745%	1.0278	100尾ニ付	水産物	
13	綿	669貫目	873.4167	1.317446%	13.0556	10貫目ニ付	工産物	
14	酒	180石5斗2合	860.2525	1.297589%	4.7659	石ニ付	農産物	
15	榧	15058貫匁	836.5556	1.261845%	0.5555	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり、「木実方ㇿ書出候ニ付除キ候事」
16	薩摩芋	44200貫目	810.3323	1.222291%	0.1833	10貫目ニ付	農産物	
17	生烏賊	88800匁	789.3333	1.190616%	0.8889	100ニ付	水産物	
18	生鰯	17480貫目	713.7667	1.076633%	0.4083	10貫目ニ付	水産物	
19	鰯	24000尾	666.6667	1.005588%	2.7778	100尾ニ付	水産物	
20	里芋	273石5斗	632.8486	0.954577%	2.3139	石ニ付	農産物	
21	小呉座(蘆)	11260枚	594.2778	0.896398%	5.2776	100枚ニ付	工産物	
22	小麦	169石4斗	564.6667	0.851733%	3.3333	石ニ付	農産物	
23	木綿	1350反	506.25	0.763618%	37.5	100反ニ付	工産物	
24	鱈	1300尾	480.2778	0.724442%	36.9444	100尾ニ付	水産物	
25	筍(竹の子)	10000貫目	416.6666	0.628492%	0.4166	10貫目ニ付	農産物	
26	牛蒡(牛房)	12810貫目	416.325	0.627977%	0.325	10貫目ニ付	農産物	
27	板	1250間	364.5833	0.549931%	4.1667	10間ニ付	林産物	
28	柿	305850	356.825	0.538228%	1.1667	1000ニ付	農産物	
29	筵	8800枚	330	0.497766%	3.75	100枚ニ付	工産物	
30	醤油	41石3斗	326.9583	0.493178%	5.3778	石ニ付	農産物	
31	小豆	71石7斗5升	314.8889	0.474973%	4.3889	石ニ付	農産物	
32	蕎麦	111石7斗	303.2389	0.457400%	2.7222	石ニ付	農産物	
33	鱈	550貫目	275	0.414805%	5	10貫目ニ付	水産物	
34	鴨	1370羽	274	0.413297%	20	100羽ニ付	動物	
35	空豆(夏豆・蚕豆)	140石1斗	272.4167	0.410908%	1.9444	石ニ付	農産物	
36	塩鯛	15000尾	250	0.377096%	1.6667	100尾ニ付	水産物	
37	楮	150貫目	183.3333	0.276537%	1.2222	10貫目ニ付	工産物	
38	黍	129石3斗5升	179.6528	0.270985%	1.3884	石ニ付	農産物	
39	豌豆	73石6斗5升	163.6667	0.246872%	2.2222	石ニ付	農産物	
40	荒布	4570貫目	159.95	0.241266%	0.3472	10貫目ニ付	水産物	
41	梨子	113030	147.5669	0.222587%	1.3056	1000ニ付	農産物	
42	栗	79石8斗	139.65	0.210646%	1.75	石ニ付	農産物	
43	小炭	4950貫目	137.5	0.207403%	0.2778	10貫目ニ付	工産物	
44	蜜柑	186180	129.2915	0.195021%	0.6944	1000ニ付	農産物	
45	鰯	170貫目	118.0556	0.178073%	0.0694	100貫目ニ付	水産物	
46	藍	380貫目	116.1111	0.175140%	3.0556	10貫目ニ付	工産物	
47	竹	1372荷	114.3333	0.172458%	0.8333	10荷ニ付	林産物	
48	縄	3300束	106.4167	0.160517%	0.4861	10束ニ付	工産物	
49	下駄木履	2500束	91.6667	0.138268%	3.6667	100足ニ付	工産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
50	栗	30石	91.6666	0.138268%	3.0055	石ニ付	農産物	
51	椿油	1石4斗	83.6111	0.126117%	59.7222	2斗入1挺ニ付	農産物	
52	線香	150丸	83.3333	0.125698%	55.5555	100丸ニ付	工産物	
53	菰	5900枚	73.75	0.111243%	1.25	100枚ニ付	工産物	
54	生鮓	500貫目	69.4444	0.104749%	1.3889	10貫目ニ付	水産物	
55	和布	1410貫目	65.4083	0.098661%	0.4639	10貫目ニ付	水産物	
56	蓬(艾)	15000貫目	62.5	0.094274%	0.4166	10貫目ニ付	水産物	
57	鱸	1100尾	61.1111	0.092179%	5.5555	100尾ニ付	水産物	
58	鰯	11000尾	61.1111	0.092179%	5.5555	100尾ニ付	水産物	
59	薯蕷(長芋)	400貫目	55.5555	0.083799%	1.3884	10貫目ニ付	農産物	
60	茅	8050束	49.1944	0.074204%	0.6111	100把ニ付	工産物	
61	山蔴	5000貫目	48.6111	0.073324%	0.9722	10貫目ニ付	農産物	
62	鍛柄	350本	43.75	0.065992%	12.5	100本ニ付	工産物	
63	梅	38石4斗	41.6	0.062749%	1.0833	石ニ付	農産物	
64	海苔	93貫目500目	38.9583	0.058764%	4.1667	10貫目ニ付	水産物	
65	胡麻	4石3斗2升5合	37.2431	0.056177%	8.6111	石ニ付	農産物	
66	生鰻(鮑)	1840負	36.8	0.055508%	2	100ニ付	水産物	
67	傘	250本	34.7226	0.052375%	13.8889	100本ニ付	工産物	
68	山小鳥	12500羽	34.7222	0.052374%	0.2778	100羽ニ付	動物	
69	酢	15石	33.3333	0.050279%	2.2222	石ニ付	農産物	
70	煙草	750斤	32.7092	0.049338%	4.3611	100斤ニ付	工産物	
71	鎌	600挺	31.6667	0.047765%	5.2778	100枚ニ付	工産物	
72	鋏	80挺	31.6667	0.047765%	38.8888	100挺ニ付	工産物	
73	海老	165貫目	25.2083	0.038024%	1.5278	10貫目ニ付	水産物	
74	白糸	700目	22.361	0.033729%	31.9444	1貫目ニ付	工産物	
75	椿油実	4石7升	21.8197	0.032912%	5.3611	石ニ付	農産物	
76	橙	6300	21	0.031676%	3.3333	1000ニ付	農産物	
77	松茸	100貫目	20.8333	0.031425%	2.8333	10貫目ニ付	農産物	
78	漉海苔	8200枚	20.75	0.031299%	2.5	1000枚ニ付	水産物	
79	下茶	2040斤	20.4	0.030771%	1	100斤ニ付	農産物	
80	黒焼風爐(風呂)	850	19.8333	0.029916%	2.3333	100ニ付	工産物	
81	鯉	180尾	17.5	0.026397%	9.7222	100尾ニ付	水産物	
82	菜種	2石5斗8升	15.7667	0.023782%	6.1111	石ニ付	農産物	
83	南蛮黍	11石2斗	14.6222	0.022056%	1.3056	石ニ付	農産物	
84	蕨(厥)	150貫目	14.5833	0.021997%	0.9722	10貫目ニ付	農産物	
85	海素麵	15貫目	12.5	0.018855%	8.3333	10貫目ニ付	水産物	
86	雉子	100羽	12.5	0.018855%	12.5	100羽ニ付	動物	
87	釘大小	15000本	9.25	0.013953%	0.625	10000本ニ付	工産物	
88	熊子	5石3斗	8.8333	0.013324%	1.6666	石ニ付	工産物	
89	栄螺	8230負	8.23	0.012414%	0.1	100ニ付	水産物	
90	櫻侶皮	5800枚	5.8	0.008749%	1	1000枚ニ付	その他	
91	荒芋	15貫目	5.4167	0.008170%	3.6111	10貫目ニ付	工産物	
92	棒	350本	5.3472	0.008066%	1.5278	100本ニ付	工産物	
93	心太草	11貫目	5.0417	0.007605%	4.5833	10貫目ニ付	水産物	
94	柚子	4300	4.6583	0.007026%	1.0833	1000ニ付	農産物	
95	神葉	35貫目	3.5	0.005279%	1	10貫目ニ付	その他	
96	稗	5斗	0.4444	0.000670%	0.8889	石ニ付	農産物	
合計			66296.2006	100.000000%				

出典：表1と同じ。

表26 飯石郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額（円）	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	25811石6斗1升	70207.5792	34.417299%	2.72	石ニ付	農産物	
2	鉄（割鉄）	177814貫目	38464.7244	18.856254%	6.4896	30貫目入1駄ニ付	工産物	
3	薪	15141000貫目	33613.02	16.477841%	0.0222	10貫目ニ付	林産物	
4	鉄砂（砂鉄）	1148844貫目	9573.317	4.693050%	0.20	24貫目入1駄ニ付	工産物	
5	銑	88630貫目	7477.9878	3.665874%	2.5312	30貫目入1駄ニ付	工産物	
6	麦（大麦）	3098石5升	5499.387	2.695920%	1.775	石ニ付	農産物	
7	大豆	789石1斗7升	3594.8272	1.762263%	4.5552	石ニ付	農産物	
8	鋼	25615貫目	2881.6875	1.412667%	1.125	10貫目ニ付	工産物	
9	作煙草	17803貫目	2485.299	1.218348%	1.396	10貫目ニ付	工産物	
10	酒	403石4斗	2212.367	1.084551%	5.4843	石ニ付	農産物	
11	綿	1604貫600目	1813.9003	0.889214%	7	6貫200匁ニ付	工産物	
12	荒苧	8232貫700目	1778.263	0.871744%	2.16	10貫目ニ付	工産物	
13	針金	350貫目	1687.5	0.827250%	12.5	10貫目ニ付	工産物	
14	中折	18805束	1611.64	0.790061%	1.39	10束ニ付	工産物	
15	木綿	4844反	1580.742	0.774914%	32.633	100反ニ付	工産物	
16	小豆	348石7斗7升	1509.8602	0.740167%	4.3291	石ニ付	農産物	
17	櫛	26232貫300匁	1455.893	0.713711%	0.555	10貫目ニ付	工産物	
18	楮	22173貫匁	1248.34	0.611964%	0.563	10貫目ニ付	工産物	
19	大炭	1098308貫目	1170.332	0.573722%	0.0926	10貫目ニ付	工産物	
20	油木実（桐油実）	271石2斗6升	941.8689	0.461725%	3.4722	石ニ付	工産物	
21	蕎麦	352石1斗4升	912.7469	0.447449%	2.592	石ニ付	農産物	
22	桐油	49石2斗	891.75	0.437155%	18.125	石ニ付	農産物	
23	小麦	193石7斗8升	828.8552	0.406323%	4.2773	石ニ付	農産物	
24	里芋	570石2斗2升	705.3621	0.345784%	1.237	石ニ付	農産物	
25	塵紙	9850束	683.984	0.335304%	0.6944	10束ニ付	工産物	
26	釘大小	1241700本	517.3791	0.253631%	4.1667	10000本ニ付	工産物	
27	松脂	5196貫600目	503.421	0.246788%	0.1355	160匁ニ付	林産物	
28	小炭	382石2斗6升	483.1766	0.236864%	0.1264	大柁1升ニ付	工産物	
29	豌豆	192石3斗6升	428.5781	0.210098%	2.228	石ニ付	農産物	
30	下駄	14900足	413.8773	0.202892%	2.7777	100足ニ付	工産物	
31	生糸	12貫550匁	400.9022	0.196531%	31.9444	1貫目ニ付	工産物	
32	核苧	370貫匁	390.535	0.191449%	10.555	10貫目ニ付	工産物	
33	鉋	1412挺	372.601	0.182657%	26.3888	100枚ニ付	工産物	
34	柿	456560	371.64	0.182186%	0.814	1000ニ付	農産物	
35	鎌	6128枚	319.2001	0.156479%	5.2089	100枚ニ付	工産物	
36	菜葉	21000貫目	291.69	0.142993%	0.1389	10貫目ニ付	農産物	
37	傘	2205本	267.9582	0.131359%	12.1523	100本ニ付	工産物	
38	醬油	63石9斗	232.9602	0.114202%	3.6457	石ニ付	農産物	
39	胡麻	30石7斗9升	229.2007	0.112359%	7.4442	石ニ付	農産物	
40	粟	30石7斗7升	219.1836	0.107449%	1.6761	石ニ付	農産物	
41	稲扱	650挺	216.6645	0.106214%	3.3333	10挺ニ付	工産物	
42	酢	56石2斗	210.75	0.103314%	3.75	石ニ付	農産物	
43	種油	6石8升	198.33	0.097227%	29.1667	石ニ付	農産物	
44	筵	451束	187.913	0.092119%	4.1666	10束ニ付	工産物	
45	草鞋	82700足	172.2641	0.084448%	0.2083	100足ニ付	工産物	
46	瓦	1500枚	166.6665	0.081704%	11.1111	1000枚ニ付	工産物	
47	菜種	34石8斗4升5合	155.792	0.076373%	4.471	石ニ付	農産物	
48	干鰯鮓	500貫目	152.7775	0.074895%	3.0555	10貫目ニ付	農産物	
49	柄杓	15000本	150	0.073533%	1	100本ニ付	工産物	

順位	産物名	生産量	生産額（円）	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
50	栗	124石7斗	134.7446	0.066055%	1.8055	石ニ付	農産物	
51	縄	2671束	126.1246	0.061829%	0.4722	10束ニ付	工産物	
52	香茸（皮茸）	1006貫目	125.75	0.061645%	1.25	10貫目ニ付	農産物	
53	梨子	45920	116.04	0.056885%	2.527	1000ニ付	農産物	
54	黍	60石6斗5升	107.957	0.052923%	1.78	石ニ付	農産物	
55	葉藍	310貫目	99.9847	0.049015%	3.1944	10貫目ニ付	工産物	
56	木履	30足	83.3331	0.040852%	2.7777	100足ニ付	工産物	
57	簍	500枚	83.33	0.040850%	1.6666	10枚ニ付	工産物	
58	粉（削ぎ板）	1350束	78.745	0.038603%	0.5833	10束ニ付	林産物	
59	椿実	12石7斗5升	73.6657	0.036113%	5.7777	石ニ付	農産物	
60	十露盤	200挺	72.2	0.035394%	0.366	1挺ニ付	工産物	
61	板	300間	66.67	0.032682%	2.2222	10間ニ付	林産物	
62	薯蕷（長芋）	505貫目	59.6152	0.029225%	1.1805	10貫目ニ付	農産物	
63	道烏	750足	55.083	0.027003%	6.9444	100足ニ付	工産物	
64	葉茶	150石2斗5升	52.7377	0.025853%	0.351	石ニ付	農産物	
65	胡麻油	2石1斗	52.5	0.025737%	0.25	石ニ付	農産物	
66	菰	1400枚	52.50	0.025737%	3.75	100枚ニ付	工産物	
67	草履	23550足	52.33	0.025652%	0.2222	100足ニ付	工産物	
68	空豆（夏豆・蚕豆）	20石7斗1升	52.2306	0.025605%	2.522	石ニ付	農産物	
69	干瓢	13貫目	46.9444	0.023013%	3.6111	10貫目ニ付	農産物	
70	なた	70挺	46.667	0.022877%	6.6666	10挺ニ付	工産物	
71	稗	50石3斗1升	43.6691	0.021408%	0.868	石ニ付	農産物	
72	板簍	500枚	41.665	0.020425%	0.8333	10枚ニ付	工産物	
73	木履緒	1350足	40.5	0.019854%	3	100足ニ付	工産物	
74	薩摩芋	1284貫目	39.2262	0.019230%	0.3055	10貫目ニ付	農産物	
75	梅	58石4斗9升	33.3393	0.016344%	0.57	石ニ付	農産物	
76	熊子	24石2斗5升	31.3237	0.015356%	1.2917	石ニ付	工産物	
77	雪踏	250足	31.25	0.015319%	12.50	100足ニ付	工産物	
78	蒟蒻（玉）	374貫目	30.1257	0.014768%	0.8055	10貫目ニ付	農産物	
79	椿油	9斗	30	0.014707%	33.3233	石ニ付	農産物	
80	蜜	7斗	23.338	0.011441%	0.3334	1升ニ付	農産物	
81	石細工	2000駄	20	0.009804%	0.01	1駄ニ付	工産物	
82	椎茸	45貫目	14.3748	0.007047%	3.1944	10貫目ニ付	農産物	
83	へんた実	4石2斗5升	12.3955	0.006077%	2.9166	石ニ付	農産物	
84	蠟燭	10貫目	11.11	0.005446%	0.1111	100目ニ付	工産物	
85	蜜柑	24370	10.1379	0.004970%	0.416	1000ニ付	農産物	
86	牛尾	311貫200目	9.9397	0.004873%	0.3194	10貫目ニ付	農産物	
87	楊枝	50000せん	9.70	0.004755%	0.0194	100膳ニ付	工産物	
88	荳油	8升	6.2222	0.003050%	7.7777	石ニ付	農産物	
89	へんた油	3斗2升	6.2222	0.003050%	19.4444	石ニ付	農産物	
90	上茶	17斤	5.061	0.002481%	0.333	1斤ニ付	農産物	
91	桃	15650	4.357	0.002136%	0.0278	100ニ付	農産物	
92	柚子	1930	4.031	0.001976%	2.0888	1000ニ付	農産物	
93	鋳物	30枚	3.771	0.001849%	0.1257	1枚ニ付	工産物	
94	山葵	16貫目	2.672	0.001310%	0.0167	100目ニ付	農産物	
95	竹皮笠	50枚	0.7361	0.000361%	1.4722	100枚ニ付	工産物	
96	ほうこ	15貫目	0.2082	0.000102%	0.1388	10貫目ニ付	その他	
合計			203989.2197	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表27 島根郡産物内訳（松江を除く）

順位	産物名	生産量	生産額（円）	割合	価格（円）	価格備考	分類	備考
1	米	28391石5斗5升8合	78866.0698	60.598403%	2.7778	石ニ付	農産物	
2	麦（大麦）	7309石3斗5升	10151.2252	7.799907%	1.3888	石ニ付	農産物	
3	琉球芋（薩摩芋）	427600貫目	8312.544	6.387118%	0.1944	10貫目ニ付	農産物	
4	薪	453602貫目	3147.9979	2.418830%	0.0694	10貫目ニ付	林産物	
5	干鰯	310石5斗5升	3024.0766	2.323613%	0.9722	石ニ付	水産物	
6	櫨	37260	2587.8899	1.988460%	0.6944	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり
7	大海崎石	不明	2222.2222	1.707491%	不明	不明	工産物	
8	酒	816石6斗9升8合	2110.9866	1.622021%	6.6666	石ニ付	農産物	
9	大豆	405石3斗6升	1688.979	1.297763%	3.0555	石ニ付	農産物	
10	小麦	548石4斗5升	1675.789	1.287628%	3.0555	石ニ付	農産物	
11	里芋	483石1斗3升	1341.99	1.031146%	2.7777	石ニ付	農産物	
12	油木実（桐油実）	461石4斗2升	1281.8899	0.984967%	2.7777	石ニ付	工産物	
13	小呉座（蘆）	7550枚	1048.61	0.805722%	13.8888	100枚ニ付	工産物	
14	空豆・（夏豆・蚕豆）	398石3斗6升	995.9	0.765221%	2.5	石ニ付	農産物	
15	小豆	159石9斗4升	977.4093	0.751013%	6.1121	石ニ付	農産物	
16	牛馬皮（牛皮）	80枚	777.7777	0.597622%	97.5	10枚ニ付	動物	
17	心太草	1390貫500目	637.3125	0.489692%	4.5833	10貫目ニ付	水産物	
18	豌豆	230石4斗	576	0.442582%	2.5	石ニ付	農産物	
19	小雑魚・雑魚	不明	525.0555	0.403437%	不明	不明	水産物	
20	蕎麦	184石5斗6升	512.6523	0.393907%	2.7777	石ニ付	農産物	
21	柿	602770	502.3086	0.385959%	0.8333	1000ニ付	農産物	
22	栗	283石3斗2升	472.1811	0.362810%	1.6626	石ニ付	農産物	
23	酢	83石5斗	463.8888	0.356439%	5.5555	石ニ付	農産物	
24	黍	314石4斗4升	436.1811	0.335149%	1.3888	石ニ付	農産物	
25	稲藁	586700把	407.1698	0.312857%	0.0694	100把ニ付	工産物	
26	大根	323386本	359.3177	0.276089%	1.1111	1000本ニ付	農産物	
27	生鮪	78966抱	328.972	0.252773%	0.4166	10抱ニ付	水産物	
28	綿・繰綿	289貫300目	321.4444	0.246989%	6.6666	6貫目ニ付	工産物	
29	生鰯	8066貫目	313.6777	0.241021%	0.3888	10貫目ニ付	水産物	
30	筵	10875枚	302.0833	0.232112%	2.7777	100枚ニ付	工産物	
31	澁海苔	41200把	286	0.219754%	0.7111	100枚ニ付	水産物	
32	鱈	1200貫目	250	0.192093%	2.888	10貫目ニ付	水産物	
33	葉藍	1022貫500目	227.2199	0.174589%	2.2222	10貫目ニ付	工産物	
34	竹	27198本	216.6499	0.166468%	8.3333	1000本ニ付	林産物	
35	桐油	14石5斗	211.6666	0.162638%	3.3333	2斗入1挺ニ付	農産物	
36	梨子	182970	203.3011	0.156211%	1.1111	1000ニ付	農産物	
37	上茶	308斤	171.019	0.131406%	59.5555	100斤ニ付	農産物	
38	荒布	4964貫目	165.4666	0.127140%	0.3333	10貫目ニ付	水産物	
39	塩鯖	1318貫300目	146.4777	0.112549%	1.1111	10貫目ニ付	水産物	
40	釘大小	215000本	128.4022	0.098661%	89.22	1000本ニ付	工産物	
41	醤油	20石	111.1111	0.085375%	5.5555	石ニ付	農産物	
42	蕪	131240	109.3666	0.084034%	0.8333	1000ニ付	農産物	
43	和布	3205貫800目	106.8493	0.082100%	0.3333	10貫目ニ付	水産物	
44	胡麻	9石1升	100.111	0.076922%	11.1111	石ニ付	農産物	
45	麴（糀）	36石	99.9972	0.076835%	2.7777	石ニ付	農産物	
46	南蛮黍	57石3斗6升	95.5962	0.073453%	1.6626	石ニ付	農産物	
47	木綿	250反	83.3333	0.064031%	33.3333	100反ニ付	工産物	
48	土焼床置物並人形類	100箇	83.3333	0.064031%	不明	不明	工産物	
49	生鯖	1823貫800目	75.9752	0.058377%	0.4166	10貫目ニ付	水産物	

順位	産物名	生産量	生産額（円）	割合	価格（円）	価格備考	分類	備考
50	芹	99200把	75.9696	0.058373%	0.0833	100把ニ付	農産物	
51	海苔	123貫950目	68.8611	0.052911%	5.5555	10貫目ニ付	水産物	
52	梅	75石3斗7升	62.8083	0.048260%	0.8333	石ニ付	農産物	
53	鰯	7000本	58.3333	0.044822%	0.0833	10本ニ付	水産物	
54	茄子	136470	56.875	0.043701%	0.3616	1000ニ付	農産物	
55	傘	300本	45.8333	0.035217%	15.2777	100本ニ付	工産物	
56	土焼丸物	4000枚	44.4444	0.034150%	1.1111	10枚ニ付	工産物	
57	京菓	38500把	42.7777	0.032869%	0.1388	100把ニ付	その他	
58	煙草	710斤	39.4444	0.030308%	5.5505	100斤ニ付	工産物	
59	鰯	4200本	35	0.026893%	0.0833	10本ニ付	水産物	
60	芽筋	1500枚	33.0633	0.025405%	5.2222	100枚ニ付	その他	
61	大縄	679束	32.5888	0.025040%	0.1944	10束ニ付	工産物	
62	生鯛（鯛・鯛之類）	100貫目	25	0.019209%		10貫目ニ付	水産物	
63	鮎海老蛸之類	不明	23.6611	0.018181%	不明	不明	水産物	
64	種油	8斗	23.3333	0.017929%	5.8633	2斗入1挺ニ付	農産物	
65	下茶	5370斤	21.9548	0.016869%	0.4166	100斤ニ付	農産物	
66	叭	1500	20.8333	0.016008%	1.3888	100ニ付	工産物	
67	牛蒡（牛房）	97貫600目	18.9777	0.014582%	1.9444	10貫目ニ付	農産物	
68	鰯	19貫390目	18.8513	0.014485%	0.9722	1貫目ニ付	水産物	
69	松茸	162貫500目	18.0555	0.013873%	0.1111	1貫目ニ付	農産物	
70	蜜柑	88507	16.4277	0.012623%	0.5555	1000ニ付	農産物	
71	石臼	25カラ	13.895	0.010677%	0.5555	1カラニ付	工産物	
72	蠟燭	700挺	12.6111	0.009690%	0.1855	10挺ニ付	工産物	
73	葱	8000把	11.1111	0.008537%	0.1388	100把ニ付	農産物	
74	生烏賊	123貫目	10.2496	0.007875%	0.8331	10貫目ニ付	水産物	
75	海老煎干	20貫目	10	0.007684%	5	10貫目ニ付	水産物	
76	山芋	110貫目	9.1663	0.007043%	0.8333	10貫目ニ付	農産物	
77	松大杭木	350本	7.0972	0.005453%	0.2026	10本ニ付	林産物	
78	西瓜	250	6.9444	0.005336%	0.6966	100ニ付	農産物	
79	稗	3石2斗	6.0442	0.004644%	1.8888	石ニ付	農産物	
80	瓜	1450	6.0416	0.004642%	0.3766	1000本ニ付	農産物	
81	蕨（厥）	1100把	3.6666	0.002817%	0.3333	100把ニ付	農産物	
82	やたカ	307メ	3.2722	0.002514%	0.1066	10メニ付	その他	
83	椿実	6斗	2.6664	0.002049%	0.4444	1斗ニ付	農産物	
84	松花	300把	2.5	0.001921%	0.7011	100把ニ付	その他	
85	茗荷竹	1000本	2.5	0.001921%	0.25	100本ニ付	農産物	
86	成木	210本	2.4	0.001844%	0.1142	10本ニ付	林産物	
87	獨活	2150本	2.3888	0.001835%	0.1111	100本ニ付	農産物	
88	菜種	4斗2升	1.79	0.001375%	0.4167	1斗ニ付	農産物	
89	干魚	21貫500目	1.2541	0.000964%	0.5033	10貫目ニ付	水産物	
90	栗	3斗4升	1.2277	0.000943%	0.3611	1斗ニ付	農産物	
91	柚子	400	1.1111	0.000854%	0.2611	100ニ付	農産物	
92	鰯煎干	20貫目	1.1111	0.000854%	0.5555	10貫目ニ付	水産物	
93	草履	270足	0.75	0.000576%	0.1944	10足ニ付	工産物	
94	海素麵	2貫目	0.4722	0.000363%	4.5833	10貫目ニ付	水産物	
95	す桃	1500	0.3666	0.000282%	0.0277	100ニ付	農産物	
96	枇杷	6貫目	0.25	0.000192%	0.0411	1貫目ニ付	農産物	
合計			130145.4593	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表28 松江分産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	生蠟	253800斤	40608	27.490102%		100斤ニ付	工産物	
2	酒	3595石1斗5升	17975.75	12.168912%	5	石ニ付	農産物	
3	桐油	920石6斗1升8合5勺	17055.925	11.546225%	17	石ニ付	農産物	
4	櫨	137332貫430目	11099.77668	7.514135%	0.5361	10貫目ニ付	工産物	他郡の櫨産出量、代価を差し引いている。
5	蠟燭	608350挺・19440斤	10825.29	7.328318%	1.21	100挺ニ付	工産物	
6	縞	13400反	8962.745	6.067444%	66.5	100反ニ付	工産物	
7	綿打ち弓弦	10000掛	8266	5.595774%	82.66	100掛ニ付	工産物	
8	種油	158石2斗8升	5418.95882	3.668433%	34	石ニ付	農産物	
9	醤油	1036石7斗	4924.0565	3.333403%	4.75	石ニ付	農産物	
10	木綿	8860反	3449.9683	2.335500%	39	100反ニ付	工産物	
11	伽羅油	170375挺	3410.279	2.308632%	2	100挺ニ付	農産物	
12	下駄	100000足	2425	1.641635%	2.425	100足ニ付	工産物	
13	酢	506石9斗4升	1702.4839	1.152518%	3.5	石ニ付	農産物	
14	米	526石6斗	1316.5	0.891221%	2.5	石ニ付	農産物	
15	傘	7491本	1122.0001	0.759552%	15	100本ニ付	工産物	
16	生糸	30貫目	960	0.649884%		1貫目ニ付	工産物	
17	筆	137500本	907.8155	0.614557%	0.55	100本ニ付	工産物	
18	釘大小	1924500本	687.135	0.465165%	3	10000本ニ付	工産物	
19	元結	100000束	666.6	0.451263%	0.6666	100束ニ付	工産物	
20	菅尾	212270足	648.3002	0.438875%	0.2778	100足ニ付	工産物	
21	石灰	638石	602.5272	0.407888%	0.9444	石ニ付	工産物	
22	足袋	6382足	577.9578	0.391256%	9	100足ニ付	工産物	
23	鱸	45000尾	501.9975	0.339834%	1.1111	100尾ニ付	水産物	
24	桃燈	6342張	440.9761	0.298524%	7	10張ニ付	工産物	
25	白魚	62石	413.785	0.280117%	0.5555	1斗ニ付	水産物	
26	下煎茶	996斤	333.1233	0.225512%	3.5	10斤ニ付	農産物	
27	上煎茶	634斤	325.8896	0.220615%	5	10斤ニ付	農産物	
28	附木	3600束	299.9988	0.203088%	8.3333	100束ニ付	林産物	
29	鋏	710具	280.1467	0.189649%	3.58	10具ニ付	工産物	
30	胡麻油		233.3335	0.157958%		石ニ付	農産物	
31	椿油		195.2778	0.132196%		2斗入1挺ニ付	農産物	
32	板	540枚	167.9724	0.113711%		10間ニ付	林産物	
33	鰻	300貫目	166.125	0.112460%	5.52	10貫目ニ付	水産物	
34	曲形	8500	123.365	0.083514%	1.4513	100ニ付	工産物	
35	麦(大麦)	84石5斗5升	117.4315	0.079497%	1.3889	石ニ付	農産物	
36	沙魚	20石	111.1	0.075211%	0.5555	1斗ニ付	水産物	
37	綿・繰綿	58貫目	80.5554	0.054533%	8.6111	6貫200目ニ付	工産物	
38	庖丁	1400挺	72.94	0.049378%	5.21	100枚ニ付	工産物	
39	鱈	9000尾	66.662	0.045128%	0.6944	100尾ニ付	水産物	
40	瓜	3120	47.3616	0.032062%	1.518	100ニ付	農産物	
41	大豆	9石6斗9升	44.0122	0.029795%	4.5833	石ニ付	農産物	
42	鎌	470枚	25.3878	0.017187%		100枚ニ付	工産物	
43	鯉鮒大小	2000尾	19.445	0.013164%	0.5555	100尾ニ付	水産物	
44	蕎麦	3石3斗1升	12.4125	0.008403%	3.75	石ニ付	農産物	
45	豌豆	2石9斗3升	8.9526	0.006061%	3.0555	石ニ付	農産物	
46	小麦	2石1斗4升	8.1735	0.005533%	3.0194	石ニ付	農産物	
47	空豆・(夏豆・蚕豆)	8斗9升	4.828	0.003268%	5.4166	石ニ付	農産物	
48	黍	2石3斗	2.875	0.001946%	1.25	石ニ付	農産物	
49	小豆	2斗	1	0.000677%	5	石ニ付	農産物	
50	胡麻	7升	0.4278	0.000290%	6.1111	石ニ付	農産物	
合計			147718.6246	100.000000%				

出典：「旧松江藩引継雑款 物産表」（島根県立図書館所蔵）

表29 島根郡松江分産別内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	生蠟	253800斤	40608	38.121705%	16	100斤ニ付	工産物	
2	桐油	883石7斗6升8合5合	14729.475	13.827638%	16.66667	2斗入1挺ニ付	農産物	
3	榧	136812貫430目	11071.90548	10.394009%	6	100貫目ニ付	工産物	他郡の榧産出量、代価を差し引いている。
4	蠟燭	577000挺・19440斤	10445.955	9.806383%	1.21155・17	100挺ニ付・100斤ニ付	工産物	木実課（木実方）生産分を含む。
5	酒	1888石9斗	9444.5	8.866244%	5	石ニ付	農産物	
6	縞	6920反	4653.545	4.368624%	66.6697	100反ニ付	工産物	
7	醬油	693石7斗	3294.8065	3.093076%	4.7496	石ニ付	農産物	
8	木綿	5320反	2069.3683	1.942668%	38.8979	100反ニ付	工産物	
9	伽羅油	97500挺	1952.779	1.833217%	2.00285	100挺ニ付	農産物	
10	種油	53石2斗8升	1848.95882	1.735753%	34.7222	2斗入1挺ニ付	農産物	
11	酢	430石7斗5升	1435.8189	1.347908%	3.333	石ニ付	農産物	
12	生糸	30貫目	960	0.901222%	32	1貫目ニ付	工産物	
13	傘	5251本	786.0001	0.737876%	14.9687	100本ニ付	工産物	
14	釘大小	1840000本	511.785	0.480450%	2.78144	10000本ニ付	工産物	
15	筆	53500本	445.8155	0.418520%	0.8333	100本ニ付	工産物	
16	桃燈	5032張	349.2761	0.327891%	6.9412	10張ニ付	工産物	
17	鱸	22500尾	252	0.236571%	1.12	100尾ニ付	水産物	
18	足袋	2700足	246.5778	0.231481%	9.1325	100足ニ付	工産物	
19	胡麻油	5石6斗	233.3335	0.219047%	41.6667	石ニ付	農産物	
20	白魚	25石	208.25	0.195500%	8.33	石ニ付	水産物	
21	上煎茶	385斤	201.3896	0.189059%	5.239	10斤ニ付	農産物	
22	椿油	3石7斗	195.2778	0.183322%	52.7778	2斗入1挺ニ付	農産物	
23	板	540枚	167.9724	0.157688%	3.116	10間ニ付	林産物	
24	下煎茶	445斤	140.2733	0.131685%	3.1522	10斤ニ付	農産物	
25	鰻	150貫目	83.325	0.078223%	5.5555	10貫目ニ付	水産物	
26	鉄	150具	79.6667	0.074789%	53.1111	100具ニ付	工産物	
27	沙魚	10石	55.55	0.052149%	5.5555	石ニ付	水産物	
28	鎌	470枚	25.3878	0.023833%	5.40167	100枚ニ付	工産物	
29	鯉鮒大小	1000尾	13.89	0.013040%	1.389	100尾ニ付	水産物	
30	鱈	1000尾	11.11	0.010430%	1.111	100尾ニ付	水産物	
	合計		106521.9926	100.000000%				

出典：表1に同じ。

表30 意宇郡松江分産別内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	酒	1706石2斗5升	8531.25	20.708610%	5	石ニ付	農産物	
2	綿打ち弓弦	10000掛	8266	20.064747%	82.66	100掛ニ付	工産物	
3	縞	6480反	4309.2	10.460078%	66.5	100反ニ付	工産物	
4	種油	105石	3570	8.665757%	34	石ニ付	農産物	
5	下駄	100000足	2425	5.886404%	2.425	100足ニ付	工産物	
6	桐油	36石8斗5升	2326.45	5.647185%	17	石ニ付	農産物	
7	醬油	343石	1629.25	3.954814%	4.75	石ニ付	農産物	
8	伽羅油	72875挺	1457.5	3.537911%	2	100挺ニ付	農産物	
9	木綿	3540反	1380.6	3.351245%	39	100反ニ付	工産物	
10	米	526石6斗	1316.5	3.195650%	2.5	石ニ付	農産物	
11	元結	100000束	666.6	1.618093%	0.6666	100束ニ付	工産物	
12	菅尾	212270足	648.3002	1.573673%	0.2778	100足ニ付	工産物	
13	石灰	638石	602.5272	1.462564%	0.9444	石ニ付	工産物	
14	筆	84000本	462	1.121451%	0.55	100本ニ付	工産物	
15	蠟燭	31350挺	379.335	0.920791%	1.21	100挺ニ付	工産物	
16	傘	2240本	336	0.815601%	15	100本ニ付	工産物	
17	足袋	3682足	331.38	0.804386%	9	100足ニ付	工産物	
18	附木	3600束	299.9988	0.728212%	8.3333	100束ニ付	林産物	
19	酢	76石1斗9升	266.665	0.647298%	3.5	石ニ付	農産物	
20	鱸	22500尾	249.9975	0.606840%	1.1111	100尾ニ付	水産物	
21	白魚	37石	205.535	0.498912%	0.5555	1斗ニ付	水産物	
22	鉄	560具	200.48	0.486642%	3.58	10具ニ付	工産物	
23	下煎茶	551斤	192.85	0.468121%	3.5	10斤ニ付	農産物	
24	釘大小	84500本	175.35	0.425642%	3	10000本ニ付	工産物	
25	上煎茶	249斤	124.5	0.302209%	5	10斤ニ付	農産物	
26	曲形	8500	123.365	0.299454%	1.4513	100ニ付	工産物	
27	麦（大麦）	84石5斗5升	117.4315	0.285051%	1.3889	石ニ付	農産物	
28	桃燈	1310張	91.7	0.222591%	7	10張ニ付	工産物	
29	鰻	150貫目	82.8	0.200987%	5.52	10貫目ニ付	水産物	
30	綿・繰綿	58貫目	80.5554	0.195539%	8.6111	6貫200目ニ付	工産物	
31	庖丁	1400挺	72.94	0.177053%	5.21	100枚ニ付	工産物	
32	鱈	8000尾	55.552	0.134846%	0.6944	100尾ニ付	水産物	
33	沙魚	10石	55.55	0.134841%	0.5555	1斗ニ付	水産物	
34	瓜	3120	47.3616	0.114965%	1.518	100ニ付	農産物	
35	大豆	9石6斗9升	44.0122	0.106834%	4.5833	石ニ付	農産物	
36	榧	520貫目	27.8712	0.067654%	0.5361	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり、「木実方」書出候ニ付除ク
37	蕎麦	3石3斗1升	12.4125	0.030130%	3.75	石ニ付	農産物	
38	豌豆	2石9斗3升	8.9526	0.021731%	3.0555	石ニ付	農産物	
39	小麦	2石1斗4升	8.1735	0.019840%	3.0194	石ニ付	農産物	
40	鯉鮒大小	1000尾	5.555	0.013484%	0.5555	100尾ニ付	水産物	
41	空豆（夏豆・蚕豆）	8斗9升	4.828	0.011719%	5.4166	石ニ付	農産物	
42	黍	2石3斗	2.875	0.006979%	1.25	石ニ付	農産物	
43	小豆	2斗	1	0.002427%	5	石ニ付	農産物	
44	胡麻	7升	0.4278	0.001038%	6.1111	石ニ付	農産物	
	合計		41196.632	100.000000%				

出典：「旧松江藩引継雑款 物産表」（島根県立図書館所蔵）

表31 能義郡産物内訳

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
1	米	59754石9升1合	152885.5949	51.468176%	2.545833333	石ニ付	農産物	
2	鉄(割鉄)	4637駄	23864.5	8.033865%	7.5	20貫目1駄ニ付	工産物	
3	酒	2894石4斗4升	12762.3142	4.296370%	4.797366667	石ニ付	農産物	
4	小炭	498石3升	8986.1235	3.025134%	4.9847	1升ニ付	工産物	
5	麦(大麦)	6494石8斗5合	7982.2562	2.687187%	1.317966667	石ニ付	農産物	
6	大炭	513700貫目	7134.7261	2.401870%	7.0139	10貫目ニ付	工産物	
7	薪	1574280貫目	6823.8856	2.297227%	0.078866667	10貫目ニ付	林産物	
8	銅	1001駄	5839.1333	1.965715%	5.8333	27貫目1駄ニ付	工産物	
9	醤油	1061石9斗5升	5355.1093	1.802771%	1009.0378	石ニ付	農産物	
10	銑	1611駄	4922.415	1.657107%	3.0555	1駄30貫目ニ付	工産物	
11	鋤	749駄	3745	1.260736%	5	30貫目1駄ニ付	工産物	
12	赤貝	2003石	2784.17	0.937277%	1.39	石ニ付	水産物	
13	鉄砂(砂鉄)	17781駄	2469.702	0.831413%	7.0139	24貫目1駄ニ付	工産物	
14	地引手操漁雑喉類	年中取入	2388.888	0.804207%			水産物	
15	小麦	812石9升7合	2378.9255	0.800853%	2.8046	石ニ付	農産物	
16	小ノ実	635石7斗5升	2207.453	0.743128%	3.4722	石ニ付	農産物	
17	綿	11076貫720目	12723.5773	4.283329%	6.674683333	6貫目ニ付	工産物	
18	大豆	451石6斗3升	2094.161	0.704989%	4.767333333	石ニ付	農産物	
19	干鰯鮓	7505貫目	1666.11	0.560888%	0.222	1貫目ニ付	農産物	
20	蟹付(油)	4000挺・8700斤	1443.5	0.485947%	10.37133333	100斤ニ付	工産物	
21	家釘鋸釘取交	11552000本	1212.0358	0.408026%	0.0492	10000本ニ付	工産物	
22	油木実(桐油実)	402石1斗3升	1181.445	0.397728%	2.7552	石ニ付	工産物	
23	釘大小	1410200本	1035.2703	0.348519%	7.9104	10000本ニ付	工産物	
24	白油	45石	999.9	0.336611%	22.022	石ニ付	農産物	
25	燭	17820貫100目	998.7073	0.336210%	2.24725	10貫目ニ付	工産物	朱書で消しあり、「木実課書出ニ付略ス」
26	蠟燭	7500挺・4995斤	971.736	0.327130%	20.598	100斤ニ付	工産物	
27	炭	46000貫目	966	0.325199%	0.21	10貫目ニ付	林産物	
28	傘	7217本	858.8677	0.289134%	14.62176	10本ニ付	工産物	
29	葉藍	2390貫目	814.3702	0.274154%	3.33925	10貫目ニ付	工産物	
30	小豆	166石2斗1升7合	812.5315	0.273535%	4.949633333	石ニ付	農産物	
31	板	2710間	749.1891	0.252211%	15.2139	100間ニ付	林産物	
32	豌豆	237石6斗6升7合	711.2177	0.239428%	2.5885	石ニ付	農産物	
33	瓦	82235枚	697.167	0.234698%	8.516333333	1000枚ニ付	工産物	
34	酢	190石	689.318	0.232055%	3.629333333	石ニ付	農産物	
35	柿	2365233	676.3569	0.227692%	0.938466667	1000ニ付	農産物	
36	干雑木	55000貫目	660	0.222186%	0.12	10貫目ニ付	工産物	
37	足袋	5440足	608.736	0.204928%	11.19	100足ニ付	工産物	
38	中折	7丸半・240束・836本	525.5871	0.176936%	5.47208	1本25束入ニ付	工産物	
39	切石夫賃	3738人	518.717	0.174624%	3.888	100人ニ付	工産物	
40	大根蕪	320830本	449.062	0.151174%	0.14	100本ニ付	農産物	
41	桐油	25石3斗7升	430.519	0.144932%	17.245	石ニ付	農産物	
42	松割木	61840把	427.98	0.144077%	0.9435	100把ニ付	林産物	
43	楮	3029貫目	420.6452	0.141608%	0.95065	10貫目ニ付	工産物	
44	荒芋	876貫300目	406.9775	0.137007%	2.4998	10貫目ニ付	工産物	
45	鎌	2670挺・6023枚	401.342	0.135110%	3.5284	100枚ニ付	工産物	
46	薩摩芋	26996貫500目	385.093	0.129640%	1.48972	10貫目ニ付	農産物	
47	空豆(夏豆・蚕豆)	184石7斗9升5合	375.12	0.126282%	2.218433333	石ニ付	農産物	
48	生蠶	400貫目	375	0.126242%	15	100斤ニ付	工産物	
49	菓子品々	不明	364.639	0.122754%	不明		農産物	
50	蕎麦	114石4斗3升4合	360.8342	0.121473%	3.220166667	石ニ付	農産物	
51	種油	10石1斗2升	342.084	0.115161%	27.222	石ニ付	農産物	
52	銀	1100挺・1516枚	341.6557	0.115017%	9.4148	100丁ニ付	工産物	
53	綿実油	12石3斗	324.585	0.109270%	26.389	石ニ付	農産物	
54	大根	49489貫目	312.3964	0.105167%	0.4583	100貫目ニ付	農産物	
55	里芋	191石9斗4升5合	298.8562	0.100608%	1.289975	石ニ付	農産物	
56	木綿	736反	291.633	0.098177%	11.376	1反ニ付	工産物	
57	陶土焼	5釜	275	0.092577%	55		工産物	
58	粉(削ぎ板)	820000	251.196	0.084564%	0.2761	1000ニ付	林産物	
59	針金	200貫目	222.2222	0.074810%	11.1111	10貫目ニ付	工産物	
60	土焼物	4釜	222.2	0.074803%	55.555		工産物	
61	梨子	67661	217.8425	0.073336%	2.034933333	1000ニ付	農産物	
62	蜜柑	341570	191.7216	0.064542%	0.696866667	1000ニ付	農産物	
63	材木	20220才	190.8387	0.064245%	0.291	32才ニ付	林産物	
64	籐	12531枚	168.765	0.056814%	2.866	100枚ニ付	工産物	
65	筍(竹の子)	3000貫目	165.5	0.055715%	0.555	10貫目ニ付	農産物	
66	排ヘンタ	21石	134.1658	0.045166%	254170.3889	石ニ付	その他	
67	生姜	630貫目	126	0.042417%	2	10貫目ニ付	農産物	
68	簞笥	100棹	125	0.042081%	12.5	10棹ニ付	工産物	
69	藁藁	1200枚	116.64	0.039266%	0.0972	1枚ニ付	工産物	
70	鋳物	500枚	115	0.038714%	22.2	100枚ニ付	工産物	
71	黍	49石7斗9升	113.2103	0.038112%	1.9137	石ニ付	農産物	

順位	産物名	生産量	生産額(円)	割合	価格(円)	価格備考	分類	備考
72	鍋	4800枚	99.9804	0.033658%	0.2083	1枚ニ付	工産物	
73	木切	200挺	95	0.031981%	0.475	1挺ニ付	工産物	
74	栗	27石3斗8升	94.692	0.031878%	2.218066667	石ニ付	農産物	
75	菜種	17石6斗8升7合	91.1593	0.030688%	5.415125	石ニ付	農産物	
76	箆筒鉄具	280具	87.5	0.029456%	3.125	10棒分ニ付	工産物	
77	下駄	6100足	79.6667	0.026819%	0.8983	100足ニ付	工産物	
78	芋	245貫目	77.375	0.026048%	4.375	10貫目ニ付	工産物	
79	芋	46石4斗7升・13貫目	74.2917	0.025010%	5.44445	10貫目ニ付	農産物	
80	西瓜	1400	70	0.023565%	0.05	1ツニ付	農産物	
81	下駄木	800足	66.664	0.022442%	0.8333	100足ニ付	工産物	
82	梅	70石7升1合	64.5975	0.021746%	1.2493	石ニ付	農産物	
83	松枝	16900把	55.77	0.018775%	0.33	100把ニ付	林産物	
84	唐黍	26石	55	0.018515%	2	石ニ付	農産物	
85	茶	16石3斗7升・100斤	52.766	0.017763%	0.3345	斤ニ付	農産物	
86	雑木小割	6720貫目	52.359	0.017626%	0.778	100貫目ニ付	林産物	
87	藍	140貫目	50.5554	0.017019%	3.6111	10貫目ニ付	工産物	
88	胡麻	6石9斗9升4合5勺	47.917	0.016131%	7.10776	石ニ付	農産物	
89	水雲	30石	42	0.014139%	0.014	1升ニ付	水産物	
90	松六歩板	179間	39.774	0.013390%	2.222	10間ニ付	林産物	
91	蕪種	7石2斗	39.3999	0.013264%	5.5555	石ニ付	農産物	
92	縄	691束	34.55	0.011631%	0.5	10束ニ付	工産物	
93	煙草	497斤	34.4802	0.011608%	6.389	100斤ニ付	工産物	
94	薯蓣(長芋)	231貫目	33.7802	0.011372%	1.157833333	1貫目ニ付	農産物	
95	白炭	12000貫目	33.138	0.011156%	0.1944	10貫目ニ付	林産物	
96	栗	19石5斗	31.3889	0.010567%	2.144525	石ニ付	農産物	
97	筍	350	29.155	0.009815%	0.0833	1ツニ付	林産物	
98	斧	80挺	28	0.009426%	0.325	1挺ニ付	工産物	
99	竹皮笠	800枚	22.0024	0.007407%	0.278	1枚ニ付	工産物	
100	桃	47850	21.7651	0.007327%	0.51875	1000ニ付	農産物	
101	松脂	190貫目	21.1109	0.007107%	1.1111	10貫目ニ付	林産物	
102	障子	50枚	21.096	0.007102%	2.344	10枚ニ付	工産物	
103	石細工	30駄	20.832	0.007013%	0.6944	1駄ニ付	工産物	
104	香茸(皮茸)	10貫目	19.4	0.006531%	1.94	1貫目ニ付	農産物	
105	三ツ股楮	840貫目	17.744	0.005973%	0.1946	10貫目ニ付	工産物	
106	長持	15棹	16.666	0.005611%	11.101	10棹ニ付	工産物	
107	生糸	6貫500目	16.25	0.005470%	2.5	1貫目ニ付	工産物	
108	椿実	3石	15.2082	0.005120%	6.9444	石ニ付	農産物	
109	松八歩板	40間	13.332	0.004488%	3.333	10間ニ付	林産物	
110	黒瓦	3000枚	12.531	0.004218%	4.177	1000枚ニ付	工産物	
111	黒豆	2石5斗	12.5	0.004208%	5	石ニ付	農産物	
112	紫茶	17石5斗・350斤	12.18	0.004100%	0.209	石ニ付	農産物	
113	下茶	496斤	11.65	0.003922%	0.025	1斤ニ付	農産物	
114	胡麻油	3斗2升	11.556	0.003890%	36.111	石ニ付	農産物	
115	稻扱	5挺・10枚	11.165	0.003759%	0.7665	1枚ニ付	工産物	
116	半紙	10束・1丸3歩5厘	10.508	0.003537%	3.60835	1丸60束入ニ付	工産物	
117	紫煙草	150斤	10.4167	0.003507%	6.9444	100斤ニ付	工産物	
118	木瓜	5000本	10	0.003366%	0.2	100本ニ付	農産物	
119	牛房	115貫目	9.545	0.003213%	0.083	1貫目ニ付	農産物	
120	蕨(蕨)	160貫目	8.8888	0.002992%	0.5555	10貫目ニ付	農産物	
121	畳表	60枚	8.334	0.002806%	1.389	10枚ニ付	工産物	
122	大角豆	2石4斗	7.934	0.002671%	3.889	石ニ付	農産物	
123	土焼人形類	3500駄	6.65	0.002239%	0.19	100駄ニ付	工産物	
124	蓆	130貫目	6.5	0.002188%	0.05	10貫目ニ付	農産物	
125	砂糖黍	450貫目	6.3	0.002121%	0.14	10貫目ニ付	農産物	
126	木地盆	280敷	6.18	0.002080%	0.022	1枚ニ付	工産物	
127	作蕃薯	50貫目	5	0.001683%	1	10貫目ニ付	農産物	
128	庖丁	430枚	4.792	0.001613%	3.44	100枚ニ付	工産物	
129	唐胡麻	5石1斗	3.459	0.001164%	2.639	石ニ付	農産物	
130	金魚	1000疋	3	0.001010%	0.003	1疋ニ付	水産物	
131	青大豆	5斗5升	2.75	0.000926%	5	石ニ付	農産物	
132	柚子	4630	2.5934	0.000873%	0.556266667	1000ニ付	農産物	
133	菅	100貫目	1.6667	0.000561%	0.0667	10貫目ニ付	その他	
134	実操	15挺	1.665	0.000561%	1.11	10挺ニ付	工産物	
135	鍬柄	17挺	1.652	0.000556%	1.11	10挺ニ付	工産物	
136	作芋	17貫目	1.652	0.000556%	0.972	10貫目ニ付	農産物	
137	耳諸	231貫目	1.443	0.000486%	0.222	10貫目ニ付	農産物	
138	鍬曳柄	32本	1.334	0.000449%	0.417	10本ニ付	工産物	
139	李	1斗9升	0.158	0.000053%	0.833	石ニ付	農産物	
合計			297048.7922	100.000000%				

出典：表1と同じ。

日本新八景の選定をめぐる諸運動と松江市

長尾 隼

はじめに

今日、特定の地域や場所について考える際に、場所をめぐる表象やイメージの働きについて考察することは避けて通れない作業であるように思われる。ビジュアル・メディアが驚異的な発達を見せる現代では、多様な方法で場所が表象され、かかる表象が場所に具現化されてゆくというように、場所と表象の相互浸透がますます進行している。イメージや表象は単に現実世界の模倣なのではなく、それ自体が世界に意味や価値を与え、現実を構築していくのである (Dubow 2009)。

場所－表象の相互浸透という状況は、その場所に特定のコンテキストのもとで偶発的に節合されたはずの表象を、その場所の属性として先験的に存在したかのようにみせる傾向がある。場所はそれ自体意味を有しているわけではなく、われわれが何らかの働きかけを行うことによって意味づけられてゆく。場所に固有の意味や価値がすでに内在しているわけではなく、意味や価値を場所に充填させるプロセスが存在することに注意しておきたい⁽¹⁾。

われわれが日々知覚する場所の現実的構成は、こうしたプロセスが一体どれほど折り重り、そしてその堆積のどの部分が切り取られ読み込まれることで生み出されてきたものなのか。その具体と歴史的系譜について、一度腰を据えて問い直し、明らかにしてゆく作業が必要であろう⁽²⁾。

上記の課題を念頭に置きつつ、この小稿では、1927(昭和2)年に行われた日本新八景の選定というメディア・イベントを取りあげ、松江や宍道湖という特定の場所とその表象をめぐる関係について検討してみることにしたい。

日本新八景の選定とは、大阪毎日新聞と東京日日新聞の合同企画として実施されたメディア・イベントであった。「日本全国(本土、九州、四国及び北海道)の山岳、溪谷、瀑布、温泉、湖沼、河川、平原の八景から各代表的第一勝を選びこれを推薦選定」し、「風景の決算を試みよう」という趣旨をもつものであった(大阪毎日新聞;1927年4月9日付)。八景の候補地は一般からの葉書投票によって募集されたが、この投票運動は全国的な広がりを見せるに至った。当時の日本の人口は約6,000万人前後を数えていたが、この企画の最終的な有効投票数は9,300万票以上に上ったのである。各地で投票の組織化が行われ、山陰地方でも熱狂的な投票運動が展開された。

松江市でも投票を取りまとめる運動が生じていた。投票の対象とされたのは宍道湖という自然環境であり、このイベントを通して、湖には様々な視線が投げかけられることになった。日本新八景の選定という特定のコンテキストのもとにおいて、宍道湖は何らかの意味や価値を伴う“風景”として仕立てあげられた。

本稿の構成は以下の通りである。まず次章で、日本新八景の選定というイベントの全体像について紹介する。2章では、松江市を含む山陰地方一帯が、このイベントをどのように受容していたのかを明らかにしてゆく。3章では、このイベントを通して特定の場所がどのように表象されたのか、そしてその作用は現実世界の諸関係にどのような影響を与えたのか、松江市(宍道湖)を事例として考察する。

主な資料として、この企画を主催した大阪毎日新聞社が発行していた「大阪毎日新聞」本紙、および当時山陰地方で購読され流通していた「大阪毎日新聞山陰版」を使用した⁽³⁾。また、同時代の言説を確認するために、当時発行された各種刊行物やプリントメディア等も適宜使用している。

表1 日本新八景選定をめぐる事項

事 項	日 付
①「日本新八景」選定企画の発表	4月9日
② 一般投票の開始	
③「百景」選定の追加発表	5月5日
④ 一般投票の締切	5月20日
⑤ 一般投票結果の発表	6月5日
⑥ 第1回審査委員会	6月11日
⑦ 第2回審査委員会	7月3日
⑧ 審査結果の発表	7月6日

注) 日付の年次はいずれも1927(昭和2)年。

選定規定が報道されている(資料1)。「日本全国」から、「昭和の新時代を代表すべき新日本の勝景」を、山岳・溪谷・湖沼・海岸・河川・平原・瀑布・温泉の8部門において選定しようというのが企画の骨子であった⁽⁴⁾。選定の方法は、まず読者からの葉書投票によって風景地を募集し、この投票結果に基づき、審査委員会が「八景」を決定することになっていた。読者からの投票は4月10日から受付が開始され、5月20日に締め切られた。有効投票数は93,423,971票、推薦された風景地は1,470ヶ所に上っている。企画が開始された当初は山岳以下8部門の代表として「八景」のみを選定することになっていたが、反響の大きさもあり、八景選外の風景地から「二十五勝」および「百景」も選定することが決定された。「八景」「二十五勝」「百景」を決定するのは、学者、専門家、文学者、官僚、会社役員等からなる審査委員会であった⁽⁵⁾。そして7月6日付の新聞紙上において、選定された「八景」「二十五勝」「百景」の133ヶ所が報道さ

1. 日本新八景選定というメディア・イベント

日本新八景の選定という出来事について大まかな見取り図を提示しておこう。この出来事は、1927(昭和2)年、大阪毎日新聞および東京日日新聞の主催、鉄道省の後援によって実施された、風景地の人気投票とでもいえるべき企画であった。企画に関わる事項を時系列的に確認していこう。事項を整理した表1もあわせて確認されたい。

企画が発表されたのは4月9日付の大阪毎日新聞の紙面上においてである。『日本新八景』の選定」というタイトルの囲み記事で、この企画の趣旨と投票・

資料1 日本新八景選定の趣旨

『日本新八景』の選定 各第一勝を募る

〔選定種目〕 山岳 溪谷 瀑布 温泉 湖沼 河川 海岸 平原

輝かしい自然、美しい山水、われ等の日本が持つ多くの誇りの中に、その自然美を高唱し得ることはわれ等の大いなる喜びであります。けれども、これまで名所といひ、勝景とよばれていたものの多くは、全く古人の一部の趣味と、片よった鑑賞とによって定められたもので、われ等の好尚を代表すべく、あまりに隔たりがありすぎます、昭和の新時代を代表すべき新日本の勝景は、よろしくわれ等の新しい好尚によって選定されなくてはなりません、これ本社がこの昭和の御代の初頭において「日本新八景」の選定を江湖にお計りするゆえんであります、左にその選定方法を発表すると共にあまねく皆さんと共にこの計画を遂行せんことを期するものであります

『日本新八景』の投票と選定方法

- 一、日本全国(本土、九州、四国及び北海道)の山岳、溪谷、湖沼、海岸、河川、平原、瀑布、温泉の八景から各代表的第一勝を選びこれを推薦選定す。
- 二、推薦は一般公衆によって行はれる。
- 三、推薦投票は一般公衆から募集する、用紙は官製葉書に限り一景一枚と定む。
- 四、各景毎に推薦投票高点順十位宛を候補地とし、これを審査委員会に移して同委員の手により厳選決定す。
- 五、審査委員会は各方面の学者専門家を主体として組織せらる。
- 六、選定せられたる新八景は鉄道省において公認し種々の方法によって永くこれを紹介す。
- 七、審査委員会によって決定された新日本八景に入選した各景の投票者一千名(八景八千名)に記念品を贈呈し、別に一景につき一等一名、二等二名、三等三名(八景にて一等八名、二等十六名、三等二十四名)に賞を贈る。但しいづれも抽選による。
- 八、新八景地に著名文士と書家を派し、その紀行文並にスケッチを大阪毎日、東京日日両紙上に連載する。

(大阪毎日新聞1927(昭和2)年4月9日付より引用。)

れたのである。以上がこのイベントの概要である。

このイベントに関しては、これまでに地理学、造園学、観光史などの分野において検討が進められている⁽⁶⁾。主な先行研究が指摘する点について簡単に整理しておこう。白幡(1992)は、「ある風景が特定の時期にもてはやされる、その仕組みはどうなっているのか」という問いのもとにこのイベントを取りあげ、企画全体の大枠を提示し、八景選定のプロセス、各地で組織的な得票運動が見られたことなどを明らかにした。荒山(2003)は投票の集計分析を行い、ほぼ全国にわたる大規模な集合的参加があった点、総投票数の99%以上は組織票によってもたらされた点などを明らかにし、このイベントが地域における“郷土”意識を醸成させる作用をもたらしたことを指摘した。また新田(2005, 2010)は、新聞社主催事業の系譜を辿ることで、このイベントの性格を詳細に浮かび上がらせようとするとともに、同時代における観光との関係についても検討を試みた。これらの研究の成果から、日本新八景の選定という企画それ自体については多くが明らかにされてきているといえよう。また、個別地域における投票運動の分析も開始されつつある(関戸2005, 近藤2011)。

日本新八景選定と松江市を含む山陰地方一帯との関わりについては、管見の限り川上(1994)による言及が確認されるのみであった⁽⁷⁾。山陰地方の各市町村の自治体史等にはこの出来事と地域との関わりについての記述は見受けられず、いわばローカルな地域の公的な「歴史／物語」に整合されない出来事であったことが伺える。このイベントと地域との関わり合いを問い直すことは、地域をめぐるこれまでの記述から漏れ落ちてきた、非-公式の「語り」を読み解いてゆく作業とも接点を持つだろう⁽⁸⁾。

2. 山陰地方におけるイベントの受容

(1) 新聞報道からみる運動の展開

本章では松江市を含む山陰地方がこのイベントをどのように受容していったのか、当時の新聞報道などを手がかりとしながら明らかにしていきたい。

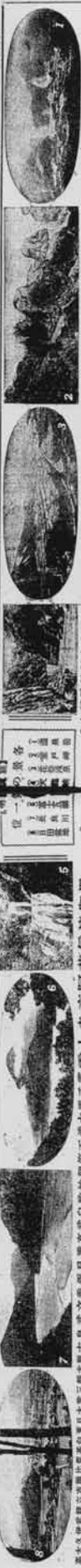
6月10日付の紙面上には、投票が確認されたすべての候補地とその得票数とが一覧化され報道されている(資料2)。この紙面に掲載された情報から分析をはじめてみよう。

表2は島根・鳥取両県において得票が確認された候補地の一覧である。島根県では24ヶ所、鳥取県では28ヶ所について、得票があったことがわかる。

それぞれの場所と得票数との関係に注目してみると、膨大な得票数を得ている場所が両県ともに数カ所ずつある一方で、得票が1票のみの場所も存在していることがわかる。得票は官製葉書1枚1枚によって行われているので、恐らく線引きは不可能であるが、一定数の票を集めている場所に関しては、個人の投票のみならず、組織的な集票活動が存在したと考えて良いだろう。

日本新八景選定の得票を集計分析した荒山は、得票が確認された1,470ヶ所のうち、10万票以上の得票を集めた場所が145ヶ所である一方で、得票100票未満の場所は全体の約8割にのぼる1,138ヶ所であったことを明らかにしている。また、総得票数約9,350万票のうち、10万票以上を獲得した145ヶ所の風景地への得票数が全体の97%を、1万票以上を獲得した風景地を合計すると99%を占めていることも明らかにした。この分析から、①得票が確認された合計1,470の風景地のうち、その大半は個人的な参加によってリストアップされたこと、②その一方で、総投票数の約9,350万票のうち、99%以上は大がかりな組織票によって占められていたことの2点を指摘している(荒山2003;98)。かかるコントラストは、島根鳥取両県の風景地への得票からも読み取ることができるだろう⁽⁹⁾。

表3は、得票が確認された山陰地方の候補地のうち、組織的な集票活動が存在した可能性が高いと思われる得票数1万票以上の候補地をとりあげ(鳥取県の大山除く)、これらの場所が投票期間中どのような

[illegible]

寒 斑

[illegible]

日本新風景選定總投票一覽表

三 年

[illegible][illegible][illegible]

1. 姓名 (姓名) 性别 (性别)	2. 年龄 (年龄) 职业 (职业)
3. 学历 (学历) 学位 (学位)	4. 工作单位 (工作单位) 职务 (职务)
5. 婚姻状况 (婚姻状况) 子女 (子女)	6. 兴趣爱好 (兴趣爱好) 特长 (特长)
7. 健康状况 (健康状况) 生活习惯 (生活习惯)	8. 自我评价 (自我评价) 他人评价 (他人评价)

[illegible]

多	摩(莫)	三
花	峽(峽)	三
地	溪(溪)	三

[illegible]

2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	1999	1998	1997	1996	1995	1994	1993	1992	1991	1990	1989	1988	1987	1986	1985	1984	1983	1982	1981	1980	1979	1978	1977	1976	1975	1974	1973	1972	1971	1970	1969	1968	1967	1966	1965	1964	1963	1962	1961	1960	1959	1958	1957	1956	1955	1954	1953	1952	1951	1950	1949	1948	1947	1946	1945	1944	1943	1942	1941	1940	1939	1938	1937	1936	1935	1934	1933	1932	1931	1930	1929	1928	1927	1926	1925	1924	1923	1922	1921	1920	1919	1918	1917	1916	1915	1914	1913	1912	1911	1910	1909	1908	1907	1906	1905	1904	1903	1902	1901	1900	1899	1898	1897	1896	1895	1894	1893	1892	1891	1890	1889	1888	1887	1886	1885	1884	1883	1882	1881	1880	1879	1878	1877	1876	1875	1874	1873	1872	1871	1870	1869	1868	1867	1866	1865	1864	1863	1862	1861	1860	1859	1858	1857	1856	1855	1854	1853	1852	1851	1850	1849	1848	1847	1846	1845	1844	1843	1842	1841	1840	1839	1838	1837	1836	1835	1834	1833	1832	1831	1830	1829	1828	1827	1826	1825	1824	1823	1822	1821	1820	1819	1818	1817	1816	1815	1814	1813	1812	1811	1810	1809	1808	1807	1806	1805	1804	1803	1802	1801	1800	1799	1798	1797	1796	1795	1794	1793	1792	1791	1790	1789	1788	1787	1786	1785	1784	1783	1782	1781	1780	1779	1778	1777	1776	1775	1774	1773	1772	1771	1770	1769	1768	1767	1766	1765	1764	1763	1762	1761	1760	1759	1758	1757	1756	1755	1754	1753	1752	1751	1750	1749	1748	1747	1746	1745	1744	1743	1742	1741	1740	1739	1738	1737	1736	1735	1734	1733	1732	1731	1730	1729	1728	1727	1726	1725	1724	1723	1722	1721	1720	1719	1718	1717	1716	1715	1714	1713	1712	1711	1710	1709	1708	1707	1706	1705	1704	1703	1702	1701	1700	1699	1698	1697	1696	1695	1694	1693	1692	1691	1690	1689	1688	1687	1686	1685	1684	1683	1682	1681	1680	1679	1678	1677	1676	1675	1674	1673	1672	1671	1670	1669	1668	1667	1666	1665	1664	1663	1662	1661	1660	1659	1658	1657	1656	1655	1654	1653	1652	1651	1650	1649	1648	1647	1646	1645	1644	1643	1642	1641	1640	1639	1638	1637	1636	1635	1634	1633	1632	1631	1630	1629	1628	1627	1626	1625	1624	1623	1622	1621	1620	1619	1618	1617	1616	1615	1614	1613	1612	1611	1610	1609	1608	1607	1606	1605	1604	1603	1602	1601	1600	1599</
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------

[illegible]

計 平 嬰

[illegible]

卅

[illegible]

原 二〇八四、九
九三、四二三、九
五七、八

[illegible]

阿含部
 經部
 律部
 論部
 菩薩部
 密部

[illegible]

⑤	10°N	
⑥	40°N	

[illegible]

中盛	
中一	
中一	

注) 大阪毎日新聞山陰版1927(昭和2)年6月10日付より転載。

表2 日本新八景選定における山陰両県の得票

島 根 県			
景 観	場 所	得票数	部門中得票順位と結果
山岳	十神山	8	75位
	江川★	50,266	10位 / 百景に入選
河川	周布川	2	43位
	大橋川	1	44位
	美保ヶ関★	244,397	38位
海岸	出雲浦北海岸★	11,785	61位
	杵築港	502	75位
	浜田港	43	106位
	大根島海岸	3	131位
	日御崎海岸	2	132位
	中ノ海	1	133位
	地藏岬	1	同上
	稲佐浜	1	同上
	十神山海岸	1	同上
	宍道湖★	684,018	4位 / 百景に入選
湖沼	中海	1	35位
	松江温泉	1	69位
温泉	玉造温泉	1	69位
	清滝	5	50位
瀑布	断魚溪★	14,383	29位
	鬼の舌震	4	55位
	立杭	1	58位
渓谷	三瓶ヶ原	2	49位
平原			

鳥 取 県			
景 観	場 所	得票数	部門中得票順位と結果
山岳	大山	3,230	37位 / 百景に入選
	久松山	68	56位
	打吹山	2	81位
	船上山	1	82位
	比波の山	1	同上
河川	小鴨川	1	44位
海岸	浦富海岸★	675,905	19位 / 百選に入選
	弓ヶ浜	9	125位
	境港	1	133位
	千岩松	1	同上
	八橋	1	同上
	鶴見浜	1	同上
湖沼	湖山池	3	33位
温泉	三朝温泉★	570,356	5位 / 百景に入選
	皆生温泉★	284,308	16位
	岩井温泉★	254,582	19位
	関金温泉★	47,325	26位
	東郷温泉	16	58位
	湖上温泉	5	65位
	末広温泉	2	68位
	新東伯温泉	1	69位
瀑布	千丈ヶ滝★	22,343	18位
	蛇谷の滝	195	27位
	竜頭ヶ滝	1	54位
渓谷	石霞溪	305	34位
	樗谿	1	58位
	小鴨川	1	同上
平原	大山裾野	1	50位

注) 大阪毎日新聞1927(昭和2)年6月10日付より作成。
★は1万票以上の得票を集めた候補地。

推移を経て票を重ねていったのかを集計したものである。1万票以上の得票が確認されたのは、票数の多い順に、島根県では宍道湖、美保ヶ関、江川、断魚溪、出雲浦北海岸の5ヶ所、鳥取県では浦富海岸、三朝温泉、皆生温泉、岩井温泉、関金温泉、千丈ヶ滝の6ヶ所であった。

大阪毎日新聞および東京日日新聞では、4月16日付の紙面より、候補地への投票の集計結果を掲載しはじめた。この掲載は6月5日付の紙面までほぼ毎日続けられた。掲載の体裁は、基本的に紙面の日付3日前の正午時点における各候補地の得票数および順位を、8部門それぞれの得票順に列挙してゆくというものであった。5月11日付の紙面より、掲載される情報は3日前正午時点における“得票数”から“整理票数”へと変更されているが、これは新聞社に送付される葉書の量が増加し、集計整理が追いつかなくなったことが影響していると推測される。また、紙面に掲載される候補地数の基準は日によってばらつきがあった。4月19日付の紙面以降は得票数10票以上、24日付以降は100票以上の候補地が、28日付以降は各部門16位以上の候補地が掲載されている。16位以下の候補地については、5月8日以降、地方紙面に掲載されるようになった。これも16位以下の候補地全てが報道されたわけではなく、日によってばらつきがあるものの、各部門の30～35位あたりまでが掲載された。このようにして、候補地の得票数と順位は、日々紙面に掲載された。

残された資料は少ないものの、当時の新聞報道や表3を手がかりとしながら、山陰地方における日本新八景選定という出来事の受容の様子を以下に明らかにしていきたい。次節では、表3に掲げた候補地のうち、島根県内に立地する宍道湖、美保ヶ関、江川について主に検討する。

(2) イベントの受容－島根県内の候補地

i 宍道湖⁽¹⁰⁾

山陰地方で最も票を集めたのは宍道湖であった。企画開始3日後に10票の得票が確認されて以降、最終的には684,018票を集めることとなった。これは湖沼の部で第4位となる得票数であった。

表3 山陰地方の主要候補地における得票と順位の推移

日付	島根県						鳥取県						新聞報道日付	備考							
	宍道湖 得票 順位	美保ヶ島 得票 順位	江川 得票 順位	断魚溪 得票 順位	出雲浦北海岸 得票 順位	浦富海岸 得票 順位	三朝温泉 得票 順位	皆生温泉 得票 順位	岩井温泉 得票 順位	関金温泉 得票 順位	千丈ヶ滝 得票 順位	大山 得票 順位									
4月13日	10	4										2	4月16日付	3日前正午時点の投票数を報道開始							
4月14日	20	4				2	17					4	4月17日付								
4月15日																					
4月16日	34	5				圏外	?					圏外	?	10票以上の候補地を報道							
4月17日																					
4月18日	116	5				圏外	?					圏外	?	30票以上の候補地を報道							
4月19日	134	5				圏外	?					圏外	?	50票以上の候補地を報道							
4月20日	253	4				圏外	?					圏外	?	100票以上の候補地を報道							
4月21日	255	4				圏外	?					圏外	?	100票以上の候補地を報道							
4月22日	276	4				圏外	?	1,384	2			圏外	?	16位以上の候補地を報道							
4月23日	324	7	354	19		330	22	4,494	2	343	12	圏外	?								
4月24日	331	8	556	21		343	28	5,511	2	839	8	圏外	?								
4月25日	354	9	圏外	?		圏外	?	6,540	2	890	9	圏外	?								
4月26日																					
4月27日	377	9	圏外	?		圏外	?	9,819	1	2,328	9	圏外	?								
4月28日	419	12	圏外	?		圏外	?	10,180	1	2,532	10	圏外	?								
4月29日																					
4月30日	672	11				6,025	12	12,193	2	3,846	11	圏外	?								
5月1日	735	13	8,744	12		10,032	10	17,051	1	8,176	6	圏外	?								
5月2日																					
5月3日	762	13				16,906	11	19,700	3	14,185	6	圏外	?								
5月4日	775	13						24,339	3	16,751	7										
5月5日	784	13	26,742	15		23,055	18	26,852	3	20,099	6	995	32	16位以下地下方紙面に報道開始							
5月6日	804	13						28,865	3	24,365	4			16位以下報道されず							
5月7日	3,950	10						32,201	3	30,260	5			16位以下報道されず							
5月8日	8,522	8	35,554	23		27,715	27	33,817	5	34,109	4	995	34	3日前正午時点の総理票数の報道に変更							
5月9日	10,534	8	36,973	24		31,578	28	41,118	5	37,634	7	1,360	33								
5月10日	17,782	6	37,177	27		34,453	29	47,637	5	39,932	8	1,693	33								
5月11日	17,906	6	37,207	29		42,438	26	64,535	2	48,017	8	1,955	32								
5月12日	22,834	6	38,900	29		50,541	26	80,024	2	56,080	7	3,474	31								
5月13日	25,332	6						94,151	2	57,919	10			16位以下報道されず							
5月14日	32,705	5	44,111	33		79,384	21	100,471	2	60,845	11	5,981	32								
5月15日	41,921	5	74,676	29		90,634	22	105,826	2	62,174	12	6,154	32								
5月16日	57,040	4	77,141	31		93,865	23	114,754	5	74,130	14	7,676	30								
5月17日	58,024	6	93,289	30		118,111	22	172,520	5	86,534	14	18,523	28								
5月18日	59,897	6	116,342	28		156,258	22	245,511	2	87,667	14	18,694	28								
5月19日	61,524	6	141,956	26		165,049	22	248,735	2	95,668	18	29,694	26								
5月20日	64,925	7						280,553	2					16位以下報道されず							
5月21日	72,962	6	149,986	32		276,900	17	321,005	3	112,993	17	78,528	20								
5月22日	136,291	6	152,363	32	1,092	12	4,494	28	339,791	3	143,586	16	106,718	20	圏外						
5月23日	212,384	5	176,321	32	3,132	10	5,082	28	313,734	19	383,376	5	144,286	18	圏外						
5月24日	293,457	5	176,321	32	7,905	9	5,082	28	335,858	21	407,551	5	159,916	20	圏外						
5月25日	327,492	5			8,522	9			407,725	7				5月28日付	16位以下報道されず						
5月26日	335,814	5	182,093	35	16,520	9	5,082	29						5月29日付							
5月27日	369,052	6	20,701	9			485,515	5						5月30日付	16位以下報道されず						
5月28日	551,632	4	圏外	?	31,202	10	6,132	28						5月31日付							
5月29日	607,546	4	圏外	?	32,202	10	6,132	29	608,909	17	510,378	6	218,196	18	圏外						
5月30日	637,001	4	圏外	?	36,595	10	6,141	29	668,998	18	540,343	5	271,433	17	圏外						
5月31日	638,195	4	圏外	?	38,260	10	6,141	29	670,716	19	558,361	5	273,428	16	圏外						
6月1日	648,018	4	圏外	?	38,303	10	6,383	29	673,768	19	559,010	5	274,099	16	圏外						
最終得票結果	684,018	4	244,397	38	50,266	10	14,388	29	675,905	19	570,356	5	284,068	16	投票が確認された全候補地が報道						
					江川		断魚溪		浦富海岸		三朝温泉		皆生温泉		岩井温泉		関金温泉		千丈ヶ滝		大山

(注) 大阪毎日新聞、大阪毎日新聞山陰版1927(昭和2)年4月16日～6月10日付より作成。

宍道湖をめぐる投票運動で大きな役割を果たしたと思われるのが、「宍道湖保勝会」なる団体であった。この団体についての情報が初めて報道されたのは4月22日付の紙面である。「風光明媚を誇る宍道湖は琵琶湖や十和田湖などを向ふに廻して湖沼の部の高点を争はれている」。その結果、「松江市民をはじめ宍道湖畔官民の歓喜一方ならず、この際わしが国さの名勝を日本はもとより世界に紹介して観光の客を吸収せんと熱」が高まり、「松江市役所では商工会議所と手をつなぎ近く松江市内に「宍道湖保勝会」あるひは「島根風光宣揚会」なるものを組織し、大々的宣伝計画を立てあまねく目下各種団体を通じ県民の愛郷心に訴へるべく目下着々準備している」ところであるのだという。

団体の結成は「目下着々準備している」という話が出たものの、なかなか続報は出てこなかった。4月中の宍道湖の得票数は600票を超えるに留まり、当初4位でスタートした順位も11位まで後退した。

具体的な行動が確認されるのは5月に入ってからである。まず3日、松江市は参事会委員および商工会議所関係者を招集し、日本新八景の選定について「色々具体的な協議」を行い、「この際郷土を天下に紹介する意味で市当局は一肌脱いで援助する」ことを決定した。翌日の午後1時から「全市各町村総代」および「市内有力者」を市役所に招集し、「全力を挙げて我宍道湖をすくなくとも第三位内に誓って入選せしむること」を申し合わせている。そしてこのとき、先月より計画が持ち上がっていた「宍道湖保勝会」の組閣が行われた。発起人には、松江市長、市会議員全員、商工会議所頭、商工会議所員全員、各町村総代全員が名を連ねた。また、事務所は市役所内に設置されることになった。保勝会は結成直後より「投票用葉書の印刷に取りかかり、翌5日には数千票の発送が行われた」という。5月6日に804票だった得票数は、翌7日には3,950票に増加し、これ以降の得票も6日以前より大幅に伸びていることが表3から確認される。こうした得票数の増加は、保勝会の結成に伴う本格的な運動の開始が反映されたものと考えて良いだろう。日本新八景の選定というイベントに対し、松江市は市を挙げた投票動員体制を創りあげたわけである。

保勝会の宣伝活動はこれ以降熱を帯びてくる。9日に開かれた協議会では、宍道湖周辺の「玉湯今市直江庄原平田大社秋鹿等の主要町村」にも投票の応援を呼びかけることが決議され、湖北の町村は市役所が、湖南の町村は商工会議所が、それぞれ勧誘を受け持つこととなった。投票勧誘活動の範囲はその後八束・能義の両郡にも伸び、さらに県を超えた米子市にまで及んでいる。

投票の締切が近づくにつれ、松江市内の景観に変化が見られだした。保勝会は13日の午前11時から「宍道湖宣伝デー」なる企画を実行している。これは市内の自動車会社から寄付された12台の自動車に「市内各検番寄付による粒揃いの芸者」数十名を分乗させ、楽隊を先頭に写真入り宣伝ビラ数万枚を散布しつつ市内を練り歩くというものであった。この自動車行列は、4日後の17日午後1時から、さらに19日の午後からも実施されている。また、投票数と順位を報道する紙面、および「宍道湖宣伝ポスター」が、保勝会の手によって市内外二十数カ所に貼りだされている。報道紙面は恐らく毎日張り替えられたのだ



図1 宍道湖保勝会内の様子

ろう。ポスターのデザインは白地に赤文字で「愛すべき郷土のために」と描かれたものであった。街路には、「日本新八景へ宍道湖を投票して下さい」（ママ）と記された小旗を取り付けた人力車と営業用自動車が疾走する。小旗は保勝会が準備したものであったという。

5月18日付の紙面には、保勝会の様子を撮影した写真が掲載されている（図1）。

机や棚の上には葉書が積み上げられ、壁には宣伝ポスターが掲示されていることを確認できる。

日本新八景選定への個人レベルでの参加の様子については明らかでない部分が多いが、当時松江に住まう人々は、少なくともこの企画の存在については、何らかの形で目にしたり耳にしたりしていた可能性は高いといえるだろう。こうした宣伝活動は投票締切日の20日に最も盛り上がったものと推測される。

宍道湖投票最後の日である二十日は松江市民の熱烈ぶりはひとしほ際立ち紙上に発表された十七日正午までの整理数において宍道湖は前日より二位落ちて第五位となったのでこれが挽回に努め最後の五分間にヘビーをかけて第一位当選の初志を貫徹する保勝会委員達は必死となり市街を自動車で疾駆し投票を勧誘するのみならず市内中等学校、小学校生徒児童にも後援を頼み市役所内の保勝会事務所は戦場にもひとしい混雑振りを極め市民は朝配達された本紙を待受けて順位と得票数を凝視しまだ五万台にうろついているのは手ぬるいとやきもきするものもあり委員は全く血眼になって活動して居た
(大阪毎日新聞山陰版：1927(昭和2)年5月21日付)

宍道湖投票最終日における宍道湖保勝会其の他の活動目覚ましく保勝会では市内各所に自動車をやって檄文を散布する傍ら鈴や笛、サイレンを鳴らしつつ市内隈無く最後の活躍を続け委員や市議員は自動車上から声を枯らして「もはや今夜十時までの投票で一切の運命は決る、愛すべき松江のために一枚の葉書を…」と辻々に叫び二十日夜の松江市内は近年になく緊張した

(大阪毎日新聞山陰版：1927(昭和2)年5月22日付)

ある程度の誇張は織り交ぜられていると思われるが、当日の喧噪が伝わる報道であろう。

投票最終日に配達された紙面には17日正午時点での整理票数が報道されていたが、このとき宍道湖の得票は58,024票、湖沼の部の第6位であった。しかし投票締切以降も票数は伸びて行き、最終的には70万票近くまでに達した。結果として湖沼の部で第4位となる票数を集めており、宍道湖は審査委員会での審議を経て「百景」に選ばれている。

ii 美保ヶ関¹¹⁾

美保ヶ関に集められた244,397票は、県内では宍道湖に次ぐ得票数の多さであった。紙面への初登場は4月26日で、354票を集め海岸の部第19位に入り込んだ。以降得票数は増加するも順位は後退し、最終的には海岸の部の第38位という結果に落ち着いた。

美保ヶ関でも組織的な集票活動が確認されている。5月8日付の紙面には、美保関町では日本新八景選定が開始されて以降「この機会にわが美保関を是非とも海岸名勝地に当選せしめなければならぬ」という機運があがっており、その結果町役場に保勝会が設置された様子が報道されている。保勝会事務所には役場吏員や商工会員らが詰めかけ、総掛かりで葉書に「スタンプ押印」を行っていた。その結果、保勝会には8日の時点ですでに約10万枚の葉書が集まっていたという。12日には緊急町会が開かれ、「該問題に対し町は徹底的に援助」する旨が決議された。町を挙げて取り組むべき課題としてこのイベントが認識されたのである。美保ヶ関の得票数はこの時点で県内トップであり、町民を中心とした活動は早くから実施されていたものと推測される。投票数の推移を見る限り、その活動は締切当日まで続けられたものと思われる。

iii 江川

江川の名が紙面に現れるのは遅かった。初登場は投票締切後の5月25日付の紙面であり、1,092票（12位）という得票数が確認される。しかし河川の部へエントリーされる候補地の少なさもあって、最終的には50,266票という得票数ながら同部門の第10位に入選を果たし、結果として「百景」にも選定された。

江川への投票をめぐる具体的な様子を伝える資料は確認できていないが、やはり組織的な集票活動が存在したと考えられよう。ただ、そうした活動を企図した主体については不明である。投票数の推移からは、企画の発表直後から投票運動が起こっていたわけではなく、むしろ締切日近くになって活動が開始された可能性を読み取ることができる。これは日々紙面に報道される得票経過のうち、河川の部が他部門よりも候補地・得票数ともに少なく、投票期間が残り僅かであっても、一定数の得票に達せば入選の可能性が高くなる点などが注目されたのかもしれない。

iv その他の候補地

島根県内では上記3ヶ所のほか、断魚溪と出雲浦北海岸が1万票を超える得票を集めている。断魚溪は14,383票で溪谷の部第29位、出雲浦北海岸は11,785票で海岸の部第61位であった。いずれの候補地にも何らかの後援組織の存在が推測され、またその他の得票1万票以下の候補地に関しても小規模ながら同様の組織活動が存在していたものと思われるが、それを明らかとする資料を現時点では確認できていない。

なお、海岸の部と湖沼の部に「中ノ海」と「中海」がそれぞれ1票ずつ投票されていたことが確認される。あえて宍道湖との得票差を比較してみれば、この企画がいかに特定の場所を後援する団体の存在とその実践とによって成り立っていたのかが、浮き彫りとなるだろう。

(3) イベントの受容－鳥取県内の候補地

V 浦富海岸⁽¹²⁾

鳥取県内の候補地の様子についても以下に明らかにしておきたい。これは島根県や松江市におけるイベントの受容の特性をより明確にする意味でも必要な作業であると思われる。本節では浦富海岸、三朝温泉、皆生温泉、岩井温泉について主に検討する。

鳥取県内の候補地で最も得票を集めたのが浦富海岸であった。4月17日付の紙面にわずか2票の票数が掲載されたのがその初登場であったが、日付が5月になるあたりから得票は増加し、最終的には675,905票を集めている。これは海岸の部で第19位に入る票数であり、審査の結果「百景」にも選定された。

浦富でもやはり組織的な集票活動が確認される。きっかけは浦富村村長および商工会長らが、浦富村の海岸を日本新八景選定の投票で「高位に占め天下に紹介しよう」と、「僅かなはがきの持寄り」を行ったことであった。その結果、村議会では4月中順の時点で早くも村を挙げ投票を実施することを決議した。栗村村長は「こんな好機会はまたとないでせうから一位ならずとも全力を尽くし全国で認められたいと考へています」と23日付の新聞にコメントを寄せている。さらに5月1日、同村で開かれた岩美郡教育会総会では、浦富を当選圏内に入れるために郡を挙げて投票を実施するという建議が可決された。この結果、同郡教育会からは1,000枚、郡の小学校教員全員から1,500枚、郡内に13ある小学校の生徒全員から一人一枚にあたる約6,000枚の葉書を浦富村へ寄付させることが決定された。

5月13日付の新聞に浦富海岸が部門29位まで後退していることが報道されると、関係者らは「浦富の荒廃はこの一週間にあり」という掛け声のもと、近隣の鳥取市へ投票を呼びかける戸別訪問を開始している。村役場には「日本新八景投票期日切迫郷土愛を以て必勝を期せよ」と墨書された看板が立てられ、商工会や青年団らは幟を立てた自転車で村内を駆け回り、投票の勧誘を行った。投票用の葉書の代金に

については、たとえば「浦富村桶屋沢田政蔵君の如きは極度の郷土愛から好きな酒も辞め財布をはたいて一日に一円六十銭をはがき代として寄付した」という話のように個人的な寄付が確認される一方で、「16日には浦富村各区の基本財産が投票用葉書の代金として使用されることに決定した」という話も確認される。まさに村および郡の威信をかけた運動が展開されていたわけである。

VI 三朝温泉⁽¹³⁾

三朝温泉は4月25日付の紙面で温泉の部第2位として初登場した。以降も継続的に得票を続け、順位も常に上位をキープしつつ、最終的に570,356票を集め部門中第5位の成績を残している。

5月8日付の紙面から、地元三朝村での運動の過程を辿ってみよう。4月15日に同村の医師が温泉協会に10枚の葉書を持参したのが始まりであった。21日には協会に「日本新八景三朝応募事務所」が開設され、「挙村一致」の運動が開始されたという。

投票の呼びかけは三朝村内に留まらない。村は「隣接の倉吉町に於ても三朝温泉の盛衰は直接に関係ある」という理由をつけ、隣接する倉吉町への投票勧誘を開始した。これは当時、山陰本線より分岐する倉吉線の倉吉駅が三朝温泉への最寄り駅であったことも関係しているのだろう⁽¹⁴⁾。倉吉町はこの求めに応じたらしく、町と商工会の有力者らが後援会を結成し、「目下盛んに運動」を実施していることが報道されている。

三朝温泉では、「各旅館の女中さん」、「芸妓各検番」、「浴客」、あるいは「荷馬車曳くもの」から葉書やその購入代金の寄付が相次ぎ、「応募事務所では連日五六名の事務員が葉書の発送などで大車輪のありさま」であった。さらに、寄付者名とその寄付の内容とが、事務所の壁に大きく貼り出されていた(図2)。イベント当時、新聞社は連日各地方の住民による葉書投票や集票活動を、「郷土愛の発露」、「涙ぐましい愛郷心」などと報道し、地域の運動を煽り立てていた。この企画に“乗った”地方(あるいは各々の主体)にとっては、新聞で報道される候補地の順位差それ自体が、候補地ごとの「愛郷心の差」と読み替えられていたことは十分に考えられる。得票=愛郷心というコードのもとにおいて、三朝温泉の事務所に貼りだされた葉書寄付者の一覧表は、地域の構成員に対して、「愛郷心」を有す／有さないのは誰であるのかを可視化させるシステムとして機能していたと思われる。



図2 貼り出された寄付者名の一覧

期間中三朝温泉は上位を維持し、その名はほぼ毎日全国紙上に大文字で掲載された。「同村は業務も放任し」、「寝食を忘れて血のにじむような最後の猛運動」を行った。締切間近の16・17日に開催された東伯郡教育会総会では、浦富海岸を推す岩美郡教育会と同様に、三朝温泉への投票の斡旋が可決された。こちらは郡内の小学校生徒から葉書2枚の寄付を実施させることが申し合わされている。

運動の甲斐もあって第5位に入選、三朝温泉は審査委員会の審議を経て「百景」に選定されている。

VII 皆生温泉⁽¹⁵⁾

皆生温泉は温泉の部で第16位となる284,308票を集めている。初登場は三朝温泉より1日遅れの4月26日付の紙面であった。5月9日付および11日付の紙面

では部門中4位まで昇り詰めている。以降は順位を落とし紙面にその名が見えなくなるときもあったが、最終的には部門中16位に収まった。

皆生温泉では、旅館・料理屋業者を中心として保勝会が結成されている。部門中4位を占めたことが報道された9日には「地元の人もいよいよ熱狂」、「各種の団体や個人でその熱心さに動かされて投票する者続出」という状況であった。米子電車軌道、皆生温泉土地会社も投票を後押しした。米子市長も吏員2名を市内の有力者や銀行へ派遣し、投票の勧誘に当たさせたという。投票締切が近づくと、「未明から役員総出で米子市内および付近町村の個別訪問をして投票の勧誘」が実施され、周辺の各村や米子在住の鉄道職員らによる組織票も保勝会に持参されたことなどが報道されている。

VIII 岩井温泉⁽¹⁶⁾

岩井温泉は初登場こそ先の三朝・皆生温泉よりも出遅れるものの、その後得票数と順位を一気に上昇させ、最終的な得票数を254,582票とし、温泉の部の19位を占めるに至った。5月終盤には皆生温泉と票数を争い、2日間ほど順位を追い抜いていたことも確認される。

運動の組織化は他の候補地よりも遅れたようで、初めて岩井温泉の様子が報道されたのは5月18日付の紙面上であった。旅館組合が投票事務所の役割を果たしており、ここでも「挙村一致」の投票運動がみられた。「芸妓や女中達はチップを葉書代に投げだし同村小学校生徒等は零細な小遣銭を集めて葉書代にするなど郷土愛の美しい発露があつて火の出るやうな猛烈な活動を続けて居る」。

IX その他の候補地

鳥取県内で1万票以上の得票を集めた候補地は、上記4ヶ所のほかに、関金温泉と千丈ヶ滝が確認される。関金温泉の初登場は5月25日付の紙面で、最終的に47,253票を集め温泉の部の第26位を獲得した。千丈ヶ滝は現在の東伯郡琴浦町船上山の山腹に立地する滝であり、紙面への初登場は関金温泉と同じ25日付で、最終的に瀑布の部で第18位となる22,343票を集めていることが確認される。得票数からはいずれの候補地でも集票活動が行われていたことが考えられるが、今のところ運動を伝えたり報じたりする資料を見つけられていない。

(4) 大山の「百景」入選をめぐって

山陰地方において1万票以上の得票を集めた候補地を表3に掲げているが、得票数3,230票の大山も取りあげている。大山の得票数は山岳の部で第37位という成績であった。

この候補地が「百景」に選定されていることに注目したい。山陰地方で「百景」に選定されたのは、大山を含めて5ヶ所であった。それぞれの得票数と部門中順位を示すと次の通りである。宍道湖（684,018票／4位）、江川（50,266票／10位）、浦富海岸（675,905票／19位）、三朝温泉（570,356票／5位）。大山の得票数と部門中順位は、これらの候補地の得票数と順位よりも、明らかに少ないこと、そして低いことが指摘できるだろう。

この点について、そもそも「八景」「二十五勝」「百景」がどのような過程で選定されたのかを詳しくみておこう。まず、6月5日付の紙面上において、日本新八景の候補地80ヶ所が公表された。これら80ヶ所は、各8部門のうち、得票数の多い順に、それぞれ第1位から第10位までの候補地を選択したものであった。湖沼の部第4位の宍道湖、河川の部第10位の江川、温泉の部第5位の三朝温泉は、このとき八景候補地として選出されたことになる。次いで、6月11日に開かれた第1回審査委員会の場において、新たに53ヶ所の候補地が選出された。海岸の部で第19位であった浦富海岸も、この53ヶ所に含まれていた。

これで選出された候補地の合計は133ヶ所となり、これらが「八景」「二十五勝」「百景」のいずれかに割り振られることとなったのである。

さて、6月11日の審査員委員会で決定された53の候補地に注目してみたい。これらの候補地は、それ以外の80ヶ所が得票数の多さによって決定されていたのとは異なり、審査委員会で決定された審査基準にもとづいて選定が行われた。審査基準は資料3に挙げているとおりである。そして、すでに白幡(1992)や荒山(2003)が指摘しているとおり、この審査基準は、同時期に準備中であった国立公園の選定基準と酷似しているのである⁽¹⁷⁾。また、審査委員のなかには、後に国立公園の選定に大きく関わる専門家らが複数名含まれていたことにも注意しておきたい⁽¹⁸⁾。さらに表4に掲げるとおり、この当時公表されていた国立公園候補地の16ヶ所およびその計画範囲に立地する風景地は、阿寒湖を除いていずれも「八景」「二十五勝」「百景」に選定されている点も興味深い。

133ヶ所の選定にはかかる経緯があったから、たとえば部門中得票数第1位の候補地が、必ずしも「八景」に選ばれたわけではなかった。溪谷の部で「八景」に選ばれた上高地は得票数第11位であり、瀑布の部で「八景」に選ばれた華厳滝は第9位であった。これは「二十五勝」や「百景」に選定された候補地にもあてはまることであり、なかには他の候補地と比べ圧倒的に得票数が少ないにもかかわらず、選定された候補地も存在した。荒山(2003)は、「二十五勝」「百景」に選ばれた候補地のうち、以下にあげる場所が得票数1万票以下であったことを明らかにしている。「二十五勝」では箱根温泉(187票/43位)、

資料3 国立公園の選定基準と八景・二十五勝・百景候補地の審査基準

国立公園の選定基準

必要条件

我が国の風景を代表するに足る自然の大風景たること

即ち国民的興味を繋ぎ得て探勝者に対しては日常体験し難き感激を与ふるが如き傑出したる大風景地にして海外にも誇示するに足り世界の観光客を誘致するの魅力たるもの

- (1) 同一形式の風景を代表して傑出せること
- (2) 自然風景地にして其の区画大なること
- (3) 地形地貌が雄大なるか或は風景が変化に富みて美なること

副次条件

- (1) 自然的素質が保健的にして多数の利用に適するものなること即ち空気、日光、気候、土地、水等の自然的素質が保健的にして多数の登山、探勝、探索、散策、釣魚、温泉浴、野営、宿泊等の利用に適すること
- (2) 寺社仏閣、史蹟、名勝天然記念物、自然現象等教化上の資料に豊富なること
- (3) 土地所有関係が公園設置に便宜なること
- (4) 位置が公衆の利用上有利なること
- (5) 水力電気、農業、林業、牧畜、水産、鉱業等各種産業と風致との抵触少なきこと
- (6) 既設公園的施設が国立公園計画上有効に利用せらるるものとなると共に将来の開発容易にして国立公園事業の執行上便宜多きこと

(「国立公園ノ選定ニ関スル方針」(1931)より引用。送り仮名をカタカナからひらがなへ変更した。)

八景・二十五勝・百景候補地の審査基準

- (1) 規模の大なること
- (2) 景種の多種多様なること
- (3) 四季各特色あること
- (4) 交通の便利なること
- (5) 史実の感興をひき若くは天然記念物のあること
- (6) 民衆的施設あることおよび将来施設可能なること
- (7) 地理的分布を考慮すること

▲温泉については特に左の条項を参酌すること (イ) 湧出量 (ロ) 泉質

(大阪毎日新聞1927(昭和1)年6月13日付より引用。)

表4 国立公園候補地と日本新八景・二十五勝・百景との関係

国立公園候補地	日本新八景・二十五勝・百景		
	八 景	二十五勝	百 景
阿寒			
登別			登別温泉 (41, 086／27位)
大沼		大沼 (466, 234／6位)	
十和田湖	十和田湖 (734, 111／3位)		
磐梯及吾妻			猪苗代湖 (40, 518／13位)
日光	華嚴滝 (214, 381／9位)		中禅寺湖 (22, 582／14位)
富士		富士五湖 (1, 328, 978／1位)	
		箱根温泉 (187／43位)	
上高地	上高地溪谷 (606, 391／11位)		
白馬岳		白馬山 (207, 891／21位)	
立山		立山 (66, 363／28位)	
		黒部溪谷 (822, 639／8位)	
大台ヶ原及大峰山		瀨八丁 (2, 064, 590／3位)	
		那智の滝 (74, 308／13位)	
大山			大山 (3, 230／37位)
小豆島及屋島		屋島 (1, 034, 638／11位)	
阿蘇		阿蘇山 (555, 934／6位)	
雲仙	温泉岳 (3, 818, 721／1位)		
霧島			霧島 (392, 844／13位)

注) 大阪毎日新聞1927 (昭和2) 年6月10日付より作成。八景・二十五勝・百景横の()中の数字は、左が得票数、右が部門中順位。

大和平原 (7801票／18位) の2ヶ所、「百景」では富士川 (1736票／16位)、大歩危小歩危 (95票／38位)、大山 (3230票／37位) の3ヶ所である。そして、このうち箱根温泉と大山の2ヶ所は、この当時国立公園候補地としてノミネートされていた16の候補地の計画範囲に含まれる場所でもあったのである。

大山がその得票数の相対的な少なさにも関わらず「百景」に選定されたことについては、審査委員会の場において何らかの意向が働いていたことが想定されよう。日本新八景選定と国立公園選定の近接性、当時大山が国立公園候補地の16ヶ所のひとつであった点などからは、そこには国立公園選定をめぐる力関係の交錯が関係していた可能性が高いように思われる。

(5) 候補地と得票のあいだ

本章の(2)節および(3)節において、山陰地方におけるイベントの受容の様相を具体的に確認してきた。本節では、それぞれの候補地について確認される大量の得票は、一体誰によって投票されたものなのかを改めて考えてみたい。

まず、大量の得票が確認されたそれぞれの候補地では、投票を後押しする後援組織が結成されていたこと、こうした組織は地元の人々、商工会、あるいは地方自治体の職員らによって構成されていたことは、さきに見てきた通りである。また、地方の郡庁や各種団体らがこれらの組織を後押しした場合もあった。投票に用いる葉書については、個別事例の検討が必要ではあるだろうが、個人あるいは団体での購入・寄付によって集められていたことが想定される⁽¹⁹⁾。いずれにせよ、大量の得票は、まず候補地周辺の市町村あるいは集落単位で結成された各種団体によってもたらされていたことは明らかであろう。

また、近藤 (2011) の指摘にあるように、ローカルな団体の組織票に埋没する形で可視化が困難となった、組織外の個人票の存在も想定されるだろう。たとえば、投票締切日の松江市の街頭で聞かれた「愛

すべき松江のために一枚の葉書を…」という叫びは、一体誰に向かって投げかけられていたのか。資料の制約から断言することはできないが、投票の締切が近づくにつれ、周囲の状況や新聞報道に影響された個人による投票は、やはり一定数存在したと思われる。

こうした候補地ごとに組織されたローカルな後援会による運動、および可視化が困難となった組織外の個人による投票の他にも、特定の候補地への集票活動が行われる場合があった。それは大都市圏に住まう地方出身者による、出身地方の候補地への投票である。この場合は、当時各都市に組織されていた県人会が、集票活動を担うことが多かった。

宍道湖への投票運動を事例として、大都市圏における集票活動の具体的な様子について詳しくみてゆくことにしよう⁽²⁰⁾。5月16日付の大阪毎日新聞山陰版紙面には、「大阪における島根県人会の熱狂的声援振はめざましいものがある」という文面が確認されるとともに、松江市の雨森勸業主任が大阪島根県人会への投票打合せのため15日夜松江を出発したことが報道されている。17日に帰着した彼は、同日開催された市会において大阪島根県人会が「率先して二十万枚の投票を快諾」したことを報告した。このほかにも、「東京、仙台、新潟、静岡、熊本、小倉、佐世保などの県外におる人々から十九日までに二十万枚の申込みあり東京の松平伯爵からは二万枚の申出」があったという。投票締切日の20日には、東京の島根県人会からは「取あえず十萬枚投票した最高百萬枚の見込保勝会の健闘を祈る」、朝鮮半島の京城島根県人会からは「二十萬枚投票した保勝会の奮闘を祈る」といった電報が、保勝会に続々寄せられていた。これらの報道からは、大都市圏に住まう地方出身者らによる宍道湖への集票活動が、各地に複数存在していたことが伺われる。このことは一方で、松江市内においても、各府県の県人会による活動がみられた可能性を示唆していよう。

各地の県人会が実際どれほどの票を集めたのかは不明な点が多いけれども、宍道湖への集票活動については、松江市周辺にとどまらず、複数の都市にまたがって展開していたことは明らかであろう。こうした都市部の地方出身者や県人会による集票活動は、山陰地方の候補地では、美保ヶ関、浦富海岸、三朝温泉、皆生温泉についても存在していたことが新聞報道から確認される。大量の得票を集めた候補地についていえば、集票は地方と都市部の共同作業によって成り立っていた可能性を指摘できるのである⁽²¹⁾。

3. 投票運動がもたらしたもの－島根県松江市の場合

(1) 宍道湖への視線

前章で山陰地方各地における日本新八景選定への参加の様子を明らかにしてきた。ここからは、このイベントを通してそれぞれの場所はどのように語られたのか、その語りは現実の世界にどのような影響をもたらせていたのか、特に宍道湖への投票運動が確認された島根県松江市を事例として検討していきたい。

前章(2)節 i で見てきたように、宍道湖への集票活動を主に担っていたのは、市役所に設置された「宍道湖保勝会」という団体であった。そもそもこの団体はどのような動機をもって結成されたのであったか。当時の新聞報道によれば、その目的は「お国自慢の宍道湖を是非とも日本新八景の湖沼の部第一に当選せしめる」ことにあったという。

日本新八景の選定という企画は単なる風景地の得票数争いではなかった。資料1にみるように、「八景」に選定された候補地については、「鉄道省において公認し種々の方法によって永くこれを紹介す」、「入選八景地に文士と画家を派しその紀行文並にスケッチを東京日日、大阪毎日両紙上に連載する」というように、国家や大手新聞社による宣伝や報道、そしてお墨付きが与えられることが約束されていた。宍道

湖を「湖沼の部第一に当選せしめる」ため保勝会が結成され投票が組織化されるに至った背景には、この企画を「我郷土美を天下に宣揚する絶好の機会」と捉える視線が介在していたことを押さえておく必要がある。

こうした意識は企画開始以降様々な場面で表出している。一例として、当時の島根県知事森岡二郎が紙面に寄せたコメントを引用しよう。

日本新八景の選定に当たり我島根県において是非とも当選せしめなければならぬのはなんといつても宍道湖である、大橋川東方遙かに見ゆ出雲富士即ち伯耆大山のあの秀麗な姿夕陽を受けて真帆片帆にゆれつつ湖心をはしる小舟の眺めは天下の絶景でなければならぬ、第二は出雲浦の海岸線である、出雲赤壁、加賀の潜戸はいふに及ばずあの付近一帯の景勝は従来名所として知らるる何処の海岸にも劣らぬ優れたものである、第三は江川である、遠く広島県に発し重層たる四国の大山脈をぬうて日本海に注ぐまでのあいだには木曾、天竜にもまさる景勝が少なくない、私は郷土の人々がこの与えられた絶好の機会をとらへて天与の自然美を広く天下に紹介すべく努力せんと望むものである

(大阪毎日新聞山陰版：1927(昭和2)年5月1日付)

森岡の発言の趣旨は、日本新八景選定という「絶好の機会」を利用して、島根県内の「天与の自然美を広く天下に紹介」するために、「郷土の人々」は「努力」するべきだというものである。こういった根拠があるのかは不明であるが、特に宍道湖・出雲浦の海岸線・江川に関しては、「島根県において是非とも当選せしめなければならぬ」という。ここでいう「努力」とはもちろん葉書の投票を意味しているのであるが、このコメントが報道された直後に宍道湖保勝会が結成されていることは興味深い。いずれにせよ、県知事がこの企画を県内の「天与の自然美」を「広く天下に紹介」する機会であると捉えていたことは、日本新八景選定と松江との関係を考えるうえで象徴的である。

また、当時一般大衆のあいだで勃興しつつあったツーリズムとの関係も検討しておく必要がある。1920年代以降普及しつつあった旅行趣味は、同時期の登山、海水浴、スキーなどの屋外型レクリエーションの流行とあわせ、自然の風景地を目的地としたツーリズムとして現出しつつあった。ツーリズムの文脈においては、ある場所に付与されたオーセンティシティは、無数の目的地のなかでオーセンティックな経験を得られる場所はどこなのかをツーリストに指し示す指標として働くこととなる。日本新八景の選定というイベントに「乗った」各地方は、このイベントをかかえるお墨付きを得ることのできる機会として捉えていた可能性があることに注意したい。

この点については、宍道湖への組織的投票に携わった保勝会関係者らのコメントから伺うことができる。6月5日付の紙面において各候補地の得票数と順位が公表されると、宍道湖の得票は湖沼の部で第4位を占めるものであったことが明らかになった。この結果を受け、投票の組織化に尽力した関係者らは、**表5**中に掲げたコメントを残している。彼らはこの企画によって宍道湖が大量の得票を得たことを喜び、投票に協力した県民市民へ感謝の言葉を述べる一方で、これを契機として遊覧客の誘致を図り、地域の振興を目論みたいという期待をその言葉の端々に浮かべていた。彼らの思惑と希望的観測とが入り交じった主張は次のようなものであった。曰く、企画を通して宍道湖の名が全国に知れ渡ったのだから、全国から湖を目指して遊覧客が訪れるだろう。彼ら彼女らを満足させる施設を宍道湖畔や市内において整備していくことが、結果として松江市の振興や繁栄に結びつく。こうした地域の宣伝と開発に係る活動を興してゆくことが、「地方文化の発揚に資する」ことになるのであると。

表5 投票結果発表後における宍道湖保勝会関係者らのコメント

島根県 間宮学務部長	山陰道の誇りである山紫水明の宍道湖と中国地方の巨流江川が何れも有力な候補地と選定せられなほ県下のためまことに喜ばしいことでかかる機会に他地方へ紹介して大に他府県人の来県を求め以て地方文化の発揚に資するところあらしめたい
松江市 高橋市長	松江市民はもとよりあまねく島根県民の援助によって宍道湖が第四位を勝ち得たことは最も密接の関係ある松江市の歓喜に堪えない処でこの上は遊覧者をしてゆっくり遊覧せしめるやうに施設したいこの意味で工業の発展湖岸に温泉地帯を設けるなどはまことに当を得た策と考えて居る、殊に保勝といふ意味を一層大きく愛郷心へ訴へて宍道湖の発揚宣伝に努めたいと思ふ
松江市 雨森勸業課主任	我らの宍道湖が第四位を勝ち得たことは皆様の未曾有の献身的努力によつた賜と感謝に堪へない次第ですわれわれは必ずしも第一位を占めんとしたものでなく要は誇るべき郷土美をあまねく天下に紹介して一人でも天下の名士を集め共に絶景を讚美したいと念じたがためであつてつまりは松江市其他湖畔の繁栄を興すことになると思ふのですこれによって一層刺激を大にし保勝会の活動を広めてあくまで郷土の発展に尽くしたいと思ひます
松江市 山元商工会議所会頭	実は第四位の報を得て、非常に喚起した次第でこれひとへに市民の熱烈な愛郷心の賜物と感謝に堪へない次第ですが必ずしも等位を争ふのではなく要は山紫にして水明なこの宍道湖をあまねく天下に紹介してその存在を知って欲しいのが私共の初志であつたのです、この上はたとへ選に漏れても決して失望するものではありません、この喜びはひとり松江市民のみか湖畔各地の喜びに堪えないところで今後他府県の人々が湖を指して遊覧に来て松江に滞在しその真価に触れるとき商工会振興上にとつて大きな刺激となることと信じます
松江市 園山市議會議員	この機会に松江市民の覚醒を促したい何事によらず松江市はまだ封建的での市の発展はよほど妨げられているこの際城山一帯は松平家から譲り受けて一大公園とし興雲閣のごときはいつまでも芸者入るべからずでなく遊覧に來た人々に十分の満足を与え全国的に有名な茶室菅田庵明々庵の如きも訪ねる人の利便を計つて湖岸との連絡を一層便利にし湖畔遊覧公園として新たに乃木村地先の埋立をなして新公園とし洗合地方にも同じく遊覧設備を作りたい

注) 大阪毎日新聞山陰版1927(昭和2)年6月7日付紙面より作成。

地域社会における日本新八景選定という企画への積極的な参加は、自分たちの地域を宣揚することへの希求と、権威による承認欲求とによって引き起こされていたといえるが、かかる希求は企画終了後にすぐに消えたわけではなく、地域に残されたものと思われる。そうした意識は、畢竟投票の対象となつた特定の風景へと向けられることとなつた。イベントが終了して以降も宍道湖をめぐる様々な振興策が紙面を賑わせてゆく。わかりやすいものとして、1928(昭和3)年1月7日から18日にかけて掲載された、「宍道湖の新研究」と題された連載記事を挙げておこう。これは松江市の行政関係者・専門家・有力者ら10人が宍道湖の活用策を論じるというものであつた。各人の論題については表6を参照されたい。多くの論者に共通しているのが、宍道湖をある種の資源としてみなす眼差しであろう。ここでもやはり、遊覧客の誘致を主張する論者を複数確認することができる。

日本新八景選定という企画を通して、投票の対象となつた宍道湖にある眼差しが向けられるようになっていくことが伺えるだろう。それは企画以降様々な場面で見受けられるようになった、ある種の言説に反映されている。すなわち、宍道湖という自然環境をインフラストラクチャーとみなし、これを整備(宣伝・開発)してゆくことによって、収益の見込める産業(観光業)を発展させるべきだという語

表6 連載記事「宍道湖の新研究」の筆者と論題

氏名と当時の役職	報道された論題	紙面掲載日
松坂龍雄(島根県商工水産課長)	八十万円の年収を挙げたい	1月7日
太田直行(松江商工会議所書記長)	ゼネヴァのやうな遊覧地にしたい	1月9日
山岸安二(斐伊川改修事務所長)	斐伊川を掘った土を利用する者はないか	1月10日
福田源治郎(松江市助役)	天恵を利用して地上の樂園としたい	1月11日
林直樹(島根県耕地整理課主任)	湖岸を埋立て大いに活用したい	1月12日
野津左馬之助(島根県史編纂委員)	三百年もすれば湖水は埋るとの説	1月13日
中島清次郎(合同汽船常務取締役)	年々湖が浅くなり浚渫がしてほしい	1月14日
板井賛次郎(勸業銀行松江支店長)	阪神地方と松江と結ぶ方法を講じたい	1月15日
西谷亀之助(山陰松江水産取締役社長)	佐陀川を改修して恵曇と松江を結べ	1月17日
錦織末富(県立松江病院長)	遊覧都市としての衛生施設を完備せよ	1月18日

注) 大阪毎日新聞山陰版1928(昭和3)年1月7日付から18日付紙面より作成。

りである。

この語りが現実世界の諸関係の構築と密接に関わってゆく様相を、最後に確認しておこう。

(2) 保勝会の系譜と観光行政

松江商工会議所に毎月1回関係者が集まり、観光による松江の振興を話し合う協議会が開かれるようになったのは、日本新八景選定の翌年、1928(昭和3)年3月のことであった。協議会に集まった顔ぶれは、松江市産業課長、商工会議所事務局員、国鉄松江駅長、一畑電鉄北松江駅長、合同汽船支配人、旅館組合の代表者たちである(高橋編1967;146)。協議会の開催を呼びかけたのは、この当時商工会議所の理事を務めていた太田直行(1890-1984)という人物であった⁽²²⁾。

彼がこの協議会を主催した理由は、「松江市は地勢其他の関係上近代的工業には適せぬが風光明媚な点に於ては全国屈指の天恵を有するので、本市将来の発展上観光施設を完備する事は絶対に必要」(梶野編、太田著 1987;199) というものであったが、これは日本新八景選定をきっかけとして頻繁に見られだした、宍道湖を積極的に観光資源化しようとする言説を踏襲するものである。彼は1928(昭和3)年1月9日付の大阪毎日新聞山陰版紙上に「ゼネヴァのような遊覧地としたい」と題する論説を発表しているが(表6を参照)、ここでも「大松江市としての宍道湖利用は日本のゼネヴァたらしめる外に良策がない」と同様の主張を行っており、宍道湖を宣揚する方策を探っていたものと思われる。

太田が主催したこの協議会は、前年の日本新八景選定の際に組織された宍道湖保勝会の系譜を引き継いだものであると思われる。日本新八景選定当時、保勝会の結成を後押ししてその活動を担ったのは、松江市と松江商工会議所であった。太田は企画当時商工会議所の書記長という役職にあったから、保勝会の運営に大きく携わっていたものと思われる。大量の葉書の確保および印刷といった業務を遂行するには、相応の人材と財源が求められたことだろう。企画が終了してしまえば用が無くなる団体ではあったが、そこで培われたネットワーク、経験、運営のノウハウなどが、そのまま消滅してしまったとは考えにくい。協議会に集まった企業や団体の関係者らは、恐らく日本新八景の際に一定数の葉書投票を保勝会より依頼されていたものと思われる。関係者のあいだに共有されたある程度の実績を伴う経験、企画のあとに残された地域宣揚への希求は、かつて運動を共に担い、宍道湖の活用を語る太田の呼びかけに対し、それほど悪い反応を示すことは無かったはずである。

この協議会での議論は、のちに水郷祭という景観を松江に現出させている⁽²³⁾。日本新八景選定以来計画されてきた宍道湖の宣揚策は、協議会での議論を通して高まる「夏の宍道湖を活用して水郷情緒を強調しなくてはならぬ」という意気込みのもとで具体性を帯び、1928(昭和3)年夏の「煙火大会」を経て、翌年以降執り行われる「水郷祭」へと結実したのである。

協議会はその後も継続して開かれ、結果として「県市其他の各観光協会を生む機縁」(梶野編、太田著 1987;199) もつくりだすことになった。同時期の国内外におけるツーリズムの隆盛もあり、島根県は1930(昭和5)年4月2日に「島根観光協会」を立ち上げている(大阪毎日新聞山陰版;1930年4月5日付)⁽²⁴⁾。図3に掲げた設立趣旨書には、協会設立の目的は「本県の地理交通物産其の他の状況を紹介し且旅行巡遊に関する施設の改善を勧奨し来遊者の便宜を図る」ことであると記されている。総裁に島根県知事、会長に県内務部長を据え、「松江、大社、美保関、一畑、玉造などの関係者」や「県内の商工会議所、商工会、旅館業組合、運輸業者その他外客誘致に密接な関係あるもの」が会員とされたようである。今日につながる松江の観光に行政が本格的に取り組み出したのは、この島根観光協会の設立が嚆矢であったと思われる。

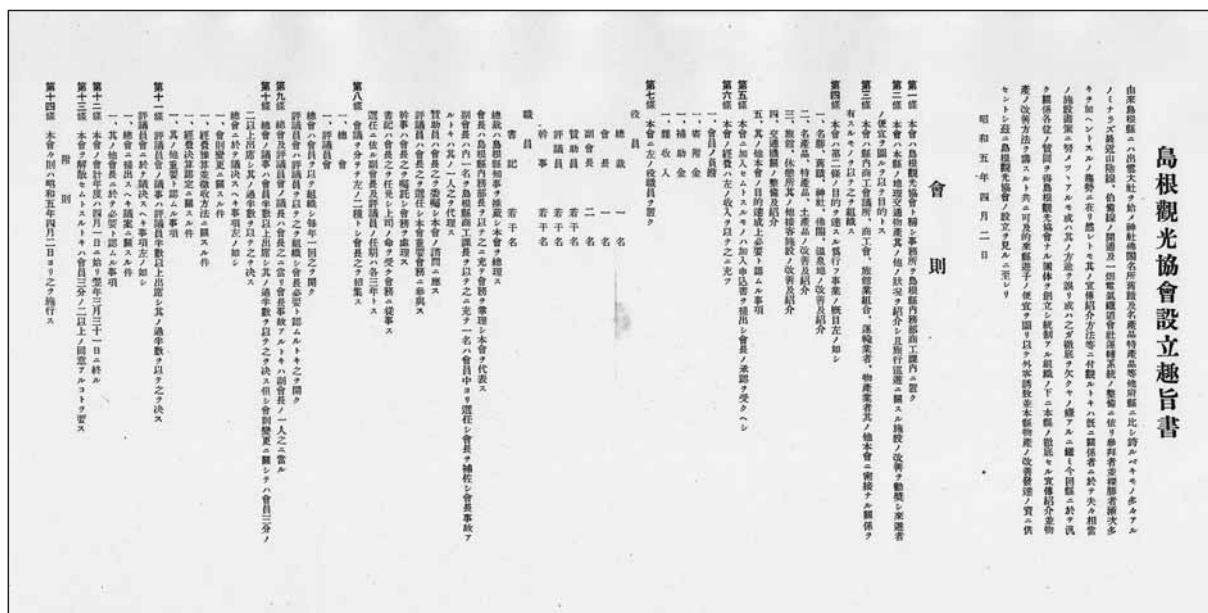


図3 島根観光協會設立趣旨書(1930)

まとめにかえて

美術史家のW. J. T. Mitchell は、風景を単に見られる対象や語られるテキストなど静的な対象と捉えるのではなく、動的なプロセスとして一彼の言葉を用いれば、文化的実践として捉えることを主張している。場所を表象する技法としての風景が、いかなる意味作用実践の場として作動し、いかなる社会的機能を有しながら流通するのかを検証する必要があるという (W. J. T. Mitchell 2002)。Mitchell の主張する文化的実践としての風景という視点は、場所と表象の関係を考えるうえで示唆的であるし、本稿で取り扱った事項についてもそれは同様である。1927 (昭和2) 年に実施された日本新八景の選定というイベントは、各地で種別的な“風景”が仕立てあげられるひとつの契機であったと理解することができるからである。

本研究で明らかとなった成果をまとめると以下の通りとなる。日本新八景の選定というイベントに対し、山陰地方においても多くの反応が見られたことが明らかになった。松江市の事例から検討した通り、そこには、自分たちの地域を全国的に知らしめ、「八景」入選や全国紙上での報道を通して顕彰され、それを通して地域の振興をも図りたいという希求を見いだすことができる。同時期に国内外で隆盛しつつあったツーリズムへの意識もあり、かかる希求は観光による地域宣揚を目的とした実践へと結実する。葉書投票の組織化を目的として結成された宍道湖保勝会は、後の観光行政への布石となったのである。

検討が不十分な点も山積している。日本新八景選定と地域との関係についていえば、得票の少ない候補地や、このイベントへの反応を見せなかった地域での様子を、資料の再調査も含め検討する必要がある。

何より、松江や宍道湖という場所が、このイベント以前（そして以後）にどのように表象されてきた（いった）のか、場所表象の変遷への目配せが本稿では不十分である。冒頭で述べた課題とも関連するが、われわれの眼前に立ち現れる景観を脱-自然化し見定めてゆく作業、「場所の系譜学」(加藤2002;138)を辿る作業を積み重ねつつ、本稿で検討した事象を位置づける必要があろう。以上の点を今後の課題として稿を閉じることとする。

〔付記〕 日本新八景選定という興味深い出来事をご教示頂いた荒山正彦先生、松江の近代をめぐる

様々なエピソードをご教示頂いた有馬誉夫先生、論文執筆のお誘いを頂いた松江市文化財課史料編纂室の皆様、この場を借りて厚くお礼申し上げます。皆様のご指導なくしてはこのような形で発表には至らなかったであろうと思います。

注

- (1) むろん場所に付与される意味や価値は単一のものではなく、通時的にも共時的にも複相性を帯び、ときに矛盾をはらんでもいることに注意したい。
- (2) 特定のコンテキストにおいて構築される場所表象について、その技法やプロセスを問うこと、構築された場所表象と物理的空間の構築との関係性を問うこと、こうした弁証法的な作用の系譜を現在まで見通しながら、各個の事例の検証を行ってゆくことなどが、さしあたりの課題であろうか（ハーヴェイ1999，ジョンソン2000）。
- (3) 本稿で引用した新聞記事は、特に注記のない限り、全て1927（昭和2）年に発行された大阪毎日新聞本紙および同紙山陰版である。
- (4) 当時日本が植民地としていた地域の風景地への得票は確認されない（朝鮮半島、台湾、南洋諸島など）。また、沖縄県はこの当時「大阪毎日新聞」および「東京日々新聞」が購読されていなかった影響か、同県の風景地への得票も確認されない。
- (5) 審査員の顔ぶれは5月13日付、30日付の大阪毎日新聞紙上において公表された。全審査員とその肩書きについては、近藤（2011）に一覧化された表としてまとめられているので参照されたい（近藤2011；39）。
- (6) また、近年歴史系博物館において散見される近代ツーリズムをテーマとした企画展示に、このイベントが取りあげられる場合がある（江戸東京博物館編2005、滑川市立博物館編2012など）。
- (7) 川上は「日本百景 島根から宍道湖と江の川」と題する短文のなかで日本新八景の選定について触れ、島根県内から宍道湖と江の川が「百景」に選ばれたことを記述した。このことについて川上は、「いずれも水景美が選ばれているが、今の時代だったらどこが選ばれるか興味深い」（川上1994;79）というコメントを残しているが、このイベントにおける風景地の選定で大きな役割を果たしたのは、特定の場所を組織的に推薦する運動の存在とその実践とにあったはずであり、この点の説明と認識が欠落しているように思われる。
- (8) 公的な「歴史／物語」とは整合されず、排除や忘失にまかされる諸々の出来事をめぐる声や経験を、かつてその出来事が生じた状況のまま改めて拾い出してゆくことは、近年の“記憶”をめぐる議論の高まりとあわせ歴史地理学の課題として提示されつつある（大城2012）。“記憶”をめぐる議論と歴史地理学との接点については、ジョンソン（2000）、米家（2005）などが参考となる。
- (9) 島根県では24ヶ所の候補地に1,005,429票が、鳥取県では28ヶ所の候補地に1,858,667票が投じられている。荒山（2003）の分析方法に倣い島根鳥取両県得票について考察を加えてみると、島根県では1万票以上を集めた5ヶ所の得票数が全得票数の99.9%を占め（1,004,849票）、鳥取県も得票1万票以上を集めた6ヶ所が全得票数の99.7%を占めていることが明らかとなった（1,854,819票）。なお、1927（昭和2）年当時の島根・鳥取両県の人口は、島根県が約729,400人、鳥取県が約481,900人であり、両県とも県の総人口以上の得票が集められていることがわかる（総務省統計局編2006）。
- (10) 宍道湖をめぐる得票運動の詳細および引用については以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰版：1927（昭和2）年4月22日付、5月4日付、6日付、11日付、13日付、14日付、15日付、16日付、19日付、20日付、21日付、22日付。
- (11) 美保ヶ関をめぐる得票運動の詳細および引用については以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰版：1927（昭和2）年5月8日付、14日付。
- (12) 浦富海岸をめぐる投票運動の詳細および引用については以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰版：1927（昭和2）年4月23日付、5月4日付、11日付、19日付、20日付。
- (13) 三朝温泉をめぐる投票運動の詳細および引用については以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰版：1927（昭和2）年5月8日付、13日付、19日付。
- (14) 倉吉線は1985（昭和60）年に廃止されている。なお、現在の山陰本線倉吉駅は1912（明治45）年より1972（昭和47）年まで駅名を上井駅といった。倉吉線倉吉駅は1972（昭和47）年以降駅名を打吹駅へと変更している。
- (15) 皆生温泉をめぐる投票運動の詳細および引用については以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰

版：1927（昭和2）年5月11日付、18日付、20日付。

- (16) 岩井温泉をめぐる投票運動の詳細および引用については以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰版：1927（昭和2）年5月18日付、19日付。
- (17) この審査基準に関し白幡（1992）は、「のちに国立公園の選定委員になった人たちが、将来の国立公園の設置、それにとまなう観光を考えて用意してきた基準ではなかったか」と考察している（白幡1992；300）。
- (18) 日本新八景選定の審査員のうち、後の国立公園の選定に大きく関与した人物は以下の通りである。本多静六（林学博士）、田村剛（林学博士）、脇水鉄五郎（理学博士）。このほか国立公園行政に関わる内務省関係者が複数審査員に含まれている。
- (19) 後援団体の組織票という大枠の内部の位相については明らかでないところが多い。宍道湖を推す松江市の場合、5月16日の協議会において市議員と商工会議所員は「各自一千枚以上の葉書を必ず引き受ける」ことが決議され、翌日には議員らに通達が送付されたという。また浦富海岸を推す浦富村においては、各区の基本財産が投票用葉書の代金として使用されたことは確認した通りである。これらの事例について、たとえば葉書やその購入代金を供出する各個人の感情は、必ずしも新聞が煽る「愛郷心」一色でなかったであろうことは想像に難くない。
- (20) 大都市圏における宍道湖への投票をめぐる活動の様子は以下の新聞記事を参考とした。大阪毎日新聞山陰版：1927（昭和2）年5月16日付、19日付、20日付、21日付。
- (21) 新田（2005、2010）は日本新八景の選定への人々の参加について、このイベントを地元の観光資源を宣伝する機会としてとらえ投票活動を展開した地方と、日々紙面に報道される候補地を「遊覧旅行」の事前情報として享受した都市部という構図を描きだしているが、こうした二項対立的な図式ではこのイベントへの参加の実態をとらえることはできないだろう。
- (22) 太田直行は戦前から松江の振興に尽力した人物である。島根県における民芸運動の導入や水郷祭の創始などには、彼が大きく関わっている（太田1989）。
- (23) 水郷祭の立案から実施までのいきさつについて、太田の自著や先行研究を参照しながら簡単に記述してみると以下の通りとなる。太田は毎年夏の天神祭を見るにつけ、「水郷松江の夏祭として単に陸上のみ賑はつても毫も湖上が顧られぬは頗る遺憾」であると感じており、協議会でも、「夏の宍道湖を活用して水郷情緒を強調しなくてはならぬ」と考えていた（梶野編、太田著1987；199）。たまたま俳句愛好団体が嫁ヶ島で納涼句会を行っているのを見かけた太田は、これに灯籠流しや花火を加えた「煙火大会」と称するイベントを企画し、1928（昭和3）年の夏に実施した。この企画が市民及び市当局から評判を呼び、翌1929（昭和4）年より松江市と商工会議所共催による「水郷祭」が実施されるようになった、というのがことの顛末である（太田編1934、松江まちづくりプロジェクト編1989）。
- なお、“水郷”という語彙は大正後期から昭和初期にかけひろく一般に定着していったようである（岩本2001）。湖畔の生活を“水”をもって徹底的に美化（あるいは本質化）するこの語彙は、近代都市住民のツーリズム感覚によって生じたものであったといえる。宍道湖の観光資源化を企図していた太田は、ツーリストが期待する“水郷”という眼差しを見事に反復し活用したといえるだろう。
- (24) 島根観光協会については有馬（2000）がその存在について記述を残しているが、この団体の設立に至るコンテキストはこれまで明らかにされていない。

参考文献

- 荒山正彦（2003）「風景のローカリズムー郷土をつくりあげる運動」、「郷土」研究会編『郷土ー表象と実践』、嵯峨野書院、90-107頁。
- 有馬誉夫（2000）「島根観光連盟の歴史」、島根観光学会誌15、80-91頁。
- 岩本素白（2001、原著1934）「牛堀と長瀨」、池内紀編『素白先生の散歩』、みすず書房、3-21頁。
- 大城直樹（2012）「場所の系譜学再考ーあるいは風景の別の読み方について」、歴史地理学54-1、30-38頁。
- 太田行人（1989）「柿葉 太田直行略伝」、梶野博文編、太田直行著『島根民藝録・出雲新風土記』、冬夏書房、393-396頁。
- 太田直行編（1934）『松江商工会議所四十年誌』、松江商工会議所、90頁。
- 梶野博文編、太田直行著（1987、原著1935・1939）『島根民藝録・出雲新風土記』、冬夏書房、399頁。

- 加藤政洋 (2002) 「都市空間の史層、花街の近代－ひとつの「場所の系譜学」へ向けて」、10+1 29、138-152頁。
- 川上誠一 (1994) 『しまね水の旅』、(株)プロジェクト、141頁。
- 米家泰作 (2005) 「歴史と場所－過去認識の歴史地理学」、史林88-1、126-158頁。
- 近藤浩二 (2011) 「メディア・イベントに見る昭和初期富山県の景勝地－「日本新八景」を素材に」、富山史壇164、35-32頁。
- ジョンソン, N. C. 著、上杉和央訳 (2001) 「現在の歴史地理」、グレアム, B. ・ナッシュ, C. 編、米家泰作・上杉和央訳『モダニティの歴史地理 (下)』、古今書院、295-319頁。
- 白幡洋三郎 (1992) 「日本八景の誕生－昭和初期の日本人の風景観」、古川彰・大西行雄編『環境イメージ論－人間環境の重層的風景』弘文堂、277-307頁。
- 関戸明子 (2004) 「メディア・イベントと温泉－「国民新聞」主催「全国温泉十六佳選」をめぐる」、群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編54、67-83頁。
- 総務省統計局編 (2006) 『新版日本長期統計総覧 第1巻』、日本統計協会、562頁。
- 高橋幸吉編 (1967) 『松江市商工会議所七十年誌』、松江市商工会議所、381、56頁。
- 東京都江戸東京博物館編 (2005) 『美しき日本－大正昭和の旅展』、東京都江戸東京博物館、197頁。
- 滑川市立博物館編 (2012) 『旅行時代の到来！－パノラマ地図と近代大衆旅行』、滑川市立博物館、67頁。
- 新田太郎 (2005) 「情報化する風景－「日本新八景」候補地の選定過程」、東京都江戸東京博物館編『美しき日本－大正昭和の旅展』、東京都江戸東京博物館、176-183頁。
- 新田太郎 (2010) 「「日本八景」の選定－1920年代の日本におけるメディア・イベントと観光」、慶應義塾大学アート・センター編『文化観光「観光」のリマスタリング』、慶應義塾大学、69-84頁。
- ハーヴェイ, D. 著、吉原直樹訳 (1999) 『ポストモダニティの条件』、青木書店、478頁。
- 松江まちづくりプロジェクト編 (1989) 『松江余談』、今井書店、251頁。
- ミッチェル, W. J. T. 著、篠儀直子訳 (1997) 「帝国の風景」、10+1 9、149-169頁。
- Dubow, J. (2009) Representation. In Gregory, D. Johnston, R. Pratt, G. Watts, M. Whatmore, S. (eds), *The Dictionary of Human Geography 5th eds.* Wiley Blackwell, pp. 645-646.
- W. J. T. Mitchell. (2002) Preface to the Second Edition of Landscape and Power. In W. J. T. Mitchell (eds), *Landscape and Power 2nd eds.* The University of Chicago Press, pp. 7-12.

〈新聞記事〉

- ・ 大阪毎日新聞本紙
「日本新八景の選定 各第一勝を募る」、大阪毎日新聞、1927 (昭和2) 年4月9日付。
「本社主催日本新八景選定総投票数一覧表 推薦された景勝一千四百七十」、大阪毎日新聞、1927 (昭和2) 年6月10日付。
- ・ 大阪毎日新聞山陰版
「日本新八景投票で高ポイント争いの宍道湖をわしが国さの名勝とこの際広く紹介せんと計画中」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年4月22日付。
「新八景の海岸に山陰松島を出さうと関係村挙って熱狂している」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年4月23日付。
「宍道湖を第一に出雲浦海岸や江川を当選させたい 森岡島根県知事談」、1927 (昭和2) 年5月1日付。
「浦富海岸を当選させようと 郡教育会は総会を開いてはがき寄付の申し合わせをした」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月4日付。
「宍道湖を三位中に入選せしむべく 松江市は三日参事会を開き四日有力者を招いて具体案を協議」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月4日付。
「日本新八景投票 松江市を挙げお歴々奮起す」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月6日付。
「関の五本松で世に知られている美保関を入選させようと保勝会を設けて投票に熱狂せる美保関町」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月8日付。
「選挙運動以上に村を挙げて 三朝温泉の投票に奔走」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月8日付。
「浦富の興廃はこの一週間にあり」、1927 (昭和2) 年5月11日付。
「九日附の紙上で一躍四位を占めた皆生温泉の地元では この機会にと熱狂して居る」、大阪毎日新聞山陰版、

1927 (昭和2) 年5月11日付。
「市役所と会議所が宍道湖推薦の勧誘者を各地に派遣して猛運動」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月11日付。
「宍道湖畔の絶景を讃美のあまり他府県人が投宿旅館を通じて投票用葉書を寄贈」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月13日付。
「火花散る三朝温泉の猛運動」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月13日付。
「自動車十二台に芸妓数十名を乗せ松江宍道湖保勝会がビラを撒いて大宣伝」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月14日付。
「美保関では緊急町会を開いて徹底的に援助し遊覧客のためいろいろの施設を決議」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月14日付。
「山陰には誇るべき名勝地が多い この機会に大宣伝が必要 土屋米子運輸所長が語る」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月15日付。
「いよいよ白熱した八景選り 宍道湖保勝会と在阪島根県人会の提携 郷土の大発展も一枚のハガキから」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月16日付。
「新八景選り必死の活動 女中はチップを投出し小学生はお小遣で 皆生温泉・岩井温泉」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月18日付。
「宍道湖の作戦熟す 市会まで開いた」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月19日付。
「新八景えらび 郷土愛高調-食を忘れ業を休む 最後の五分が重大だと血眼になった鳥取県民」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月19日付。
「愛郷の熱誠こめたはがき殺到『宍道湖を落すな!』と全国の県人奮ひ起つ」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月20日付。
「わが山陰名勝の興廃 けふ! この一日に! と…火花を散らす最後の奮闘ぶり」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月20日付。
「新八景投票終る ラスト・ヘビー! 血眼となって活躍 宍道湖を第一位にと自動車で疾走する」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月21日付。
「宍道湖投票最後の活躍」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年5月22日付。
「日本新八景 入選の誇りと喜び」、大阪毎日新聞山陰版、1927 (昭和2) 年6月7日付。
「宍道湖の新研究(1) 八十万円の年収をあげたい 島根県商工水産課長松坂龍雄」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月7日付。
「宍道湖の新研究(2) ゼネヴァのやうな遊覧地にしたい 松江商業会議所書記長大田直行」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月9日付。
「宍道湖の新研究(3) 斐伊川を掘った土を利用する者はないか 斐伊川改修事務所長山岸安二」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月10日付。
「宍道湖の新研究(4) 天恵を利用して地上の楽園としたい 松江市助役福田源治郎」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月11日付。
「宍道湖の新研究(5) 湖岸を埋立てて大いに活用したい 島根県耕整主任技師林直樹」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月12日付。
「宍道湖の新研究(6) 三百年もすれば湖水は埋るとの説 島根県史編纂委員 野津左馬之助」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月13日付。
「宍道湖の新研究(7) 年々湖が浅くなり、浚渫がしてほしい 合同汽船常務取締役 中島清次郎」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月14日付。
「宍道湖の新研究(8) 阪神地方と松江と結ぶ方法を講じたい 勸銀松江支店長板井賛次郎」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月15日付。
「宍道湖の新研究(9) 佐太川を改修して恵曇と松江を結べ 山陰松江水産取締役社長西谷亀之助」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月17日付。
「宍道湖の新研究(10) 遊覧都市としての衛生施設を完備せよ 県立松江病院長 錦織末富」、大阪毎日新聞山陰版、1928 (昭和3) 年1月18日付。
「遊覧客や物産をうんと宣伝しよう 『島根県振興会』の組織」、大阪毎日新聞山陰版、1930 (昭和5) 年4月5日付。

松江市史編纂日誌

1. 松江市史編纂における主な活動状況

(平成23年度)

平成23年

期 日	内 容	備 考
4月1日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕伊能測量を契機に正確な地図を作った松江藩の人々（乾委員(絵図・地図部会)ほか)
4月3日	民俗部会	〔議題〕①平成22年度調査報告 ②別編「民俗」の構成の検討 など
4月5日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認 など
4月17日	考古専門部会	史料編「考古資料」（中世、弥生時代）原稿読み合わせ
4月18～20日	熊野大社所蔵史料調査	
4月19日	松江城関連調査	松江城関連石切場調査(大海崎・上本庄)
4月26日	松江市内寺社史料調査検討委員会	
4月26, 27日	考古資料調査	東京国立博物館所蔵松江市内出土遺物調査(勝部委員)
5月2日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕佐太神社の神在祭(品川委員(民俗部会))
5月6日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況、凡例の確認 など
5月7日	近世史部会	〔議題〕史料編の凡例、内容・構成の検討、通史編の執筆分担の検討 など
5月7, 8日	古代専門部会	〔議題〕史料編凡例、史料解題の検討、原稿提出状況の確認、読み合わせ
5月7, 8日	中世史部会	〔議題〕①史料編の史料の選定、区分、役割分担等の検討、読み合わせ ②通史編の検討 など
5月8日	民俗部会	〔議題〕平成23年度の調査計画の検討 など
5月8日	松江市史編集委員会	〔議題〕①平成22年度事業報告、平成23年度事業計画 ②各部会からの報告 ③市史講座について ④凡例について ⑤通史編について ⑥『松江市史研究』について
5月9～11日	熊野大社所蔵史料調査	
5月10日	松江城部会土木史グループ会	〔議題〕平成23年度の調査研究、『松江城研究』の執筆方針の検討 など
5月11日	松江城部会建築史グループ会	〔議題〕平成23年度の調査研究、『松江城研究』の執筆方針の検討 など
5月14日	松江城関連調査	松江城石垣調査(乗岡委員)
5月16, 17日	安国寺所蔵史料調査	
5月27日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況、資料集成、位置図の確認 など
5月29日	絵図調査	神戸市立博物館所蔵絵図調査(大矢委員、上杉委員)
6月1日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕床凡山の水道施設と外灯(足立委員(松江城部会))
6月9, 10日	安国寺所蔵史料調査	

期 日	内 容	備 考
6月10日	松江城部会城郭史グループ会	〔議題〕 調査研究と別編の編纂予定、『松江城研究』の執筆方針の検討 など
6月21日	松江城部会建築史調査	武家屋敷建築調査
6月27日	津山市視察受入（市史編纂事業）	
7月1日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕 中世松江の「筌（うけ・せん）」漁業（前編）（西田委員（中世史部会））
7月2日	松江市史講座	〔タイトル〕 絵図に見る水の都・松江（上杉委員（絵図・地図部会））
7月3日	絵図・地図部会	〔議題〕 史料編の全体構成と掲載絵図の選定 など
7月4日	松江城関連調査	養益舎・武家屋敷長屋門建築調査
7月5日	松江城部会建築史グループ会	「竹内右兵衛書つけ」の読み合わせ など
7月7日	考古専門部会	〔議題〕 史料編の進捗状況の確認 など
7月11日	松江城部会建築史グループ会	「竹内右兵衛書つけ」の読み合わせ など
7月17日	民俗調査	大庭地区聴き取り調査
7月19, 20日	宮川家文書調査	
7月21日	松江城部会建築史グループ会	「竹内右兵衛書つけ」の読み合わせ など
7月23日	民俗調査	八雲地区聴き取り調査
7月24日	民俗調査	玉湯地区聴き取り調査
8月1日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕 松江藩士松原基と『消暑漫筆』（宇野田委員（近世史部会））
8月2, 3日	松江城下町遺跡検討会	〔議題〕 城下町遺跡の遺構間の層序や動植物相の検討 など
8月3日	近世史料調査	島根県立図書館史料調査（岸本委員）
8月5日	考古専門部会	〔議題〕 史料編の進捗状況の確認 など
8月7日	自然環境部会	〔議題〕 通史編の執筆構成の検討 など
8月7日	松江市史部会長会議	〔議題〕 ①平成23年度事業経過報告、平成24年度事業計画について ②各部会からの報告 ③平成23年度市史編纂委員会での議題について ④松江市史講座について
8月12～14日	近世史料調査	島根県立図書館史料調査（宇野田委員）
8月19日	松江城部会城郭史調査	嫁が島調査
8月20日	松江市史講座	〔タイトル〕 宍道湖畔に築かれた松江城（山根委員（松江城部会））
8月21日	民俗調査	忌部地区聴き取り調査
8月27, 28日	近現代史料調査・聞き取り調査	島根県立図書館史料調査・聞き取り調査（鬼嶋委員）
8月29日	近現代史部会	〔議題〕 史料編の収録史料・通史編の執筆分担の検討 など
8月30日	近現代史料調査	旧東出雲町役場文書調査
8月29～31日	古代専門部会	〔議題〕 史料編の版面・口絵案の検討・読み合わせ、通史編の構成案の検討
9月1日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕 七類の大敷網（おおしきあみ）（越川委員（自然環境部会））
9月1～2日	松江城関連調査	島根県立図書館史料調査など（堀田委員）

期 日	内 容	備 考
9月2日	松江考古学のあゆみ座談会	
9月6日	三谷家文書運搬	
9月8日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、通史編の執筆項目の検討 など
9月10日	松江市史講座	〔タイトル〕近世水運と松江(多久田委員(近世史部会))
9月15, 16日	絵図調査	東京方面絵図調査(大矢委員)
9月17, 18日	近世史部会	〔議題〕史料編・通史編の構成案の検討 など
9月24, 25日	中世史部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、通史編の執筆内容の検討 など
9月25日	民俗部会	〔議題〕映像・音声資料の取扱いの検討、今後の予定の確認 など
10月3日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕東京出雲学生会(竹永委員(近現代史部会))
10月6日	考古専門部会	〔議題〕①史料編の進捗状況の確認、追加掲載遺跡や用語解説・用語の検討 ②通史編の執筆予定項目の検討、今後の予定の確認
10月7日	松江市史編纂委員会	〔議題〕①平成23年度事業経過報告について ②24年度事業計画について ③各部会からの報告 ④「近世Ⅰ」「考古資料」の出版について
10月10日	考古専門部会	史料編の古墳時代の原稿確認（校正）
10月15日	考古専門部会	史料編の中世・近世の原稿確認（校正）
10月19日	考古専門部会	〔議題〕通史編の構成（執筆項目）の検討
10月22日	松江城関連調査	松江城関連石垣調査(乗岡委員)
10月26日	三谷家文書整理協議	
10月29日	松江市史講座	〔タイトル〕中世水運と松江(長谷川委員(中世史部会))
10月30日	考古専門部会	史料編の奈良・平安時代の原稿確認（校正）
10月31日	考古専門部会	史料編の弥生時代の原稿確認（校正）
11月1日	「市史編纂だより⑦」発行 (市報松江11月号に掲載)	〔タイトル〕『報国』—失敗に終わった改革第一弾—
11月1, 2日	三島家文書調査	
11月3日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕松江城下町商家の儉約計画(渡辺委員(近世史部会))
11月11日	松江城関連調査	武家屋敷建築調査
11月12日	松江市史講座	〔タイトル〕古代出雲の須恵器生産と中海・宍道湖の水運 (丹羽野委員(原始古代史部会（考古専門部会）))
11月21日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、目次・凡例・口絵・用語解説などの検討
11月25日	松江城部会	〔議題〕①別編の掲載史料や執筆項目について ②『松江城研究』について ③松江城研究報告会について など
11月26日	松江城研究報告会	〔シンポジウム〕松江城研究の最前線—わかったこととこれからと—
11月29日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、用語解説などの検討
12月1日	「市史編纂だより⑧」発行 (市報松江12月号に掲載)	〔タイトル〕『治国譜』—松江藩の大改革「御立派の改革」を記す貴重な書
12月3日	市史編纂コラム（ホームページ）掲載	〔タイトル〕図解で知る近代化以前の山陰漁業(伊藤委員(近現代史部会))
12月2日	自然環境部会	〔議題〕通史編の執筆構成の検討 など
12月3日	絵図・地図部会	〔議題〕史料編の全体構成と掲載絵図の選定 など
12月5日	近世史料調査	京都大学史料調査(岸本委員)
12月10日	松江市史講座	〔タイトル〕宍道湖の恵みと宍道湖漁業(伊藤委員(近現代史部会))
12月10, 11日	古代専門部会	〔議題〕史料編の目次・口絵・ルビの検討、通史編の構成の検討 など
12月20, 21日	松江城関連調査	松江城関連山城（赤穴城）調査(中井委員)
12月22日	中世史料調査	三木家文書（香川県）調査(川岡委員)
12月25日	『松江市史』発行（第1弾）	「史料編5 近世Ⅰ」

平成24年

期 日	内 容	備 考
1月1日	「市史編纂だより⑨」発行 (市報松江1月号に掲載)	〔タイトル〕『出雲鉾』
1月4日	市史編纂コラム（ホーム ページ）掲載	〔タイトル〕美保関町七類の「鉾盗られ物語」のこと（酒井委員（民俗 部会））
1月6日	部会長会議	〔議題〕①『松江市史 史料編5 近世Ⅰ』の発刊について ②松江市史講座について ③各部会からの報告 など
1月14日	新聞広告掲載	『松江市史 史料編5 近世Ⅰ』発刊
1月14日	松江市史講座	〔タイトル〕龍蛇と神在祭 海への信仰（品川委員（民俗部会））
1月25日	考古専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認・口絵の検討、通史編の検討
1月28～30日	古代専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、通史編の検討 など
1月29日	原始古代史部会	〔議題〕通史編の検討
2月1日	「市史編纂だより⑩」発行 (市報松江2月号に掲載)	〔タイトル〕『土工記』
2月1日	市史編纂コラム（ホーム ページ）掲載	〔タイトル〕伊能忠敬 第八次測量隊の足跡をたどる (乾委員（絵図・地図部会）ほか)
2月6～8日	熊野大社文書調査	
2月11日	松江市史講座	〔タイトル〕宍道湖の誕生と治水・災害（高安委員（自然環境部会））
2月13日	松江城部会建築史グルー プ会	〔議題〕武家屋敷調査の集約、「建物図」の取扱いの検討 など
2月27日	近世史部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、通史編の執筆分担の検討 など
3月1日	「市史編纂だより⑪」発行 (市報松江3月号に掲載)	〔タイトル〕松江考古学120年のあゆみ
3月1日	「松江市史通信No.2」発行 (市報松江3月号に折込)	〔内容〕①『松江市史』第2弾・史料編「考古資料」の概要紹介 ②刊行計画、市史講座、市史編纂コラムの概要紹介 ③「松江考古学120年の集大成について」
3月1日	市史編纂コラム（ホーム ページ）掲載	〔タイトル〕『（竹内右兵衛書つけ）』について（和田委員（松江城部 会））
3月2日	松江城関連調査	松江城関連石材調査（先山委員）
3月3日	松江城部会	〔議題〕①別編の掲載資料や執筆項目について ②『松江城研究』について ③松江市史講座について など
3月6日	原始古代史部会 (通史編作業部会)	〔議題〕通史編の検討
3月5日	近現代史料調査	日赤島根県支部所蔵文書調査（鬼嶋委員）
3月6日	近現代史料調査	松江赤十字病院図書室調査、島根県公文書センター調査（鬼嶋委員）
3月7日	近現代史部会	〔議題〕史料調査状況の確認、通史編の執筆項目・分担の検討 など
3月8,9日	近現代史料調査	旧東出雲町役場文書調査 島根県立図書館所蔵史料調査（能川委員・鬼嶋委員）
3月10日	松江市史講座	〔タイトル〕シンポジウム「世界に開かれた松江」
3月15日	古代専門部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認、通史編の構成の検討 など
3月17,18日	中世史部会	〔議題〕史料編の進捗状況の確認 など
3月18日	考古専門部会	〔議題〕史料編の贈呈、通史編の検討 など
3月24,25日	松江城関連調査	三刀屋城跡調査（中井専門委員）

期 日	内 容	備 考
3月19日	『松江市史』発行（第2弾）	「史料編2 考古資料」
3月21日	『松江市歴史叢書』5 （松江市史研究3号）発行	〔内容〕・絵図と測量図に見る大橋川の歴史 （徳岡、高安委員、大矢委員） ・2000年代に島根半島沿岸域の定置網で漁獲された 魚介類の季節変動および年変動（勢村） ・松江市沿岸海域の魚類（越川委員） ・島根県の弥生時代鉄器集成（池淵） ・出雲の子持壺集成（池淵） ・出雲国司補任表（稿）（大日方委員） ・島根県立図書館所蔵「桃家資料」（宇野田委員） ・寛永期に2度作成された中国筋絵図（川村委員） ・松江市史編纂日誌 ・松平直政論（三宅委員）
3月21日	『松江城研究』1号発行	〔内容〕・松江城研究報告会 「松江城の最前線－わかったこととこれからと－」 ・堀尾氏の出雲支配における支城（中井委員） ・松江平野の古環境（1）（渡辺正巳委員・瀬戸） ・【史料翻刻・解題】「(竹内有兵衛書徒希)」(和田委員)
3月23日	松江城関連調査	丸亀市立資料館所蔵絵図調査(渡辺理絵委員・大矢委員)
3月25日	新聞広告掲載	『松江市史 史料編2 考古資料』発刊
3月25日	自然環境部会	〔議題〕通史編の執筆項目の検討 など
3月25日	民俗部会	〔議題〕23年度調査状況の確認、別編の執筆項目の検討 など
3月26日	部会長会議	〔議題〕①23年度事業報告、24年度事業計画・予算について ②各部会からの報告 ③24年度市史編纂委員会での議題と通史編の検討 ④「考古資料」の発刊と「近世Ⅰ」「考古資料」の総括 など

2. 松江市史料編纂室史料調査活動一覧(目録作成分)

平成23年度末現在

(平成23年度)

調査先・史料名	史料所在地	備 考
阿羅波比神社	松江市外中原町	松江市内寺社史料調査事業
安国寺	松江市竹矢町	〃
応海寺	松江市島根町	〃
熊野大社	松江市八雲町	〃
佐太神社	松江市鹿島町	〃
成相寺	松江市荘成町	〃
蓮花寺	松江市美保関町	〃
長岡家	松江市白湯本町	

3. 松江市史編纂体制図（平成24年10月1日 現在）

役割		委員名									
区分		◎ 藤岡大拙 ・ (同上) ・ 高安克己	・ 安部登 ← (文化財保護審議会会長) ・ 勝部昭 ○ 井上寛司	・ 乾隆明 ○ 井上寛司	・ 引野道生 ・ 小林准士	・ 安部己図枝 ・ 竹永三男 ・ 大矢幸雄	・ 薦谷典子 ・ 喜多村正	◎委員長 ○副委員長 ←(専門家)			
編集委員会	・市史編纂全般に関わる基本的事項の協議 ・市史編纂の成果を市民に還元していく事項の協議 ※住民、行政、専門家が一体となり市史を作り上げるため、地元有識者、専門研究者で構成する。	・高安克己	・勝部昭 ・大日方克己 ・佐藤信 ・西尾克己	◎ 井上寛司 ・川岡勉 ・長谷川博史 ・西田友広	○ 小林准士 ・岸本覚 ・鳥谷智文 ・東谷智 ・三宅正浩 ・渡辺浩一	・竹永三男 ・伊藤康宏 ・居石正和 ・能川泰治 ・鬼嶋淳	・山根正明 ・大矢幸雄	◎委員長 ○副委員長			
編集委員会	・市史全体の編集 ・必要な史料(資料)の調査・整理及び総括 ※市史全体の編集を中心となつて行うため、各分野の専門研究者で構成する。	・高安克己	・勝部昭 ・大日方克己 ・佐藤信 ・西尾克己	◎ 井上寛司 ・川岡勉 ・長谷川博史 ・原慶三	○ 小林准士 ・岸本覚 ・鳥谷智文 ・東谷智 ・三宅正浩 ・渡辺浩一 ・伊藤昭弘 ・宇野田尚哉 ・沢山美果子 ・多久田友秀 ・佐々木倫朗 ・西島太郎	・竹永三男 ・伊藤康宏 ・居石正和 ・能川泰治 ・鬼嶋淳	◎ 大矢幸雄 ・川村博忠 ・高安克己 ・上杉和央 ・渡辺理絵 ・乾隆明 ・内田融 ・阿部志明 ・安高尚毅	◎部会長 ○編集委員 orGL			
部会議長	・市史各巻の内容を検討 ・必要な史料(資料)の調査・整理 ※市史各巻の編集を中心となつて行うため、担当専門分野の専門研究者で構成する。	◎ 高安克己 ・佐藤仁志 ・越川敏樹 ・秋村喜則 ・浜田周作 ・田坂郁夫	◎ 勝部昭 《考古専門部会》 ○ 西尾克己 ・丹羽野裕 ・山田康弘 ・松本岩雄 ・平石充 《古代専門部会》 ○ 大日方克己 ○ 佐藤信 ・平石充 ・野々村安浩 ・森田喜久男	◎ 井上寛司 ○ 西田友広 ○ 川岡勉 ○ 長谷川博史 ・原慶三	◎ 小林准士 ○ 岸本覚 ○ 鳥谷智文 ○ 東谷智 ○ 三宅正浩 ○ 渡辺浩一 ・伊藤昭弘 ・宇野田尚哉 ・沢山美果子 ・多久田友秀 ・佐々木倫朗 ・西島太郎	◎ 竹永三男 ○ 伊藤康宏 ○ 居石正和 ○ 能川泰治 ○ 鬼嶋淳	◎ 大矢幸雄 ・川村博忠 ・高安克己 ・上杉和央 ・渡辺理絵 ・乾隆明 ・内田融 ・阿部志明 ・安高尚毅	◎ 喜多村正 ・中村幹雄 ・足立正智 ・藤原宏夫 ・山崎節枝 ・喜多村理子 ・山崎亮 ・品川知彦 ・中上明 ・永井猛 ・酒井董美 ・浅沼政誌	◎部会長 ○編集委員 orGL		
専門部会											
執筆者	・部会で議論した内容に基づく執筆 ※市史各巻の執筆を行うため、部会の専門委員と部分執筆を行う執筆者で構成する。	編集委員、専門委員、その他									
事務局	1. 市史編纂事業の事務的統括 2. 編集委員等専門研究者の支援 3. 史料編・通史編等の編集作業・出版 (市民の代弁者としてのチェック機能も) 4. 文化運動の推進(講座やシンポジウムなど)	【史料編纂室】 室長:稲田信、副主任:木下誠、主任編纂官:内田文恵、専門官:山根正明、専門調査員:北村久美子・和田美幸・福井将介・沼本龍									

る代用食試食会を挙げておこう。代用食試食会は、一九一九年一〇月に「市内主なる官民」二〇〇余名を集めて開催され、ここでは代用食料理として「馬鈴薯飯、粟飯、びるま豆飯」が披露された。次の引用は、その代用食試食会の様子を伝える新聞記事の中から、その会場での県知事の挨拶を抜粋したものであるが、その締めくくりの部分からは、節米の成否の鍵を握る存在として、婦人の果たす役割への期待が表明されていることがわかる。

●一皿に盛られた種々な代用食

—官民百余名集つた 昨日の試食会—

…(前略)…今や我国の米産額は五千六百万石にしか達せぬ然るに其消費量は五千八百万石にも及び現に三百万石の不足がある、而も我国民は年々七十万人づゝ増加してゐるから食糧問題は是非何うかせねばならぬ、…(中略)…何うしても国民の代用食に拠る節米が肝要である、政府は此方針の下に食糧問題を解決しやうとしてゐるので地方官なる私は政府の趣旨を体し其実現に努めて居る次第である、最後に列席の婦人方に希望するは直接家政に當つて居らるゝ方にあらざれば到底節米の趣旨が徹底するものではない希はくば国家の実情に鑑み御尽力ありたい云々
『山陰新聞』一九一九年一〇月四日

おわりに

以上、ここまで見てきたように、松江では都市部でも郡村部でも民衆蜂起は発生しなかった。しかし、そのことは米価暴騰が松江の市民生活を脅かさなかったことを意味するのではない。都市部・郡村部共に米価暴騰による生活難や人心不安は確認できるし、郡村部では青年団や在郷軍人会のみならず

宗教者まで治安維持と救済事業に動員するよう、指示されていることを確認することができた。これらの人々が動員されたことが、以後の地域秩序のあり方にどのような影響をもたらすのか注視されねばならないであろう。また、都市部では中間層の生活難問題がクローズアップされていたこと、そして、それは翌一九一九年の米価暴騰の際にも再燃し、代用食の推奨や公設市場の開設などの新たな対策を必然化したのである。これらの対策について、中間層の消費生活のあり方やそこにおける女性の役割を視野に入れながら、その歴史的意義を考える必要があるだろう。以上が、松江における米騒動を考察する際に深めるべき論点であると、筆者は考える。

注

- (1) 吉岡吉典「島根の米騒動」(二) (六)『郷土』五・七・九(一)二二五(一九五八)一九六一年。
- (2) 山藤忠「浜田の米騒動①」(『瓦(石見郷土誌)』二二五、一九六五年)、同上「続浜田米騒動記」(『瓦(石見郷土誌)』三三三、一九六五年)。島根教育科学研究会編『島根の近代史』(青友印刷、一九六八年)。内田融「島根県下米騒動の一考察」(『山陰史談』一〇号、一九七六年)。
- (3) 本稿で紹介する史料は原文のまま引用している。
- (4) ②とほぼ同文の通牒が、簸川郡役所から同郡内の町村長宛てて発せられていたことが、小田繁俊「大社町にみる米騒動の対策」(『大社町史研究紀要』一八八、一九八六年)によって指摘されており、その全文も紹介されている。本稿で取り上げている郡役所の指示は、八束郡のみならず県内全域で出されていたものと思われるが、この点については今後の検討課題としたい。
- (5) 松江市当局による米の廉売については、前掲井上清・渡部徹編著の二二四～二二七頁を参照。
- (6) 『山陰新聞』一九一九年五月二九日。

全く衰弱して脂肪分を消耗され筋肉の緊張力を失ひ腕は殆んど骨と皮膚となり居りて完全に皮膚内へ刺傷を為し得ざるものを多数発見せりと云ふ一般に予想以上の生活難に苦しめられて遂には国民体質の減退を来し發育中の小学児童に最も大切な体操科を中止せしめんかとの声を聞く迄に悲惨なる運命に立到らしめたるは由々しき大事と云はざるべからず

『山陰新聞』一九一九年七月一九日

右の引用からは、本章冒頭の引用記事によつて中間層の生活難問題として報じられた、児童の栄養不良の問題が再燃していることがわかる。また、これより数ヶ月前に山陰新聞は「米価と民心」と題した社論を掲載し、「現下米価の暴騰に対する国民の静平は、地底の活火に似たる者ならざるなき乎。真の静平にあらずして唯表面の静平のみ。：（中略）：是を以て吾人は今政府が米価に対して頗る樂觀の状あるを見ると共に、何等之が緩和の手段を執らんとせざるを見て甚だ寒心に堪へざるなり」⁶⁾と、米価暴騰に対する政府の無策を非難した。これらのことから窺えるように、一九一九年も米価暴騰による中間層以下の生活難問題が再燃し、昨年の米騒動を彷彿させる状況が生じていたのである。

以上のような状況に対して松江市当局は、前年と同様に米の廉売に着手する一方、かねてから松江商業会議所が設立を要望していた公設市場を、一九一九年の一〇月から天神と殿町の二箇所で開催し、米麦や蔬菜などの生鮮食料品の廉価販売に着手した。次に引用する、開設間もない頃の売れ行きを報じる新聞記事からは、使用人を雇う家庭も含めた中間層の婦人たちが公設市場を活用しており、米が相当の売り上げを示していることが窺える。

●毎日五百円内外 公設市場の売れ行き

――砂糖が大景気で米に次ぐ 日曜は客が少ない――
去月廿一日から開場した公設市場の此頃の様子は如何かと聞いて見ると殿町市場の坂村主任は木の香の新しい事務室に招じて卓を囲み乍ら快活に語る「此処は砂糖が特に安いといふので市内の小売商などで問題になつてゐる様ですが、これは指定商人が安く売つてゐるのでお蔭で需要者の方では大層な好評で比較的砂糖の売行きが一等です、毎日五百円内外の売上高のうちで米が百三四十円その次に位するものが砂糖で百二十円位それから野菜が八十円雑穀が五十円次が果物味噌漬物豆腐と云つた様な順序です、：（中略）：お客筋ですか……………エ随分官吏の御夫人らしい人も見受けます而もそれが追々多くなつて行くのです、それが初めは何だか恥しいといふ感じがあつたのが此頃は追ひ／＼勝手が解つて来たので自分で下女を督励してアレを買へコレを買へと指図して下女に持たしてお帰りになる御方もあります、こゝに面白いのは多くなければならぬ日曜日にトンと人が見えないことで之は多分平常旦那様がお留守の時は何か御馳走など気をお揉みになるが日曜には偶のご在宅だったので一緒に散歩でもなさるか又は始終お宅にゐらしつしやるのだらうと観測してゐます然しどうしても借家住まひのお内儀さんが大多数で之れを五分とすれば官吏の奥様分、後は三二分が商家と云つた様な割合です」：（後略）：

『山陰新聞』一九一九年一月四日

一方、県当局の方では、米価調節につながるという理由で、節米即ち米以外の雑穀を用いた代用食を推奨していた。その事例として、県知事が主催す

限りを尽くして児童の滋養料になった牛乳にまで影響して配達を断るのが昨今頗る多いと同業者はこぼし又質屋さんは語る『私等は暇です、それは景気が好い為かと思ふと然うではなく入質者は多いが受質が減じて流れ質が多いので矢張り資金の流動がつかなくなります』と惨害は小月給取りなどの児童教育にまで及んで中学を中途退学する者さへ殖えて来たのは確に生活難を裏書したものである、最も留意すべきは小学児童の今夏期休暇前の体格検査の結果でこれは暑気に向ひ一般に児童の体量の減ずる時であるが今夏程不良の成績を示した年は曾て無い、原因は云ふまでもなく栄養不足といふに帰着する、そして之等の児童は智識階級者の奉職人の子弟が多く夏休み後の体格検査には一層の悲惨を見るべしと某小学校長は語る

『山陰新聞』一九一八年七月二九日

米価暴騰がもたらした生活難が、児童の發育にまで影響を及ぼしていることがわかる。このように、広範囲にわたって深刻な影響をもたらした米価暴騰に対して、松江市当局は有志者からの寄付金と恩賜金による米の廉売と施米を八月二日から実施した。済生会窮民名簿登録者と公費救助者には施米をする一方、台湾米一升二六銭という価格で市民に販売しようというのが、その内容である。後者の廉売は、市役所の方であらかじめ需要を調査した上で販売券を交付し、市内の各小学校を廉売会場として、その学校の校下通学区域内の者に現金販売するというものであった。また、松江市当局が市内の官公署・会社の職員救済のために廉売に関する内規を制定していることは「はじめに」でふれたが、それは、廉売の対象となる家族人数・家計収入の基準を示し、官公署ごとに該当者の申し込みを取りまとめさせ、取りまとめた申

込者数に合わせて、官公署ごとに売り渡そうとするものであった。この内規に対しては、裁判所・警察署・監獄・県庁・郵便局から少なからぬ申し込みがあったという⁽⁵⁾。

以上の経緯からして、米の廉売は中間層の生活難対策も兼ねていたと言える。しかし、先述したように、廉売の恩恵に与れば公民権を喪失するという風聞が伝えられていたことや、先の引用の冒頭に「不景気を口にする事を愧ぢてゐた中流階級」とあるように、中間層には自らが困窮していることが表沙汰になることを忌避する傾向が見受けられることからして、廉売が中間層の生活難にどれほど奏功していたかは疑問である。やはり、中間層の生活難問題の行方を見きわめるためには、翌一九一九年まで考察の対象にする必要がある。なぜなら、翌一九一九年も前年と同様に米価が暴騰し、それへの対応として様々な対応が実施されるからである。

それでは、一九一九年の米価暴騰が前年と同様の問題を惹起した事例を挙げよう。

● 憐れ細民の子弟

——生活難で小学児童の栄養不良から体操や種痘が出来ない——
最近物価の狂騰は各階級を通じて夥しく生活を脅威され就中米価の猛騰は殆ど其極度を知らざる勢ひにて世人を脅かし生活難の声は日に日に高まりつゝあるが近く我が松江市にては市内各小学校生徒の栄養不良の結果殆んど運動に堪へざるものあり就中雜賀小学校生徒には体操時間中其の運動に堪へざるもの多数を発見せり校医の診断に依れば全く身体栄養の不足に原因する事を発見したりといふ尚ほ八束郡某村小学校の生徒に対して種痘を為さんとせしに種痘用メスは生徒の栄養不良の為に身体

●廉売米を買つても公民権は失はる

米価高騰に伴ふ救済で、廉売米を買つた公民は此際公民権を喪失すると云ふ事が伝へられ、現に山形県知事は、該問題に対する疑義を内務省に質問して来たので地方局は之が回答と同時に各県知事に書面を以て通達する所があつた右に就き地方局に山田市町村課長を訪へて曰く「被施米者が公民であつた場合は、其の公民権が失はれはしまいかと山形県知事からの照会に対し、当省では協議を重ねた結果、是は水害あるいは天災地変に依る一時的の救済と同様に見做すべきものだらうと云ふに決定して町村制第七条第一項但書貧困の爲め公費の救助を受けたる者に該當せずと云ふ回答を与へた従つて公民権は失はれぬ趣を各県知事にも通達した次第である尙当省としては今回の公民権に関する問題を、各地方の公共的雑誌に掲載し一般に徹底せしめたいと思つて既に其準備をして居る」

『山陰新聞』一九一八年九月二日

以上、全体のごく一部分の紹介でしかないが、ここまで紹介してきた文書からは、地域の治安維持と救済事業に関して郡役所からどのような指示が出されていたか、また、米の廉売に対して地域住民がどのような反応を示していたか、そして、公民権を有する人々にまで生活難が及んでいることが窺えるのである。

2、新聞記事からわかること ―中間層の生活難問題とその行方―

都市部における米騒動に目を転じてみよう。先述したように、松江で民衆蜂起は起こらなかった。しかし、そのことは、米価暴騰が松江市民の生活を

脅かさなかったことを意味するのではない。注目すべきことは、次に引用する新聞記事にあるように、米価暴騰による生活難は、各地で暴動の主体となっていた労働者や下層社会よりも、公務員・会社員などの俸給生活者や商店経営者、即ち中間層の方が深刻であると報じられている点である。

●米価暴騰と生活難

―智識階級の月給取に多い悲喜劇―

好景氣の声にあふられ今まで各階級を通じ不景氣を口にする事を愧ぢてゐた中流階級も昨今の天井知らずの米の暴騰にはもろくも低頭して異口同音に生活難を叫び出し活ける悲劇が随所に演じられて居る、そして此の惨害の最も甚だしいのは下級の労働者よりも却つて知識階級の官衙、会社、商店等の各勤め人向の家庭で大いに憂慮すべき現象である、白米商等は語る『白米が騰貴するから同業者には米屋成金が出来ねばならぬのが事實はこれと反対に続々倒産者を出だしてゐる、それは米が高い爲めに売憎く自然競争の形となり従来現金で支払つた華客も月末払となつて未払ひが多く持越すと同時に資金が停滯する為でこの未払者は重に勤め人向きだが家族の多い家ほど支払ひが附かぬ様だ』と、又曰く『例へば今まで四人暮しの家庭へ月一俵の米を入れて居たのが減じて三斗しか入らぬこれは減食する訳でなく麦とか豆粕とかの他の糧を加へるため其の麦すら一升二十何銭といふので優に安い時の白米の値に等しく世界もこうなつては飢饉状態の惨めさです』とかうなると自然他の物に節減を加へねばならなくなつて主婦たる人の最も頭痛を要する難関であるが而も騰貴は単り白米のみでなく一般の日用品に附いて廻つてゐる、でも智識階級の体面は維持せねばならず勢ひ被服物よりも飲食物の方で節約の

応急策トシテ止ムヲ得サルニ出テタル次第ニシテ過度ノ廉売ハイヨイヨ米ノ消費ヲ増加シ其配給上憂慮スヘキ事態ヲ誘起スルノ虞アルノミナラス救済ニ狎レテ忌ムヘキ依頼心ヲ助長スルカ如キハ禍根ヲ将来ニノコスモノニシテ給与及ビ廉価販売ハ漸次整理ヲ要スルヲ以テ各位ハ深ク此ノ点ヲ留意シ救済ノ本旨ヲ達成スルニ努メラルヘシ

※¹協定事項 大正七年九月三日

一本寄付金ハ米穀廉価販売ノ資ニ充ツルコト（無代給与ハ之ヲ廃止ス）
二廉価販売スヘキ者ノ範圍ハ村人口ノ四分ノ一以内トシ可成其範圍ヲ緊縮スルノ方針ヲ執リ困窮ノ甚シキ者ヨリ順次之ヲ為スコト但シ困窮ノ実情ニ応シ已ムヲ得サル場合ハ従来ノ例ニ拠ルコトヲ得

三廉価販売ハ一人一日三合以内トシ内国米朝鮮米又ハ台湾米ハ時価ノ二割以内外国米ハ一割以内ノ割引ヲナスコト但シ内国米朝鮮米又ハ台湾米一升ニ付式拾五錢外国米ハ一升ニ付拾六錢ヲ下ルコトヲ得ス（時価ハ地方ニ於ケル通常ノ商取引相場ニシテ米商等聯合シテ一般ニ廉売スル場合若ハ寄付金ヲ以テ米商等ニ補償ヲナシテ一般ニ販売セシムル場合又ハ地主等米ノ所有者ヨリ救済ノ目的ヲ以テ廉価ニ売出ス場合ト雖モ其ノ価格ヲ時価ト認ムルコトヲ得ス）

四米ノ消費ヲ可成節約スル趣旨ニ依リ雑穀混合ノ廉価販売ノ拡張シ又ハ雑穀ノミノ廉価販売ヲ行フコト此場合ニ於ケル其ノ割引ハ時価ノ二割以内トスルコト（時価ニ付テハ同上）

五前各号ニ依ル廉価販売ハ実情ニ適応シ漸ヲ以テ人員、分量及割引率ヲ通減シ漸次常態ニ得セシムルコト

六各町村ノ廉売価格ヲ一定スルコト

七各種ノ給与廉価販売ハ総テ九月末日迄トシ差支ナキ地方ニ於テハ其以

前ニ於テ之ヲ打切ルコト為ニ資金ニ剰余ヲ生スルトキハ他ノ救済資金ニ充ツル目的ヲ以テ追テ指示スル迄一応保管スルコト

八其他ハ給与廉価販売ニ関スル通牒ニ依ルコト

九本寄付金ハ県下富豪諸氏ノ篤志ニ依ルモノニ付其旨ヲ周知徹底セシムルノ方法ヲ適宜講スルコト

十本配当金中ニハ政府取扱寄付金第二回ノ配当ニ係ル金拾貳円ヲ包含シアルニ付含ミ置カレタシ

十一本寄付金以外ノ分ニシテ町村限り実施ノモノニ在リテモ以上ノ標準ニ依リ漸次整理スルコト

※²

年月日の下に「村長召集」とあるから、郡内の各村長を郡役所に召集し、廉売実施方法について詳細にわたる指示を与えたのである。依頼心助長への警戒が率直に表明されていたり、内地米消費節約のために雑穀混合あるいは雑穀のみの廉売を奨めたりするなど、郡は制限主義の方針を各村に指示していたことがわかる。引用に付した※印は、史料の欄外に書き込みがなされていた場所を示す。それぞれ「廉買ヲ為スコトヲ得サル困窮ノ甚シキモノニ対シテハ違例ナルモ割引ヲ増加スルコトヲ得」（※¹）、「外米ハ七斗入ナルモ實際六斗六升位ナリ外ニ今回施米廉売ニ関シ公民権ヲ失フコトナキ旨口頭ヲ以テ通牒」（※²）と記されている。これらのうち興味深いのは、※²にあるように、施米や廉売の恩恵に与つた者は公民権を剥奪されると、地域住民が信じ込んでいたことが示唆されている点である。このことは、次に引用する新聞記事を見れば、廉売の恩恵に与れば公民権を喪失するという風聞が、島根県内のみならず全国各地でまことしやかに伝えられていたことがわかる。

依リテハ徒ラニ持越米ヲ有スルニ至ル虞アルノミナラス偶々之ヲ売却セントスルモ米商ニ於テ危険ヲ恐レ買収セス又他町村ニ供給シテ其ノ不足ヲ補ハントスルモ又危険ヲ恐レテ躊躇スルカ如キモノアル哉ノ聞ヘアルニ付各町村長ヲシテ其町村内ニ於テ剰余トナルヘキ見込アル米ノ売買ニ付所有者並ニ米商ニ便宜ヲ与ヘ其ノ売買ヲ安全ナラシメンコトヲ期シ適宜ノ方法ニ依リ予メ関係町村民ノ諒解ヲ全フシ町村長ノ証明等ヲ以テ其危険ヲ排除スル等適宜融通ヲ図リ有無相通スルノ方法ヲ講スヘキコト

二、米穀商ハ商取引上必要ノ機関ニシテ之ヲ正当ニ利用シ及保管スルコト最モ緊要ナルニ付可成其ノ取引ヲ停止セシメ若ハ之ヲ妨害スルコトナキ様注意スヘキコト尚目下施行中ノ施米並廉価販売ニ付テモ取扱上支障ナキ範圍ニ於テハ可成米ノ買収並ニ売却等ニ付米商人ヲシテ働カシメ其營業上ノ困難又ハ反感ヲ起サシメサル様注意スルコト

三、在郷軍人、青年団員、仏教奉公団員等ハ相互連絡協力でテ救済事業ニ助力セシメ実地ノ状況ニ依リ可能ノ場合ニ於テハ米ノ配付方或ハ困窮者ノ調査等ニ当ラシメ又一面去二十日号外通牒ノ如ク暴動其ノ他不穩ノ挙動若ハ其ノ虞アル場合ニハ官公署ト充分ノ連絡ヲ保チ以テ其ノ予防鎮撫ニ努メシムルコト

四、町村長ハ常ニ警察官ト連絡協力シ又ハ直接間接接触ヲ保チ以テ漁村又ハ貧民部落特殊部落其他労働者等ノ消息動静ヲ予メ探知シ不穩ノ兆候アルトキハ事前ニ鎮静スヘク注意ヲ怠ラサルコト尚崇敬心又ハ信仰心ノ旺盛ナル部落等ニ対シテハ神官又ハ僧侶等ヲシテ之ニ尽力セシムルコト

五、恩賜金寄附金ヲ以テスル救済ハ巡查其ノ他下級俸給生活者ニ対シテ

モ之ヲ及ホス様取計フコト

六、恩賜金寄附金ニ依ル米穀給与又ハ廉価販売ニシテ麦、稗、粟、芋薯、等ヲ主食物トスル地方ニ在リテハ之ヲ米ニ代用スルモ差支ナキコト

八月一九日の深夜から翌二〇日の早朝にかけて、県内では那賀郡浜田町（現在の浜田市）で民衆暴動が発生し、同地に駐屯している歩兵第二連隊の一部が出動するに至っている。文書の日付と「県下ニ於テモ二三不穩ノ挙アルヲ見ルニ至リシハ遺憾ノ次第」という文言からして、①の通牒は浜田で暴動が発生したことを受け、その余波が郡内に波及することを阻止するために発せられたものであろう。この通牒では、青年会と在郷軍人会が警察と連携しながら治安維持に務めるよう求めている。さらに、その直後に発せられた②の通牒では、在郷軍人、青年団員、仏教奉公団員が救済事業に当たるべきことを指示している⁽⁴⁾。さらに、被差別部落を含めた困窮者が集住する集落への監視を強め、場合によっては神官・僧侶などの宗教者までを治安維持に協力させるよう指示している。青年団や在郷軍人のみならず、宗教者も地域の治安維持のために動員するよう指示されているのである。

また、簿冊の中には廉売に関する基本方針が明示されている文書もある。

指示

大正七年九月

三日 村長召集

米価暴騰ニ因ル困厄者ノ救済資金トシテ本県内資産家ノ醸出ニ係ル寄付金五千八百五拾八円ヲ各村ニ配当（配当額ハ別ニ通知ス）スヘキニ付別案ニ依リ標準ヲ定メ廉価販売ノ資ニ充テルヘシ元来本寄付金及目下実施ニ係ル各種ノ方法ニ依ル米穀ノ給与並廉価販売ハ這般ノ窮状ヲ救済スル

一八年当時の行政区域としての松江市域に限定せずに、現在（二〇一二年一月）の松江市域に相当する周辺郡部も分析対象として含めていることを、あらかじめ断っておく。

1、朝酌村役場『大正七年年米価暴騰細民救助一途』

まず、朝酌村役場文書の簿冊『大正七年年米価暴騰細民救助一途』を取り上げたい。

八束郡朝酌村（現在の松江市朝酌町）は、米騒動発生当時の松江市域に隣接する行政村で、松江市街中心部の東方に位置し、周囲を朝酌川と山間部に囲まれている（一九三九年に松江市に合併）。その朝酌村で、一九一八年の米価暴騰の際に、救済策をめぐって八束郡役所と朝酌村役場、及び同村の村長と各地域の区長との間で交わされた文書が、『大正七年年米価暴騰細民救助一途』と題する簿冊に綴じられて保存されており、現在は松江市役所の書庫に収蔵されている。

綴じられた文書は約七〇点。簿冊の冒頭にあるのは、大正七年八月一日日付で村長から各区長に宛てた「細民」の生活現況に関して照会する文書で、以下、八月下旬から九月末にかけて実施された、各方面からの寄付金や恩賜金による米の廉売などの救済事業に関する文書が続く。その意味で、『大正七年年米価暴騰細民救助一途』は、郡村部で実施された救済事業の実態を詳しく知る手掛かりとなる史料である。紙幅の関係で全ての文書を紹介することはできないが、興味深い内容の文書をいくつか紹介しておこう。

①朝酌村役場 大正七年八月廿一日受附 庶第二八四号

号外

大正七年八月二十日

八束郡役所第一課長

村長殿

依命通牒

米価ノ暴騰ニ因ル大都会ノ騷擾ハ大体ニ於テ静穏ニ帰シタル如キ觀アルモ此影響ハ動モスレハ地方ニ波及セントシ現ニ県下ニ於テモ二三不穩ノ挙アルヲ見ルニ至リシハ遺憾ノ次第ニ有之候本郡内ニ於テハ各位ノ御配慮ニ依リ幸ニシテ如斯事件無之候ヘ共周囲ノ状勢ハ未タ全ク意ヲ安ンスルヲ許サ、ルモノ有之就テハ此際村青年會員、在郷軍人會員ハ警察官署其他ノ公署ト連絡ヲ保チ予防、鎮撫、救済ニ助力セシムル様郡青年會長、聯合分會長ヨリ夫々通牒セシ趣ニ付右御了知各団体ト繋連^{マツル}ヲ保チ一層ノ御注意ヲ以テ不祥事件ノ發生ヲ未然ニ防止スル様御尽力相成度候也

②朝酌村役場 大正七年八月廿三日受附 庶第二八六号

庶第二、八五八号

大正七年八月二十二日

八束郡役所第一課長印

各村長殿

依命通牒

米価騰貴ニ伴フ救済及警戒方等ニ付テ再三及通牒置候処尚左記ノ通取計相成度候也

記

一、各市町村間ニ於ケル米穀ノ需要供給ハ最モ円滑ナラシムルノ必要アリ然ラザレハ現下ノ窮状ヲ充分ニ緩和スルコト能ハス却テ将来地方ニ

松江における米騒動に関する史料紹介

能川泰治

はじめに

本稿は、松江における米騒動を考察するための史料を紹介し、深めるべき重要論点を提示しようとするものである。本稿でいう「米騒動」とは、一九一八年の米価暴騰を契機に発生し、全国的に拡大した騒動のことを指している。

ところで、島根県内で発生した米騒動に関する研究では、県内で最も激しい民衆蜂起が起こった那賀郡浜田町（現在の浜田市）の米騒動に関心が集中していた。例えば、最も早く本格的な研究に着手した吉岡吉典は、浜田で発生した民衆蜂起の過程を詳細に跡づけ、これを契機に県内で小作争議が活性化したことをもって、革命的闘争の出発点として位置づけた⁽¹⁾。続く一九六〇年代後半以降の研究では、米騒動対策や民衆生活の実態をふまえたうえで、島根県内の米騒動の特徴を明らかにしようとする傾向が窺えるが、依然として民衆蜂起が起こった地域に焦点をあてて米騒動を論じる傾向は変わっていない⁽²⁾。その意味では、長らくの間「米騒動＝民衆蜂起」という図式が自明視されてきたように思われる。しかし、この図式を自明視すると、民衆蜂起が起きなかった松江では米騒動は発生しなかったことになり、「松江における米騒動」という研究課題は成り立たなくなるが、果たしてそのような理解でよいであろうか。

そこで、井上清・渡部徹編『米騒動の研究 第三卷』（有斐閣、一九六〇年）に依拠しながら、一九一八年に各地で民衆蜂起が発生した頃の松江市内の動

きを、あらためて概観してみよう。それによると、①人力車夫や職工などによる賃上げを求めるストライキが続発していたこと、②市当局では市内の官公署・会社の下級職員救済のため、米の廉売に関する内規を制定していたこと、③市周辺郡部では松江市内の「細民」が来襲するという流言が伝播し、村で警戒態勢を敷く騒ぎが起こったほか、④廉売された外米を困窮者が買い控え、村当局がこれを「美風」としていたことが確認できる。以上のような、井上・渡部編著が明らかにしたことをあらためて確認してみると、確かに松江で民衆蜂起は発生していない。しかし、米価暴騰を契機とする騒動、即ち俸給生活者の生活難や様々な流言から派生した人心不安と、それを鎮めるために行政当局が奔走していたことは確認できる。したがって、「米騒動＝民衆蜂起」という従来からの図式にとらわれていると、松江で米騒動は発生しなかったことになるが、上記①～④として挙げたような、米価暴騰によって生じた人心不安とそれへの行政当局の対応も米騒動の範疇に含めると、松江でも米騒動は発生しているのであり、そこには当時の社会状況を理解するうえで重要な論点がいくつも確認できるのである。

以上の点から、筆者は、米騒動を民衆蜂起としてのみ理解するのではなく、米価高騰によって生じた人心不安と、それへの行政当局の対応も含めて、より広く米騒動を理解したいと思う。そして、このような観点に立って、松江で発生した米騒動に関する重要論点を示す史料を紹介し⁽³⁾、今後の研究の深化に寄与したい。ただし、本稿で分析対象とする松江市域については、一九

執筆者紹介

渡辺貞幸	島根大学名誉教授、出雲弥生の森博物館館長
西尾克己	石見銀山世界遺産センター (松江市史編集委員(原始古代史部会、松江城部会))
稲田 信	松江市教育委員会文化財課史料編纂室長
渡辺理絵	山形大学農学部准教授 (松江市史専門委員(絵図・地図部会、松江城部会))
大矢幸雄	前松江市立中央図書館館長 (松江市史編纂委員・編集委員(絵図・地図部会長))
鳥谷智文	松江工業高等専門学校人文科学科准教授 (松江市史編集委員(近世史部会))
長尾 隼	島根県古代文化センター特任研究員
能川泰治	金沢大学人間社会研究域准教授 (松江市史編集委員(近現代史部会))

表紙写真 松江城及城下古図、三谷健司氏所蔵

松江市歴史叢書6 松江市史研究4号

発行 平成25年3月8日
松江市教育委員会(文化財課史料編纂室)
〒690-8540 島根県松江市末次町86番地

印刷 (有)黒潮社
松江市向島町182-3

Historical Library of Matsue City 6

March 2013

MATSUE SHISHI KENKYU No.4 Research of Matsue City's History

- Early Archaeological Discoveries in Matsue, Recorded in Official Documents WATANABE Sadayuki (1)
- Oketsubo of Matsue City Area NISHIO Katsumi ・ INATA Makoto (17)
- The Characteristic and the Contents of Expression on a Castle Town Map
in Matsue WATANABE Rie ・ OYA Yukio (29)
- Characteristics of the Products of Each County in the Izumo Area in the Early Years of the Meiji Period
..... TOYA Tomofumi (39)
- Campaings and its Consequences over the Selection of "Nihon-Shin-Hakkei" in 1927
- A Case Study of Matsue City NAGAO Jun (83)
- Matsue City Historiographic Journal Historical sources compilation room (105)
- Introduction to the Historical Material about Rice Riots in Matsue City NOGAWA Yasuharu [1]

松江市教育委員会
Matsue City Board of Education
Suetsugu, Matsue-city, Shimane-pre, Japan

ISBN978-4-904911-21-1
C3321 ¥1500E

松江市教育委員会
定価(本体1500円【税別】)

